MORITA

i-VIEW

ソフトウェア取扱説明書
(Ver. 2.1)

製造販売・製造元　株式会社モリタ製作所

「Windows XP Professional SP2」、「Windows 2000 Professional」、「Windows 7 Professional」、「Windows 2000 Server」、「Windows 2003 Server」「Microsoft SQL Server Desktop Engine」、「Microsoft SQL Server 2005」、「Microsoft Access Driver」及び、「.NET Framework」は米国 Microsoft 社の登録商標です。i-VIEW は㈱モリタ製作所が使用権を保有している登録商標です。

i-VIEW ソフトウェア取扱説明書(Ver. 2.1)
2011 年 12 月
版権：㈱モリタ製作所
無断転載を禁ず

本製品を使うにあたり、以下のことを必ず守ってください

- **i-VIEW** ソフトウェアの著作権は**(**株**)**モリタ製作所にありますので、無断で著作物を複製、使用できません。
- **OS(Operating System)**に起因する問題及び障害については、当社では責任を負いかねます。
- 当社が設定した環境でのみご使用ください。お客様による設定の変更**(**他の機器との接続や他のソフトのインストールなど**)**に基づく障害につきましては、当社では責任を負いかねますのでご了承ください。
- **Windows** のスタンバイ機能及びノート型コンピュータにメーカー独自が組み込んだスタンバイ機能などには対応していません。
- スクリーンセーバーを使用すると、ソフトウェアが正常に動作しない等の問題が発生する可能性があります。スクリーンセーバーはご使用にならないでください。
- **Windows** の「画面のプロパティ」の「スクリーンセーバー」の「電源」で設定可能な「電源設定」について、「モニタの電源を切る」及び「ハードディスクの電源を切る」の設定は「なし」を選択してください。他の設定になっていると、ソフトウェアが正常に動作しない等の問題が発生する可能性があります。
- サスペンドやスリープの機能を有効にすると、ソフトウェアが正常に動作しない等の問題がでるときがありますので、同機能は **OFF** してください。
- プリントアウトの画質や保存期間などに関しては、使用するプリンタ及び使用する用紙、保管方法などに依存します。これらについて当社では責任を負いかねます。
- コンピュータ及びその周辺機器のハードウェアに起因する問題及び障害もしくは、起因すると思われる問題及び障害については、当社では責任を負いかねます。
- データの破損、消失に関しては、いかなる場合も、当社では責任を負いかねます。
- 本ソフトウェアは、**Microsoft** 社の **OS(Operating System)**である「**Windows XP Professional SP2**」、「**Windows 2000 Professional**」、「**Windows 7 Professional**」、「**Windows 2000 Server**」及び「**Windows 2003 Server**」上でのみ動作確認しております。他の **OS** では動作しません。又、**Microsoft** 社の「**.NET Framework 2.0 SP2**」以上がセットアップされている必要があります。
- 本ソフトウェアは、**Microsoft** 社のデータベースエンジンである「**Microsoft SQL Server Desktop Engine**」、「**Microsoft SQL Server 2005**」及び「**Microsoft Access Driver**」を使用しております。
- 本ソフトウェアの保守について、動作確認済みの **OS** について **OS** メーカーが販売を終了してから **1** 年経過後、本ソフトウェアの保証期間にかかわらず終了させていただきます。

本製品を使うにあたり、以下のことを必ず守ってください

- **i-VIEW** ソフトウェエアを使用するためには、**USB** キーが必要です。**i-VIEW** ソフトウェア起動前に必ず **USB** キーを接続してください。（据え置き型パソコンの場合は裏面の **USB** 接続口に接続してください。）
- **USB** キーを接続しないとデモバージョンで起動しますので、デモバージョンを終了し、**USB** キーを接続してから再度 **i-VIEW** ソフトウェアを起動してください。
- **USB** キーは **i-VIEW** ソフトウェアとセットになっております。**USB** キーを紛失された場合は、新たに、**i-VIEW** ソフトウェアをご購入頂くことになります。**USB** キーを紛失された場合は、有償で新たな **USB** キーに交換させて頂きます。
- ネットワークでご使用の場合は、**i-VIEW** サーバーコンピュータの電源を **ON** にしてから、**i-VIEW** クライアントコンピュータの電源を **ON** にしてください。**i-VIEW** クライアントコンピュータが先に起動するとネットワークデータベースに接続することが出来ません。

目 次

安全上の警告･注意......6

1. はじめに......1

1.1. i-VIEWの主な機能......2
1.2. キー入力の表記......4
1.3. 本取扱説明書上で使用される標準的な用語......5
1.4. 本取扱説明書上で使用される専門的な用語......6
1.4. i-VIEWの起動･認証･終了......13

2. 画面仕様......15

2.1. ホーム画面......15
2.2. 機能画面に表示される項目......17
2.3. ナビゲーションバーから機能画面を表示させる......29

3. 患者情報......32

3.1 患者情報を新規登録する......32
3.2 患者情報を編集する......34
3.3 患者情報の詳細検索を行う......36
3.4 患者情報の簡易検索を行う......39
3.5 患者情報を一覧表示する......41

4. 画像一覧画面......44

4.1 画像一覧画面に表示される項目......44
4.2 画像一覧画面の表示形式を変更する......46
4.3 画像を分類して表示する......48
4.4 画像を昇順/降順に整列させて表示する......49
4.5 画像を選択/選択解除する......50
4.6 診察日の追加と削除を行う......51
4.7 モダリティの追加と削除を行う......53
4.8 分類項目にコメントを追加する......55
4.9 データを移動させる......57
4.10 画像を削除する......59
4.11 2Dビューワを起動する......60
4.12 日時(タイムスタンプ)に表示される記号......61

5. 症例情報......62

5.1 症例情報を登録する......62
5.2 症例画像を登録する......64
5.3 症例データベースの検索を行う......65

6. 2Dビューワ機能......67

6.1 ツール......68
6.2 保存：画像を保存する......68
6.3 回転：画像を回転させる......70
6.4 比較：画像を比較表示する......72
6.5 フィルター：画像にフィルタ処理を行う......75
6.6 拡大：画像を拡大表示する......85
6.7 輝度･コントラスト調整......91
6.8 測定･オーバレイ：画像を測定する......99

6.9 測定・オーバレイ：画像に文字を追加する 114
6.10 付帯情報：付帯情報を確認する 121
6.11 コメント：コメントを確認する 121
6.12 部位：画像に部位と歯列番号を設定する 122
6.13 患者方向：患者方向を確認する 124
6.14 スカウト：スカウト画像によるCT撮影の位置づけと撮影領域を設定する （オプション） 125

7. 画像配置 126
7.1 画像配置画面に表示される項目 126
7.2 テンプレートに画像を配置する 128
7.3 テンプレート配置済みの画像・画像配置のスナップショットをエクスポートする 137

8. 口腔内カメラ 142
8.1 ペンスコープ 142
8.1-(1) ペンスコープ画面に表示される項目 142
8.1-(2) ペンスコープで撮影を行う 143
8.1-(3) 保存した画像を参照しながら撮影を行う 144
8.1-(4) 画像に部位・歯列番号を付帯する 145
8.2 ペンスコープ以外の口腔内カメラ 146
8.2-(1) カメラ入力画面に表示される項目 146
8.2-(2) カメラ機器で静止画の撮影を行う 147

9. SCANX 148
9.1 2D入力(ScanX設定画面)画面に表示される項目 148
9.2 ScanXで画像を読み込む 150

10. PRINT CENTER 151
10.1 テンプレートを作成し保存する 157
10.1-(1) テンプレートを作成する 158
10.1-(2) オブジェクトを編集する 165
10.1-(3) テンプレートを保存する 171
10.1-(4) テンプレートを削除する 172
10.2 テンプレートに画像を挿入する 173
10.2-(1) テンプレートを選択する 173
10.2-(2) テンプレートに画像を挿入する 174
10.3 文書を印刷する 190
10.3-(1) 使用するプリンタを設定する 190
10.3-(2) 印刷する文書をプレビューで確認する 191
10.3-(3) 文書を印刷する 191
10.4 文書を保存する 192
10.5 プリントセンタ簡単印刷 193
10.6 表示メニュー 195
10.7 ヘルプメニュー 196

11. パノラマ断層位置調整 197
11.1 パノラマ断層位置調整画面に表示される項目 198
11.2 パノラマ画像を再構成する 204
11.3 断層位置調整用データの削除 208
11.4 断層位置調整用データの保存先の確認 208

12. 設定・メンテナンス 209
12.1 全般タブ 210

12.2 エクスポートタブ 213
12.3 スタッフ情報タブ..214
12.4 ドライバタブ 215
12.5 画面タブ 217
12.6 ナビゲーションバータブ 220
12.7 ツールパネルタブ 221
12.8 画像処理タブ..222
12.9 データベースタブ..224
13. バージョン情報..237
[索 引]..239

安全上の警告･注意

⚠ 警 告

- i-VIEW ソフト起動時は、他のアプリケーションソフトを使用又は起動しないでください。物理メモリが不足して、画像の取得などができなくなります。
- ハードディスクドライブの空き容量がなくなると、撮影データを保存することができなくなったり、又はデータが消失する可能性があります。これらのダイアログが表示された場合は、画像を移動してください。
- データベースを操作は、使い方を誤るとデータの保存ができなくなったり、データが消失する可能性があります。必ず作業内容を理解した上で操作を行ってください。
- 落雷などの予期せぬ事態、事故など故意に発生した事態など、事態を問わず、データの破損、消失に関し、責任を負いかねますのでご了承ください。 データの破損、消失に対して少しでも対処できるように、**i-VIEW** コンピュータに、外付けハードディスクを接続し、その外付けハードディスクに対して、常に、データをバックアップすることをお勧めします。
- データベースファイル(拡張子「.3dxdb」又は「.3dxcs」)内部のファイルを手動で直接操作すると、データベースが破壊され、データが失われます。この場合、当社では責任を負いかねますのでご了承ください。また、削除以外の目的で、データファイルを手動で直接操作しないでください。
- コンピュータに保存されているデータについては、必ずバックアップを行うか、プリントアウトなどのハードコピーをお取りください。万一コンピュータ及びその記憶装置に障害が発生した場合、データが失われ、復旧が困難となります。この場合、当社では責任を負いかねますのでご了承ください。
- バックアップについて、スケジュール設定した場合は、該当する時間には必ずコンピュータの電源を入れておいてください。バックアップ指定時間コンピュータの電源が入っていないと、バックアップは行われません。また、バックアップ中に電源を切ると、データベースが損傷する場合があります。この場合、当社では責任を負いかねますのでご了承ください。
- バックアップ中は、データの取り込みなどの操作は行わないでください。正常にデータが読み込めないことがあります。この場合、当社では責任を負いかねますのでご了承ください。
- バックアップされたデータもしくはハードコピーの保管については、十分配慮してください。保管不備に起因する障害については、当社では責任を負いかねますのでご了承ください。
- 撮影などの処理中は、他の処理は行わないでください。

⚠ 注 意

- データベースはハードディスクに格納されています。ハードディスクの寿命は限られていますので、貴重なデータのバックアップは必ず毎日取るようにしてください。
- 画像配置にサムネールを貼り付けている間は、元の画像を削除することができません。元の画像を削除するときは、画像配置に貼り付けたサムネールを全て削除してください。
- 選んだファイル形式によっては、エクスポートされた画像と画面上に表示されている画像とでは画質が劣って見える可能性があります。エクスポートを実行後は、エクスポートされた画像で画質に問題がないか確認してください。画質の劣化を防ぐには、BMP 形式でエクスポートしてください。
- MO などのリムーバブルメディアやネットワーク上のフォルダにデータをエクスポートする場合は、操作前に必ず移動先のメディア、もしくは、フォルダを準備して読取れることを確認してください。特に USB 接続の外部記憶装置などは注意が必要です。
- ビデオキャプチャ機能を使用する場合は、ドライバの設定で画像サイズは、640×480 又は、320×240 を選択してください。 これ以外の画像サイズを選択すると、画像のウィンドウの縦横の比率が正常ではなくなり、診断に支障をきたす可能性があります。詳細の設定は、キャプチャボード付属の説明書をご参照ください。
- TWAIN を利用する場合は、予め TWAIN 対応機器を接続し、ドライバソフトをインストールする必要があります。詳しくは TWAIN 機器の取扱説明をお読みください。
- 左右反転している場合、左右反転のボタンがオレンジ色で表示されます。特にパノラマ画像の診断の際、左右の誤りのないよう、左右反転ボタンの表示状態をご確認ください。デジタルパノラマの場合、必要により、撮影時にＲとＬのマークを画像に追加することが可能です。（サービスマンによる設定が必要です。）

⚠ 注 意

- その他のフィルター処理で用意されている、Hi.Pass、UltlaHi、Lateral、Lo.Pass、UltraLo、Reduce は周波数処理を実施しているため、画像サイズが大きくなると処理時間がかかります。
- 弊社製のモダリティから得られる画像は、最適な画質に調整されており、フィルタ処理・ガンマ処理は、必要ありません。スキャナ取り込みや、インポートした画像の品質が悪い場合に使用してください。
- 日本語以外のフォントを選択した場合、言語も自動的に日本語以外の言語になります。この後、フォントを日本語フォントに戻しても言語は日本語には戻りませんので、文字が正しく表示されないことがあります。日本語以外のフォントから日本語フォントに戻した場合は、必ず言語も日本語を選択し直してください。
- バックアップ中は処理の負荷が高いため、画面の再描画は極端に遅くなります。
  バックアップ実行中は、他のアプリケーションを起動するなどの操作はしないでください。
- 出荷時は、バックアップの設定は行われていません。運用にあわせてバックアップの設定を行ってください。
- 世代管理によるバックアップについては指定した世代数を保有するようになります。繰り返し方法に合わせた世代管理をお奨めします。
- 「データ移動」機能を用いて移動した画像は「バックアップ」操作ではバックアップされません。コンピュータの他の機能(コピー等)をもちいてコピーをとるなど、別にバックアップをお取りください。
- 移動先の検索には 20 分程度かかる場合があります。MO などのリムーバブルメディアやネットワーク上のフォルダにデータをストアしている場合は、操作前にかならず移動先のメディアもしくはフォルダを準備して読み取れることを確認してください。特に USB 接続の外部記憶装置などは注意が必要です。
- MO などの記憶装置は、アクセスしてから取出しなどの操作ができるまで時間がかかります。取出しなどの操作を行ってすぐに反応しない場合は、しばらく待ってからもう一度操作してください。
- i-VIEW デモバージョンの機能制限について:
  i-VIEW デモバージョンでは、登録可能な患者は1件です。 CT 関連(オプション)、DICOM(オプション)は、使用できませんのでご注意ください。

距離測定・印刷・画像エキスポート時の画像の大きさに関する注意事項

一般に X 線撮影の場合、図1のような撮像系となります。

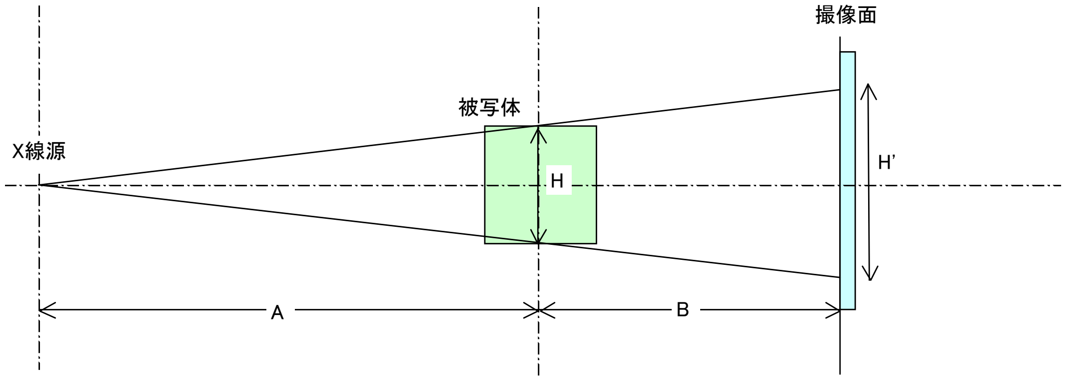


図1. 撮像系

画面上で距離測定する場合、被写体位置での距離を測定します。

印刷倍率が 1.0 で印刷を行う場合、被写体の大きさで印刷されます。

実際に 100mm のものは、100mm で印刷されます。

セファロ画像でフィルムで撮影した時と同じように印刷する場合は、印刷倍率に 1.1 を設定してください。

画像をエキスポートする場合、エキスポートした画像ファイルには、DPI 値が保存されますが、この DPI 値は、撮像面での DPI 値となります。

セファロ画像の場合、この画像ファイルを他の解析ソフトなどで利用される場合は、フィルムをスキャナなどで取り込んだ場合と同じ扱いとなります。

本ソフトウェアでピクセルサイズ・拡大率という文言は下記の意味です。

- ・ピクセルサイズ：撮像面の画素の大きさ
- ・拡大率：(A＋B)／A

ただし、CT の場合は拡大率は常に1となり、ピクセルサイズは再構成されたスライス画像の画素サイズです。

i-VIEW ソフトウェア単体では「診療録等の電子媒体による保存について」(平成 11 年 4 月 22 日 厚生省通知)を満たすことはできません。従いまして、「運用管理規定による管理」が必要となります。「真正性の確保」、「見読性の確保」、「保存性の確保」及び「プライバシー保護」に十分配慮し、おおよそ以下の項目を満たすような「運用管理規定」を設け、運用・管理してください。

1)管理責任体制
2)管理者と利用者の果たすべき責務
3)電子保存の対象とする情報の種類
4)電子媒体による保存システムの備えるべき機能
5)電子媒体による保存の基準を満たすためのシステム機能と運用上の措置の分担
6)運用マニュアルや運用記録の作成
7)システムの安全性チェックや運用監査
8)情報の安全やプライバシー保護に関する職員教育

詳細については、下記文書を参考してください。

1)「診療録等の電子媒体による保存について」
　　診療などの電子保存に関する厚生省通知(厚生労働省)
　　政発第 517 号
　　医薬発第 587 号
　　保初第 82 号
　　平成 11 年 4 月 22 日

2)「診療録等の電子媒体による保存に関する解説書」
　　財団法人医療情報システム開発センター
　　平成 11 年 10 月

3)「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」 第4版
　　厚生労働省
　　平成 21 年 3 月

1. はじめに

i-VIEW は、画像を患者単位で管理することを目的とした、画像ファイリングシステムです。

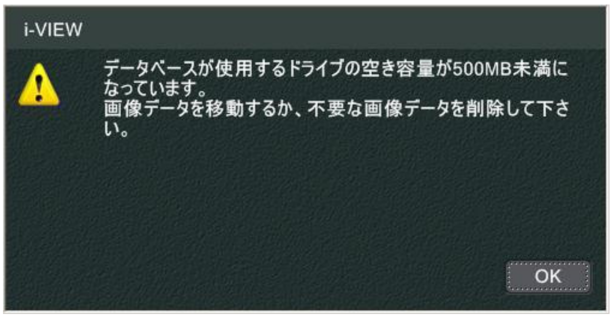
i-VIEW を使用して、
- 患者情報の登録･編集･検索
- 2D 画像の表示･編集･入出力
- 患者情報･画像の印刷
- パノラマ画像の再構成（オプション）
- CT スライス画像の表示･編集･入出力（オプション）
- CT データの再構成･再スライス･表示･編集･入出力（オプション）
- スカウト画像による CT 撮影の位置付け･撮影領域の指定（オプション）
- DICOM（オプション）
- 他アプリケーションとの患者情報･画像の連携（オプション）

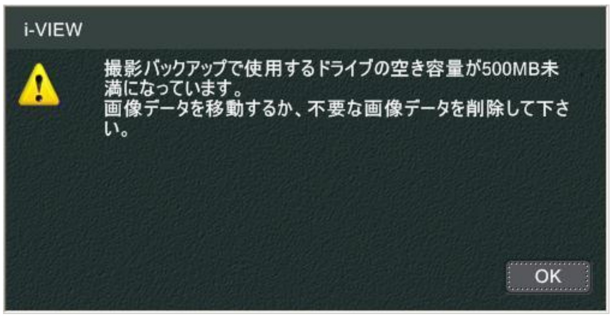
を行うことができます。

※ Veraviewepocs などの各種撮影装置で撮影を行うと、撮影した画像データは、i-VIEW コンピュータに転送され、i-VIEW のデータベースに保存されます。
撮影方法については、各撮影装置の取扱説明書を参照してください。

⚠ 警告

- 各種撮影装置で撮影した後、以下の警告ダイアログが表示される場合があります。





この状態で使い続けると、撮影した画像データが保存できなくなる、または、画像データが消失する可能性があります。　この警告ダイアログが表示された場合は、不要な画像データを削除するか、ストア機能で、データベース内の画像データを、別のハードディスクに移動し、ハードディスクの空き容量を確保してください。

1.1. i-VIEWの主な機能

[患者情報の登録・編集・検索]
- 患者情報を登録し、患者単位で画像の管理を行うことができます。
- 登録された患者情報の編集、検索を行うことができます。

[画像の表示・編集・入出力]
- 2D ビューワの機能により、2D 画像の拡大・縮小や、並列表示が可能です。
  また、画像処理を行い、保存することができます。
- i-VIEW と外部メディアとの間で、画像のインポート・エクスポートを行うことができます。

[患者情報・画像の印刷]
- プリントセンターの機能を利用して、印刷用ファイルを作成し、患者情報や画像を印刷できます。

[パノラマ画像の再構成 (オプション:Veraviewepocs 3Df 向け)]
- Veraviewepocs 3Df でパノラマ撮影したパノラマ画像では、断層位置が調整できます。
  断層位置の調整によって、パノラマ撮影を再度行うことなく、観察したい部位にフォーカスを合わせてパノラマ画像が再構成できます。
  尚、再構成したパノラマ画像は、2Dビューワでの画像処理、内部・外部メディアへのエクスポート、プリントセンターによる印刷ができます。
    * Veraviewepocs 3Df 40e は、パノラマ画像の再構成に対応していません。

[CT データの再構成・再スライス・表示・編集・入出力 (オプション)]
- 3D ビューワの機能により、3DX MULTI-IMAGE MICRO CT、又は、Veraviewepocs 3D / 3Df で撮影された CT データの再構成・再スライス・表示・画像処理・インポート・エクスポートを行うことができます。 また、CT スライス画像間の距離計測や、ボリュームレンダリングによる 3 次元画像の作成・表示・編集、曲面任意多断面再構成法(Curved MPR)によるパノラマ画像・2次元断層画像の作成・表示・編集を行うことができます。

[スカウト画像による CT 撮影の位置付け・撮影領域の指定 (オプション)]
- 3DX MULTI-IMAGE MICRO CT で CT 撮影を行う際、2 方向スカウト画像を用いて、CT 撮影の位置付けや撮影領域の指定を行うことができます。
- Veraviewepocs 3D / 3Df で CT 撮影を行う際、パノラマスカウト画像、又は、2 方向スカウト画像を用いて、CT 撮影の位置付けや撮影領域の指定を行うことができます。
- 3DX MULTI-IMAGE MICRO CT 又は、Veraviewepocs 3D / 3Df で CT 撮影をする際に、スカウト画像による CT 撮影の位置付けが行われた場合、位置付けに用いられたスカウト画像と撮影された CT データが関連付けされます。

[DICOM (オプション)]
- i-VIEW は、DICOM 規格に準拠したネットワークが構築されている環境への導入が可能です。
  また、以下の DICOM サービスクラスに対応しています。
  - Storage Service Class:
    i-VIEW で管理されている画像を、DICOM 画像サーバーに転送します。
  - Modality Worklist Management Service Class (MWM):
    各種モダリティ(CT 装置、パノラマレントゲン装置などを指す)で撮影する患者の撮影予約リストを、HIS/RIS から取得します。
  - Modality Performed Procedure Step Service Class (MPPS):
    各種モダリティ(CT 装置、パノラマレントゲン装置など)で撮影すると、撮影の完了と撮影した患者の情報を HIS/RIS に通知します。
  - Print Management Service Class(PMS):
    i-VIEW で管理されている画像を、DICOM 規格に準拠したドライイメージャ(フィルムプリンタ)に出力します。

[他システムとの患者情報･画像の連携　（オプション)]

・ i-VIEW、DOC-5J / DOC-5PROCYON(電子カルテ/レセプトシステム)や、TrinityCore(インフォームド･コンセントシステム)を連携することで、アプリケーション間での、患者情報や画像の連携が可能になります。
・ 他社製の電子カルテ / レセプトシステムと連携することで、その電子カルテ / レセプトシステムで登録した患者情報、あるいは、選択した患者情報が、i-VIEW に反映できます。

⚠ 注意

- 他システムとの患者情報･画像の連携を行うためには、事前に、サービスマンによる設定が必要です。
  また、患者情報･画像の連携に対応できない電子カルテ / レセプトシステムがあります。

1.2. キー入力の表記

例とその意味

■ **Ctrl+A**
Ctrl キーを押しながら A キー(文字 A)を押し、2 つのキーを同時に離す操作です。

■ **Back Space**
キーボード右上隅にあるキーを指します。

■ **Tab**
キーボード左端にあるキーで、左右を示す矢印が付いています。

■ **Shift**
キーボード右下と左下隅にある 2 つのキーで、上向きの太い矢印が付いています。
大文字を入力する時に使用します。

■ **Enter**
タイプライタスタイルのキーボードの右端にある大きなキーで、“Enter”、又は、“Return”と書いてあるか、角度つきの矢印がついています。

■ スペースキー
キーボードの下にある幅の広いキーを指します。

1.3. 本取扱説明書上で使用される標準的な用語

不要な繰り返しを避けるために、本書ではマウス操作について次のような用語と表現を使用しています。

■ クリック（左クリック）
項目の上にマウスポインタ(矢印)を移動させて、マウスの左ボタンを一回押すことを指します。
例えば、「ファイルをクリックする」とは、ポインタを［ファイル］まで移動させ、マウスの左ボタンを素早く一回押すことです。

■ 右クリック
マウスの右ボタンを一回押すことを指します。

■ ダブルクリック
ダブルクリックとは、マウスの左ボタンを続けて 2 回素早くクリックすることです。クリックの間隔があくと、パソコンは 2 回のクリックと解釈します。例えば、「アイコンをダブルクリックする」とは、アイコンをマウスでポイントしてマウスの左ボタンを続けて 2 回素早く押すことです。ダブルクリックの場合のクリック間隔は、Windows 作業環境の値を変更して調整することができます。

■ マウスでドラッグ＆ドロップする
マウスポインタを選択項目に移動して、マウスの左ボタンを押しながら希望する位置へマウスを移動させ、マウスの左ボタンを離します。例えば、画像を画像配置ウィンドウにコピー移動させるときに行います。

■ **WINDOWS**デスクトップ
Windows がスタートした時に表示されるウィンドウです。パソコンの様々なプログラムのアイコンが表示されます。プログラムのアイコンをマウスでポイントしてダブルクリックすると、そのプログラムをスタートさせることができます。Windows では、連続して複数のプログラムをスタートして実行することができます。

■ ポップアップメニュー
右クリックした時に現れるメニューです。

■ ラジオボタン
それぞれの機能をオン/オフするスイッチです。

1.4.　本取扱説明書上で使用される専門的な用語

本書で使用される専門的な用語を、以下にまとめます。

■ データベース

i-VIEW のデータベースは、患者データベースと症例データベースに区別されます。

患者データベース

患者名などの患者情報、診断画像の集合体です。
患者情報、診断画像は、患者 ID によって管理されます。
患者情報、診断画像の参照、編集、保存、検索ができます。

症例データベース

症例名などの症例情報、症例画像の集合体です。
症例情報、症例画像は、症例グループ ID、症例名の ID によって管理されます。
症例情報、症例画像の参照、編集、保存、検索ができます。

これらのデータベースは、複数作成できます。
但し、複数のデータベースを同時に参照できません。
参照したいデータベースに接続を切替る必要があります。
接続の切替は、患者データベース、症例データベース単位で行います。

データベースの作成･切替の操作を誤ると、データベースが参照できなくなる恐れがあります。
これらの操作を必要とする場合、お問い合わせの上、操作されることをお勧めします。

データベースの作成、切替手順の詳細は、p 224【 12.9 データベースタブ 】を参照してください。

■ モダリティ

本書では、以下の2つを意味します。

1. 画像撮影装置自身を意味します。
2. i-VIEW で画像を分類するための種類(分類属性)を意味します。
   種類として、CT, Intraoral, Panorama, PanoramaPlus, Cephalo, Camera, Video, XII-Movie, XII-Still, Other Image があります。　例えば、IntraOral に分類された画像は、IntraOral モダリティの画像として取り扱われます。

■ **画素･濃度･輝度**

i-VIEW では、2D 画像の画素が持つ濃度が、輝度に変換され、ディスプレイに表示されます。

画素:　2D 画像、および、2D 画像を表示するディスプレイを構成する最小単位の点(ピクセル)を意味します
濃度:　2D 画像の画素が持つ色の度合い(階調)を意味します。
輝度:　2D 画像の画素がディスプレイに表示される際の、画素の明るさの度合いを意味します。

i-VIEW における 2D 画像の階調数は、256 階調です。
i-VIEW において、濃度 0 の画素は、最も黒い階調を持ち、最も暗く表示されます。　濃度 255 の画素は、最も白い階調を持ち、最も明るく表示されます

■ 画像情報ファイル

2D 画像のエクスポート時に、2D 画像と合わせてエクスポートされるテキストファイルです。
そのファイルには、患者名、患者 ID、撮影日時、モダリティ種別などの情報が記録されています。
2D 画像をインポートする場合、通常、撮影日時、モダリティ種別を設定する必要があります。
画像情報ファイルと合わせて、2D 画像をインポートすると、撮影日時、モダリティ種別を設定しなくても、インポートできます。
インポート、エクスポートの詳細は、 p 68【 6.1. ツール 】を参照してください。

■ フィルタ処理

多くの部位を撮影した 2D 画像には、濃度が大きく変化している部分、あまり変化していない部分など、数多くの濃度変化を含んでいます。
フィルタ処理は、2D 画像に含まれる全ての濃度変化から、ある濃度変化のみを抽出し、2D 画像の画質調整、特徴抽出、ノイズ除去を行う事を目的とした処理です。
フィルタ処理の一部を説明します。

Edge: 急激な濃度変化のみを抽出します。 2D 画像の輪郭部のみが抽出されます。
Hi.Pass: ある大きさを上回る濃度変化のみを抽出します。 コントラストを強調した画質に調整できます。
Lo.Pass: ある大きさを下回る濃度変化のみを抽出します。 コントラスト、ノイズを抑えた画質に調整できます。

但し、フィルタ処理には、注意が必要です。
例えば、スパイクノイズが目立つ 2D 画像に、Hi.Pass フィルタ処理を行うと、ある大きさを上回る濃度変化のみが抽出されることにより、コントラストが強調されるため、さらにスパイクノイズが目立つようになります。
フィルタ処理の詳細は、p 75【 6.5. フィルター：画像にフィルタ処理を行う 】を参照してください。

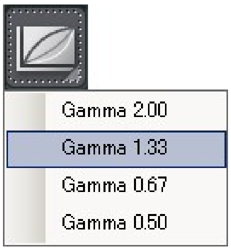
■ ガンマ補正･ガンマ値

濃度と輝度(明るさ)は比例しています。
比例関係が正常な場合、濃度の低い画素ほど暗く表示され、濃度の高い画素ほど明るく表示されるため、2D 画像は、自然な輝度(明るさ)で表示されます。
ディスプレイの不良などにより、自然な輝度(明るさ)で表示されないことがあります。
また、適切なガンマ補正を施していない 2D 画像を表示した場合も、自然な輝度(明るさ)で表示されないことがあります。
ガンマ補正によって、濃度と輝度(明るさ)の比例関係を補正し、自然な輝度(明るさ)で表示できるようになります。

ガンマ値は、濃度と輝度(明るさ)の比例関係を示す値です。
ガンマ値が 1.00 に近いほど、比例関係は正常に近づき、自然に近い輝度(明るさ)で表示されます。
ガンマ値が 1.00 から離れるほど、比例関係は異常になり、自然な輝度(明るさ)で表示されなくなります。

比例関係が異常になり、ガンマ値が 1.00 以下になると、以下に示す通り、濃度が高い部分も、暗く表示されます。

ガンマ値を 1.00 に近づけるため、ガンマ値 1.00 以上のガンマ補正を行います。

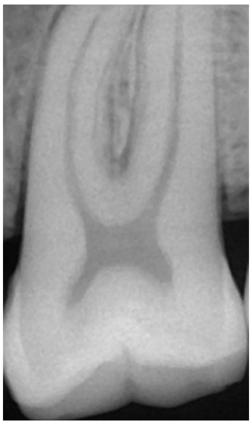


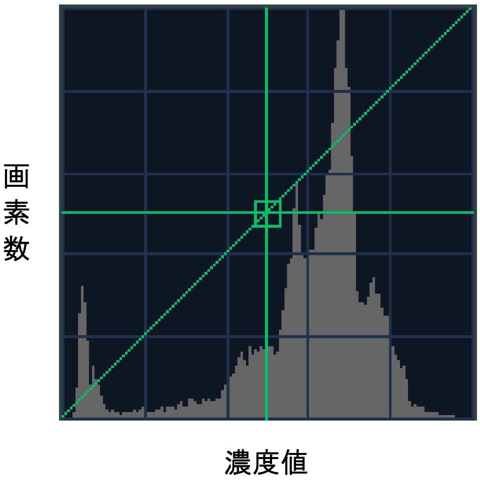
ガンマ値が 1.00 に近づくように補正され、濃度が高い部分は、明るく表示されるようになります。

⚠ 注意

- **ガンマ補正は、濃度と輝度(明るさ)の比例関係を補正し、自然な輝度(明るさ)で、2D 画像を表示できるようにすることが目的です。　ディスプレイの不良修復、画質向上が目的ではありません。　画質を向上させたい場合は、フィルタ処理、コントラスト調整を行うことをお勧めします。**

■ ヒストグラム
ヒストグラムは、2D 画像の濃度値の分布状況を表したグラフです。
横軸は濃度値、縦軸は、その濃度値を持つ画素数を表しています。
ヒストグラムは、2D 画像の特徴を読み取るための目安になります。
例えば、中間の濃度値と、やや高い濃度値を持つ画素が多い場合、2D 画像に、グレーの部分と、白い部分が多く含まれ、歯、歯肉の要素を多く含んだ画像であると判断できます。

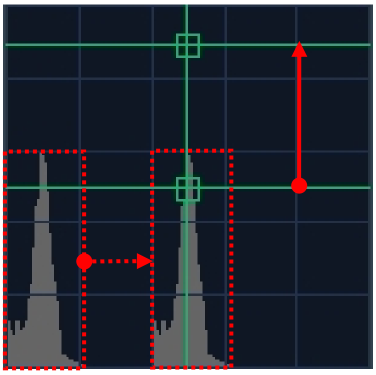




■ コントラスト
コントラストは、濃度差を意味します。
コントラストを強くすると、濃度差が強調され、白い部分はより白く、黒い部分はより黒くなった、鮮明度の高い画質になります。
コントラストを弱くすると、濃度差が強調されなくなり、滑らかな画質になります。
コントラストを強くしすぎると、グレーの部分が潰れ、白い部分、黒い部分に片寄った画質になります。
コントラストを弱くしすぎると、白い部分と黒い部分が潰れ、グレーの部分だけが目立ち、画質がぼけます。

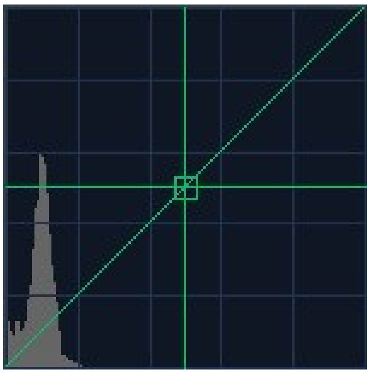
■ 輝度調整
濃度と輝度(明るさ)は比例します。
これにより、濃度の高い画素ほど、輝度(明るさ)は高くなり、ディスプレイに明るく表示されます。
輝度調整では、2D 画像がディスプレイに表示される場合の輝度(明るさ)を調整します。
例えば、黒い部分が多く目立つ 2D 画像を、明るく表示したい場合などに有効です。

■ グレーレベル調整
グレーレベル調整は、濃度分布が集まる位置を調整します。
例えば、濃度の低い部分に集まっている濃度分布を、中間の濃度の部分に集まるように調整できます。

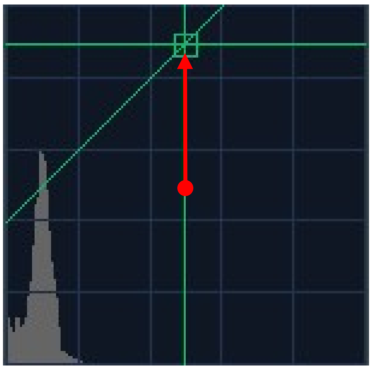


※　上記は、概念図です。
　　グレーレベル調整しても、調整後の濃度分布(ヒストグラム)は、画面上に、表示されません。

グレーレベル調整は、濃度分布が集まる位置を調整し、2D 画像を適切に表示する場合に有効です。
濃度分布が、濃度の低い位置に集まると、歯部などの白い部位も、暗く表示されます。



濃度分布が、中間濃度の位置に集まるように調整すると、歯部などの白い部位が、明るく表示されます。



■ 付帯情報

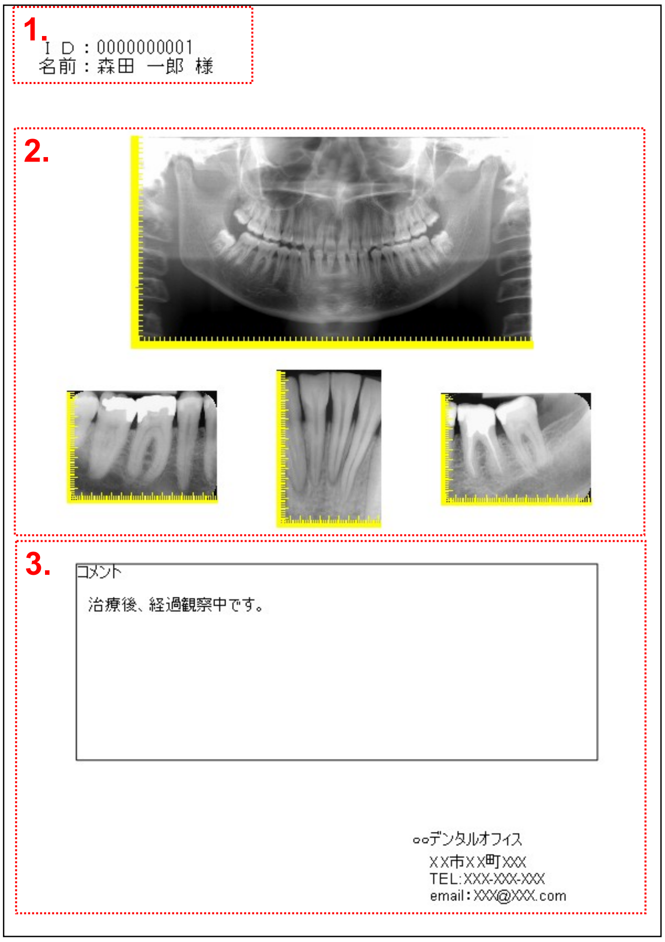
3DX MULTI-IMAGE MICRO CT、Veraviewepocs 2D / 3D / 3Df、megadixel などの弊社製 画像撮影装置で撮影を行うと、撮影画像に、付帯情報が付属されて、i-VIEW のデータベースに保存されます。
付帯情報として、解像度(ピクセルサイズ)などがあります。
例えば、Veraviewepocs 2D でパノラマ撮影を行うと、パノラマ撮影時に設定した撮影モード、拡大率、管電圧・管電流、及び、撮影したパノラマ画像の解像度(ピクセルサイズ)などが付帯情報として、i-VIEW のデータベースに保存されます。 付帯情報は、画像撮影装置の機種、撮影画像の種類によって異なります。
※ 撮影画像として、CT 画像、パノラマ画像、セファロ画像、口腔内画像があります。

■ 患者方向

i-VIEW では、2D 画像の撮影方向、観察方向などの方向を、2D 画像の患者方向として設定できます。 観察者の意図に応じて、患者方向は変更できます。
i-VIEW では、患者方向は一意ではありません。
患者方向の設定手順は、p 124【 6.13. 患者方向：患者方向を確認する 】を参照してください。

■ PrintCenter

i-VIEW における 2D 画像の印刷は、PrintCenter で 2D 画像を挿入した印刷文書を作成し、その文書をプリンタに印刷することで印刷できます。
患者情報、図形、文字も印刷文書に挿入でき、2D 画像と合わせて印刷できます。
挿入する図形、文字は、PrintCenter で編集できます。　作成した印刷文書は、i-VIEW に保存できます。
以下に、印刷文書の例を示します。



1. i-VIEW に保存されている患者 ID、患者名です。
2. i-VIEW に保存されている 2D 画像です。
3. PrintCenter で編集した図形、文字です。

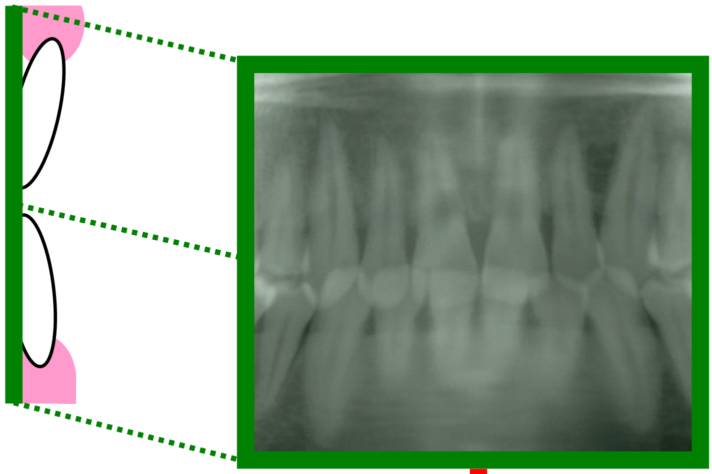
オプションで、PrintCenter で作成した印刷文書は、DICOM 規格に準拠したドライイメージャ (フィルムプリンタ)に出力できます。
PrintCenterの詳細は、p 151【 10. Print Center 】を参照してください。

■ パノラマ断層位置調整

Veraviewepocs 3Df でパノラマ撮影した場合、パノラマ撮影を再度行うことなく、任意の断層面にフォーカスを合わせて、パノラマ画像が再構成できます。
パノラマ断層位置調整は、フォーカスを合わせる断層面の前後位置を、調整する操作を意味します。
フォーカスを合わせる断層面の前後位置が、断層面の画像で確認できます。
以下に、パノラマ断層位置調整によって、前歯部が映し出される様に、任意の断層面にフォーカスを合わせ、パノラマ画像が再構成される例を示します。
パノラマ断層位置調整の詳細は、p 197【 11. パノラマ断層位置調整 】を参照してください。

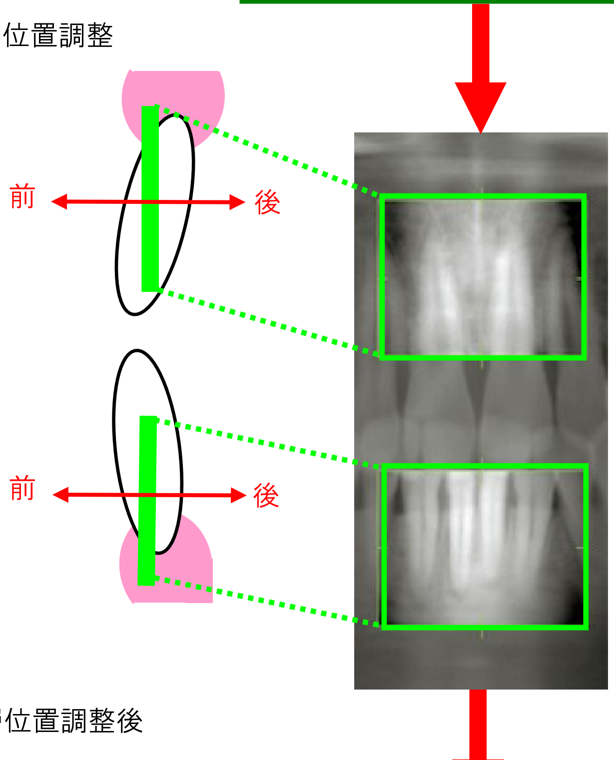
* Veraviewepocs 3Df 40e は、パノラマ画像の再構成に対応していません。

断層位置調整前



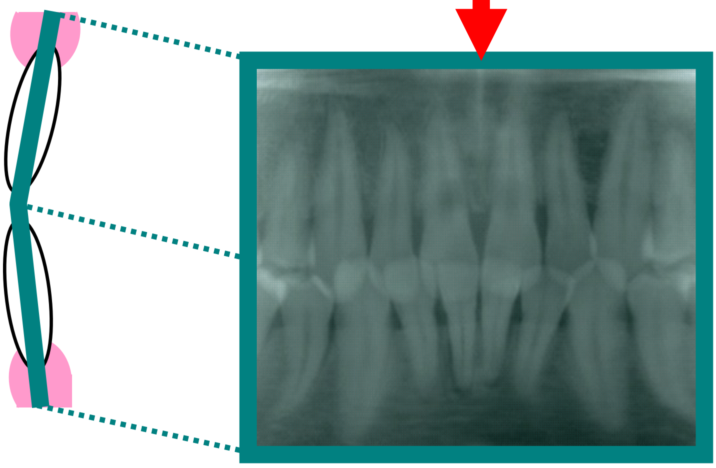
前歯部が鮮明に
映しだされていない

断層位置調整



断層の前後位置を調整し
フォーカスを合わせる

断層位置調整後



前歯部が鮮明に
映しだされる

1.4. i-VIEWの起動･認証･終了

起動

コンピュータと周辺機器の電源を ON にします。
画面左下の スタート ボタンをクリックして i-VIEW をクリックします。

⚠ 警告

- i-VIEW ソフトウェア起動時は、他のアプリケーションソフトを使用又は起動しないでください。物理メモリが不足して、画像の取得や CT 再構成ができなくなる可能性があります。

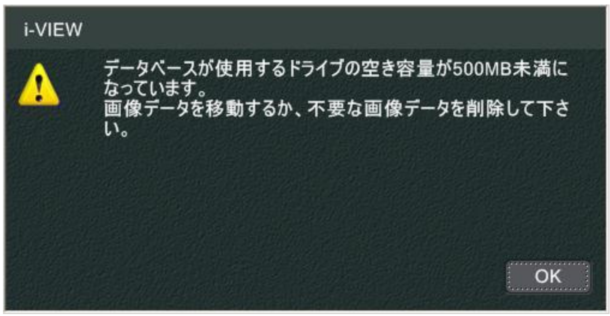
認証

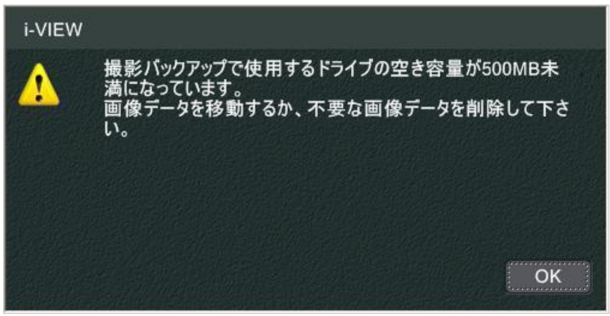
i-VIEW をクリックすると、認証ダイアログが表示されます。
必要事項を入力し、認証ボタンをクリックすると、i-VIEW ソフトウェアが起動し、ホーム画面が表示されます。

ID＆Name:　プルダウンメニューから、登録済みスタッフ情報から取得した ID と氏名を選択します。
Password:　パスワード入力欄です。 入力されたパスワードは、「＊」で表示されます。

⚠ 警告

- 認証後、以下の警告ダイアログが表示される場合があります。





この状態で使い続けると、画像データが保存できなくなる、または、画像データが消失する可能性があります。
この警告ダイアログが表示された場合は、不要な画像データを削除するか、ストア機能で、データベース内の画像データを、別のハードディスクに移動し、ハードディスクの空き容量を確保してください。

終了

i-VIEW ソフトウェアを終了するには、ウィンドウ右上の「×」をクリックします。

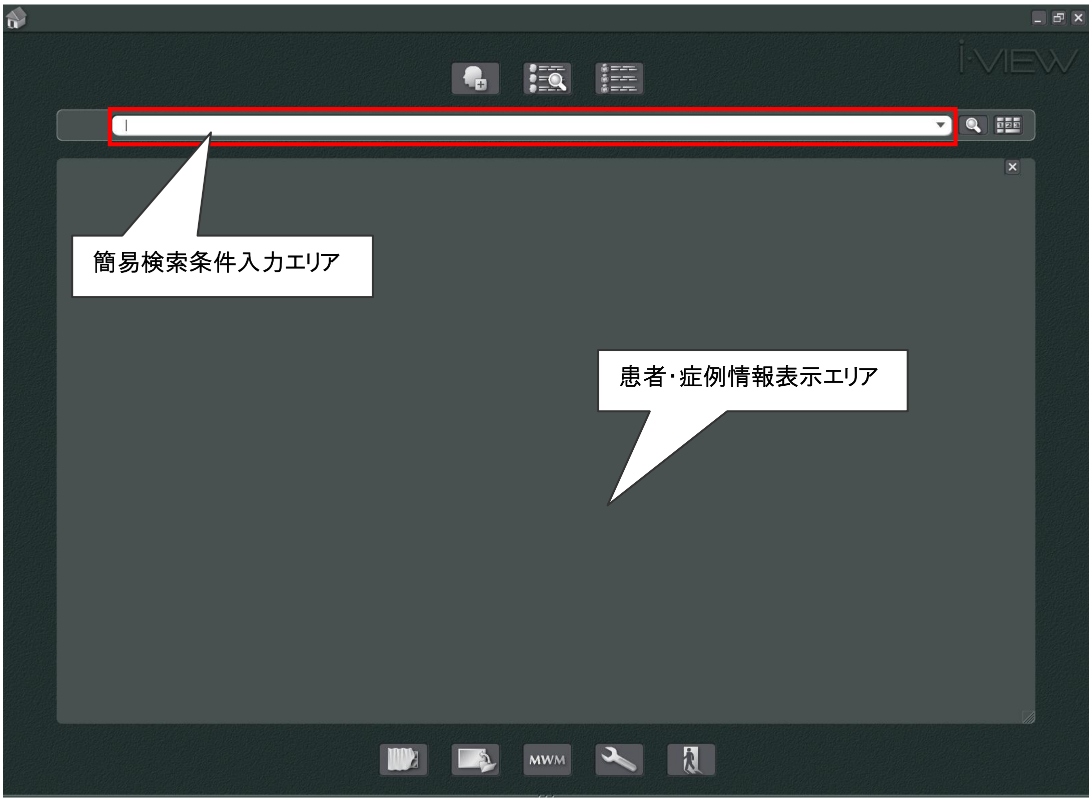
ホーム画面の終了ボタン をクリックしても、i-VIEW ソフトウェアは、終了できます。

＊ ホーム画面の詳細は、 p 15【 2.1 ホーム画面 】で説明します。

2. 画面仕様

2.1. ホーム画面

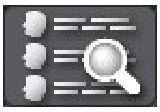
i-VIEW ソフトウェアを起動すると、ホーム画面が表示されます。
ホーム画面では、患者又は、症例を選択することができます。



患者登録呼び出しボタン:

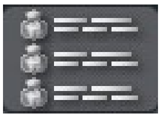
患者登録画面を呼び出します。
詳細は、 p 32【 3.1 患者情報を新規登録する 】を参照してください。

患者詳細検索呼び出しボタン:



患者詳細検索画面を呼び出します。
詳細は、 p 36【 3.3 患者情報の詳細検索を行う 】を参照してください。

症例画面切替ボタン:



症例データベースを呼び出します。
詳細は、 p 62【 5 症例情報 】を参照してください。

簡易検索条件入力エリア:

検索したい患者の ID や氏名の一部を入力します。

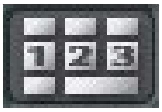
患者･症例情報表示エリア:

患者･症例情報の検索結果が表示されます。

簡易検索ボタン：

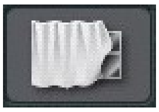
簡易検索を実行します。
詳細は、 p 39【 3.4 患者情報の簡易検索を行う 】を参照してください。

テンキーボタン：



患者 ID などの数字を入力できます。

カーテン画面呼び出しボタン：



ホーム画面が非表示になります。
ホーム画面上をクリックすると再表示されます。

CT インポートボタン：

内部・外部メディアに保存されている CT Raw データ・ボリュームデータ・スライスデータがインポートできます。
詳細は、i-VIEW ソフトウェア取扱説明書 3D 機能編【 3.1. CT データのインポート 】を参照してください。

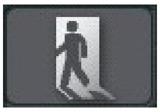
MWM オーダーリスト呼び出しボタン：

MWM オーダーリスト画面を呼び出し、HIS/RIS に登録されている患者の撮影予約状況を表示します。（オプション）

設定メンテナンス呼び出しボタン：

設定メンテナンス画面を呼び出します。
詳細は、 p 209【 12. 設定・メンテナンス 】を参照してください。

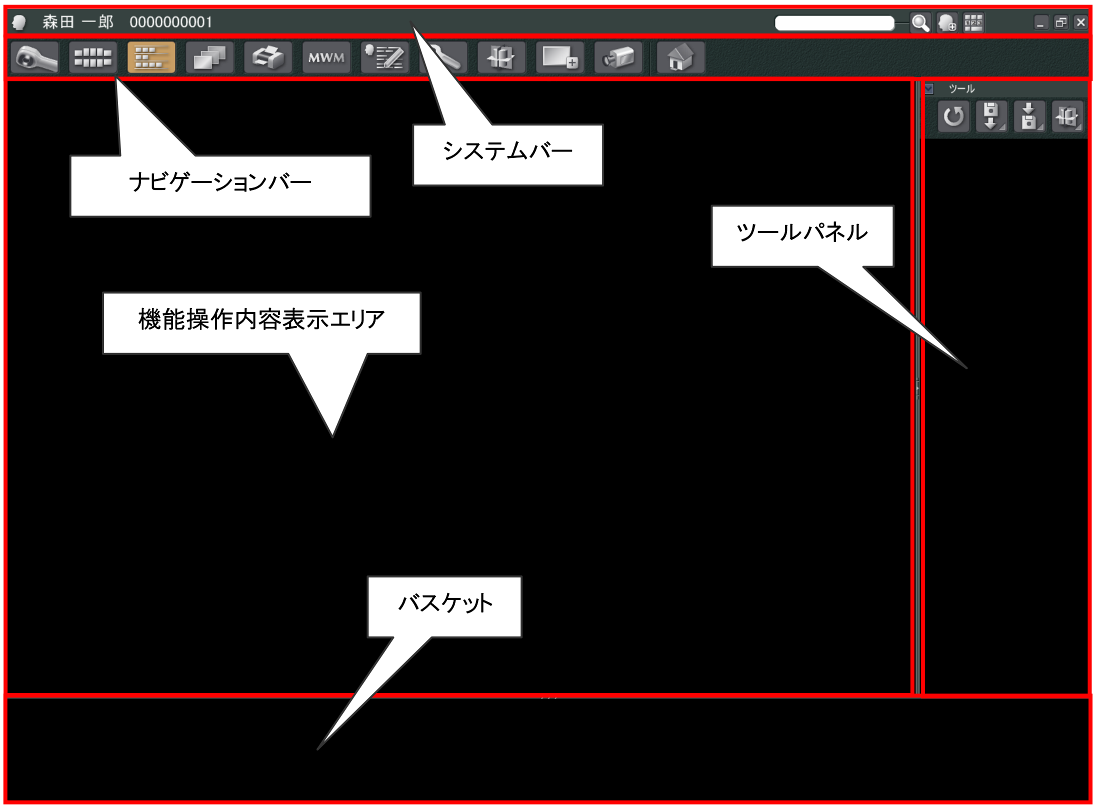
終了ボタン：



i-VIEW を終了します。

2.2. 機能画面に表示される項目

ホーム画面で、患者又は、症例を選択すると、画像一覧画面が表示されます。
必要に応じて、他の機能画面に切り替えることができますが、どの機能画面においても、以下の項目は常に表示されます。



システムバー:
現在指定している患者名・患者 ID が表示されます。
簡易検索の実行、患者登録画面の呼び出しを行います。
簡易検索の詳細は、p 39【 3.4. 患者情報の簡易検索を行う 】を参照してください。
患者登録画面の呼び出しの詳細は、 p 32【 3.1. 患者情報を新規登録する 】を参照してください。

ナビゲーションバー:
ナビゲーションバーに表示されているボタンをクリックして機能を選択します。
ボタンの表示、配列は、設定・メンテナンスの画面で変更することができます。
機能を選択した時に表示される機能画面の仕様を、p 29【 2.3. ナビゲーションバーから機能画面を表示させる 】に示します。

機能操作内容表示エリア:
選択された機能画面の操作内容が表示されます。

バスケット:
画像のサムネールが表示され、各機能画面にドラッグ&ドロップして共用できます。
詳細は、p 18【 バスケット 】を参照してください。

ツールパネル:
選択された機能画面の操作内容が表示されます。 例えば、2Dビューワを選択した場合、画像処理項目一覧が表示されます。 また、一部の機能画面を除き、ツール項目が表示されます。 ツール項目の詳細は、p 22【 ツール項目 】を参照してください。

* 患者が選択され、機能画面の何れかが表示されているとき、各種装置からの画像取込が可能です。

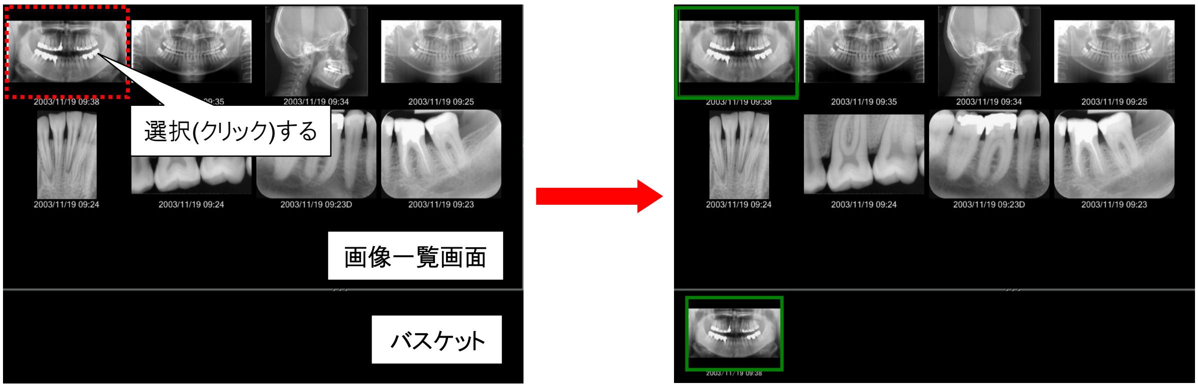
バスケット

バスケットに画像を追加すると、各機能画面で画像が共用できます。
バスケットに追加した画像を、バスケットから取り除くこともできます。
以下に、バスケットに画像を追加する手順、バスケットから画像を取り除く手順を説明します。

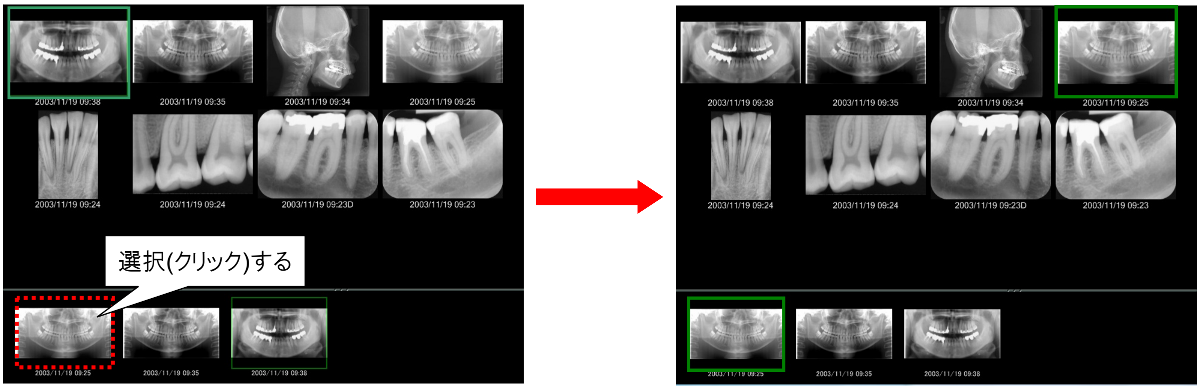
1.　バスケットに画像を追加する

1.1.　選択した画像を追加する

画像一覧画面上で、バスケットに追加する画像のサムネールを選択(クリック)します。
選択した画像のサムネールには、緑色の枠が表示されます。

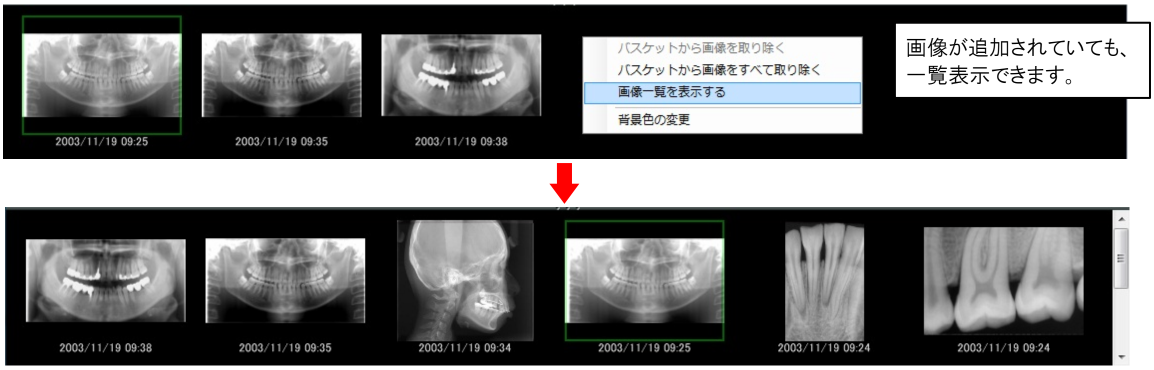


複数の画像が、バスケットに追加できます。　バスケット内の画像のサムネールを選択すると、選択した画像を変更することができます。



1.2.　画像を一覧表示して追加する

画像一覧画面に一覧表示される全ての画像を、バスケットに一覧表示して、追加できます。
バスケットを右クリックし ポップアップメニューの「 画像一覧を表示する 」を選択します。



スクロールバーをスクロールすると、残りの画像のサムネールが一覧表示されます。

*　既に、バスケットに画像を追加されていても、「 画像一覧を表示する 」は選択できます。

*　以下のとき、該当する画像がバスケットに追加され、その画像のサムネールが、バスケットに表示されます。

- 画像一覧画面で画像を選択（クリック）したとき
- X 線撮影装置、口腔内カメラなどのカメラ機器で撮影された画像を i-VIEW で受信したとき
- 画像がインポートされたとき

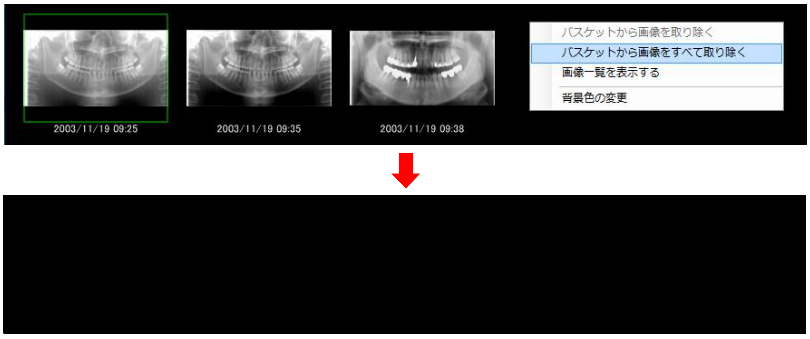
2. バスケットから画像を取り除く

2.1. 選択した画像を取り除く

バスケット内の画像のサムネールを右クリックし、ポップアップメニューの「 バスケットから画像を取り除く 」を選択します。 バスケットに、その画像のサムネールが表示されなくなります。

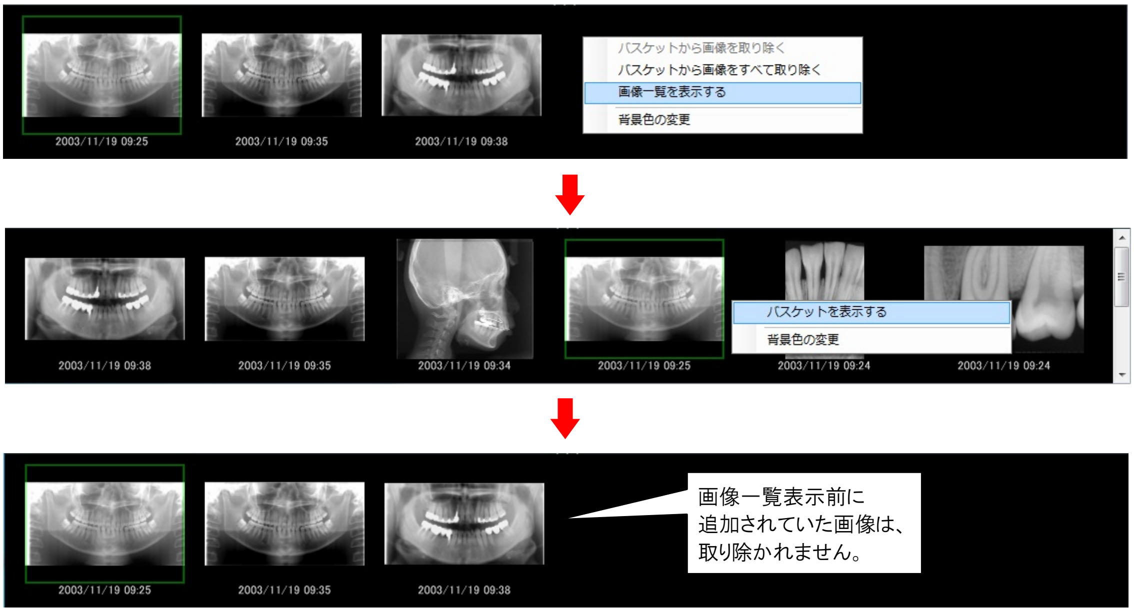
2.2. 全ての画像を取り除く

バスケットに追加した全ての画像を、取り除くことができます。
バスケットを右クリックし ポップアップメニューの「 バスケットから全ての画像を取り除く 」を選択します。
バスケットに画像のサムネールが表示されなくなります。



2.3. 一覧表示した画像を取り除く

画像の一覧表示によって画像を追加した場合、画像の一覧表示を解除すると、一覧表示した画像を、取り除くことができます。
バスケットを右クリックし ポップアップメニューの「 画像一覧を表示する 」を選択します。



*　画像を一覧表示する前に、バスケットに追加した画像は、取り除かれません。

バスケットから画像が取り除くことができない場合

p 19 [2. バスケットから画像を取り除く] で説明する方法で、バスケットから画像が取り除くことができない場合、以下で説明する手順に従って、画像を取り除いてください。

1. 現在、バスケットに、画像の一覧が表示されている場合、p 19 [2.3.　一覧表示した画像を取り除く] で説明されている手順に従って、画像の一覧表示を解除します。

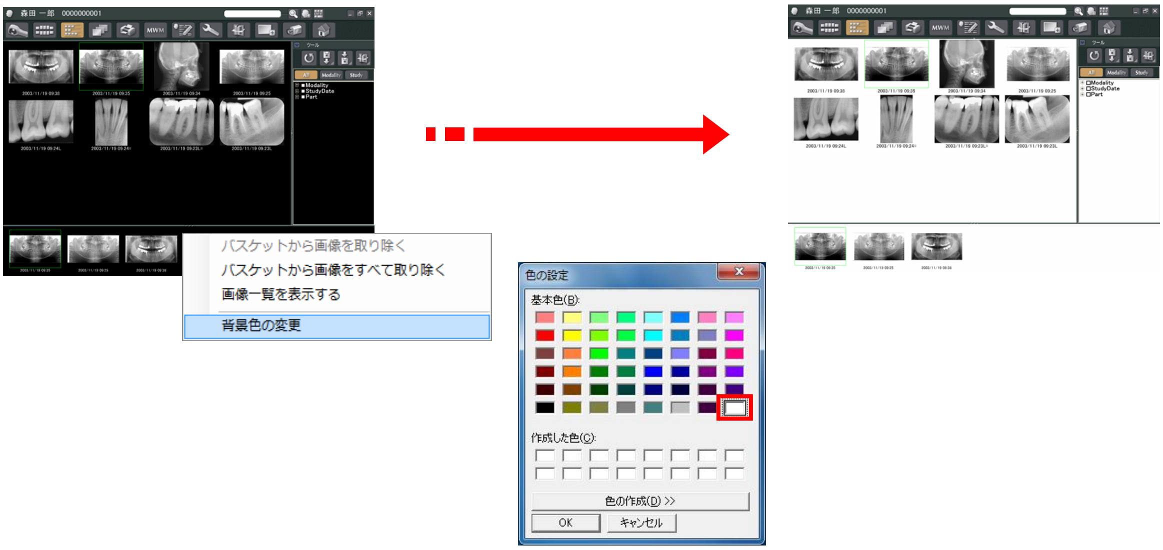
2. p 17 [2.2. 機能画面に表示される項目] で説明されているナビゲーションバーの ボタンをクリックし、機能画面を、画像一覧画面に切り替えます。

3. p 19 [2.1.　選択した画像を取り除く] 、[2.2.　全ての画像を取り除く] で説明される手順に従って、画像を取り除きます。

画面の背景色を変更する

画面の背景色を変更することができます。
バスケット内で右クリックして、ポップアップメニューの「 背景色の変更 」を選択し、[色の設定]ダイアログから色を指定します。

≪例:背景色を白に変更する≫



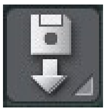
ツール項目

Print Center 画面、パノラマ断層位置調整画面、設定及びメンテナンス画面以外の機能画面が表示された場合、ツールパネルに、ツール項目が表示されます。
ツール項目では、表示の更新、画像のインポート･画像のエクスポート･CT タスクの移動（オプション）･CT 一括再構成（オプション）の操作ができます。

表示更新

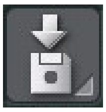
現在の表示内容を更新します。
他の i-VIEW コンピュータで、画像データの読み込み、編集などによって更新された内容を、自身の i-VIEW コンピュータで、直ちに表示させせたい場合に有効です。
また、読み取り専用(ReadOnly)が解除できます。 解除に関する詳細は、p 22 [読み取り専用(ReadOnly) の解除] を参照してください。

インポート



2D 画像のインポートを行います。
TWAIN 機器から 2D 画像、CT データ（オプション）をインポートします。
詳細は、 p 23［**インポート**］ を参照してください。

エクスポート



2D画像のエクスポートを行います。
DICOM3.0 形式による 2D画像、CTスライス画像をエクスポートします（オプション）。
詳細は、 p 26［**エクスポート**］ を参照してください。
* 機能画面によって表示されないことがあります。

CT 処理

CT タスクを移動します（オプション）。
CT ボリュームデータの再構成を一括処理します(オプション)。
* 機能画面によって表示されないことがあります。

読み取り専用(ReadOnly) の解除

他の i-VIEW コンピュータで選択されている患者を選択すると、その患者の患者情報、診断画像が、読み取り専用(ReadOnly)で表示されます。
読み取り専用の場合に編集した患者情報、診断画像は、保存できません。 保存するためには、読み取り専用を解除する必要があります。 以下で、 読み取り専用の解除手順を説明します。

1. 他の i-VIEW コンピュータの画面を、ホーム画面に切り替えます。 または、他の i-VIEW コンピュータの i-VIEW を終了します。
2. 自身の i-VIEW コンピュータで、表示更新のボタン をクリックします。 読み取り専用が解除され、編集した患者情報、診断画像が保存できるようになります。

[インポート]

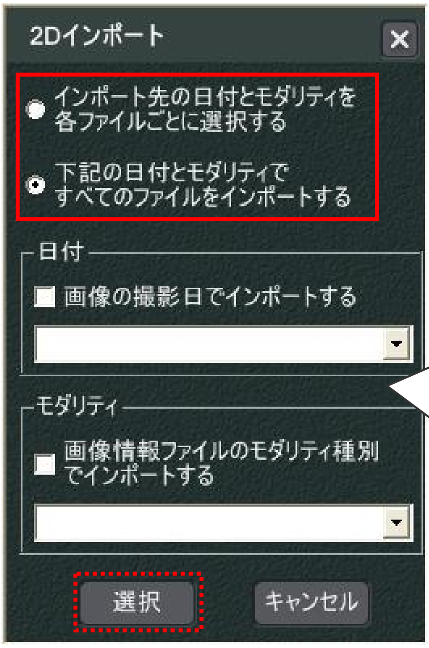
内部・外部メディアに保存されている 2D 画像、TWAIN 機器から取り込まれた 2D 画像をインポートします。
また、内部・外部メディアに保存されている CT タスクデータ・ボリュームデータをインポートします（オプション）。

ボタンをクリックして、実行したいインポート項目を選択します。

2D インポート：	内部・外部メディアに保存されている 2D 画像をインポートします。
CT インポート（オプション）：	内部・外部メディアに保存されている CT タスクデータ・CT ボリュームデータ・CT スライスデータをインポートします。
TWAIN インポート：	TWAIN 機器で読み込まれた 2D 画像をインポートします。 ※ データベースが症例に切り替えられている場合、TWAIN インポートは選択できません。

2D インポート

1. [インポート先の日付とモダリティを各ファイルごとに選択する]、又は、[下記の日付とモダリティですべてのファイルをインポートする]を選択し、選択ボタンをクリックします。



[下記の日付とモダリティですべてのファイルをインポートする]を選択した場合：

日付：
[画像の撮影日でインポートする]にチェックを入れるか、プルダウンメニューから選択します。

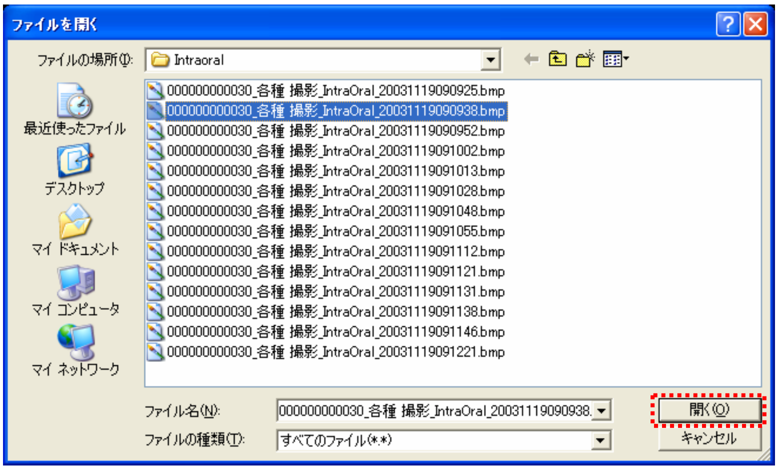
モダリティ：
[画像情報ファイルのモダリティ種別でインポートする]にチェックを入れるか、プルダウンメニューから選択します。

※ 画像情報ファイルの詳細は、p 6 1.4. 本取扱説明書上で使用される専門的な用語 】を参照してください。

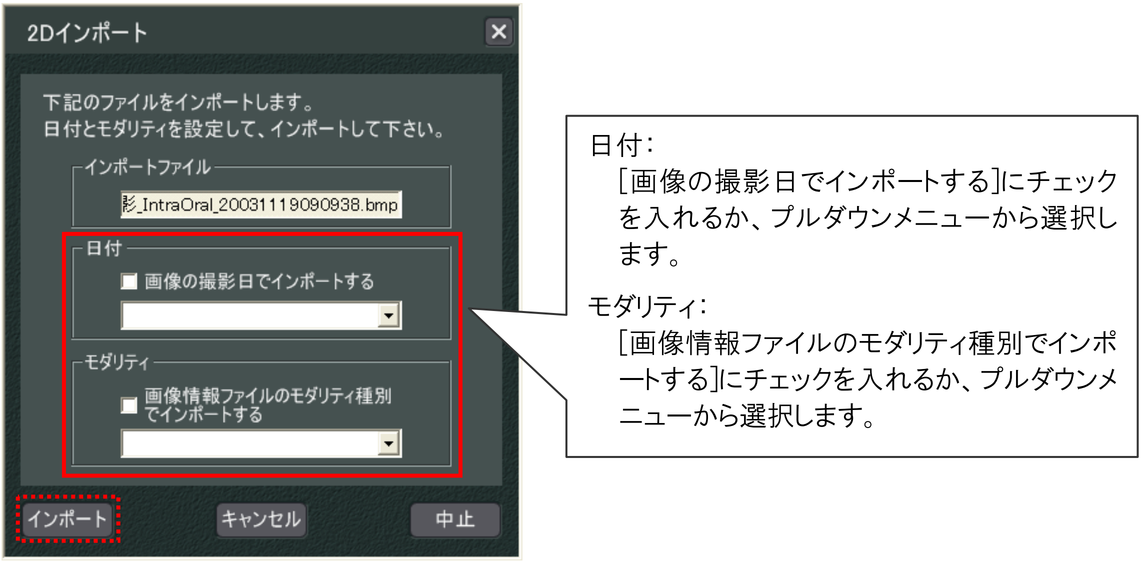
2. [ファイルを開く]ダイアログから、インポートする 2D 画像のファイルを選択し、[開く]をクリックします。

※複数枚を同時にインポートできます。

※インポートが可能な 2D 画像のファイル形式は、BMP-8bit、BMP-24bit、JPEG-8bit、JPEG-24bit、PNG-8bit、PNG-24bit、TIFF-8bit、TIFF-24bit です。

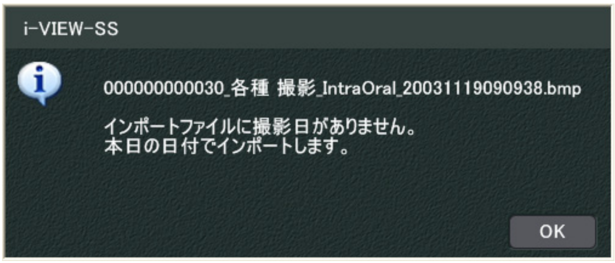


※[インポート先の日付とモダリティを各ファイルごとに選択する]を選択している場合、ここで、以下のダイアログが表示されます。 インポート日付とモダリティを設定しインポートボタンをクリックします。

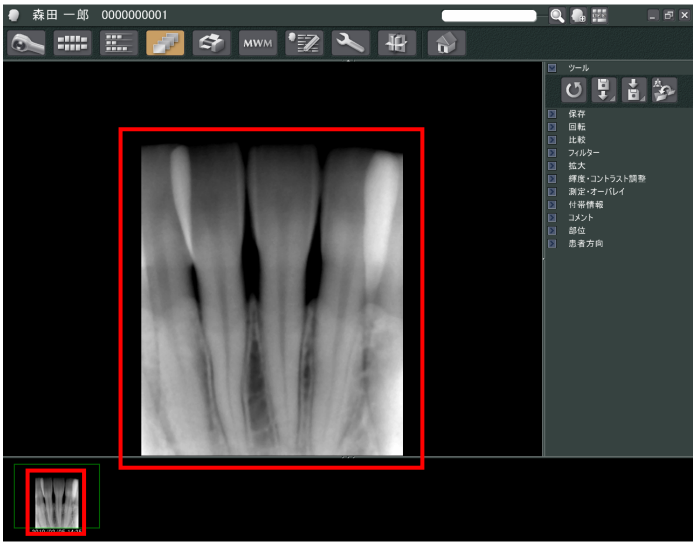


※ 画像情報ファイルの詳細は、p 6 1.4. 本取扱説明書上で使用される専門的な用語 】を参照してください。

※[画像の撮影日でインポートする]、[画像情報ファイルのモダリティ種別でインポートする]にチェックを入れて、撮影日とモダリティ種別の付帯情報が無い画像をインポートする場合、下記のメッセージが表示され、本日の日付でインポートされます。

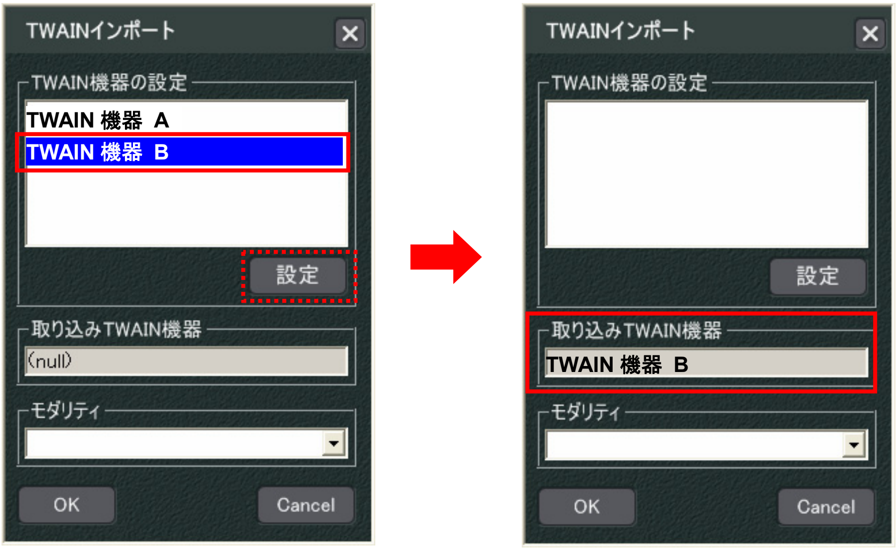


3. インポートされると、2D ビューワが表示され、画面中央にインポートされた画像が表示されます。 その際、バスケットに同じ画像のサムネールが表示されます。



TWAIN インポート

1. TWAIN インポートを選択すると、[TWAIN インポート]のダイアログが表示されます。 TWAIN 機器の設定に表示されている TWAIN 機器を選択し、設定ボタンをクリックすると、画像の取り込み元となる TWAIN 機器が指定されます。



2. インポート先のモダリティをプルダウンメニューから選択します。

3. OK ボタンがクリックされると、TWAIN 機器から画像を読み込むことができます。 読み込まれた画像は、2.で指定したモダリティにインポートされます。

⚠ 注意

- **TWAIN 機器よりあらかじめ、TWAIN 対応機器を接続し、ドライバソフトをインストールする必要があります。詳しくは、TWAIN 機器の取扱説明書をお読みください。**

[エクスポート]

選択中の 2D 画像をエクスポートします。

※DICOM3.0 形式による 2D 画像のエクスポートが可能です（オプション）。

※エクスポートが可能な 2D 画像のファイル形式は、BMP、JPEG、PNG、TIFF です。エクスポートされる 2D 画像のファイル形式の色深度は、エクスポート元の 2D 画像の色深度に依存します。JPEG 形式で 2D 画像がエクスポートされる場合は、エクスポート元の 2D 画像の色深度に関係なく、常に JPEG-24bit 形式でエクスポートされます

⚠ 注意

- 選択されたファイル形式によっては、エクスポートされた画像と画面上に表示されている画像とでは画質が劣って見える可能性があります。エクスポートを実行後は、エクスポートされた画像で画質に問題がないか確認してください。画質の劣化を防ぐには、BMP 形式でエクスポートしてください。
- MO などのリムーバブルメディアやネットワーク上のフォルダにデータをエクスポートする場合は、操作前に必ず移動先のメディア、もしくは、フォルダを準備して読取れることを確認してください。特に USB 接続の外部記憶装置などは注意が必要です。

エクスポートする 2D 画像の枚数によって、手順が異なります。

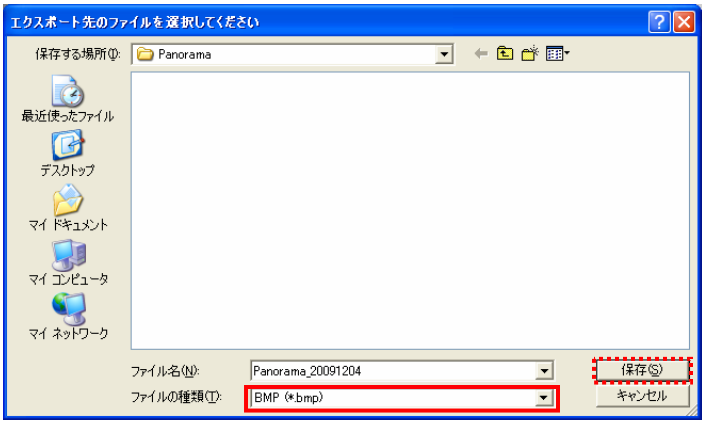
≪画像が 1 枚の場合≫

1. エクスポートする 2D 画像を選択し、バスケットに、サムネールが表示されていることを確認します。

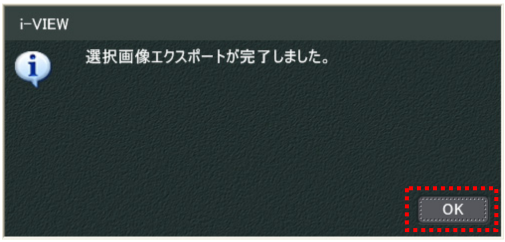
※ バスケットのサムネールをクリックすると選択画像を切替えることができます。

2. エクスポートボタンをクリックし、[ファイル保存]を選択します。

3. [エクスポート先のファイルを設定してください]ダイアログが表示されます。
保存先、ファイル名、ファイルの種類(ファイル形式)を設定し、保存をクリックします。

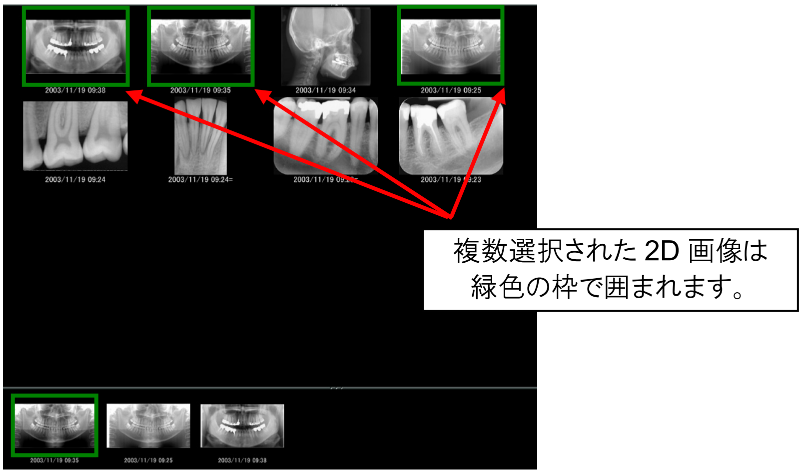


4. エクスポート完了のメッセージダイアログが表示されますので OK ボタンをクリックします。



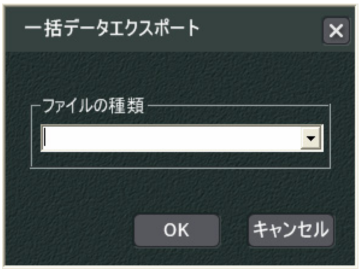
≪2D 画像が複数の場合≫

1. エクスポートする 2D 画像を複数選択し、バスケットに、サムネールが表示されていることを確認します。
複数選択するには、Ctrl ボタンを押しながら、サムネールをクリックします。

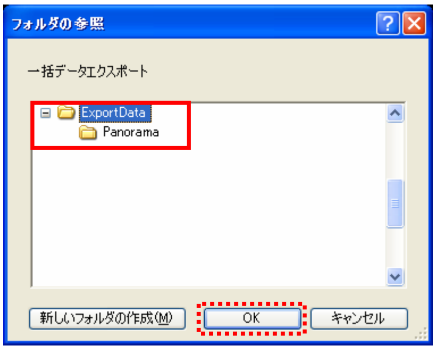


2. エクスポートボタンをクリックし、ファイル保存を選択します。

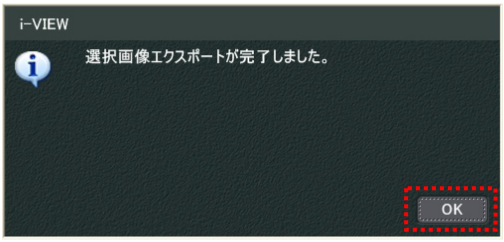
3. [一括データエクスポート]ダイアログが表示されますので、ファイルの種類(ファイル形式)を設定し、OK をクリックします。



4. [フォルダの参照]ダイアログが表示されますので、保存先を設定し、OK をクリックします。



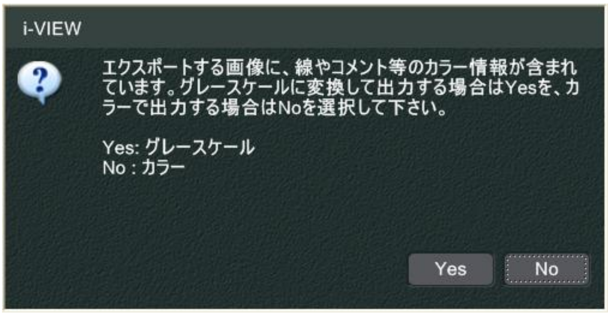
5. エクスポート完了のメッセージダイアログが表示されますので OK ボタンをクリックします。



<u>オブジェクトを含む 2D 画像のエクスポート</u>

オブジェクト (距離・角度測定結果、図形、文字、シンボルデータ)をオーバーレイ(描画)した 2D 画像をエクスポートすると、エクスポートした 2D 画像に、オーバーレイしたオブジェクトが上書きされます。

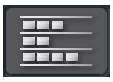
尚、カラーのオブジェクトを含む 2D 画像をエクスポートすると、以下のダイアログが表示され、エクスポートした 2D 画像に上書きされるオブジェクトの色階調が選択できます。



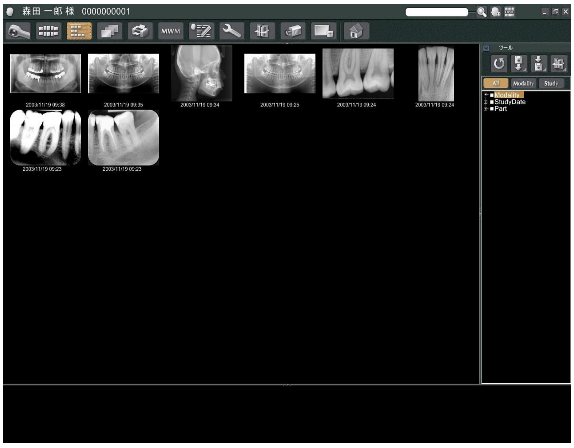
2.3. ナビゲーションバーから機能画面を表示させる

患者を指定した後、機能画面のナビゲーションバーのボタンをクリックすると、機能画面が表示されます。

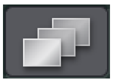
［画像一覧画面］



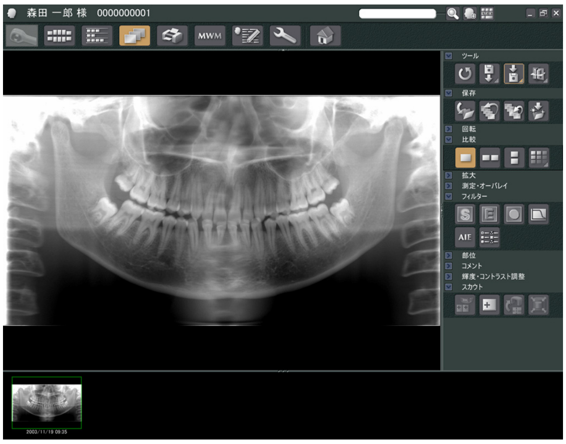
画像一覧ボタンをクリックすると表示されます。
指定された患者の保存画像の一覧を参照することができます。
詳細は、p 44【 4. 画像一覧画面 】を参照してください。



［2D ビューワ画面］



バスケットの 2D 画像を選択中に、2D ビューワボタンをクリックすると表示されます。
画像一覧画面に表示されている 2D 画像のサムネール、または、バスケットに表示されている 2D 画像のサムネールをダブルクリックしても、表示されます。
この画面で、画像処理を行うことができます。
詳細は、 p 67【 6. 2Dビューワ機能 】を参照してください。

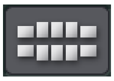


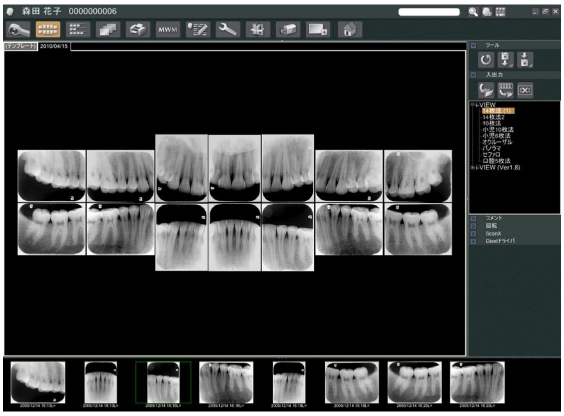
［患者情報の編集画面］

患者情報編集ボタンをクリックすると表示されます。
登録されている患者情報を編集できます。
詳細は、p 34【 3.2. 患者情報を編集する 】を参照してください。

* この画面で、患者IDは変更できません。 ホーム画面に表示される患者一覧から変更できます。詳細は、 p 33【 患者IDの登録形式 】を参照してください。

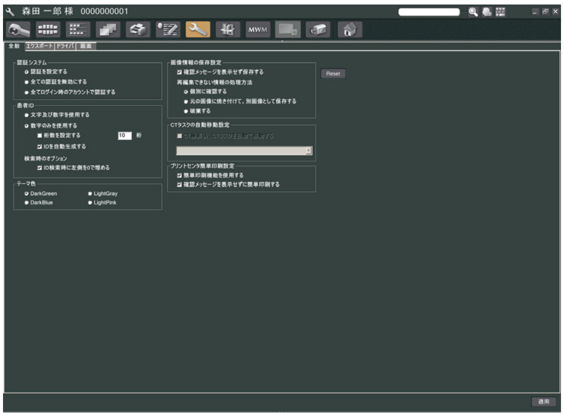
［画像配置画面］





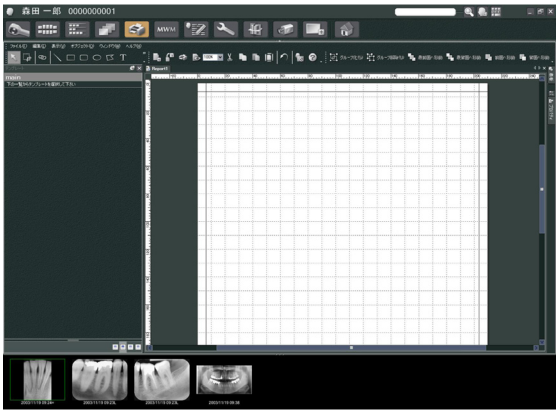
バスケットの 2D 画像を選択中に画像配置ボタンをクリックすると表示されます。
画像配置レイアウトに画像を配置できます。
詳細は、 p 126【 7. 画像配置 】を参照してください。

［設定及びメンテナンス画面］



設定・メンテボタンをクリックすると表示されます。
機能のカスタマイズなどを行うことができます。
ホーム画面の設定メンテナンス呼び出しボタンをクリックしても、画面が表示できます。 その場合、より多くの設定、メンテナンスを行うことができます。
詳細は、p 209【 12. 設定・メンテナンス 】を参照してください。

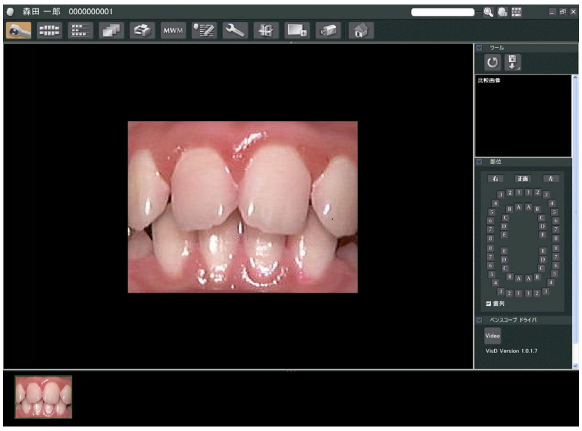
［Print Center 画面］



Print Center ボタンをクリックすると表示されます。
2D 画像をテンプレートに挿入し、印刷します。
詳細は、 p 151【 10. Print Center 】を参照してください。

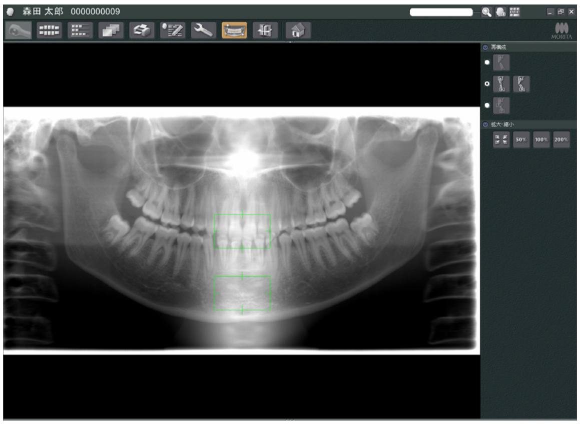
［ペンスコープ画面］

ペンスコープボタンをクリックすると表示され、ペンスコープで撮影できます。また、ペンスコープでの撮影画像が表示されます。
詳細は、 p 142【 8. 口腔内カメラ 】を参照してください。



［パノラマ断層位置調整画面］

パノラマ断層位置調整のボタンをクリックすると表示されます。 断層位置を調整したパノラマ画像が再構成できます。
パノラマ画像が再構成できるデータが撮影できる撮影装置は、Veraviewepocs 3Df のみです。
Veraviewepocs 3Df 40e では、パノラマ画像が再構成できるデータが撮影できません。
詳細は、p 197【 11. パノラマ断層位置調整】を参照してください。



3. 患者情報

患者 ID、氏名、生年月日等を、患者情報として登録し、管理することができます。

3.1 患者情報を新規登録する

1. ホーム画面の患者登録呼び出しボタン をクリックします。

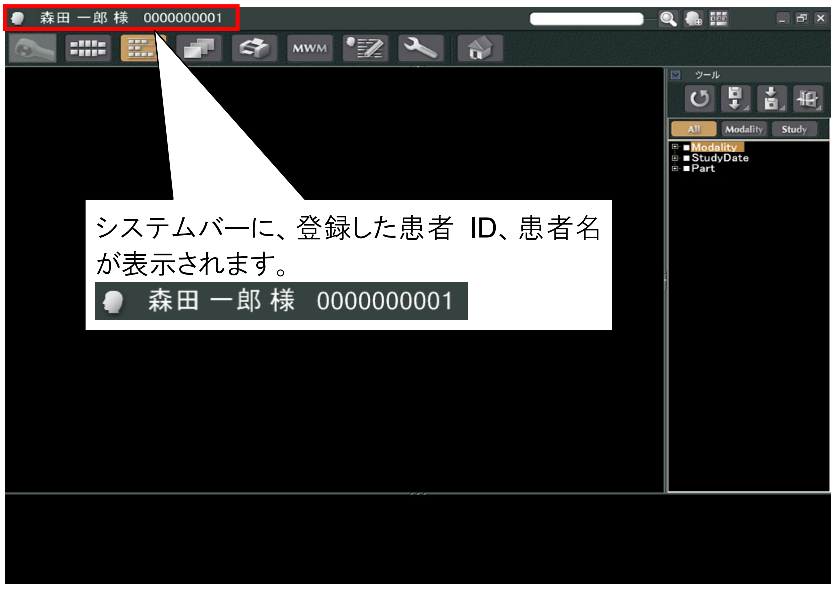
   * 機能画面のタイトルバーの患者登録呼び出しボタン をクリックしても、患者登録画面が表示され、患者情報が新規登録できます。

タイトルバーの詳細は、p 17【 2.2. 機能画面に表示される項目 】を参照してください。

2. 患者登録画面が表示されます。
   患者登録画面に必要事項を入力し、登録ボタンをクリックします。
   患者 ID、かな氏名、漢字氏名、性別は必須項目です。

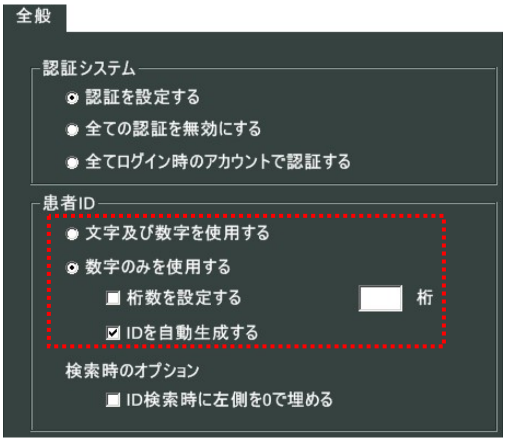
   * 生年月日について：西暦 1850 年以前、又は、現在日付より未来の日付を登録することはできません。

3. 患者情報が登録されると、登録された患者の画像一覧画面が表示されます。



患者IDの登録形式

登録できる患者 ID の形式は、設定･メンテナンス画面の全般タブの患者 ID で設定されている内容に従います。



全般タブの患者IDの詳細は、p 210【 12.1 全般タブ 】を参照してください。

「数字のみを使用する」が選択されており、「ID を自動生成する」にチェックが入っている場合、自動生成された患者 ID が、患者登録画面に自動入力されます。

3.2　患者情報を編集する

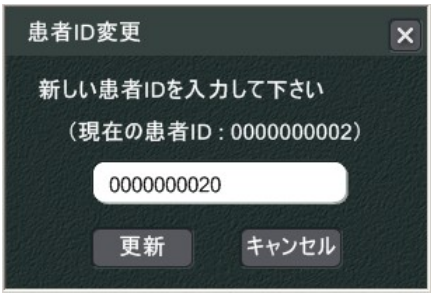
患者が指定された状態で、ナビゲーションバーの患者情報編集ボタン をクリックすると、患者情報の編集画面が表示されます。 追記したい患者情報を各項目に入力し、登録ボタンをクリックすると、患者情報が変更されます。
患者情報が変更されると画像一覧画面が表示されます。

*　患者情報の編集画面では、患者IDが編集できません。　ホーム画面上に表示される患者一覧で編集できます。 詳細は、 p 35【　患者IDの変更　】を参照してください。

患者IDの変更

患者 ID を変更する場合は、患者情報の編集画面でなく、ホーム画面上に表示される患者一覧で行います。
患者 ID を変更する患者を右クリックし、ID 変更を選択します。

患者 ID 変更のダイアログが表示されます。 変更する患者 ID を入力し、更新ボタンをクリックします。



患者 ID が変更され、患者一覧に反映されます。

※　変更する患者IDの形式は、p 33 患者IDの登録形式 】で説明されている内容に従います。

⚠ 注意

- **i-VIEW が DOC-5J / DOC-5PROCYON、TrinityCore、他社製の電子カルテ / レセプトシステムと、連携している場合は、患者 ID が変更できません。**

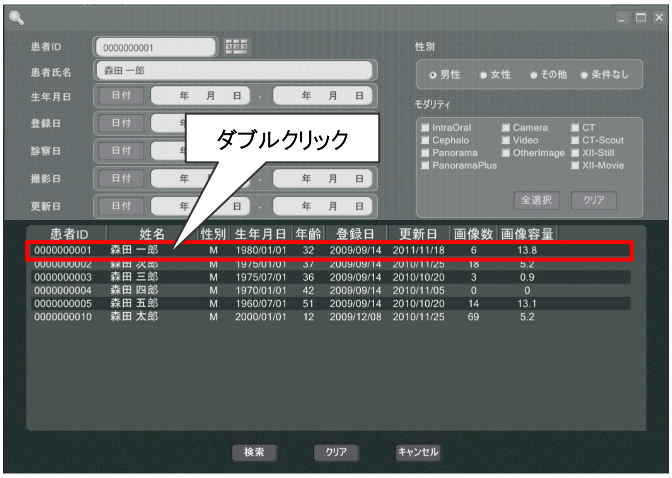
3.3　患者情報の詳細検索を行う

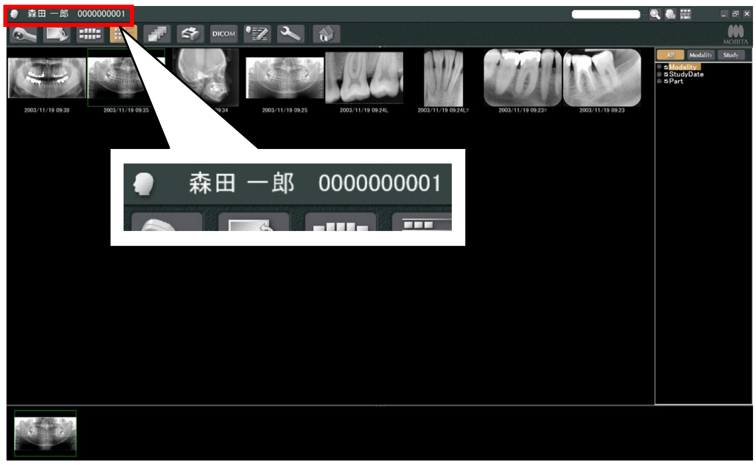
ホーム画面の患者詳細検索呼び出しボタン をクリックすると、患者詳細検索画面が表示されます。

≪例：森田　一郎を、患者氏名、性別で検索する≫

患者氏名に”森田”を入力し、性別で”男性”を選択し、検索ボタンをクリックします。

検索結果一覧から患者を選択しダブルクリックすると、画像一覧画面が表示されます。
患者姓名と患者 ID を確認してください。

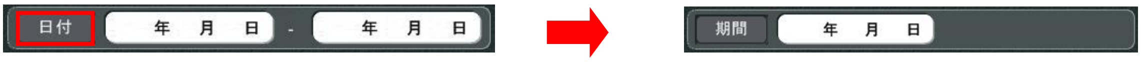




[検索キー]
患者情報の詳細検索を行う検索キーとして、患者 ID、患者氏名、生年月日(患者の生年月日)、登録日(患者を初回登録した日付)、診察日(画像を保存するために指定した日付)、撮影日(画像を撮影した日付)、更新日(画像を更新した日付)、性別(患者の性別)、モダリティ(画像を保存するための分類属性)があります。

生年月日、登録日、診察日、撮影日、更新日は、日付、期間の何れでも検索できます。
期間ボタンをクリックすると、検索する期間が入力できます。

日付ボタンをクリックすると、検索する日付が入力できます。



モダリティでの検索は、特定のモダリティ、全てのモダリティの何れでも検索できます。
特定のモダリティを選択すると、チェックが入り、検索キーとして選択されます。

全選択ボタンをクリックすると、全てのモダリティが検索キーとして選択されます。

クリアボタンをクリックすると、検索キーとして選択したモダリティがクリアできます。

<u>検索キー　画面コピーについて</u>

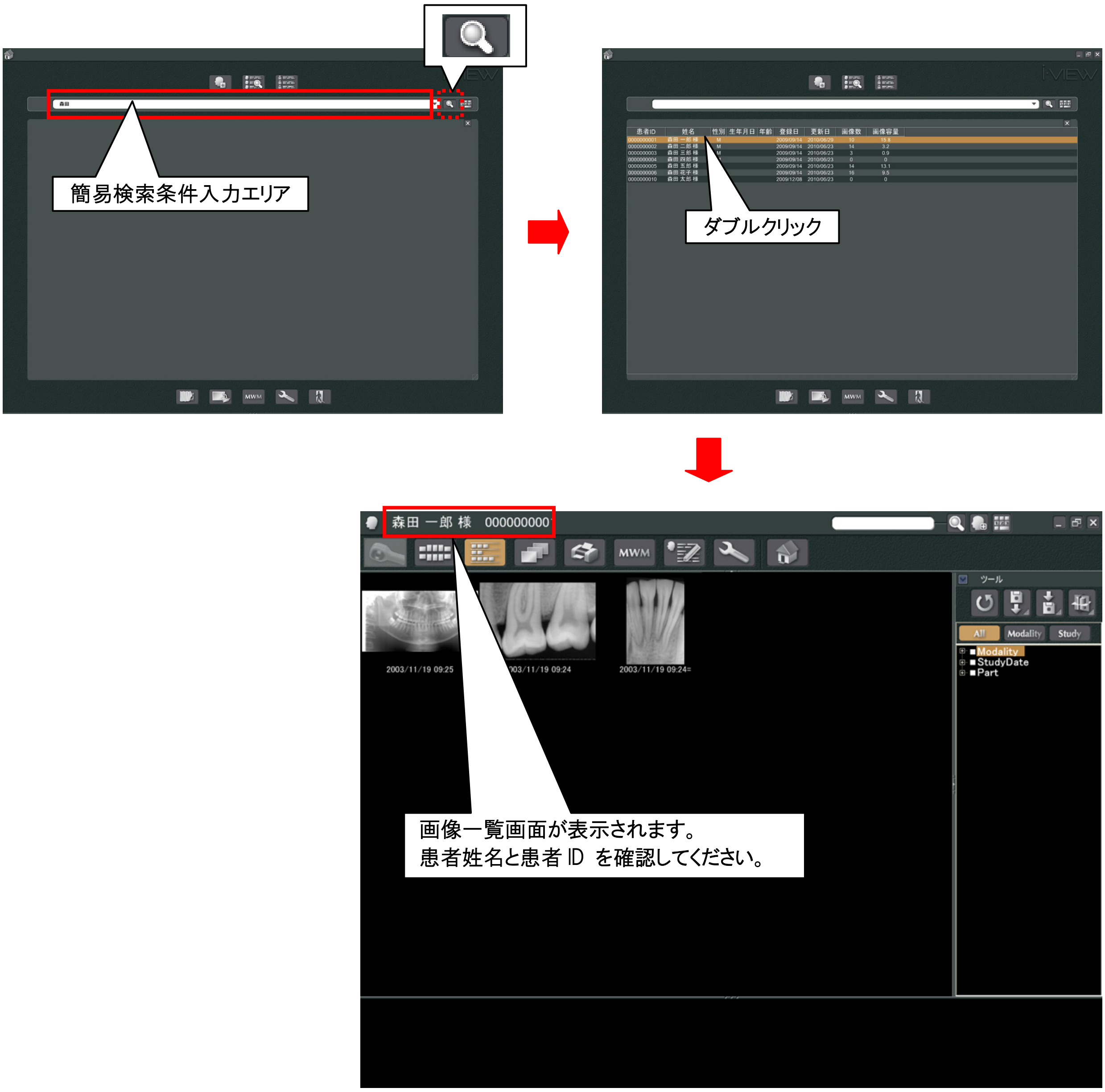
Trinity Core の画像配置が参照できる i-VIEW コンピュータに限り、モダリティで検索を行う場合の検索キーとして、画面コピーのモダリティが選択できます。

[検索のクリア]
クリアボタンをクリックすると、検索キー、検索結果の内容がクリアできます。

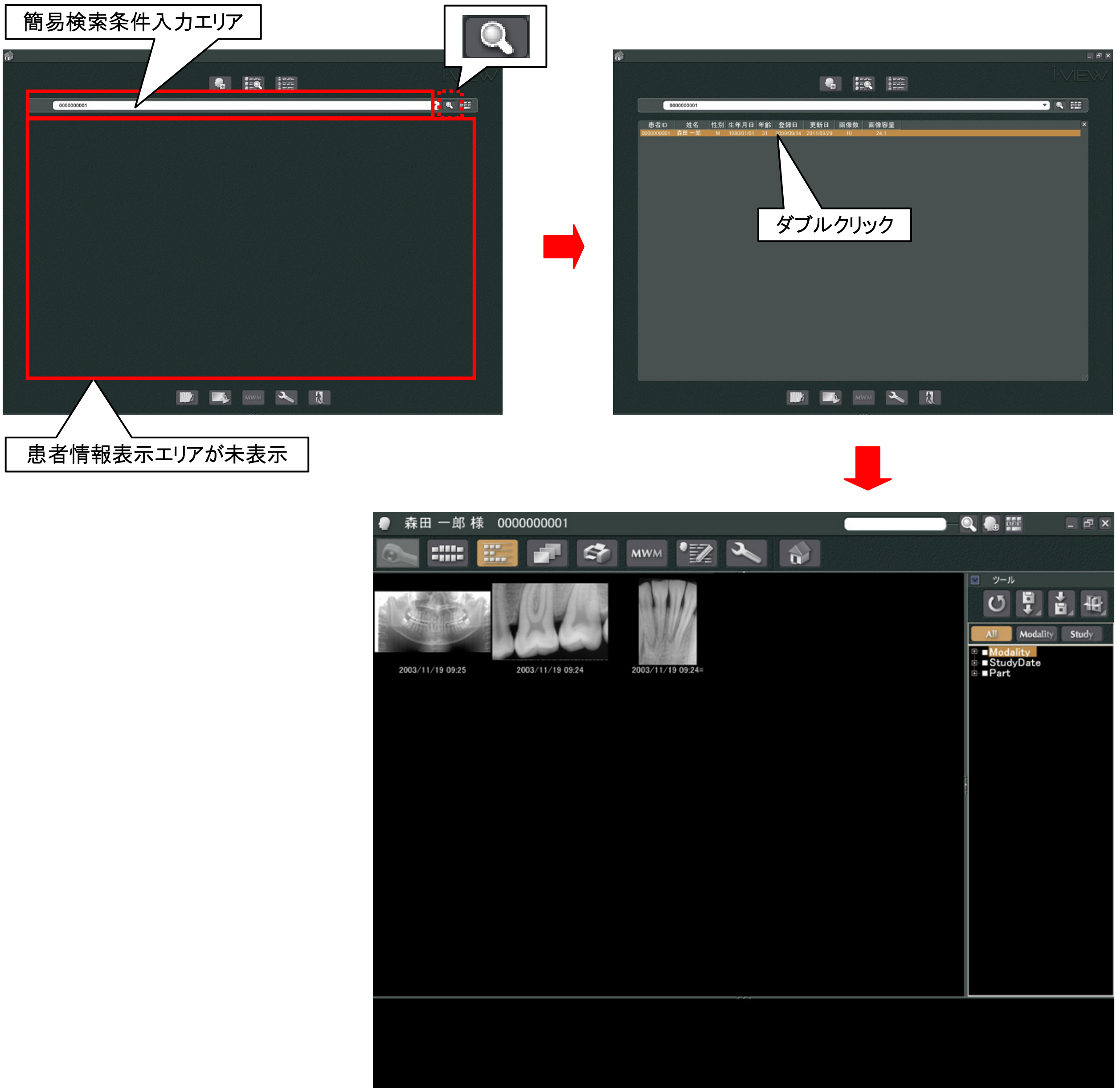
3.4　患者情報の簡易検索を行う

ホーム画面の簡易検索条件入力エリアに、患者氏名、又は、患者 ID などの検索キーを入力し、簡易検索ボタン をクリックすると、患者情報の簡易検索を行います。　検索結果一覧から患者を選択してダブルクリックすると、画像一覧画面が表示されます。　検索の結果、該当する患者が 1 名の場合は、検索結果一覧は表示されず、その患者の画像一覧画面が表示されます。

*　簡易検索条件入力エリアに、検索キーを入力せず、簡易検索ボタン をクリックすると、現在登録されている全患者の情報リストが表示されます。　ダブルクリックして患者を選択してください。



* 患者検索時に、ホーム画面の中央に患者情報表示エリアが表示されていない場合、検索条件に該当する患者が 1 名でも、患者リストが表示されます。患者リストからダブルクリックして患者を選択すると、画像一覧画面が表示されます。



* 機能画面のタイトルバーの簡易検索条件入力エリアに検索キーを入力し、簡易検索ボタン をクリックしても、患者情報の簡易検索ができます。
また、検索キーを入力せずに、簡易検索ボタン をクリックし、全患者の情報リストを、ホーム画面に表示することもできます。

タイトルバーの詳細は、p 17【 2.2. 機能画面に表示される項目 】を参照してください。

3.5　患者情報を一覧表示する

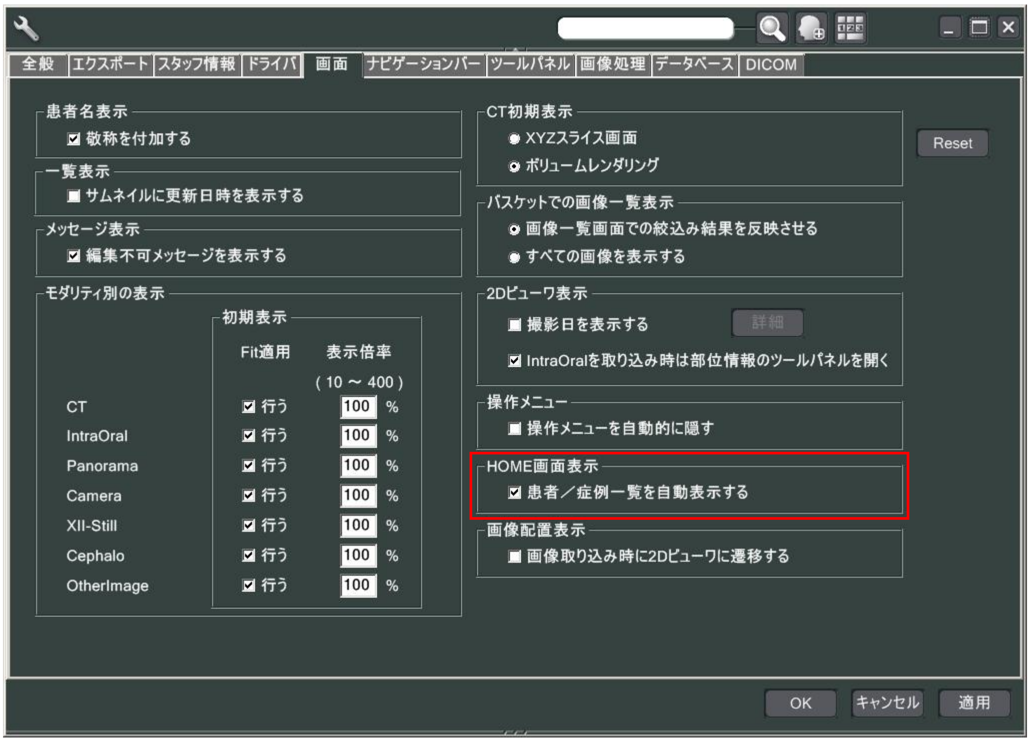
i-VIEW ソフトウェアを起動し、ホーム画面が表示された場合、患者情報の簡易検索を行った場合、または、機能画面からホーム画面に表示を切り替えた場合、患者情報の一覧が表示されます。

患者情報項目

患者ID	姓名	性別	生年月日	年齢	登録日	更新日	画像数	画像容量
0000000001	森田 一郎 様	M	1980/01/01	30	2009/09/14	2010/10/21	8	19.2
0000000002	森田 次郎 様	M	1975/01/01	35	2009/09/14	2010/10/20	18	5.2
0000000003	森田 三郎 様	M	1975/07/01	35	2009/09/14	2010/10/20	3	0.9
0000000004	森田 四郎 様	M	1970/01/01	40	2009/09/14	2010/10/20	0	0
0000000005	森田 五郎 様	M	1960/07/01	50	2009/09/14	2010/10/20	14	13.1
0000000006	森田 花子 様	F	1990/01/01	20	2009/09/14	2010/10/21	16	9.5
0000000010	森田 太郎 様	M	2000/01/01	10	2009/12/08	2010/10/20	0	0

患者情報の一覧

*　設定･メンテナンス画面の画面タブで、HOME 画面表示の設定が無効であった場合、ホーム画面が表示されても、患者情報の一覧が表示されません。　HOME 画面表示の設定を有効にすると、患者情報の一覧が表示されるようになります。



*　ホーム画面の簡易検索条件入力エリアに検索キーを何も入力せずに、簡易検索ボタン　をクリックし、患者情報の簡易検索を行うと、患者情報の一覧が表示できます。
簡易検索の詳細は、p 39【　3.4. 患者情報の簡易検索を行う　】を参照してください。

[患者情報項目の表示･非表示]
患者情報の一覧に表示される患者 ID、患者姓名など患者情報項目を、項目別に表示･非表示が切り替えられます。

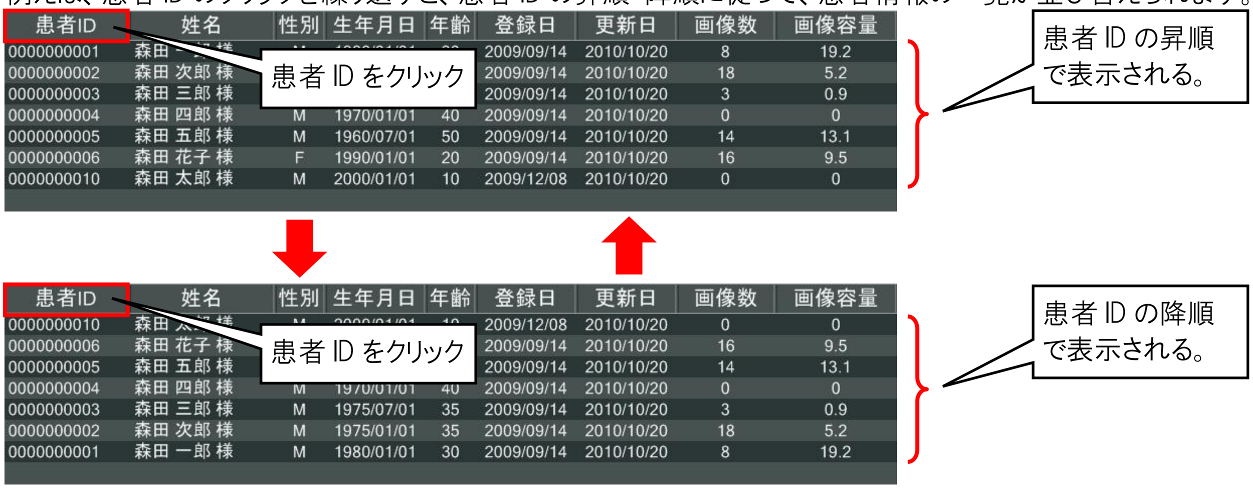
1. 現在表示されている何れかの患者情報項目を右クリックします。
2. 表示･非表示させたい患者情報項目をホップアップメニューから選択します。チェックが入っている項目は、現在、患者情報の一覧に表示されている項目です。チェックが入っていない項目は、現在、患者情報の一覧に表示されていない項目です。

≪例：術者の項目を表示する。≫
「術者」を選択し、ポップアップメニューの「術者」にチェックが入ると、術者の項目が表示されます。

≪例：術者の項目を非表示にする。≫
「術者」を選択し、ポップアップメニューの「術者」からチェックが外れると、術者の項目が表示されなくなります。

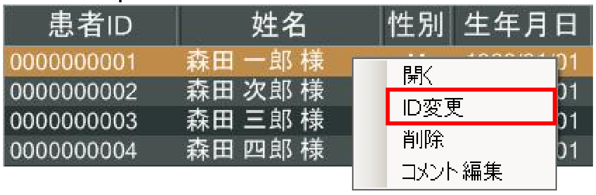
* 患者 ID は常に表示されます。非表示にすることはできません。

[患者情報の並び替え]
患者情報の一覧を、患者情報項目別に、昇順･降順で並び替えることができます。
例えば、患者 ID のクリックを繰り返すと、患者 ID の昇順･降順に従って、患者情報の一覧が並び替えられます。



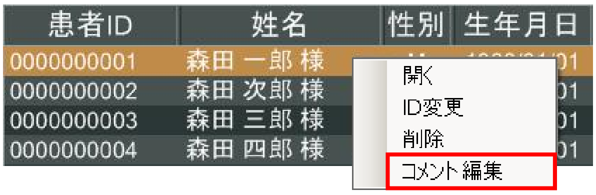
[患者の選択・削除]
患者情報の一覧から、患者の選択・削除ができます。
選択したい患者を右クリックし、[開く]を選択すると、画像一覧画面が表示されます。
削除したい患者を右クリックし、[削除]を選択すると、患者情報が削除されます。

[患者 ID の変更]
患者情報の一覧に表示されている患者の患者 ID が、変更できます。
詳細は、 p 35【 患者IDの変更 】を参照してください。



[コメント記入]
患者情報の一覧に表示されている患者に、コメントが記入できます。記入したコメントは、患者情報の一覧に表示できます。

1. コメントを記入したい患者を右クリックし、[コメント編集]を選択します。



2. コメントの編集のダイアログが表示されますので、コメントを記入し、[OK]をクリックします。

3. 記入したコメントを患者情報の一覧に表示する場合は、上記の[患者情報項目の表示・非表示]で説明されている手順に従って表示します。

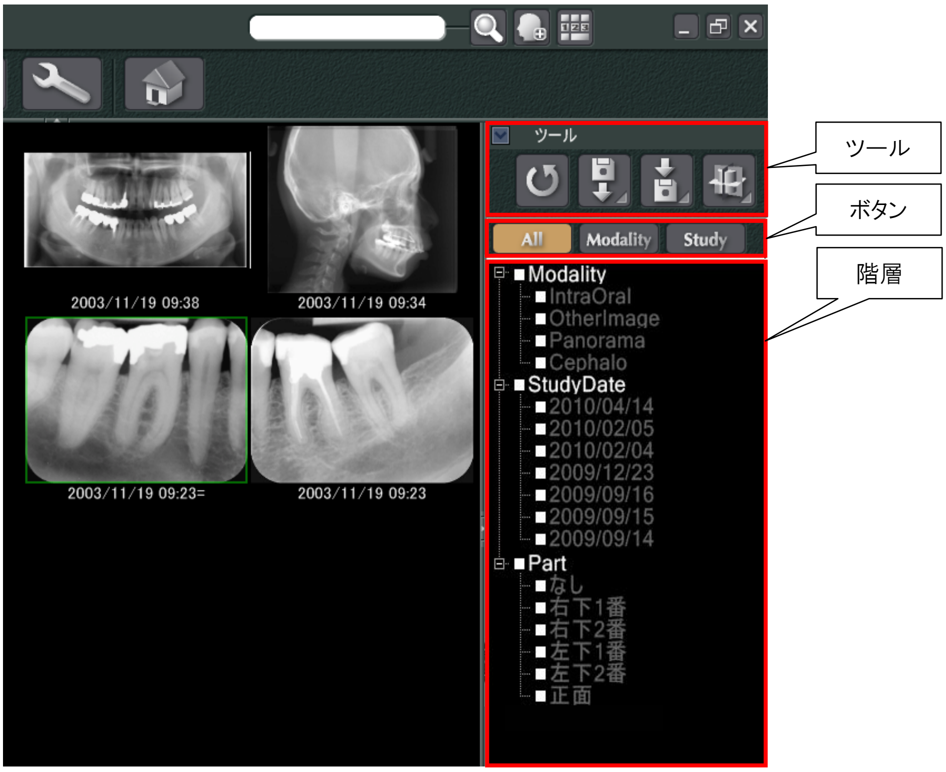
※ 上記の[患者情報項目の表示・非表示]で説明されている通り、患者情報の一覧に表示するコメントを非表示にすることができます。

4. 画像一覧画面

患者が指定されると、最初に画像一覧画面が表示されます。
一覧の表示形式の変更、一覧に表示させる画像の絞りこみが可能です。　また、画像一覧画面では、画像の選択、2D ビューワの表示が可能です。

4.1 画像一覧画面に表示される項目

患者を指定したとき、又は、機能画面のナビゲーションバーの画像一覧ボタン をクリックすると画像一覧画面が表示されます。



ツール
表示の更新・画像のインポート・画像のエクスポート・CTタスクの移動(オプション)・CT一括再構成(オプション)を行います。　詳細は、p 22【 ツール項目 】を参照してください。

ボタン
画像一覧画面に画像を表示する形式が変更できます。　詳細は、p 46【 4.2. 画像一覧画面の表示形式を変更する 】を参照してください。

ALL ボタン All :
撮影日時順で画像が分類され一覧表示されます。

Modality ボタン Modality :
画像のモダリティ単位で画像が分類され一覧表示されます。

Study ボタン Study :
診察日とモダリティ単位で画像が分類され一覧表示されます。

階層
保存されている画像が、どのように分類されているか、確認できます。
画像一覧画面に表示する画像を絞り込みます。　詳細は p 48【 4.3. 画像を分類して表示する 】を参照して
ください。

Modality(モダリティ)ツリー階層：
保存されている全画像のモダリティが表示されます。 「モダリティ名」にチェックを入れると、表示する画像をモダリティ単位で絞り込みます。

StudyDate(診察日)ツリー階層：
保存されている全画像の診察日が表示されます。 「診察日」にチェックを入れると、表示する画像を診察日単位で絞り込みます。

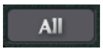
Part(部位)ツリー階層：
保存されている全画像に設定されている全部位が表示されます。
「部位」にチェックを入れると、表示する画像を部位単位で絞り込みます。
「なし」にチェックすると、部位設定していない画像が表示されます。

* 画像に部位を設定しないと、部位が、階層に表示されません。
部位設定の詳細は、p 122【 6.12. 部位：画像に部位と歯列番号を設定する 】、 p 131【 配置された画像の部位設定 】を参照してください。

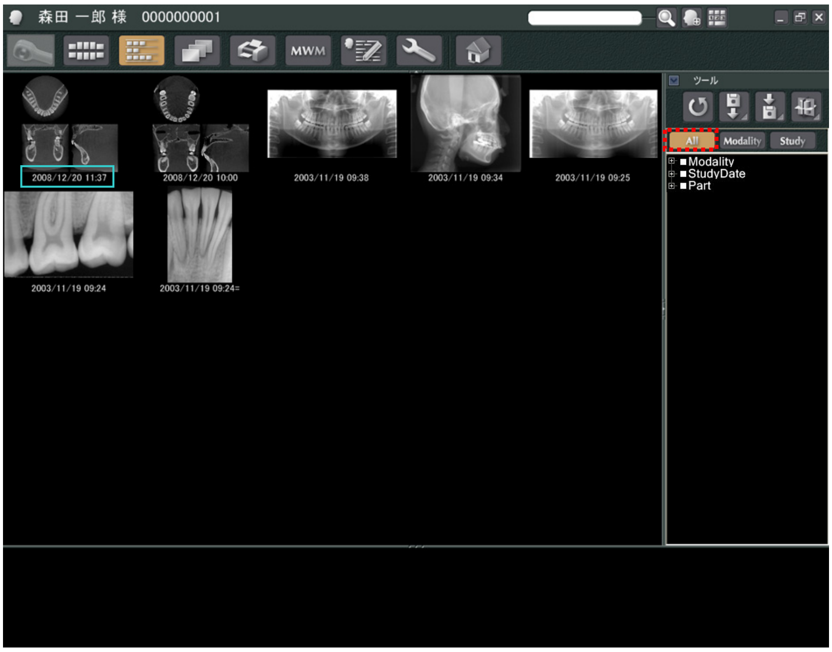
* i-VIEW における画像のモダリティの種類は、CT, Intraoral, Panorama, PanoramaPlus, Cephalo, Camera, Video, XII-Movie, XII-Still, Other Image です。 受信した画像は、画像の送信元のモダリティ機種・撮影内容に、また、インポートされた画像は、インポート時に設定されたモダリティに従います。

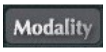
4.2 画像一覧画面の表示形式を変更する

画像一覧画面の表示形式は、ALL ボタン、Modality ボタン、Study ボタンをクリックすると変更されます。

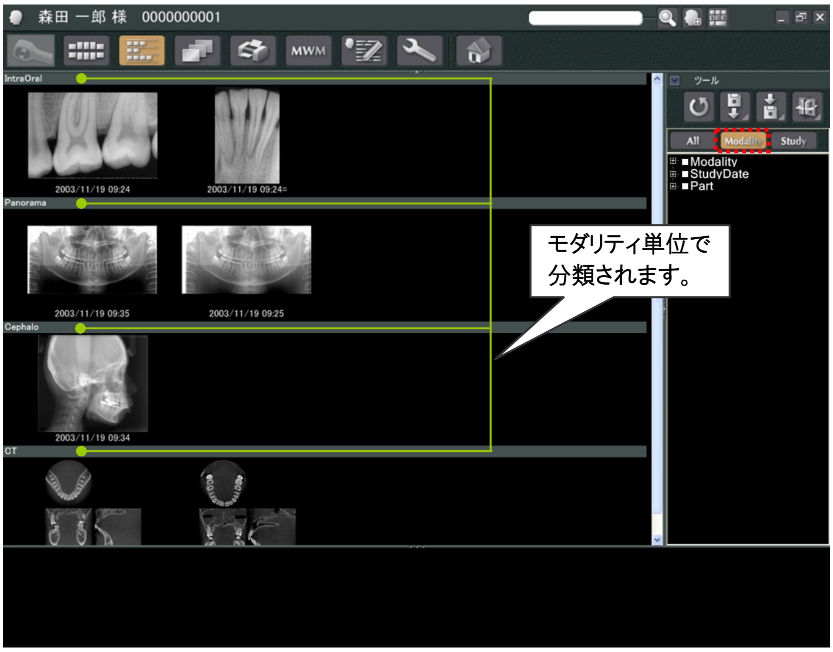
≪ALL ボタン 

をクリックした場合≫
撮影日時順で、画像が一覧表示されます。



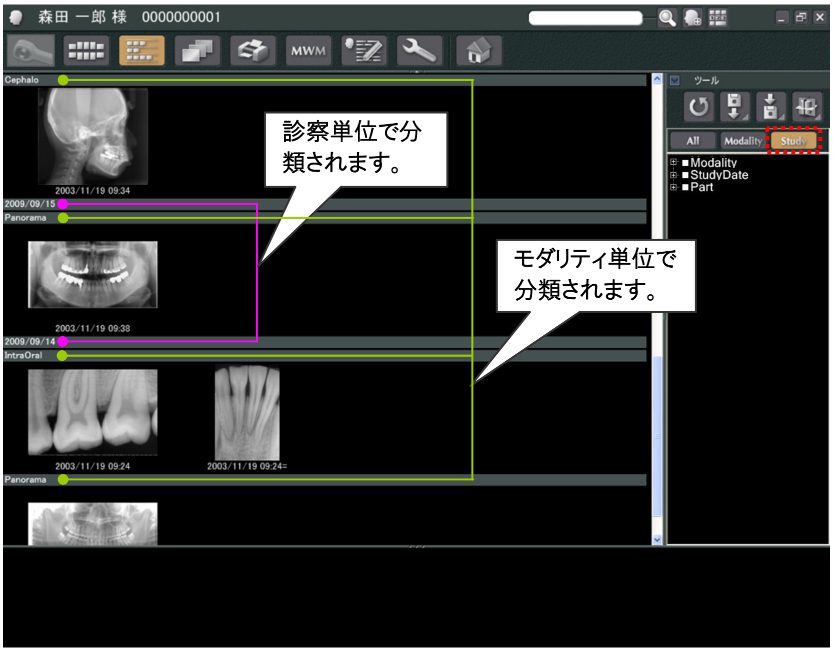
≪Modality ボタン 

をクリックした場合≫
モダリティで分類され、画像が一覧表示されます。



≪Study ボタン をクリックした場合≫

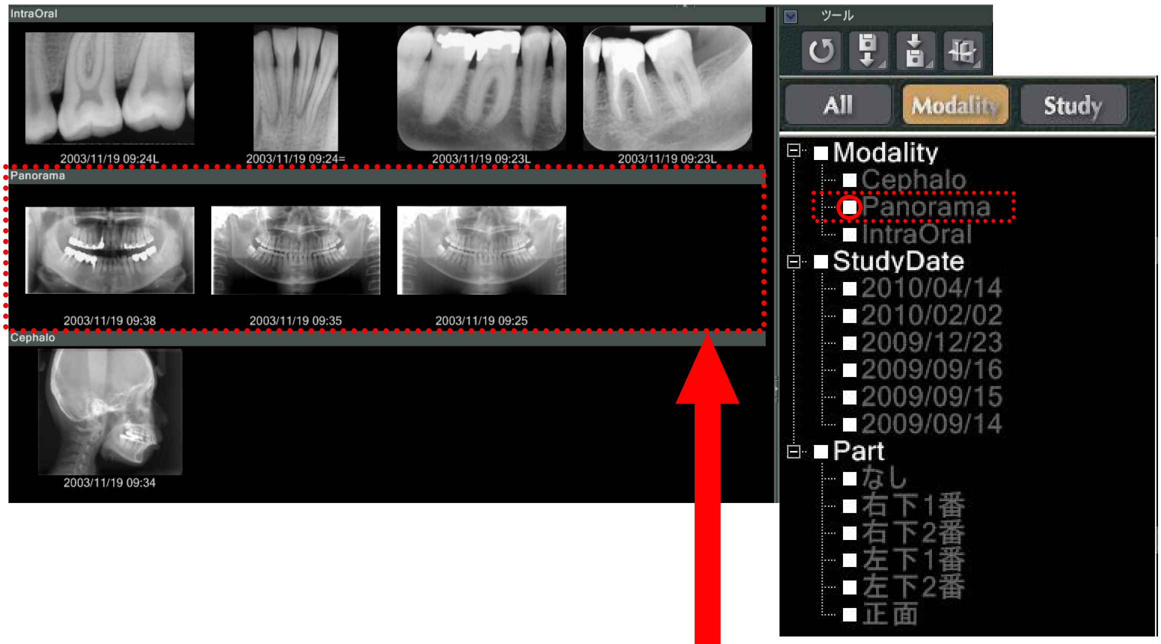
診察日及びモダリティで分類され、画像が一覧表示されます。



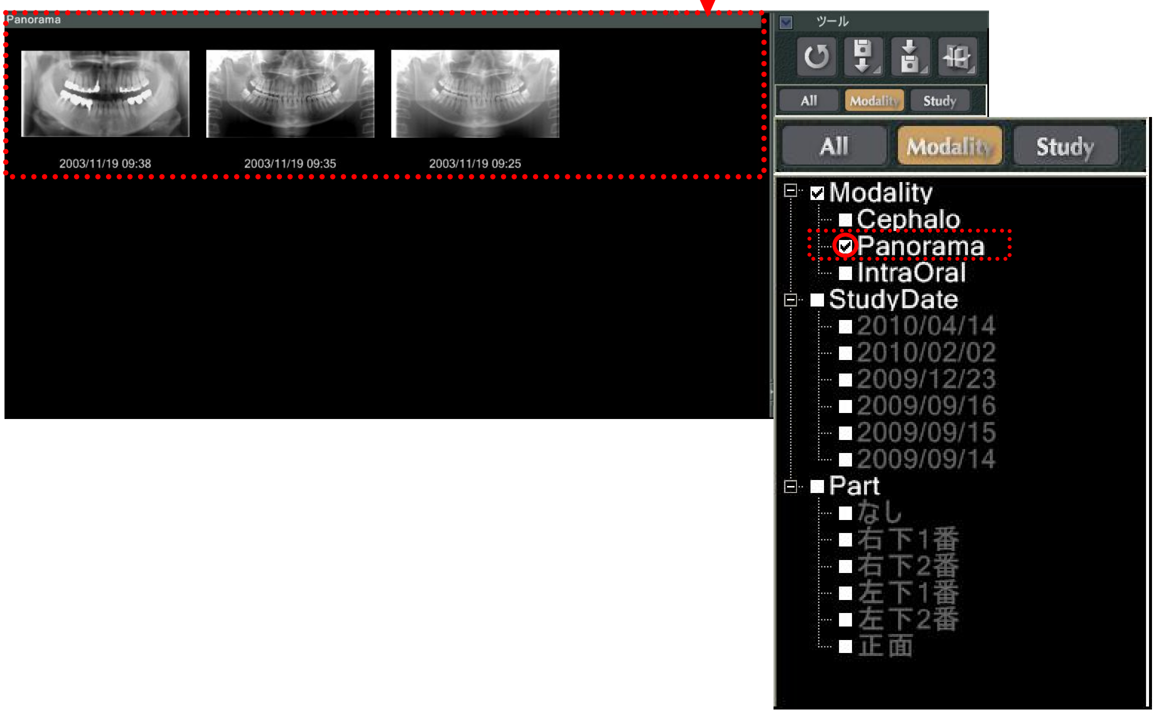
4.3 画像を分類して表示する

画像一覧画面に表示する画像を、Modality（モダリティ）ツリー、StudyDate（診察日）ツリー、Part（部位）ツリーの各々の階層の項目によって分類し、表示／非表示を切り替えることができます。　項目のチェックを入れると、該当する画像のみが表示されます。　また、チェックを外すと再表示されます。

≪例：モダリティで絞り込んだ場合≫



[Panorama]のチェックを入れると、[Panorama]で分類される画像のみが表示されます。
再度チェックを外すと再表示されます。



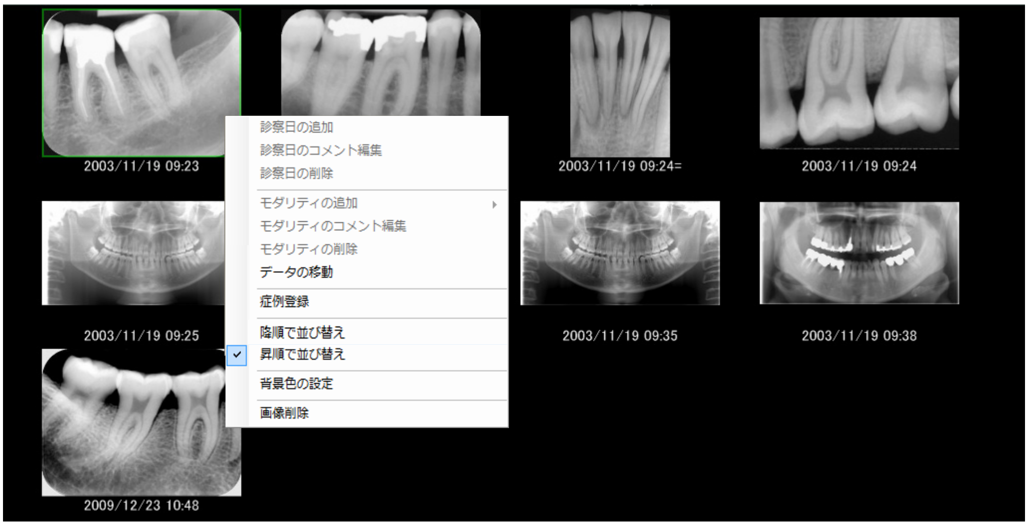
4.4 画像を昇順/降順に整列させて表示する

画像一覧画面に表示されている画像を、撮影日に従って昇順、降順に並び替えることができます。

* Study ボタンが選択されている状態では、診察日、及び、撮影日に従って昇順、降順に並び替えることができます。

≪例:[昇順で並び替え]を選択した場合≫

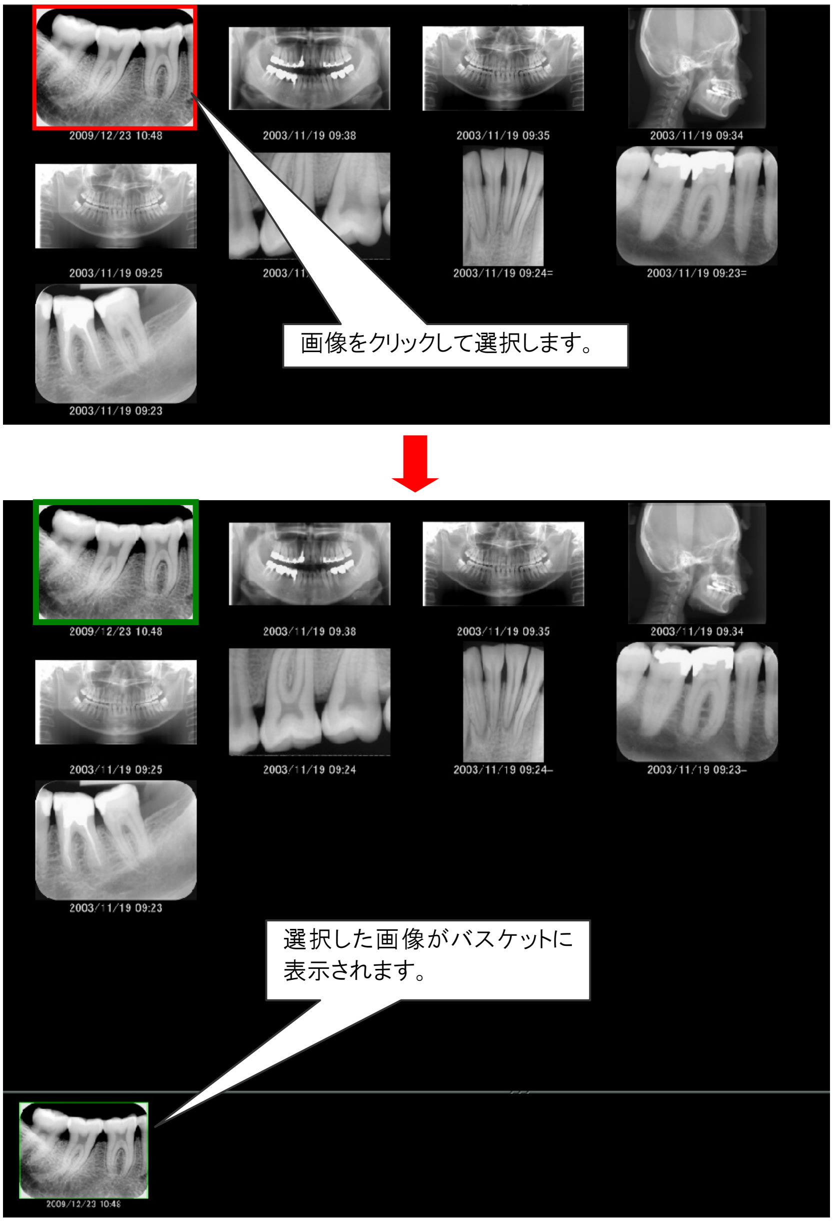
画像一覧画面上、または、画像のサムネールを右クリックします。 ポップアップメニューの「昇順で並び替え」を選択すると、画面左上から、撮影日時の古い順で、表示されます。



4.5 画像を選択/選択解除する

[画像の選択]
他の機能で使用したい画像を、画像一覧画面から選択し、クリックします。
選択した画像は緑色の枠で示され、バスケットに表示されます。

* 画像の選択を解除したい場合は、バスケットの該当の画像の上で右クリックして[バスケットから画像を取り除く]を選択します。



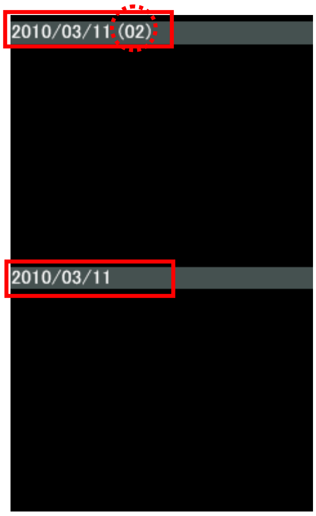
4.6 診察日の追加と削除を行う

Study ボタンが押され、診察日、及び、モダリティで分類された状態で画像が表示されている場合、診察日の追加と削除が可能です。

[診察日の追加]
画像一覧画面上で右クリックして、[診察日の追加]を選択します。

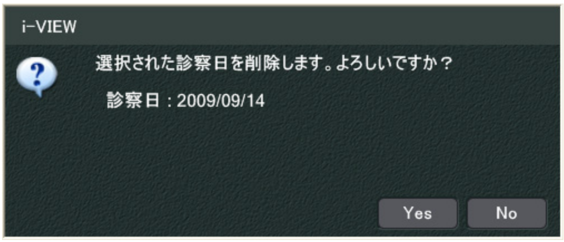
本日の日付で診察日が追加されます。

*　同じ診察日が追加できます。その場合、追加した診察日の後に、追加順が表示されます。

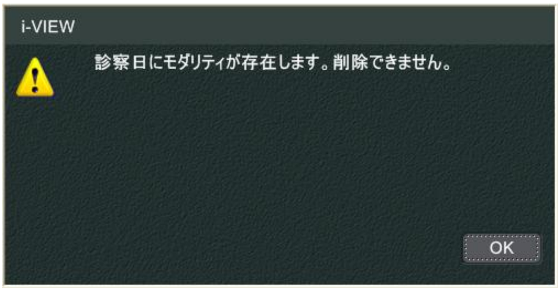


[診察日の削除]
削除したい診察日の上で右クリックして、[診察日の削除]を選択します。

確認ダイアログが表示されます。
Yes ボタン をクリックすると選択した診察日が削除されます。



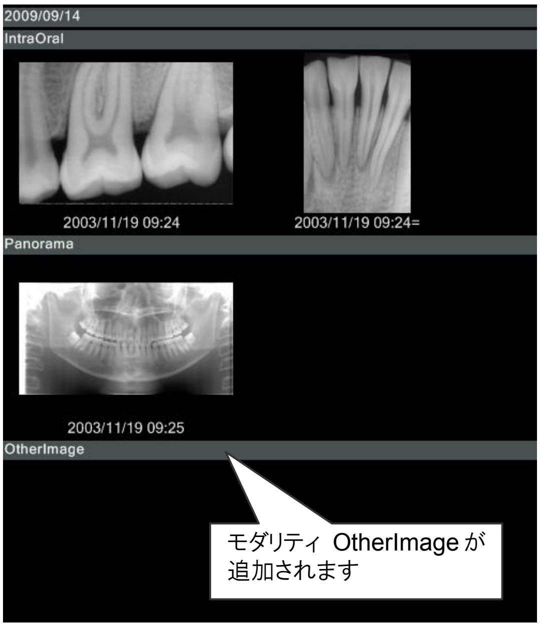
* 選択した診察日に、モダリティが存在している場合は、下記のダイアログが表示され、診察日の削除がキャンセルされます。 診察日内にある全てのモダリティを削除してからやりなおしてください。



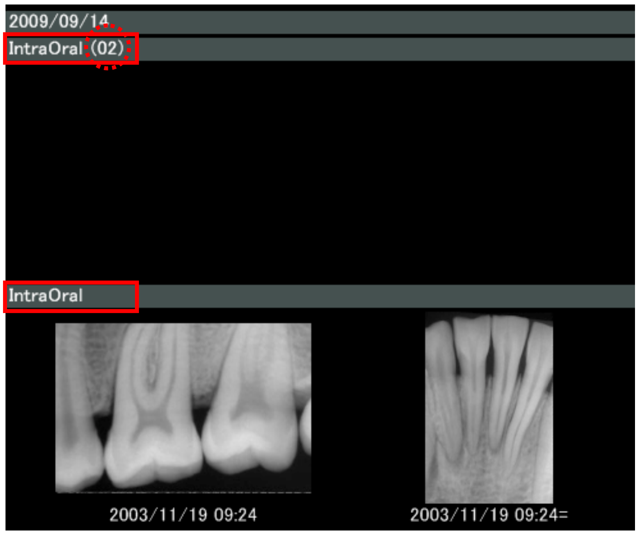
4.7 モダリティの追加と削除を行う

Study ボタンが押され、診察日、及び、モダリティで分類された状態で画像が表示されている場合、モダリティの追加と削除が可能です。

[モダリティの追加]
モダリティを追加したい診察日の上で右クリックして、[モダリティの追加]から任意のモダリティを選択します。

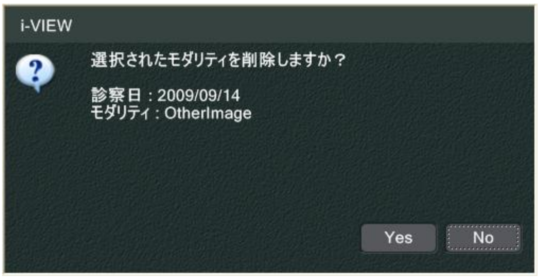


*　同じモダリティが追加できます。その場合、追加したモダリティの後に、追加順が表示されます。

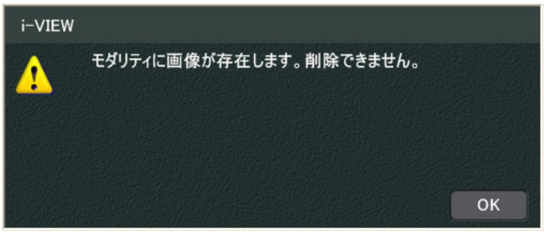


[モダリティの削除]
削除したいモダリティの上で右クリックして、[モダリティの削除]を選択します。

確認ダイアログが表示されます。
Yes ボタン をクリックすると選択したモダリティが削除されます。

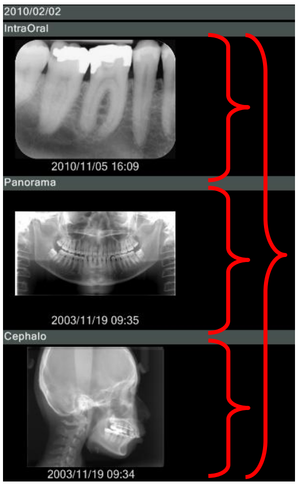


* 選択したモダリティに、画像が存在している場合は、下記のダイアログが表示され、モダリティの削除がキャンセルされます。 モダリティ内にある全ての画像を削除してからやりなおしてください。



4.8 分類項目にコメントを追加する

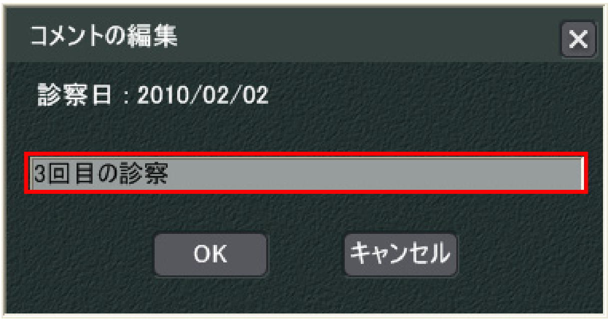
Study ボタンが押され、診察日、及び、モダリティで分類された状態で画像が表示されている場合、診察日単位、又は、モダリティ単位でコメントを追加することができます。



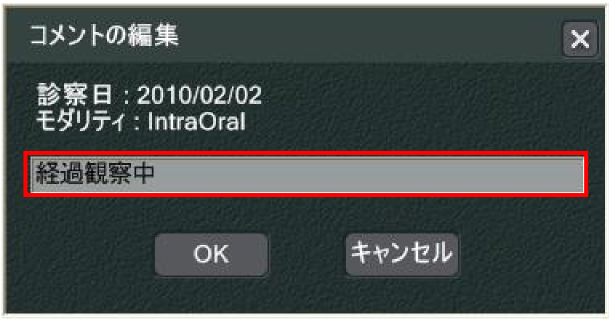
診察日にコメントを追加する場合は、コメントを追加したい診察日の上で右クリックして、[診察日のコメント編集]を選択、モダリティにコメントを追加する場合は、コメントを追加したいモダリティの上で右クリックして、[モダリティのコメント編集]を選択します。

[コメントの編集]ダイアログが表示されますので、コメントを入力し、OK ボタンをクリックします。

（診察日のコメント編集）



（モダリティのコメント編集）



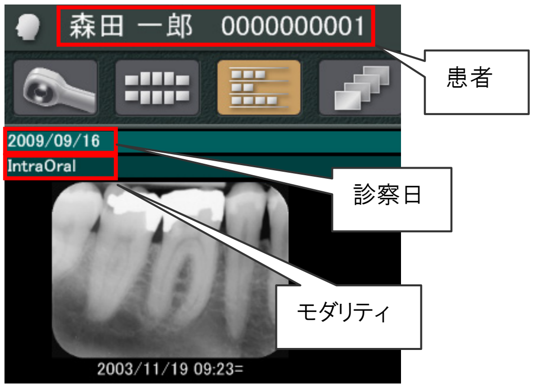
コメントが追加されます。

（診察日のコメント編集）

（モダリティのコメント編集）

4.9 データを移動させる

i-VIEW に保存されている画像は、患者、診察日、モダリティの階層順で管理されています。

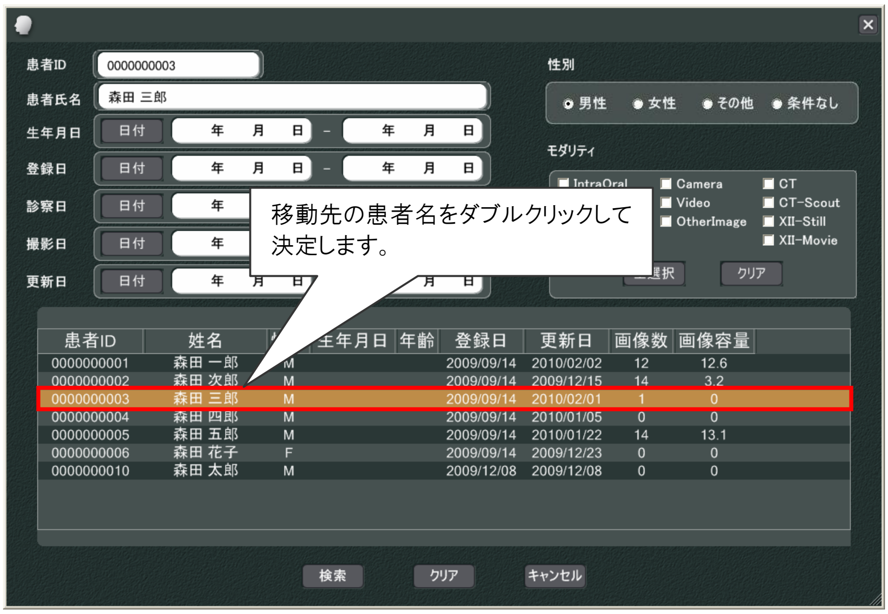


保存されている画像を、別の患者の診察日やモダリティに移動させることができます。
保存場所を誤って指定した場合などにこの機能を利用します。

1. 移動させたい画像の上、又は、移動させたいモダリティの上で右クリックして、[データの移動]を選択します。

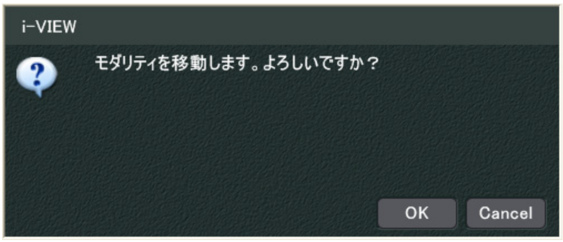
2. 画像の移動先を検索して決定します。

* 検索項目を入力せずに検索ボタンをクリックすると、保存されている全ての患者が表示されます。



3. 診察日とモダリティを決定し、移動開始ボタンをクリックします。

4. 確認ダイアログが表示されます。
OK ボタンをクリックすると画像の移動が実行されます。

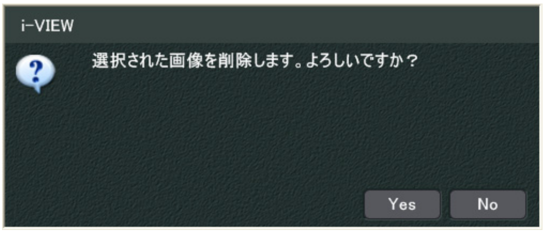


4.10 画像を削除する

i-VIEW で管理されている画像は削除することができます。

1. 削除したい画像のサムネールの上で右クリックして、[画像削除]を選択します。 （選択されている画像は、緑色の枠で示されます。）

2. 確認ダイアログが表示されます。
   Yes ボタンをクリックすると画像が削除されます。

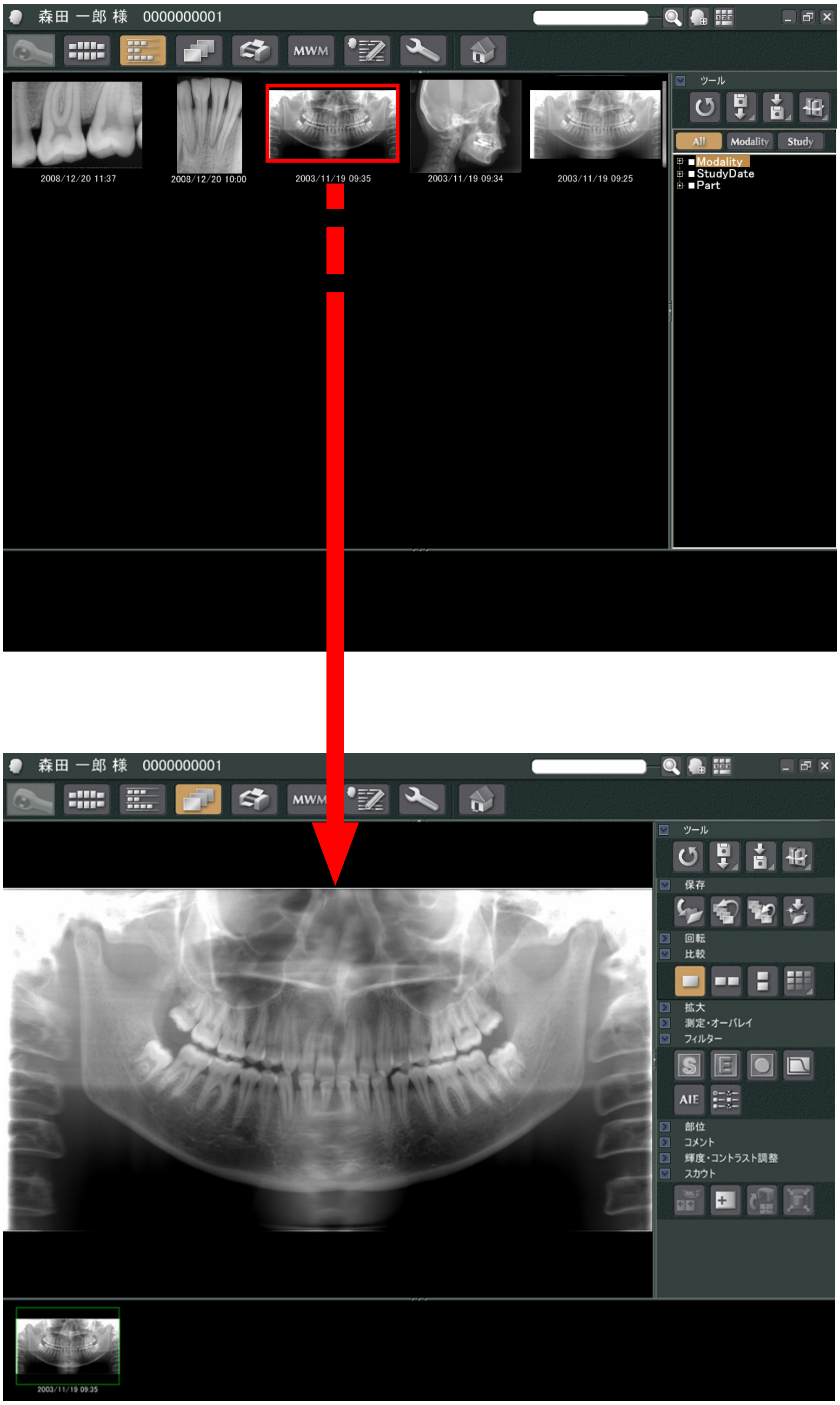


⚠ 注意

- 画像配置にサムネールを貼り付けている間は、元の画像を削除することができません。 元の画像を削除するときは、画像配置に貼り付けたサムネールを全て削除してください。
  画像配置の詳細は、 **p 126【 7. 画像配置 】**を参照してください。

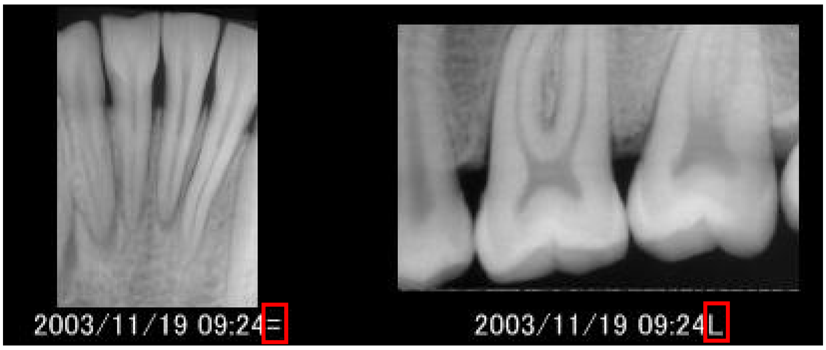
4.11 2Dビューワを起動する

2D 画像のサムネールをダブルクリックすると、2D ビューワが起動し、画像が表示されます。



4.12 日時(タイムスタンプ)に表示される記号

2D 画像のサムネールが表示されると、2D 画像が初回に保存された日時(タイムスタンプ)が表示されます。
部位設定などの特定の処理が行われた場合、日時(タイムスタンプ)の右側に、記号が表示されます。



記号の種類、内容は以下の通りです。

＊	i-VIEW Ver.1.8 以下の i-VIEW において診断画像として登録されている 2D 画像 DOC-5J / DOC-5PROCYON(カルテ/レセプトシステム)で関連付けされている 2D 画像 * DOC-5J / DOC-5PROCYON(カルテ/レセプトシステム)と i-VIEW の連携はオプションです。
=	部位設定されている 2D 画像
D	DICOM 形式によって DICOM 画像サーバーに転送されている 2D 画像 * 2D 画像の DICOM 画像サーバーの転送はオプションです。
L	画像配置されている 2D 画像

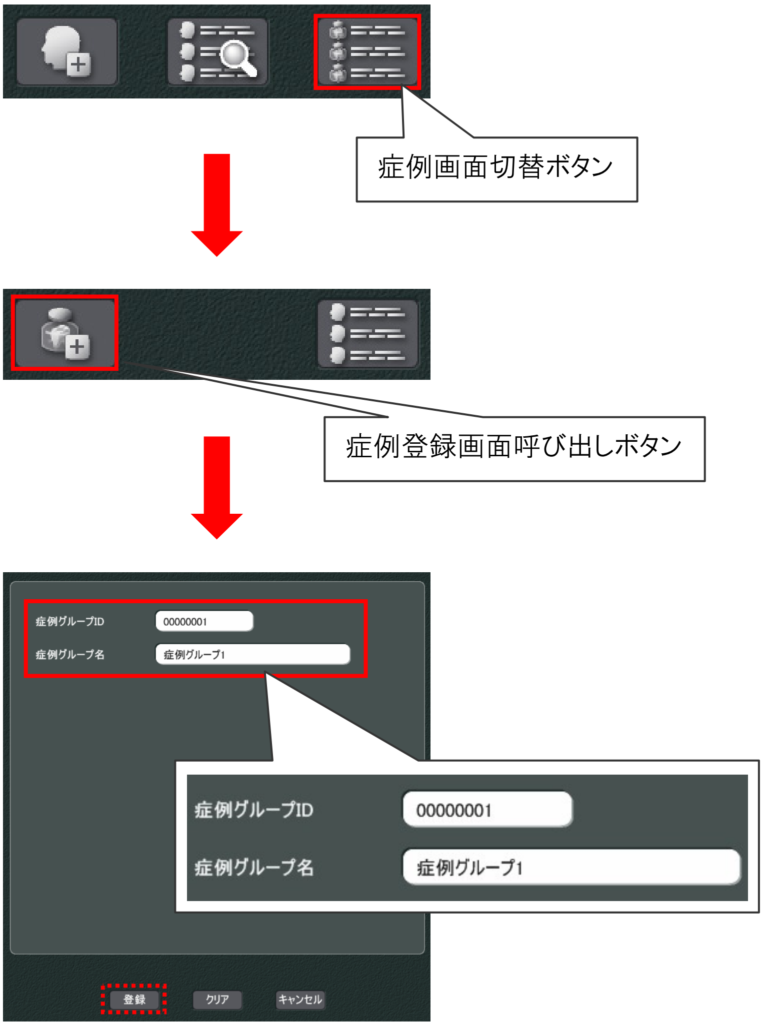
5. 症例情報

患者情報として保存されている画像を、症例画像として、症例データベースに登録し管理することができます。
症例画像は、予め症例データベースに登録されている症例情報に従って管理されます。
なお、症例情報は、症例グループ ID と症例グループ名 と 症例名とその ID によって症例データベースに登録されます。

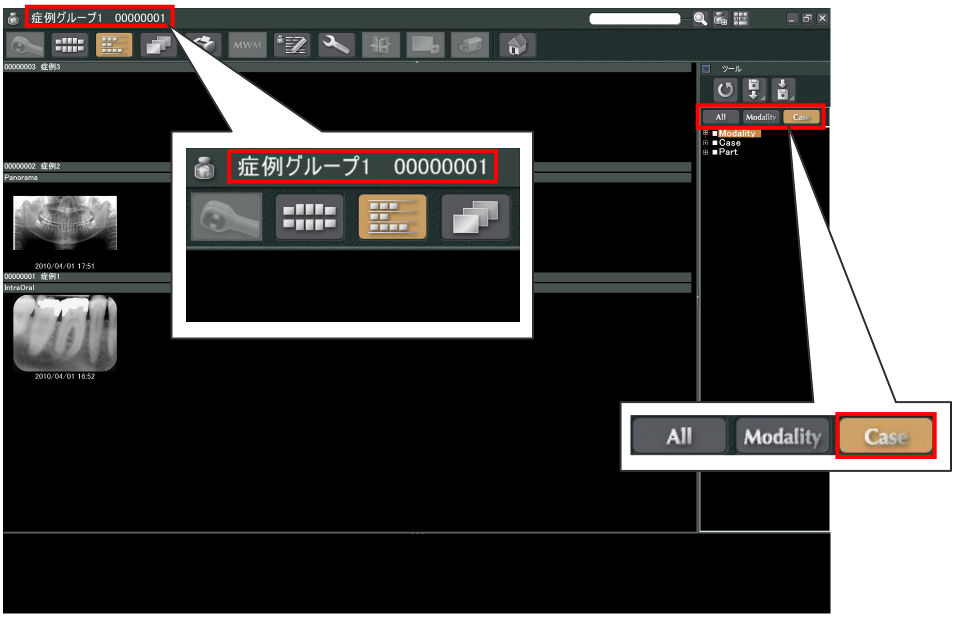
5.1 症例情報を登録する

症例画像を登録するためには、登録先となる症例情報を症例データベースに登録しておく必要があります。

1. ホーム画面の症例画面切替ボタン をクリックすると、症例データベースの登録や参照を行う画面を呼び出します。
   症例登録画面呼び出しボタンをクリックし、症例グループIDと症例グループ名を入力し、登録ボタンをクリックします。



2. 登録した症例グループ ID と症例グループ名に従って、画像一覧画面が表示されます。
画像一覧画面の右上部の Case ボタンをクリックします。



3. 画像一覧画面上で右クリックして、[症例の追加]を選択します。

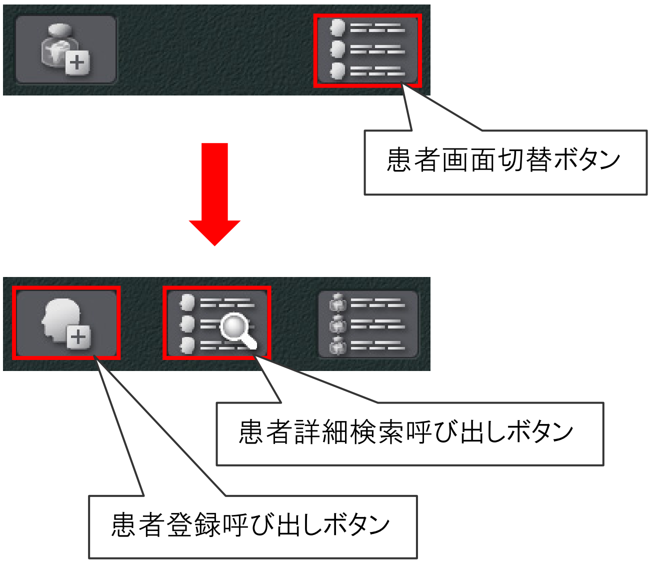
4. 症例登録ダイアログが表示されますので、症例名とその ID を入力して、登録ボタンをクリックします。

5. 症例グループの下の階層に症例名とその ID が登録され、画像一覧画面が表示されます。

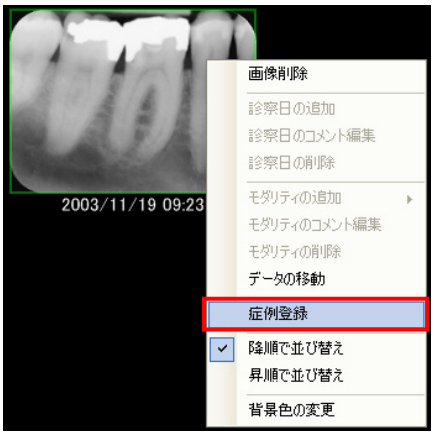
5.2 症例画像を登録する

症例画像を、症例情報に従って振り分け、登録します。

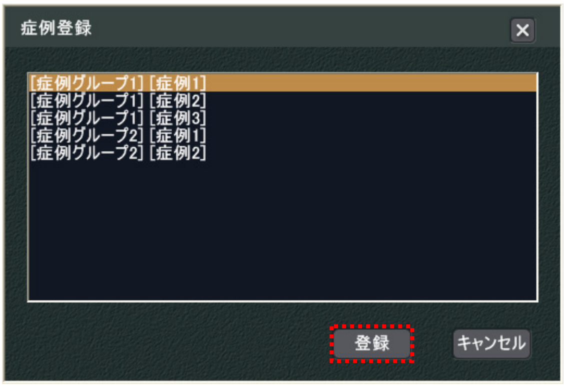
1. ホーム画面の患者画面切替ボタン をクリックすると、患者登録呼び出しボタンと、患者詳細検索呼び出しボタンが表示されます。



2. 患者登録呼び出しボタン、又は、患者詳細検索呼び出しボタンをクリックし、患者を選択します。
画像一覧画面から、登録したい症例画像を選択し、右クリックして[症例登録]を選択します。



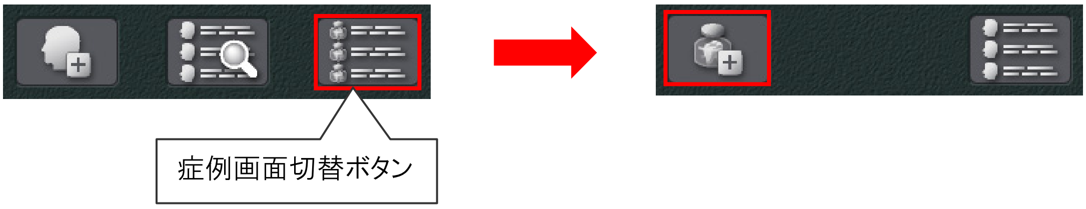
3. 症例登録ダイアログが表示されます。 症例登録ダイアログには、症例データベースに登録されている症例情報が一覧表示されます。
症例グループと症例名を選択し、登録ボタンをクリックすると、症例画像が登録されます。



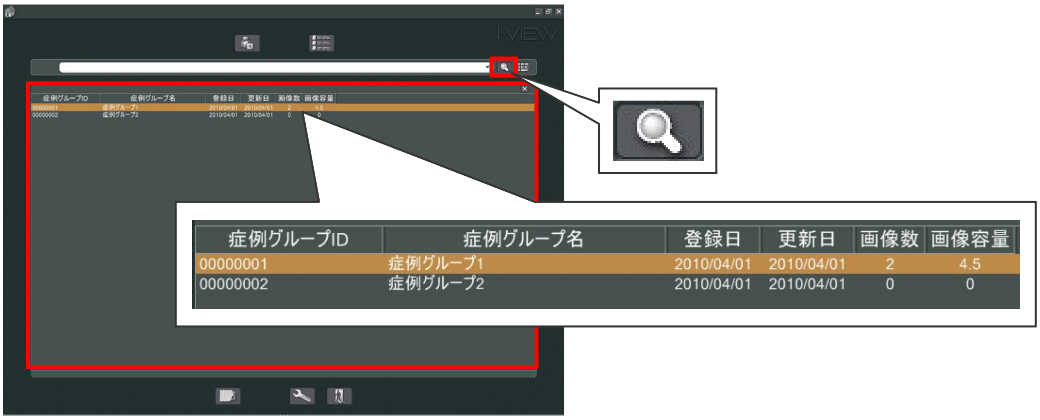
5.3 症例データベースの検索を行う

症例データベースに登録された症例画像の一覧を確認することができます。
症例画像をバスケットに表示させせると、2D ビューワなどの他の機能で使用できます。
また、サムネールをダブルクリックすると、2D ビューワが表示され、画像処理を行うことができます。

1. ホーム画面の症例画面切替ボタンをクリックし、症例データベースに切り替えます。



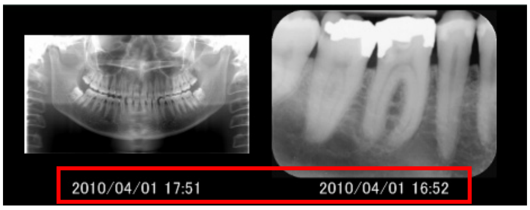
2. 簡易検索ボタン をクリックすると、ホーム画面に、症例情報の一覧が表示されます。
確認したい症例情報を選択し、ダブルクリックします。



3. 症例情報の画像一覧画面が表示されます。

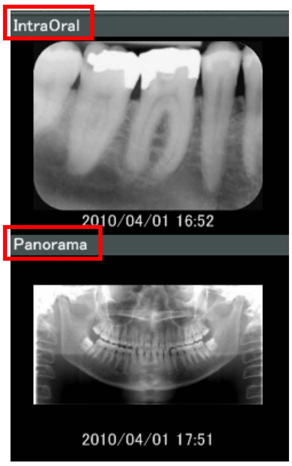
4. 症例画像の表示形式は、ALL ボタン、Modality ボタン、又は、Case ボタンをクリックすると変更できます。

■ ALL ボタンをクリックすると、症例画像登録日時順に表示されます。



■ Modality ボタンをクリックすると、モダリティ単位で表示されます。

■ Case ボタンをクリックすると、症例名とその ID ごとに表示されます。



6. 2Dビューワ機能

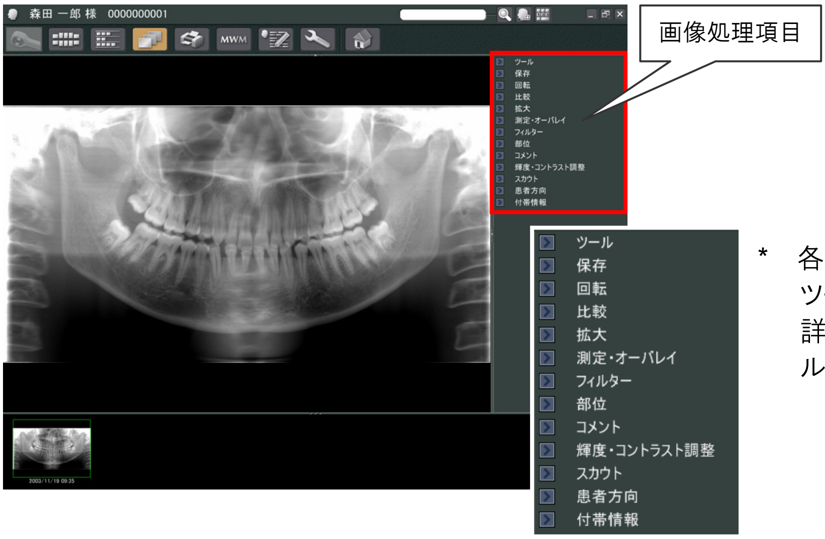
2D ビューワでは、画像処理を行い、保存することができます。

2D ビューワを起動させるには:

- 画像一覧画面にある 2D 画像のサムネールをダブルクリックします。
- ナビゲーションバーの[2D ビューワ]ボタンをクリックします。
  (バスケット* に、2D 画像のサムネールが表示されている場合に有効です。)
- モダリティから 2D 画像を受信すると自動的に起動します。

  * バスケットには、以下の画像が表示されます。
    - 画像一覧画面で選択された画像
    - 撮影後、i-VIEW に取り込まれた画像
    - i-VIEW にインポートされた画像

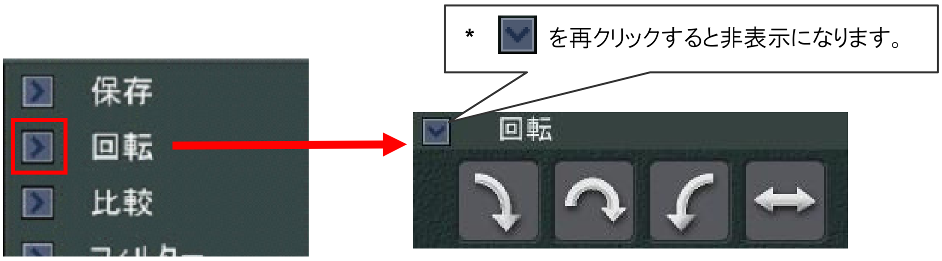
2D ビューワが起動されると、機能操作内容表示エリアに、2D 画像が表示され、ツールパネルに、画像処理項目が表示されます。 画像処理項目に表示される機能で、2D 画像の画像処理を行い、保存することができます。



* 各項目の配列が、メンテナンス画面のツールパネルタブで変更できます。
  詳細は、 p 226【 12.7. ツールパネルタブ 】を参照してください。

選択したい項目の [>] をクリックすると各々の機能が表示されます。

≪例:回転≫



以下に、ツールパネルに表示される画像処理項目の機能を説明します。

* 機能操作内容表示エリア、ツールパネルの詳細は、p 17【 2.2. 機能画面に表示される項目 】を参照してください。

6.1 ツール

画像処理項目:ツール

表示の更新･画像のインポート･画像のエクスポート･CTタスクの移動(オプション)･CT一括再構成(オプション)を行います。　ツールの詳細は、 p 22【 ツール項目 】を参照してください。

6.2 保存:画像を保存する

画像処理項目:保存

2D ビューワで画像処理された画像を保存します。
ボタンをクリックすると実行されます。

保存

2D ビューワで画像処理された画像を保存します。

オリジナルに戻す

2D ビューワで行った全ての画像処理の結果が削除され、2D 画像はオリジナルの状態に戻ります。

編集前の状態に戻す

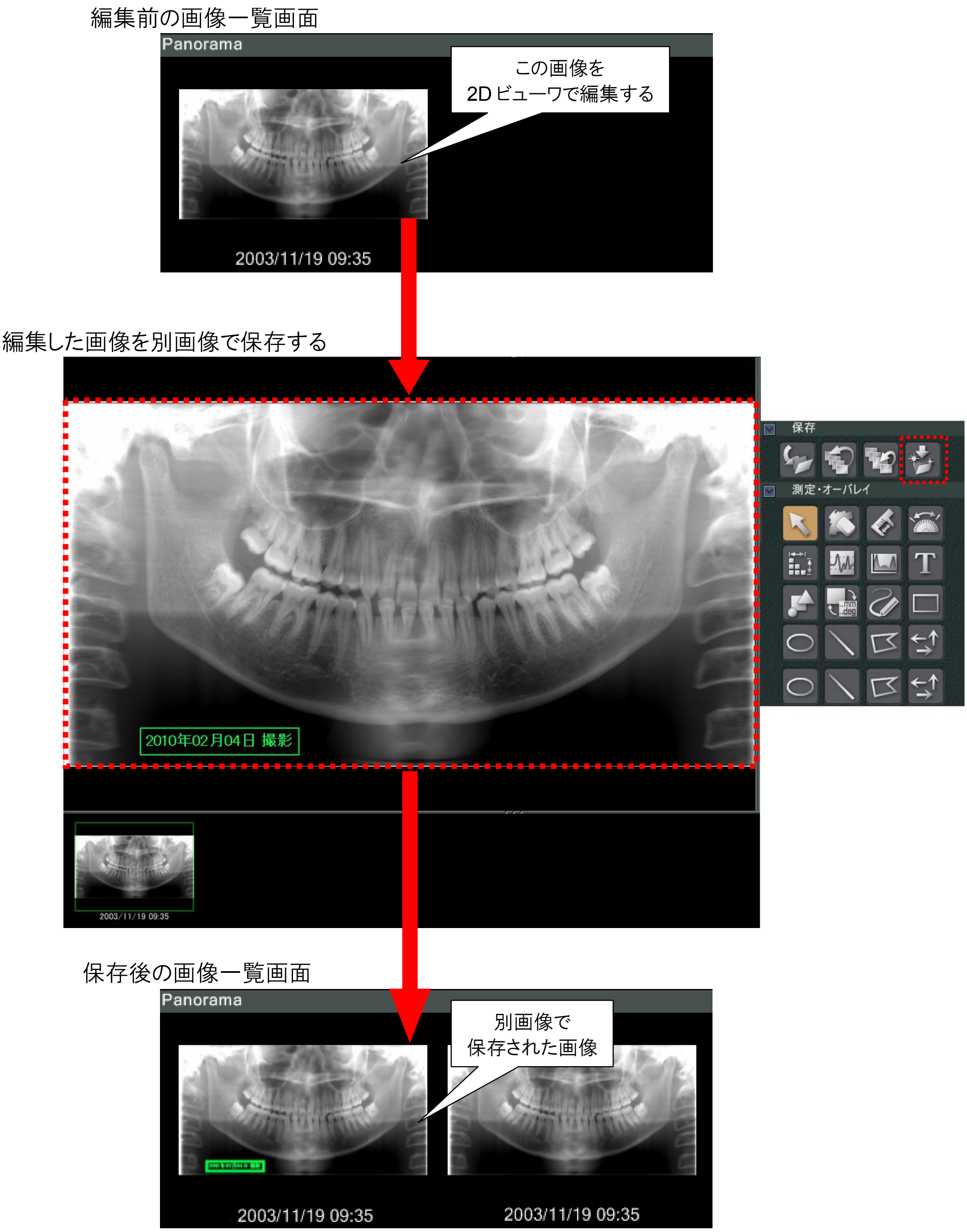
2D ビューワで行った最新の画像処理の結果が削除され、前回保存した時点の状態に戻ります。

別画像にて保存

2D ビューワで画像処理された 2D 画像を、別の 2D 画像として、保存が可能となります。
詳細は、p 69 [別画像にて保存] を参照してください。

[別画像にて保存]

オブジェクトのオーバーレイなどの編集を行った画像を、別画像にて保存のボタン をクリックして画像を保存すると、編集内容を画像に上書きせずに、別画像で保存できます。
保存後、画像一覧画面に切り替えると、別画像で保存した画像のサムネールが追加されます。
この画像は、2D ビューワに再表示し、再編集できます。

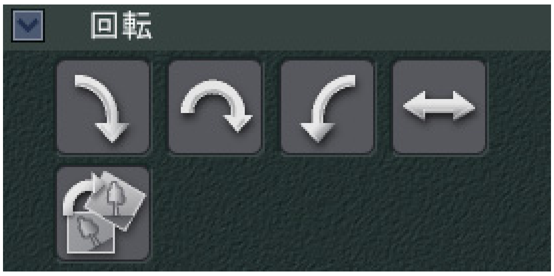


* オブジェクトをオーバーレイした画像を保存し、2Dビューワに再表示した場合、文字など、再編集できるオブジェクトと、矩形など、再編集できないオブジェクトがあります。 詳細は、p 101【 フリーハンド曲線、直線、矩形、楕円、多角形、矢印の再編集・削除 】を参照してください。

6.3 回転:画像を回転させる

画像処理項目:回転

2D 画像の回転や反転を行います。
なお、実行された内容は保存することができます。
ボタンをクリックすると実行されます。



90 度回転

2D 画像が右回りに 90 度回転します。

180 度回転

2D 画像が 180 度回転します。

270 度回転

2D 画像が左回りに 90 度(右回りに 270 度)回転します。

左右反転

2D 画像が左右反転します。

⚠ 注意

- 左右反転している場合、左右反転のボタンがオレンジ色で表示されます。特にパノラマ画像の診断の際、左右の誤りのないよう、左右反転ボタンの表示状態をご確認ください。デジタルパノラマの場合、必要により、撮影時にRとLのマーク(シンボルデータ)を画像に追加することが可能です。 詳細は、 **p 118** [シンボルデータ] を参照してください。 (サービスマンによる設定が必要です。)

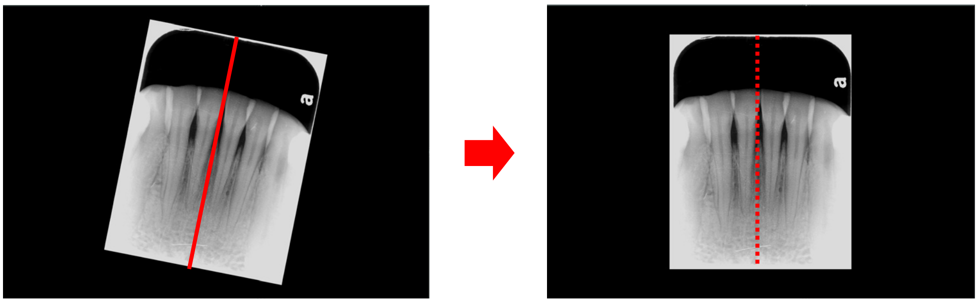
ライン回転

2D画像に回転軸となるラインを追加すると、2D画像が回転します。
詳細は、 p 71 ≪例:ライン回転を行う≫ を参照してください。

≪例：ライン回転を行う≫

ライン回転ボタン をクリックします。
画像上をクリックして、ラインの始点を決定し、回転時に軸となるラインを引きます。
ラインを引いた後、画像上をクリックして、ラインの終点を決定すると、画像が回転します。

※ライン回転ボタンを再クリックすると、ライン回転前の状態に戻ります。

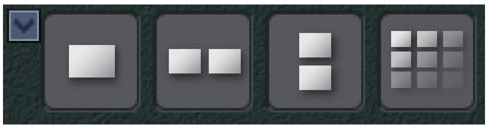


6.4 比較:画像を比較表示する

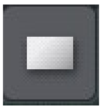
画像処理項目:比較

複数枚の 2D 画像を比較表示します。

画像一覧画面から、比較表示させたい画像を選択し、バスケットに表示されていることを確認します。 2D ビューワを起動させ、比較表示ボタンのいずれかをクリックすると実行されます。

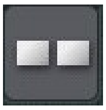


1 枚表示



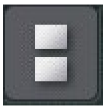
1 枚の 2D 画像を表示します。
2 枚以上の 2D 画像が比較表示されている場合、このボタンを押すと解除されます。

横並びに2枚表示



2 枚の 2D 画像を横に並べて表示します。

縦並びに2枚表示



2 枚の 2D 画像を縦に並べて表示します。

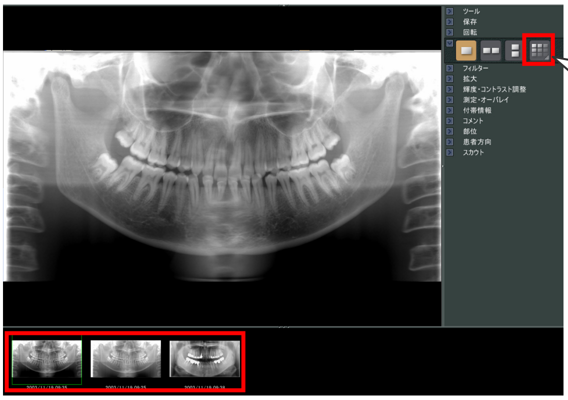
配列表示

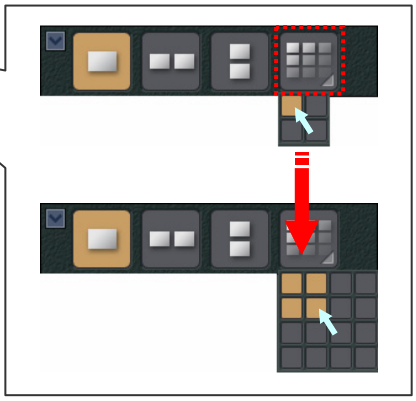
指定された行・列に従い、複数枚の 2D画像を表示します。
詳細は、 p 73 ≪複数枚の画像を配列表示させる≫ を参照してください。

≪複数枚の画像を配列表示させる≫

比較表示させたい 2D 画像がバスケットに表示されていることを確認し、2D ビューワを起動させて、配列表示ボタンをクリックします。

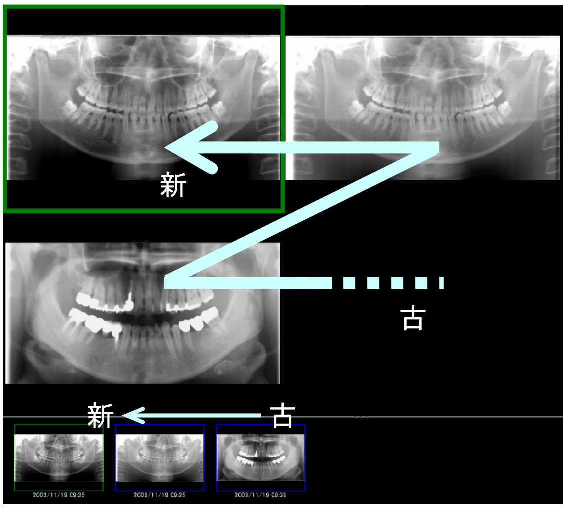
配列を指定するグリッドが表示されますので、グリッド上でポインタを動かし、比較表示させたい配列の行数と列数を指定します。





※　指定できる最大行数は 4 行です。
　　指定できる最大列数は 4 列です。

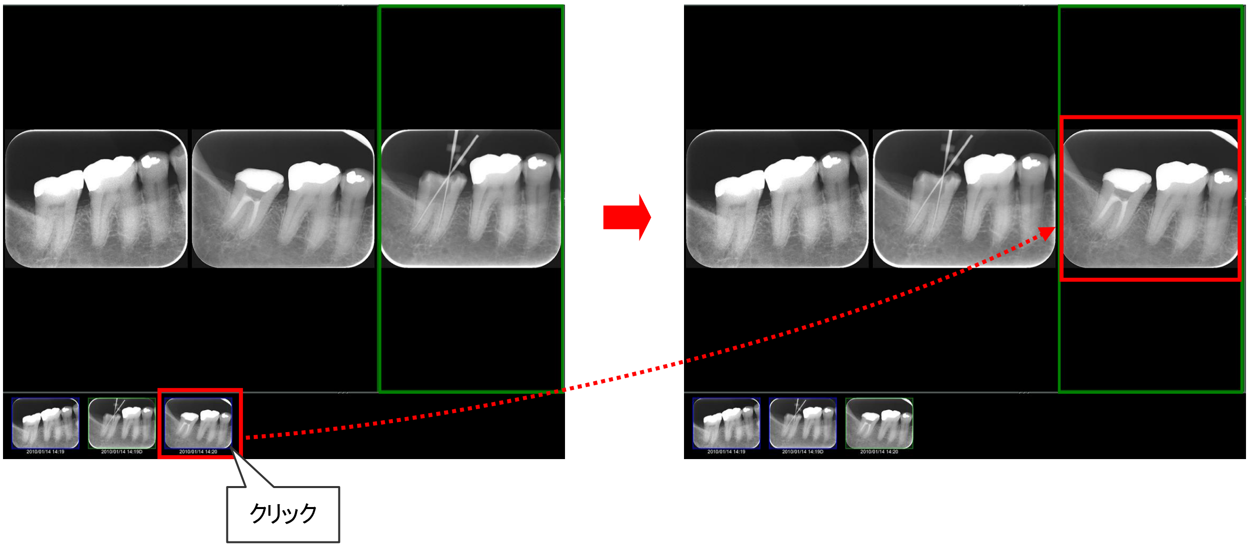
配列の行数と列数が指定されると、それに従って 2D 画像が比較表示されます。
選択されている画像は緑色の枠で示されます。　画像をクリックすると切り替わります。
また、以下のような順で表示されます。



※　比較表示を解除するには[1 枚表示]ボタン をクリックします。

≪比較表示されている画像の位置を変更する≫

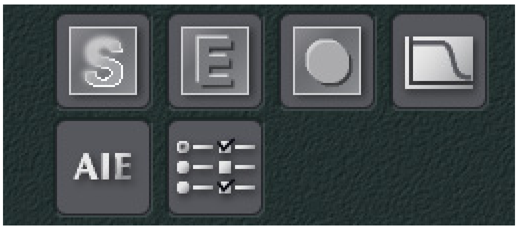
画像を表示させせたい位置をクリックすると、現在その位置に表示されている画像は緑色の枠で囲まれます。
緑色枠の位置に表示させせたい画像をバスケットから選択し、クリックします。
クリックした時点で、画像の位置は入れ替わり、元にあった画像はひとつ左へずれて表示されます。



6.5 フィルター：画像にフィルタ処理を行う

画像処理項目：フィルター

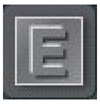
オリジナルの 2D 画像に、スパイクノイズやモアレ(縞模様のノイズ)が目立つ、画質の鮮明さに欠けているなど、劣化がみられる場合に、フィルタ処理を実行して、画質を向上させます。 また、画像の輪郭部、凹凸部、陰影部など、2D 画像の特徴を抽出したい場合に有効です。 ボタンをクリックすると実行され、処理された内容は保存することができます。



シャープネス

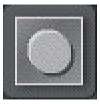
2D 画像の画質を鮮明にします。
p 76 [フィルタ処理を行ったサンプル画像] に、サンプル画像を示します。

エンボス



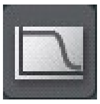
2D 画像を、粘土調、かつ、凹凸のある画質にします。
補綴物は凸状に、カリエスは凹状に見える傾向にあります。
p 76 [フィルタ処理を行ったサンプル画像] に、サンプル画像を示します。

シャドウ



2D 画像の画質を、立体的に陰影づけます。
p 76 [フィルタ処理を行ったサンプル画像] に、サンプル画像を示します。

その他

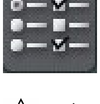


シャープ・エンボス・シャドウ以外に用意されているフィルタの選択が可能です。
詳細は、 p 78 [その他のフィルタ処理] を参照してください。

AIE(オート・イメージ・エンハンサー)

撮影部位の種類、撮影領域の大小に関係なく、部位の特徴を活かしながら、コントラストを均一に強調します。 歯部、歯周組織から顎骨、顔面領域まで、多くの部位を含む 2D画像の画質を、鮮明度の高い画質にします。 尚、AIEは、Panoramaモダリティ、PanoramaPlusモダリティ、又は、Cephaloモダリティで管理されている 2D画像に対してのみ有効です。
p 76 [フィルタ処理を行ったサンプル画像] に、サンプル画像を示します。

Settings



AIE補正、シャープネス、自動濃度調整のレベルをモダリティ毎に設定します。
詳細は、 p 82 [Settings：画像処理の詳細設定] 及び、p 83 ≪モダリティ毎に詳細設定を行う≫ を参照してください。

⚠ 注意

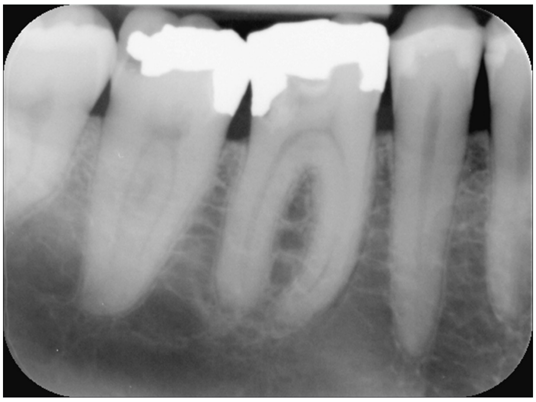
- **弊社製のモダリティから取り込まれた 2D 画像は、撮影条件に左右されることなく、オリジナルの 2D 画像の画質が維持されるように、適切なフィルタ処理が施されているため、通常、画質の向上を目的としたフィルタ処理を必要としません。 ただし、TWAIN 機器から取り込まれた 2D 画像や、他メディアからインポートされた 2D 画像などにはフィルタ処理が施されていないため、画質の向上を目的としたフィルタ処理を必要とする場合があります。**

[フィルタ処理を行ったサンプル画像]

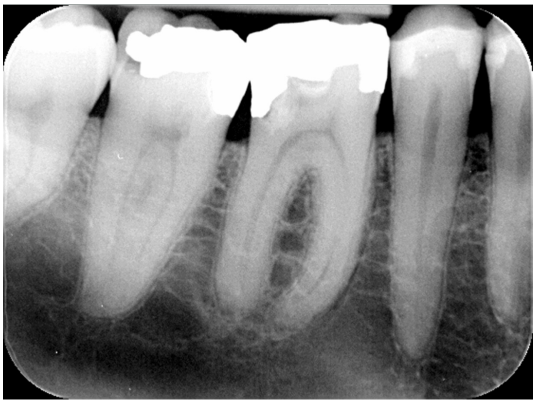
シャープネス、エンボス、シャドウ、AIE(オート・イメージ・エンハンサー)のフィルタ処理を行ったサンプル画像です。

シャープネス
画質が鮮明になります。

処理前

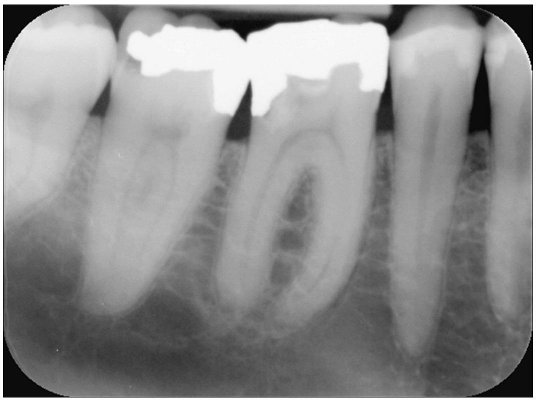


処理後

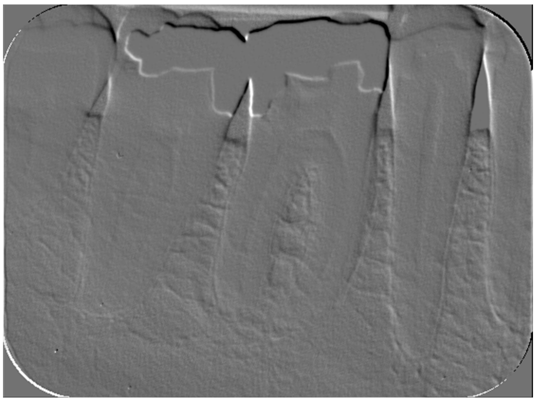


エンボス
画質が粘土調、かつ、凸凹になります。

処理前

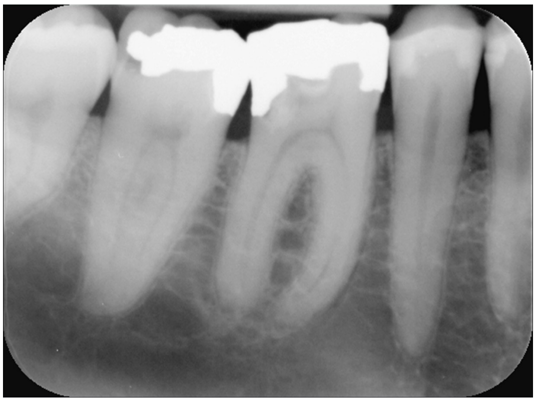


処理後



シャドウ
立体的な陰影の付いた画質になります。

処理前



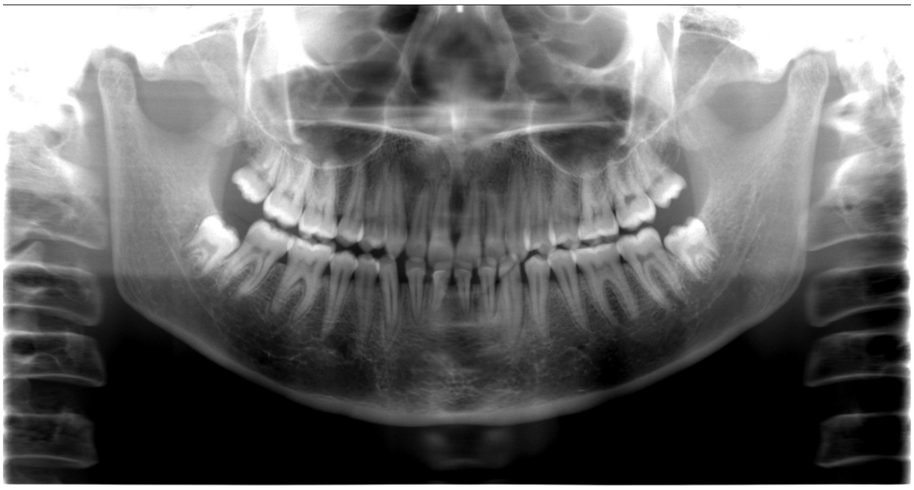
処理後

AIE(オート・イメージ・エンハンサー)

コントラスト強調に比べ、どの部位も、コントラストが均一に強調され、鮮明度の高い画質になります。
AIE は、Panorama モダリティ、PanoramaPlus モダリティ、又は、Cephalo モダリティで管理されている 2D 画像に対してのみ有効です。

処理前

コントラスト強調後



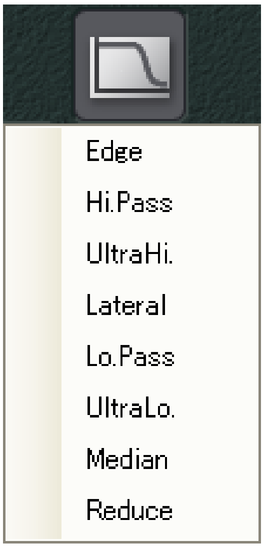
※　コントラスト強調の設定は、p 91【 6.7 輝度・コントラスト調整 】を参照してください。

AIE 処理後

※　上記は、AIE レベル:100%　AIE Boost:ON に設定し、AIE の処理を行った例です。
AIEレベル、AIE Boostの設定は、 p 82 [Settings：画像処理の詳細設定] を参照してください。

[その他のフィルタ処理]

シャープ、エンボス、シャドウ、AIE 以外のフィルタ処理を実行します。
ボタンをクリックして、実行したいフィルタを選択します。



Edge: 2D 画像の輪郭部を抽出します。

Hi.Pass: 2D 画像の濃度差の大きい部分のみが抽出されるように処理されます。 画質を鮮明にしたい場合に有効です。

UltraHi.: Hi.Pass のフィルタ処理を行っても、最適な処理結果を得られない場合に有効です。
このフィルタ処理を行うと、画質のコントラストがより強くなります。
2D 画像のグレーの部分が潰れ、白い部分と黒い部分に片寄った画質になることがあります。

Lateral: 撮影部位に関係なく、どの部位に対しても、コントラストが、均一に強調されるように処理されます。
※ パノラマ画像 セファロ画像において、どの部位に対しても、コントラストを均一に強調する場合、Lateral に比べ、AIE が、より効果的になる傾向にあります。

Lo.Pass: 2D 画像の濃度差の小さい部分のみが抽出されるように処理されます。 画像のざらつきを抑えて、画質を滑らかにしたい場合に有効です。

UltraLo.: Lo.Pass のフィルタ処理を行っても、最適な処理結果を得られない場合に有効です。
このフィルタ処理を行うと、画質がより滑らかになります。
2D 画像の白い部分と黒い部分が潰れ、グレーの部分だけが目立つ、ぼけた画質になることがあります。

Median: 隣り合う画素の濃度値同士を比較した結果、中間値となる濃度値を画素に割り当てるように処理されます。
これにより、濃度値が突出している画素に、中間値の濃度値が割り当てられます。
画質をほとんど変えずに、スパイクノイズを除去したい場合に有効です。

Reduce: 画質をほとんど変えずに、2D 画像に生じたモアレ(縞模様のノイズ)を除去します。 グリッド(散乱線を取り除く鉛の格子)を用いて、単純 X 線撮影を行った場合、2D 画像に生じたモアレ取り除く場合に有効です。

⚠ 注意

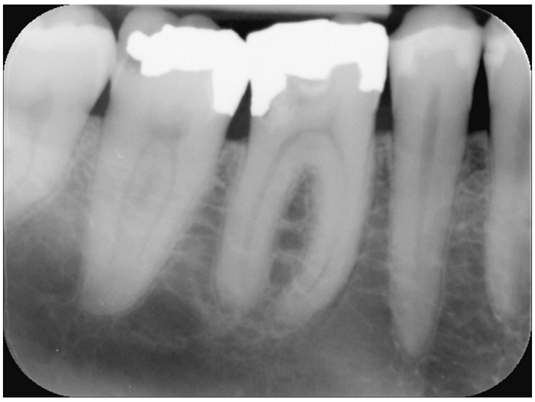
- **2D** 画像サイズが大きい場合、**Edge**、**Median** 以外を選択すると、フィルタ処理に時間がかかることがあります。

[その他のフィルタ処理を行ったサンプル画像]

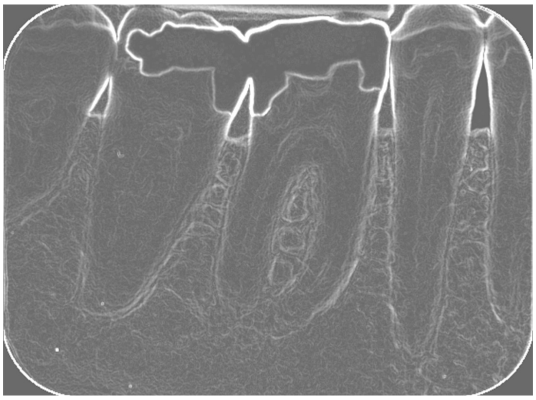
Edge、Hi.Pass、Lo.Pass、Lateral、Median のフィルタ処理を行ったサンプル画像です。

Edge
輪郭部が抽出されます。

処理前



処理後



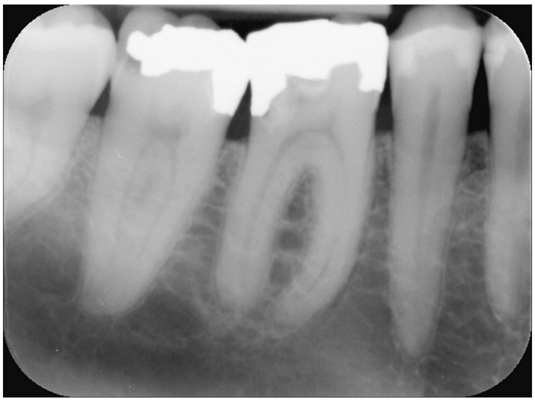
Hi.Pass
画質が鮮明になります。

処理前

処理後

Lo.Pass
画質が滑らかになります。

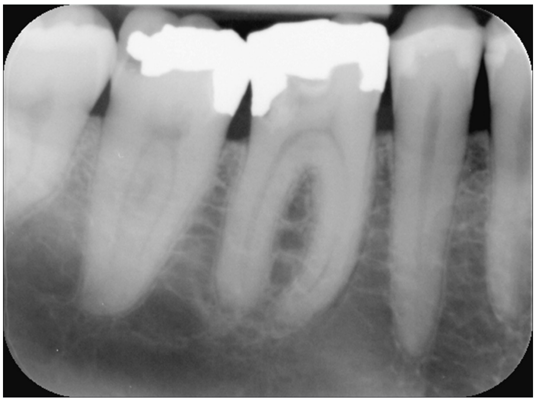
処理前



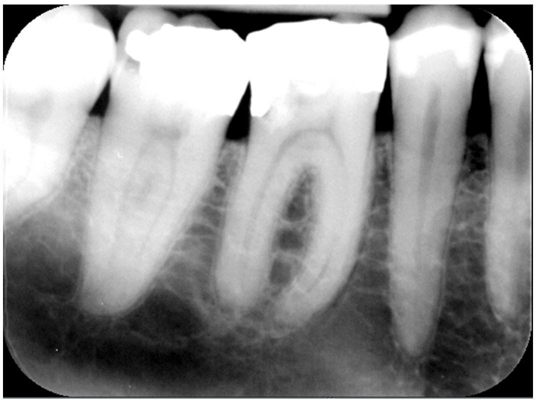
処理後

Lateral
コントラスト強調に比べ、どの部位も、コントラストが均一に強調され、鮮明度の高い画質になります。

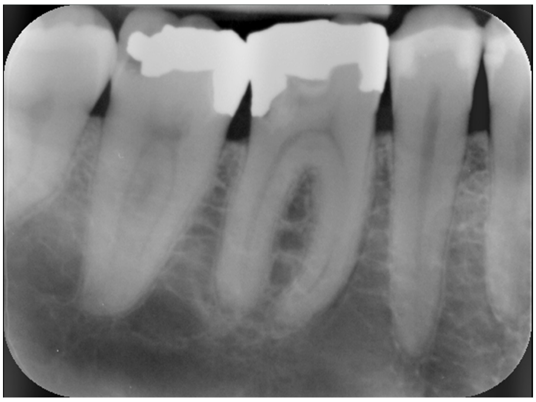
処理前



コントラスト強調後



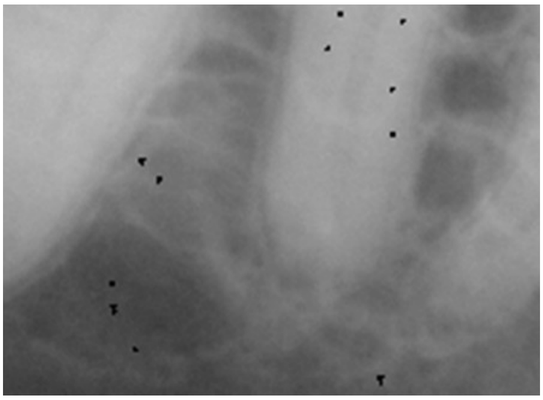
Laretal 処理後



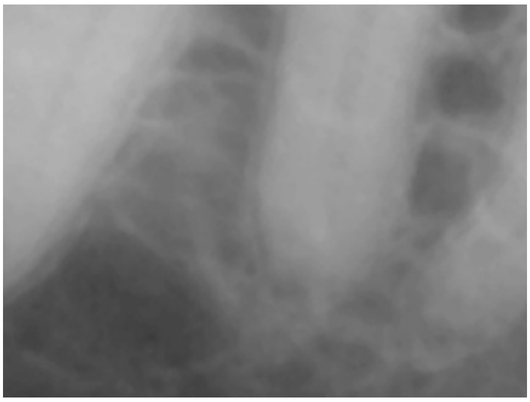
※ コントラスト強調の設定は、p 91【 6.7. 輝度・コントラスト調整 】を参照してください。

Median
スパイクノイズが除去されます。

処理前



処理後



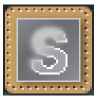
* スパイクノイズの大きさによって、完全に除去できない場合があります。

フィルター処理の複数選択

複数のフィルタ処理を、選択できません。
例えば、シャープネスとエンボスを同時に選択できません。
また、その他のフィルタ処理を選択した場合、複数の項目を選択できません。
例えば、Hi.Pass と Median を同時に選択できません。

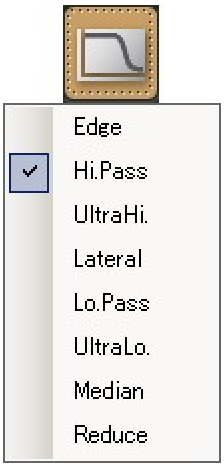
フィルタ処理の解除

フィルタ処理を選択したボタンは、オレンジ色に反転表示されます。
例：シャープネスを選択した場合



ボタンを再選択すると、フィルタ処理が解除できます。
解除すると、ボタンは、オレンジ色に反転表示されなくなります。

その他のフィルタ処理を選択している場合、ボタンはオレンジ色に反転表示され、選択した項目にチェックが表示されます。
例：Hi.Pass を選択した場合



選択中の項目を再選択すると、フィルタ処理が解除できます。
解除すると、ボタンはオレンジ色に反転表示されなくなり、チェックも表示されなくなります。

[Settings：画像処理の詳細設定]

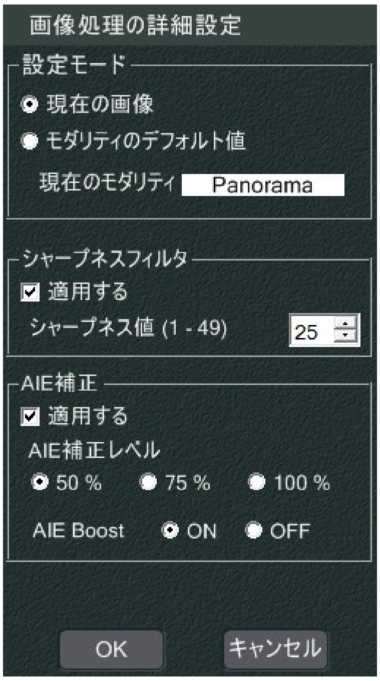
［Settings］ボタンをクリックすると、画像処理の詳細設定を行うことができます。

≪現在 2D ビューワで選択中の 2D 画像に対して、詳細設定を行う≫

選択中の 2D 画像に対して、詳細設定を行う場合は、設定モードの「現在の画像」を選択します。

1. 設定モードの「現在の画像」を選択します。

※ 調整の結果は、その都度2D ビューワで表示中の 2D 画像へ反映されます。



シャープネスフィルタ：
シャープネス値を変更する場合は、「適用する」にチェックを入れ、値を設定します。
設定可能なシャープネス値は 1～49 です。 値が大きいほど、コントラストが強調された画質で画像処理されます。 なお、シャープネスフィルタが既に適用されている画像の場合は現在の設定値が表示されています。

AIE 補正：
AIE 補正を行う場合、「適用する」にチェックを入れ、AIE 補正のレベル、AIE BoostのOn/Offを設定します。 なお、AIE 補正が既に適用されている画像の場合は現在の設定値が表示されています。
AIE 補正レベルが高いほど、コントラストが強調されます。
AIE Boost を On にすると、エッジ強調されます。
※AIE 補正を行うことができるのは、Panorama 又は、Cephalo モダリティに分類されている 2D 画像のみです。

2. OK ボタンをクリックすると設定値が変更され、ツールパネルに戻ります。 ただし、この段階では設定値は保存されません。 保存する場合は、ツールパネルの「保存」を選択してください。
キャンセルボタンをクリックすると、変更を取消してツールパネルに戻ります。

⚠ 注意

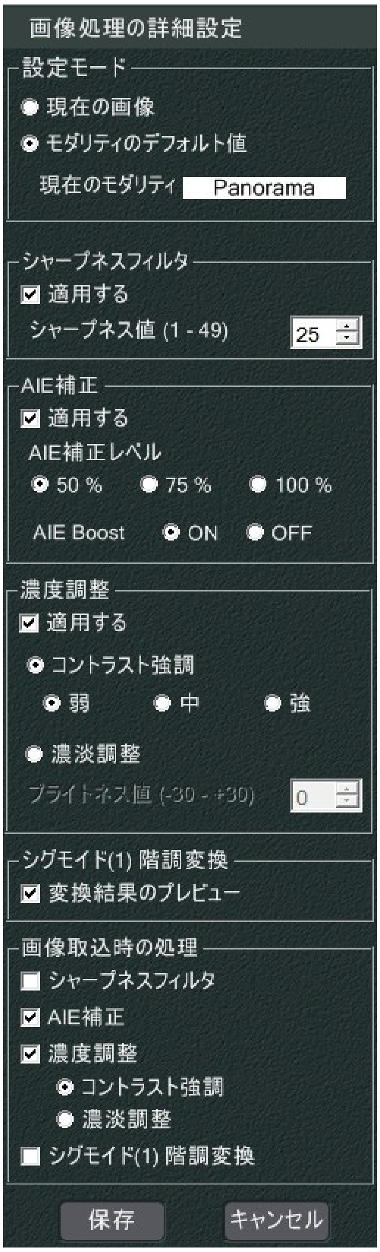
- **AIE** 補正は、高度な画像処理が行われますので、**AIE** 補正を行わない場合に比べ、画像取込みの時間が長くなる場合があります。 特に、超高解像度撮影(標準速撮影)の場合、メモリ容量が少ない場合、**CPU** クロックが遅い場合、アプリケーションで多くの画像を同時に開いた状態で撮影を行った場合に時間が長くなります。
- シャープネスフィルタを適用すると、コントラストが強調されたシャープな画像になりますが、同時に画像ノイズも強調され、粗い画像になります。また歯牙と金属補綴物の境目などに偽像(アーチファクト)が生じる場合がありますので、ご使用に際してはこれらの点に十分ご留意のうえ、適切なシャープネス値をご選択ください。
- **AIE Boost** を **On** にすると、コントラストがより強調されたシャープな画像になりますが、同時に画像ノイズも強調され、粗い画像になります。また歯牙と金属補綴物の境目などに偽像(アーチファクト)が生じる場合がありますので、ご使用に際してはこれらの点に十分ご留意ください。

≪モダリティ毎に詳細設定を行う≫

選択中の 2D 画像のモダリティに対して、詳細設定を行う場合は、設定モードの「モダリティのデフォルト値」を選択します。

1. 設定モードの「モダリティのデフォルト値」を選択します。
   (現在、2D ビューワで選択中の 2D 画像が、Panorama モダリティに分類される場合、以下の処理は、Panorama モダリティに反映されます。)
   なお、シャープネスフィルタあるいは AIE 補正が既に適用されている画像の場合は現在の設定値が表示されています。

2. 指定したモダリティに分類される 2D 画像に対し、画像処理のデフォルト値を設定します。
   デフォルト値が設定される内容は以下の通りです。
   ※ 調整の結果は、その都度2D ビューワで表示中の 2D 画像へ反映されます。



シャープネスフィルタ
シャープネス値を変更する場合は、「適用する」にチェックを入れ、値を設定します。
設定可能なシャープネス値は 1～49 です。 値が大きいほど、コントラストが強調された画質で画像処理されます。 なお、シャープネスフィルタが既に適用されている画像の場合は現在の設定値が表示されています。

AIE 補正:
AIE 補正を行う場合、「適用する」にチェックを入れ、AIE 補正のレベル、AIE Boost の On/Off を設定します。 なお、AIE 補正が既に適用されている画像の場合は現在の設定値が表示されています。
AIE 補正レベルが高いほど、コントラストが強調されます。
AIE Boost を On にすると、エッジ強調されます。

濃度調整:
濃度調整を行う場合、「適用する」にチェックを入れ、コントラスト強調か濃淡調整を選択します。
「コントラスト強調」を選択した場合は、コントラスト強調のレベルを設定します。
また、「濃淡調整」を選択した場合は、ブライトネス値を設定します。設定可能なブライトネス値は、-30～から+30 です。 値が大きいほど、明るさが強調された画質で画像処理されます。

シグモイド(1)階調変換:
「変換結果のプレビュー」をクリックすると、変換の効果をプレビューできます。
「画像取込時の処理」の設定において、画像取り込み時に実行されるシグモイド(1)階調変換の効果を確認したい場合に有効です。

画像取込時の処理:
現在選択中の 2D 画像のモダリティに対し、画像取り込み時に自動適用したい調整項目にチェックを入れます。
ここで指定した項目は、該当のモダリティでの取り込み時に画像の固有の設定として自動的に保存され、2D ビューワで開く際に設定が適用されます。

3. 保存ボタンをクリックすると設定値が変更され、ツールパネルに戻ります。
また、キャンセルボタンをクリックすると、変更を取消してツールパネルに戻ります。
どちらの場合も画像のフィルタ状態は元の状態に戻ります。

⚠ 注意

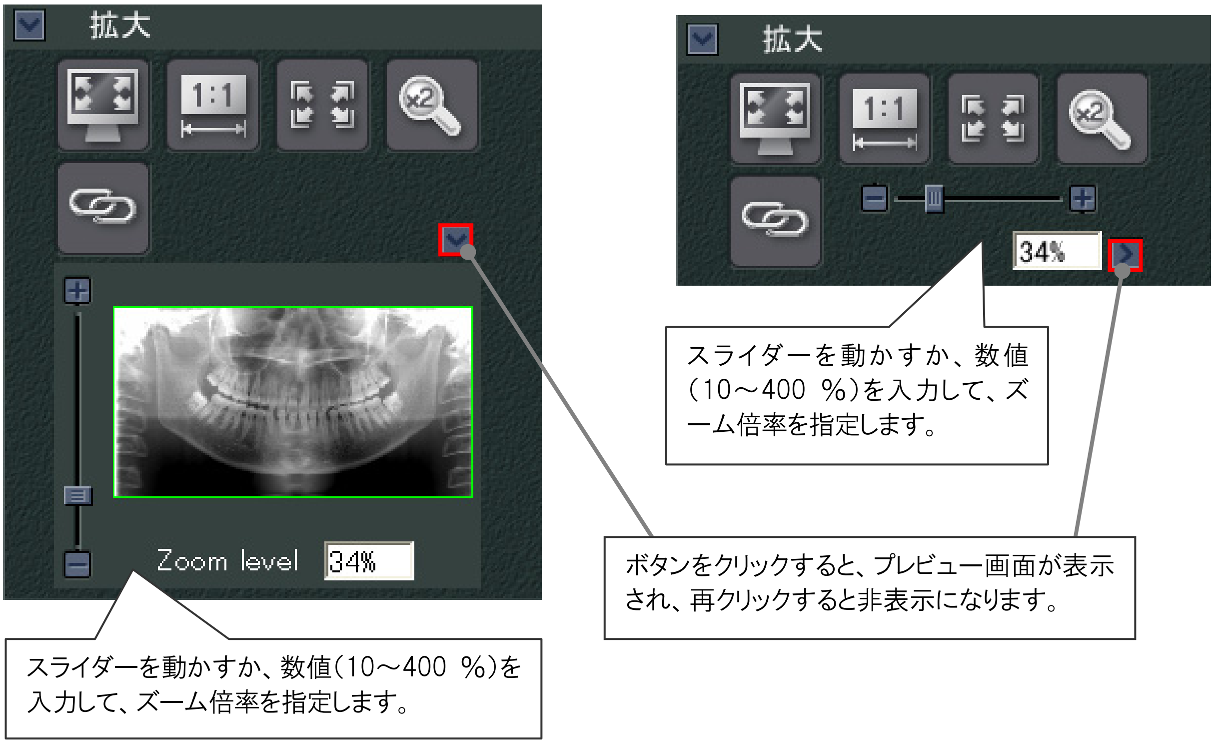
- **AIE** 補正は、高度な画像処理が行われますので、**AIE** 補正を行わない場合に比べ、画像取込みの時間が長くなる場合があります。　特に、超高解像度撮影(標準速撮影)の場合、メモリ容量が少ない場合、**CPU** クロックが遅い場合、アプリケーションで多くの画像を同時に開いた状態で撮影を行った場合に時間が長くなります。
- シャープネスフィルタを適用すると、コントラストが強調されたシャープな画像になりますが、同時に画像ノイズも強調され、粗い画像になります。また歯牙と金属補綴物の境目などに偽像(アーチファクト)が生じる場合がありますので、ご使用に際してはこれらの点に十分ご留意のうえ、適切なシャープネス値をご選択ください。
- **AIE Boost** を **On** にすると、コントラストがより強調されたシャープな画像になりますが、同時に画像ノイズも強調され、粗い画像になります。また歯牙と金属補綴物の境目などに偽像(アーチファクト)が生じる場合がありますので、ご使用に際してはこれらの点に十分ご留意ください。

6.6 拡大:画像を拡大表示する

画像処理項目:拡大

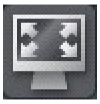
画像を拡大して表示します。
ボタンをクリックすると実行されます。

※ 画像の拡大表示は、画像にマウスポインタを移動し、画像をクリックした後、マウスホイールを前後に回転することでも可能です。 比較ロックによって、画像が複数枚表示されている場合も可能です。



※ プレビュー画面内の緑色枠を動かして、拡大表示したい箇所を指定します。

フルスクリーン表示

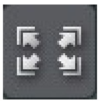


2D画像がフルスクリーンで表示されます。 ESCキー、又は、ダブルクリックすると解除されます。
フルスクリーンで画像が表示されていても、拡大・縮小表示などの操作ができます。
詳細は、 p 86【 フルスクリーン表示で可能な操作 】を参照してください。

ピクセル等倍

2D 画像が等倍表示されます。

フィット



2D 画像が、2D 画像表示エリアに合わせて拡大・縮小表示されます。

虫眼鏡

カーソルで指定された箇所の周辺領域が、2倍の拡大率で表示されます。
詳細は、 p 87［虫眼鏡 ］を参照してください。

比較ロック

2Dビューワに比較表示されている、1枚又は複数枚全ての2D画像に対して、ピクセル等倍、フィット、ズーム指定の操作が適用されます。
詳細は、 p 88 [比較ロック] を参照してください。

フルスクリーン表示で可能な操作

フルスクリーン表示されている 2D 画像に対し、以下の操作が可能です。

拡大・縮小表示：	画像をクリックした後、マウスホイールを前後に回転させます。
拡大表示される箇所の指定：	画像をドラッグし（このときポインタは手の形に変わります）、ポインタを上下左右に移動させます。
コントラスト調整：	画像を右クリックしながら、マウスを左右に移動させます。
輝度調整：	画像を右クリックしながら、マウスを上下に移動させます。

患者情報連携時のフルスクリーン表示

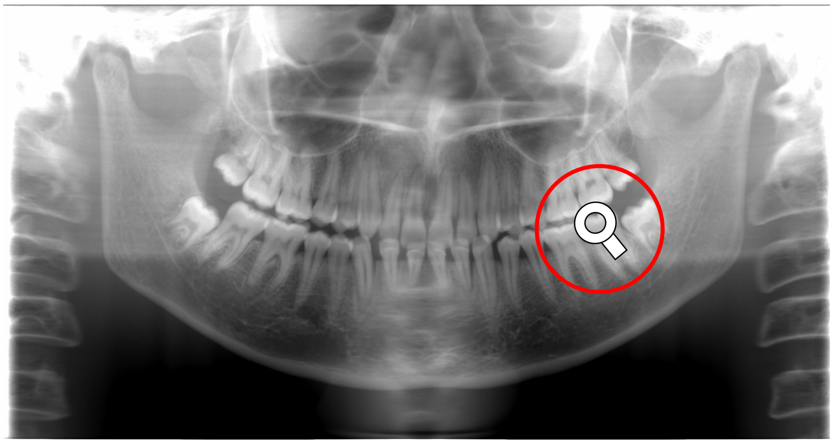
他社製の電子カルテ / レセプトシステムと患者情報の連携を行う場合、i-VIEW サーバーコンピュータで 2D 画像をフルスクリーン表示すると、患者情報の連携ができなくなることがあります。

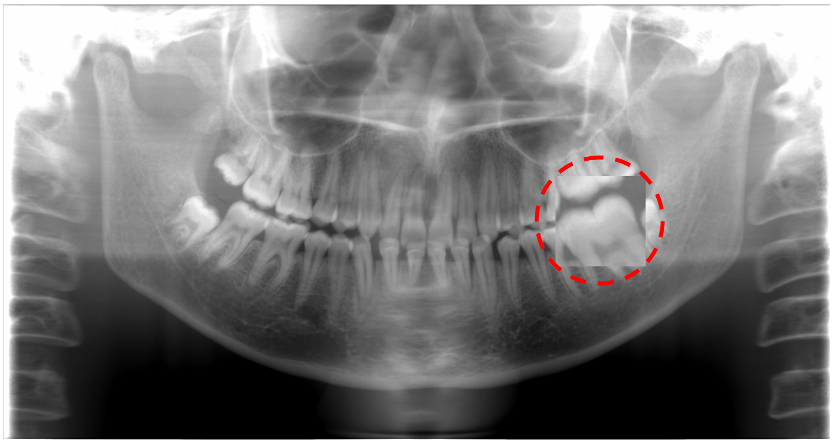
[虫眼鏡]

カーソルで指定された箇所の周辺領域が、2倍の拡大率で表示されます。
※虫眼鏡ボタンを再クリックすると解除されます。

1. 虫眼鏡ボタンをクリックして、拡大表示したい箇所をポインタで指定します。

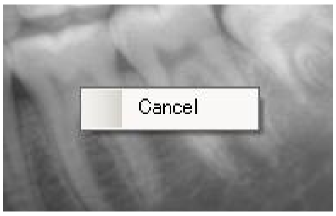
2. ポインタが虫眼鏡に変わり、マウスの左ボタンを押している間、選択箇所周辺が2倍の拡大率で表示されます。





ポップアップメニューによる拡大表示の解除

拡大表示の操作中に右クリックすると、以下のポップアップメニューが表示されます。



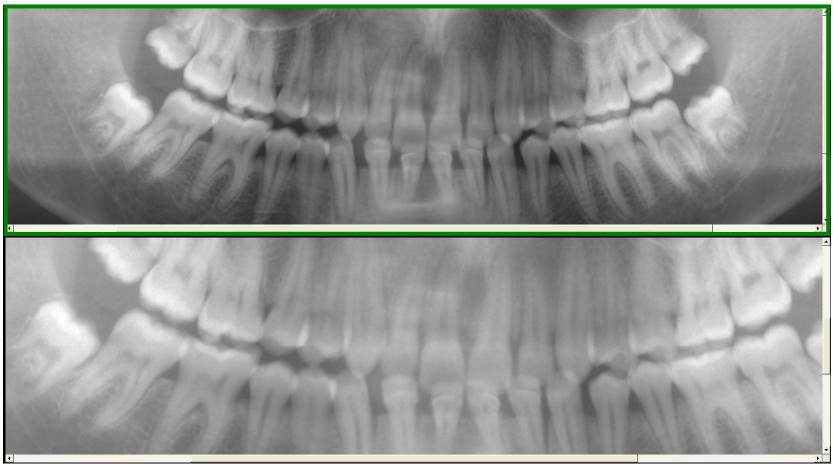
Cancel を選択すると、ポインタの形状が、虫眼鏡から矢印に戻り、拡大表示が解除されます。
Cancel を選択せず、画像を左クリックすると、引き続き、拡大表示の操作ができます。

[比較ロック]

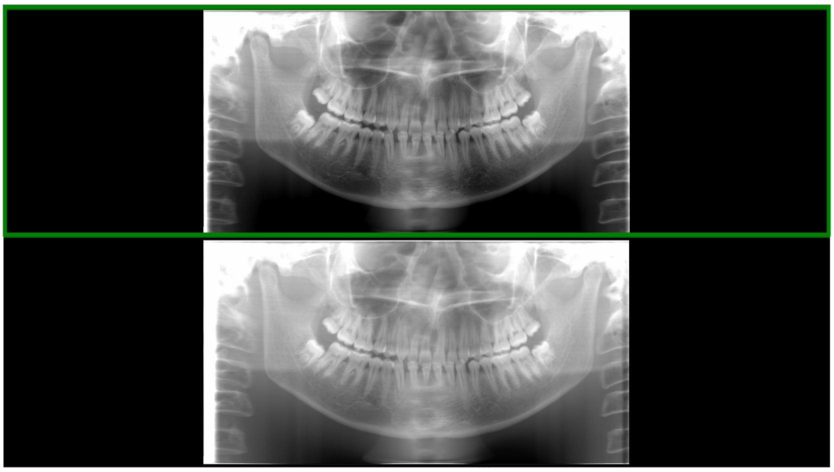
2D ビューワに比較表示されている全ての 2D 画像に対して、一括で、ピクセル等倍、フィット、ズーム指定の操作を行うのに便利な機能です。

≪例：異なった拡大倍率で表示されている画像をフィット表示させる≫

1.　2 枚の画像が比較表示されている状態で、比較ロックボタンをクリックします。



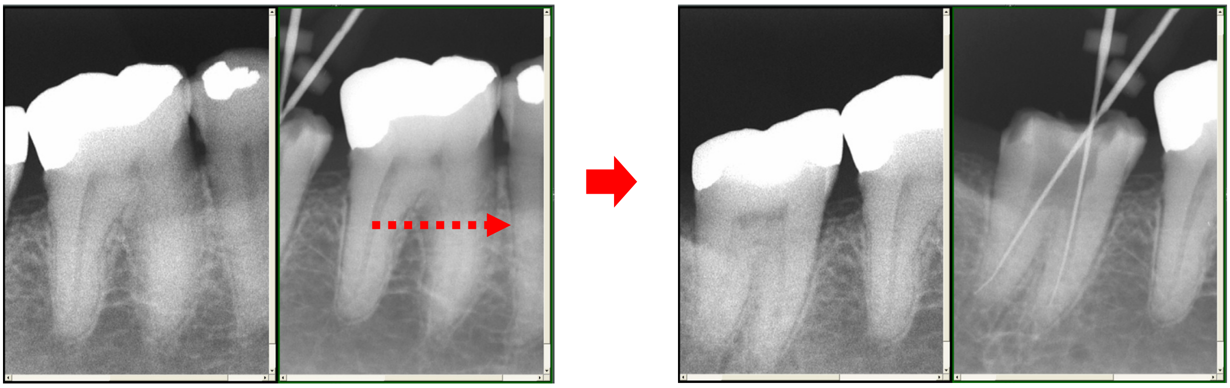
2.　 フィットボタンをクリックすると、2 枚の画像にフィット表示が適用されます。



≪例：拡大表示される箇所を同時に変更する≫

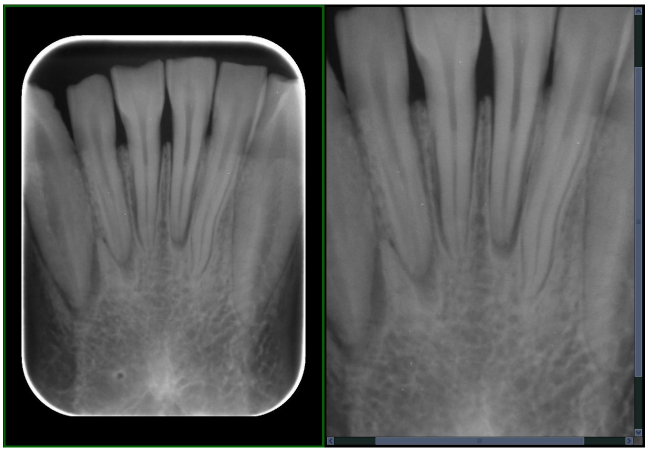
1. ［比較ロック］ボタンをクリックします。

2. 比較表示されている一方の画像をドラッグすると、2 枚の画像に対して、拡大表示される箇所が同時に変更されます。



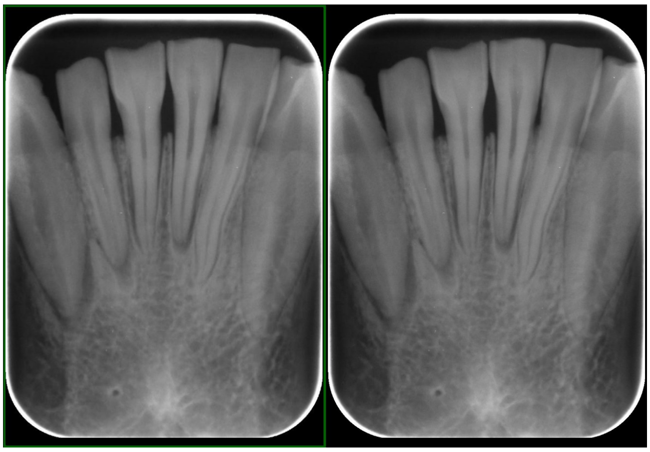
解像度(ピクセルサイズ)が異なる画像の比較表示

縦横の実寸サイズが同じ画像でも、解像度(ピクセルサイズ)が異なる画像を比較表示すると、画像の表示サイズが一致しません。　以下は、解像度が異なる画像を、等倍で比較表示した例です。



※　縦横の実寸サイズが同じ画像の場合、解像度が高いほど、画像の縦横ピクセル数を多くなり、等倍で表示した際、画像の表示サイズは大きくなります。

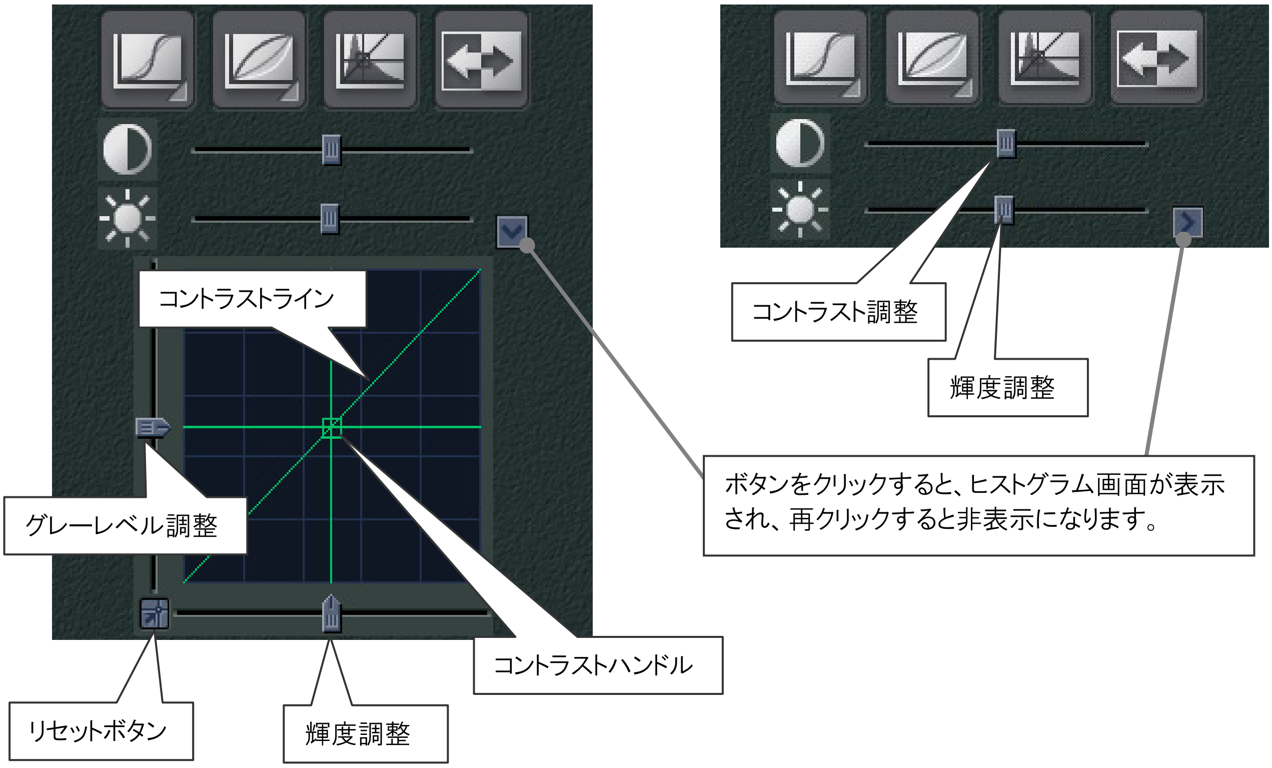
表示サイズを一致させたい場合は、各画像を、フィット で表示し、表示サイズを調整する必要があります。



6.7 輝度・コントラスト調整

画像処理項目：輝度・コントラスト調整

2D 画像の輝度調整、コントラスト調整、ガンマ補正などの輝度・コントラスト調整を行います。
調整された内容は保存することができます。
また、濃度値分布は、フィルタ処理などの画像処理を行う際の目安として利用できます。



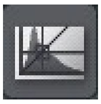
シグモイド

ディスプレイのコントラスト調整に支障が生じた場合に、有効となるコントラスト調整です。
詳細は、 p 93 [シグモイド] を参照してください。
※ コントラストが強調される傾向にあります。

ガンマフィルタ

ディスプレイの輝度調整に支障が生じた場合に、有効となる輝度調整を行います。
詳細は、p 93 [ガンマフィルタ] を参照してください。
※ ガンマ補正に基づき、輝度調整を行います。

自動濃度調整

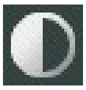


輝度とコントラストを自動的に調整します。
詳細は、p 94 [自動濃度調整] を参照してください。

色反転

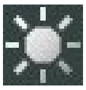
2D 画像の濃度を白黒反転させて表示します。

コントラスト調整



2D 画像のコントラスト調整を行います。　コントラスト調整用のスライダを左右に動かすか、ヒストグラム内のコントラストラインの傾きを変えて調整します。
詳細は、p 95 [コントラスト調整] を参照してください。

輝度調整



2D 画像の輝度調整を行います。　輝度調整用のスライダ、又は、ヒストグラム内の横軸スライダを左右に動かして調整します。
スライダを左に動かすほど、輝度が上がり、2D 画像全体が明るく表示されます。
詳細は、p 96 [輝度調整] を参照してください。
※　コントラストハンドルを左右にドラッグしても調整できます。
但し、ヒストグラム画面に表示される緑色の縦ラインをドラッグしても、調整できません。

ヒストグラム

2D 画像の濃度分布を示すヒストグラムが表示されます。　横軸は濃度値、縦軸はその濃度値を持つ画素の個数を示しています。（濃度値は 256 階調で表現されます。）
詳細は、 p 6【 1.4. 本取扱説明書上で使用される専門的な用語 】を参照してください。

グレーレベル調整:

2D 画像の濃度分布が集まる位置を調整します。
ヒストグラム内の縦軸スライダを上下に動かして調整します。
スライダを上へ動かすほど、濃度分布の位置が、濃度の高い部分に集まるように調整され、2D画像全体が白く表現されます。　詳細は、p 6【 1.4. 本取扱説明書上で使用される専門的な用語 】を参照してください。
※　コントラストハンドルを上下にドラッグしても調整できます。
但し、ヒストグラム画面に表示される緑色の横ラインをドラッグしても、調整できません。

コントラストハンドル:

グレーレベル調整、輝度調整を同時に行います。コントラストハンドルを動かして調整します。

リセット:

コントラスト調整、輝度調整、グレーレベル調整を行った内容がリセットされます。
リセットされると、コントラストハンドルは中央に戻り、コントラストラインの傾きは 45 度に戻ります。

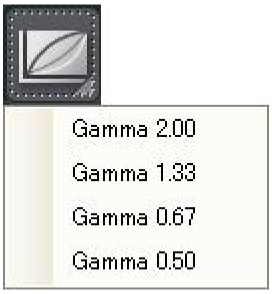
[シグモイド]

ディスプレイのコントラスト調整に支障が生じた場合に、有効となるコントラスト調整を行います。
p 75【 シャープネス 】のフィルタ処理を行ってもコントラストが改善しない場合、p 95 [コントラスト調整] を行ってもコントラストが改善しない場合などにも有効です。
ボタンをクリックして、実行したいコントラスト調整を選択します。
Sigmoid1 に比べて、Sigmoid2 は、コントラストがより強くなります。

選択中の項目を再選択すると、処理が解除できます。 ガンマフィルタと合わせて、処理は選択できません。

［ガンマフィルタ］

ディスプレイの輝度調整に支障が生じて、適切な輝度(明るさ)で、2D画像が表示できない場合、ガンマ補正によって、輝度調整を行います。 また、p 96［輝度調整］を行っても、適切な輝度(明るさ)で、2D画像が表示できない場合にも、ガンマ補正による輝度調整は有効です。
ボタンをクリックして、実行したいガンマ補正を選択します。



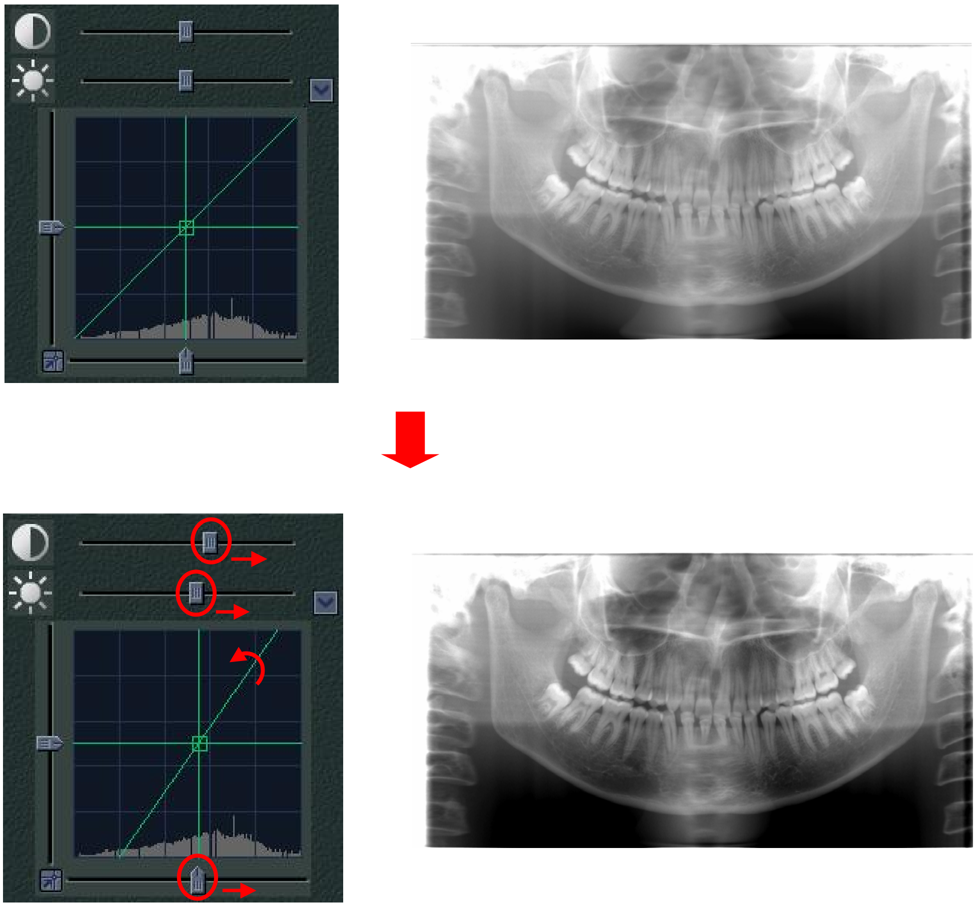
Gamma 2.00:	ガンマ値 2.00 でガンマ補正を行います。 Gamma1.33 でガンマ補正をおこなっても、適切な輝度(明るさ)で、2D 画像が表示できない場合に有効です。
Gamma 1.33	ガンマ値 1.33 でガンマ補正を行います。
Gamma 0.67	ガンマ値 0.67 でガンマ補正を行います。
Gamma 0.50	ガンマ値 0.50 で補正を行います。 Gamma0.67 でガンマ補正をおこなっても、適切な輝度(明るさ)で、2D 画像が表示できない場合に有効です。

※ ガンマ補正、ガンマ値の説明は、p6【 1.4. 本取扱説明書上で使用される専門的な用語 】を参照してください。
選択中の項目を再選択すると、処理が解除できます。 シグモイドと合わせて、処理は選択できません。

※ 弊社製のモダリティから取り込まれた 2D 画像は、適切なガンマ補正が施されているため、通常、ガンマ補正を必要としません。 ただし、TWAIN 機器から取り込まれた 2D 画像や、他メディアからインポートされた 2D 画像などには、ディスプレイの表示特性に応じたガンマ補正を必要とする場合があります。

[自動濃度調整]

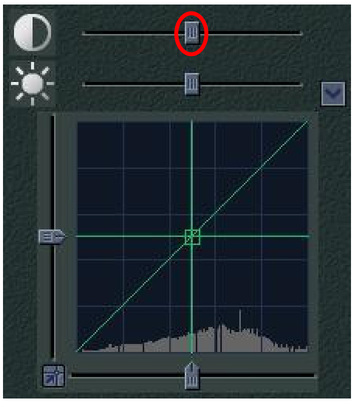
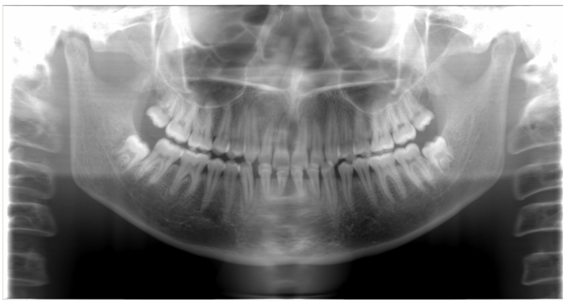
輝度とコントラストを自動的に調整します。
この機能を利用すると、良質な画質を簡単に得ることができます。



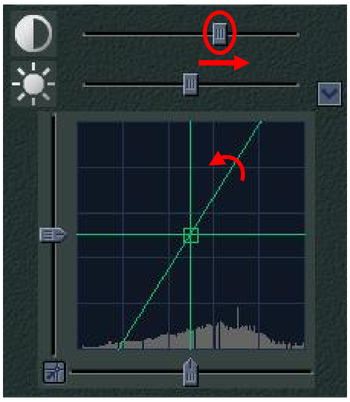
[コントラスト調整]

コントラスト調整用のスライダを左右に動かすか、ヒストグラム内のコントラストラインの傾きを変えて調整します。
コントラストを強くすると、2D 画像の白い部分はより白く、黒い部分はより黒く表現されます。 また、コントラストを弱くすると、画質が滑らかになる傾向にあります。

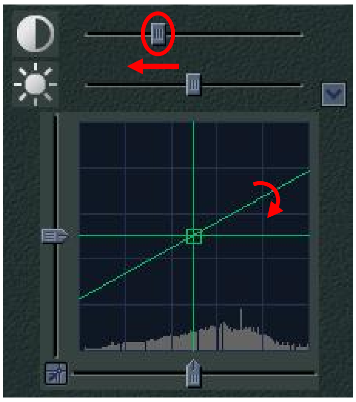
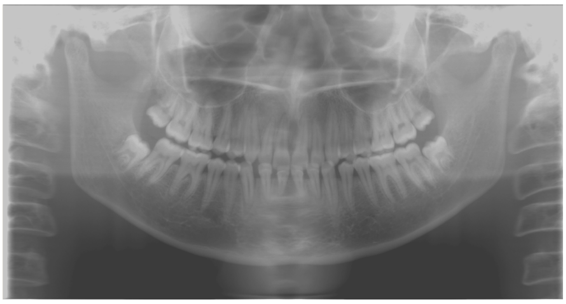
≪コントラストが標準の場合≫

≪コントラストを強くする場合≫



≪コントラストを弱くする場合≫

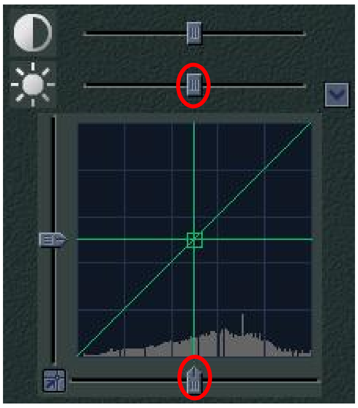



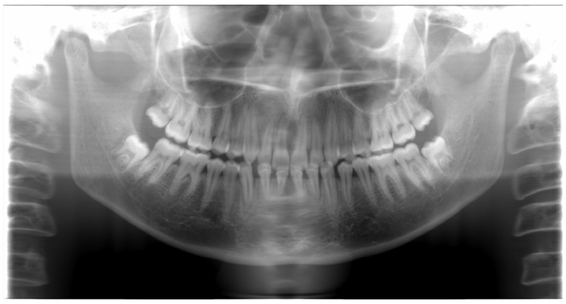
※ マウスポインタを 2D 画像上に移動し、右クリックしながらマウスを左右に移動することでも、コントラストが調整できます。マウスを右に移動するとコントラストは強くなり、左に移動するとコントラストは弱くなります。

[輝度調整]

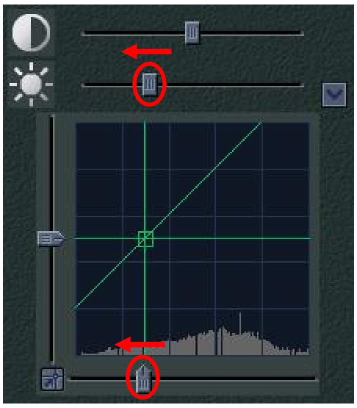
輝度調整用のスライダを左右に動かすか、ヒストグラム内の横軸スライダを左右に動かして調整します。
輝度を上げると 2D 画像の明度が上がり、輝度を下げると明度が下がります。

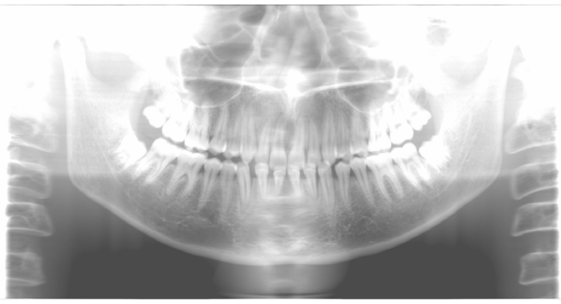
≪輝度が標準の場合≫



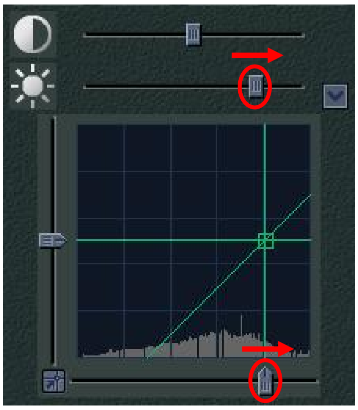


≪輝度を上げる場合≫





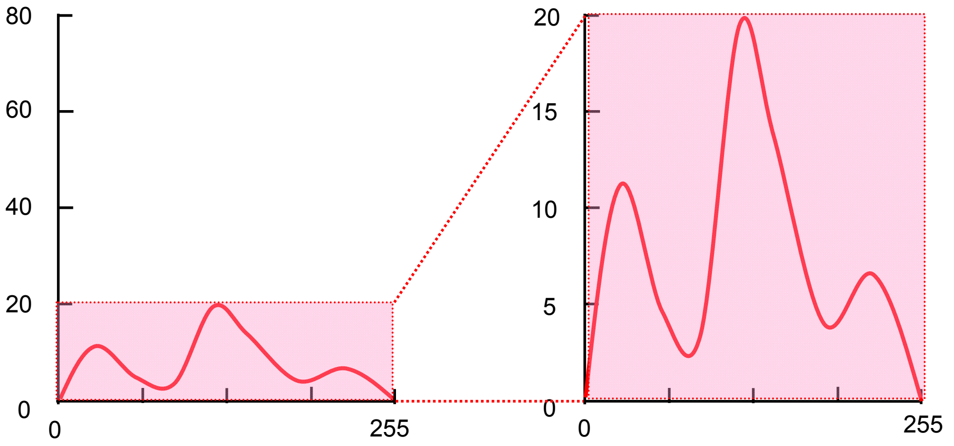
≪輝度を下げる場合≫



※　マウスポインタを 2D 画像上に移動し、右クリックしながらマウスを上下に移動することでも、輝度が調整できます。マウスを上に移動すると輝度は下がり、下に移動すると輝度は上がります。

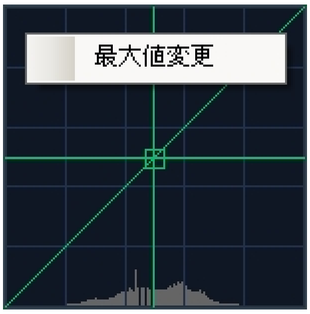
[ヒストグラムの縦軸スケールの変更]

ヒストグラムの縦軸スケールが変更できます。
以下に示す通り、ヒストグラムの縦軸スケールを変更すると、2D 画像における濃度値の分布状況が読み取りやすくなります。



※ 2D 画像は、256 階調であるため、横軸のスケールは 0～255 となります。
横軸のスケールは変更できません。

1. ヒストグラム画面上を右クリックし、最大値変更を選択します。

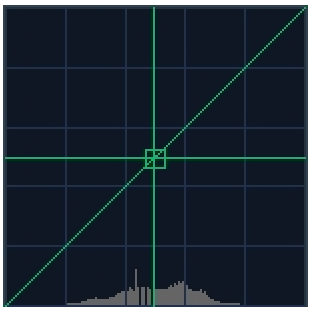


2. ダイアログが表示されます。 0 以上を設定します。

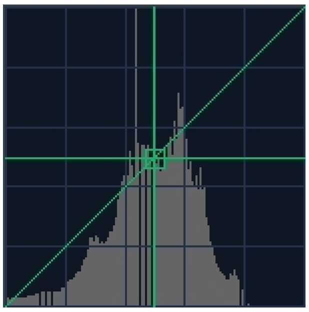
※ 0 を設定すると、縦軸スケールは、変更前の状態になります。

3. 縦軸スケールが変更されます。

変更前

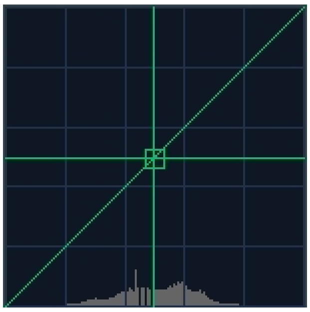


変更後

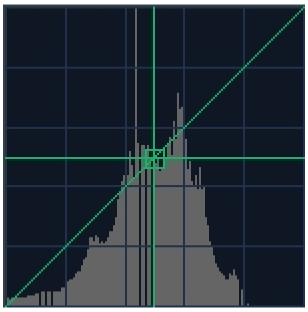


ダイアログに設定する値によって、縦軸スケールが変更できます。

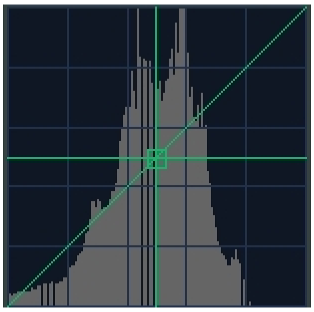
0 に設定



1 に設定

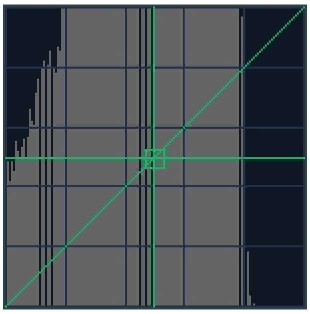


5 に設定



ダイアログに設定する値を大きくしすぎると、分布状況が読み取りにくくなります。

120 に設定



6.8 測定・オーバレイ：画像を測定する

画像処理項目：測定・オーバーレイ

2D 画像上での距離・角度・濃度測定、距離測定値の校正及び、2D 画像上への図形・文字の描画を行います。ボタンをクリックすると実行され、調整された内容は保存することができます。

ボタンをクリックすると、2D 画像の最小・最大・平均濃度値、濃度値の標準偏差が表示され、再クリックすると非表示になります。
※ 比較表示されている場合は、現在選択されている 2D 画像の最小・最大・平均濃度値、濃度値の標準偏差が表示されます。

オブジェクトの選択

2D 画像で編集中のオブジェクトを、選択します。
測定・オーバーレイ項目における、各種機能の選択を解除します。
* テキスト(文字) など、再編集できるオブジェクトは、2D画像保存後も選択できます。 詳細は、p 101 【 フリーハンド曲線、直線、矩形、楕円、多角形、矢印の再編集・削除 】を参照してください。

オブジェクトの削除

2D 画像上に表示されているオブジェクト（測定結果）を削除します。
詳細は、p 106 [オブジェクト（測定結果）の削除] を参照してください。

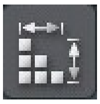
距離測定

距離を測定します。
詳細は、p102 [距離測定] を参照してください。

角度測定

角度を測定します。
詳細は、p 104 [角度測定] を参照してください。

校正



2D 画像のピクセルサイズ・拡大率を設定し、距離測定結果の校正を行います。
詳細は、p 103 [距離測定結果の校正] を参照してください。
※ ピクセルサイズと拡大率が設定されていない 2D 画像の距離測定を行う場合は、測定結果を算出するため、ピクセルサイズと拡大率を設定しておく必要があります。

テキスト

文字を追加します。
詳細は、p 114 [テキスト] を参照してください。

シンボル

シンボルデータを追加します。
詳細は、p 118 [シンボルデータ] を参照してください。
※シンボルデータ:パノラマ画像に追加する RL 文字、エリアコード、スケールのことを指します。

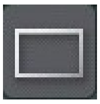
アノテーションの表示/非表示

画像に描画されている文字・図形の表示と非表示を切り替えます。
詳細は、p 120 [アノテーションの表示/非表示] を参照してください。

フリーハンド曲線描画

フリーハンドで曲線を描きます。

矩形描画



矩形を描きます。

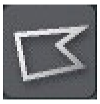
楕円描画

楕円を描きます。

直線描画

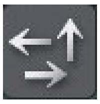
直線を描きます。

多角形描画



多角形を描きます。

矢印描画



矢印を描きます。

ラインプロファイル測定

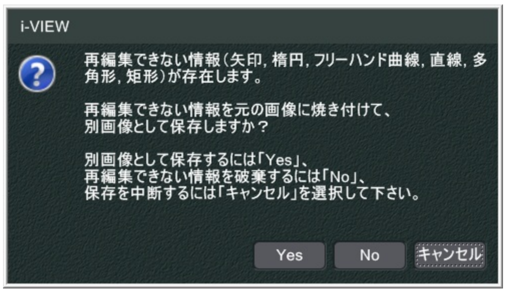
2D 画像にラインを引き、ライン上の濃度値を測定します。
詳細は、p 112 [ラインプロファイル測定] を参照してください。

エリアプロファイル測定

2D 画像にエリアを描画し、エリア内の最小・最大・平均濃度値、濃度値の標準偏差を測定します。
詳細は、p 113 [エリアプロファイル測定] を参照してください。

フリーハンド曲線、直線、矩形、楕円、多角形、矢印の再編集・削除

フリーハンド曲線、直線、矩形、楕円、多角形、矢印が描画された画像を保存すると、画像に焼き付けられ(上書きされ)、別画像として保存されます。
画像に焼き付けられた(上書きされた)、フリーハンド曲線、直線、矩形、楕円、多角形、矢印は、再編集、削除ができません。
これらを描画した画像を保存する前に、以下のダイアログを、表示する様に設定できます。



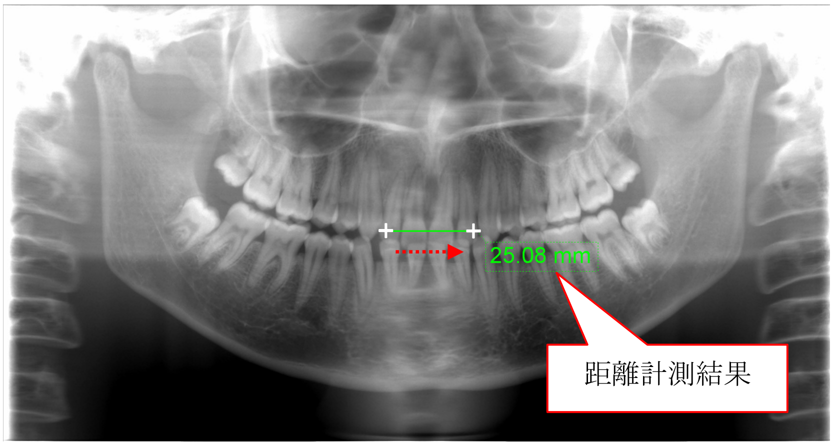
このダイアログで、画像の保存方法が選択できます。
詳細は、p 210【 12.1. 全般タブ ④画像情報の保存設定について： 】を参照してください。

※ 直線・角度・ラインプロファイル・エリアプロファイル測定の際に描画された線、矩形、及び、テキスト(文字)、シンボルデータのオブジェクトは、画像保存後も再編集、削除ができます。

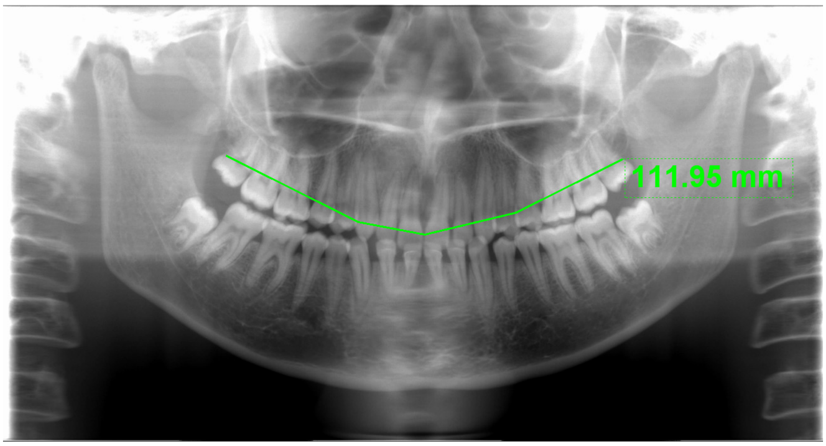
[距離測定]

1. 距離測定ボタンをクリックして、距離測定開始位置にポインタを移動させます。

2. 最初にクリックした位置が距離測定開始点となり、距離測定を終了させたい位置でダブルクリックすると、距離測定結果が表示されます。

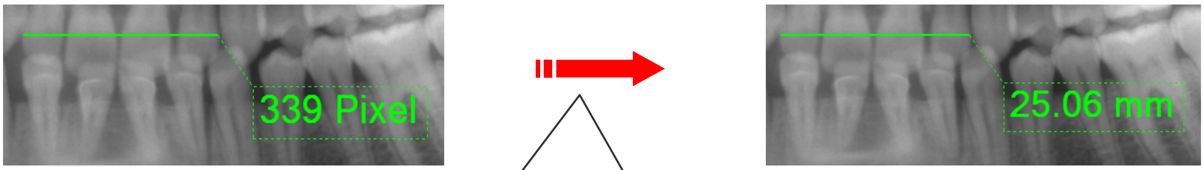


※ 距離測定開始点をクリックしたあと、左クリックして点を打ち、折れ線でつないで距離測定を行うこともできます。



[距離測定結果の校正]

インポートされた 2D 画像、ScanX から取り込まれた 2D 画像など、解像度(ピクセルサイズ)と拡大率が不定である画像の距離計測を行った場合、距離計測結果がピクセル数で表示されます。 距離計測を行う 2D 画像に対し、予め、解像度(ピクセルサイズ)と拡大率を設定しておくことで、実測値に近い距離計測結果を得ることができます。



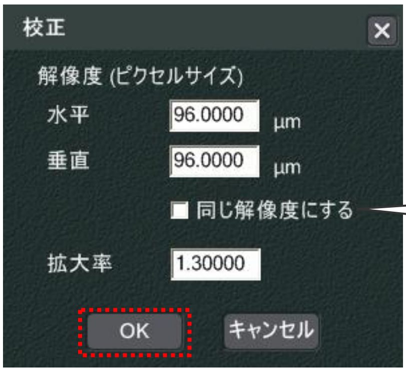
解像度(ピクセルサイズ)と拡大率を設定します。
※次ページ参照

万一、距離計測結果が、実測値と懸け離れていた場合でも、実際の解像度(ピクセルサイズ)と拡大率を設定することで、実測値に近い距離測定結果に校正されます。

※解像度(ピクセルサイズ)・拡大率は、撮影された機種によって設定値が異なります。 誤った値が設定されると、正しい距離測定結果が得られませんのでご注意ください。

[解像度(ピクセルサイズ)と拡大率の設定方法]

校正ボタン をクリックすると、解像度(ピクセルサイズ)と拡大率の設定用ダイアログが表示されます。 水平方向、垂直方向のピクセルサイズ、および、拡大率を入力し、OK ボタンで決定します。



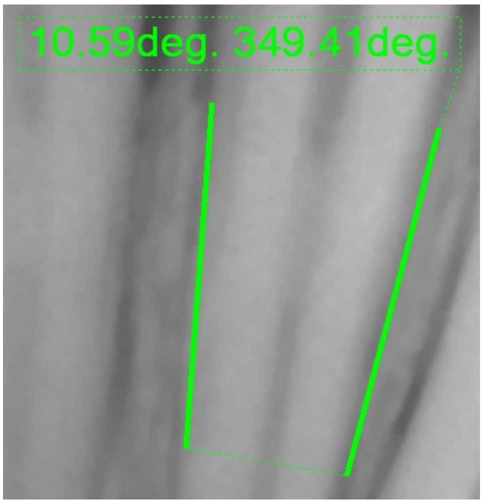
※[同じ解像度にする]にチェックを入れると、水平方向と垂直方向の解像度(ピクセルサイズ)を同一値に設定できます。

[距離による校正]

距離計測結果がピクセル数で表示された距離測定結果を選択し、校正ボタン をクリックすると、距離による校正ダイアログが表示されます。選択された距離測定結果に対する距離を入力し、OK ボタンをクリックすることで、距離測定結果が校正されます。

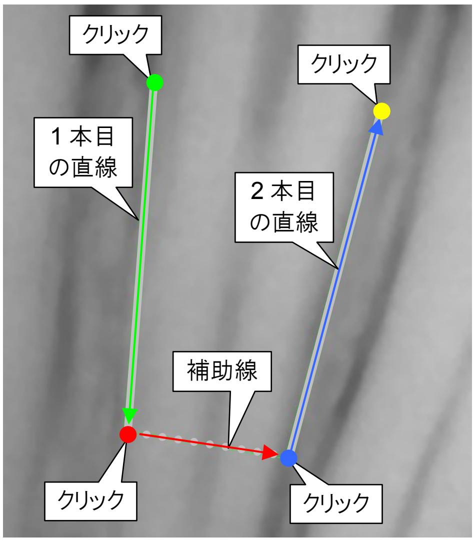
[角度測定]

2 本の直線と一本の補助線を引くことで、角度が測定できます。

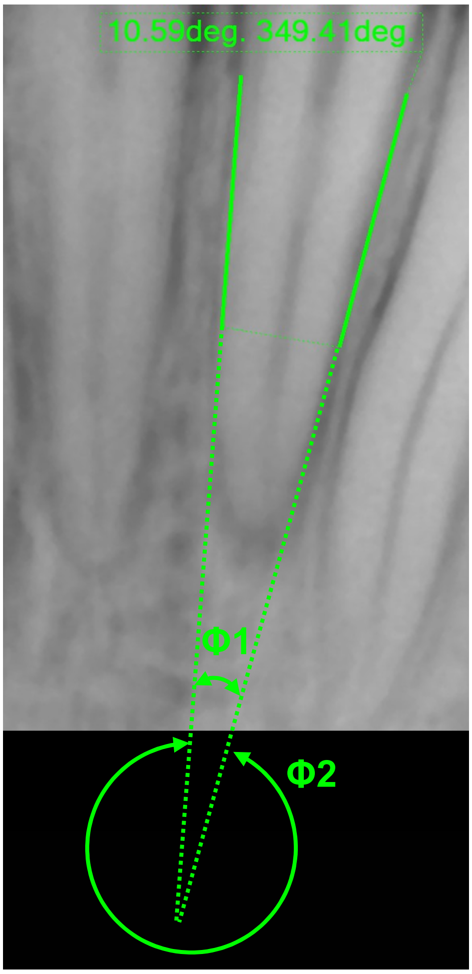


1. 角度測定ボタンをクリックします。

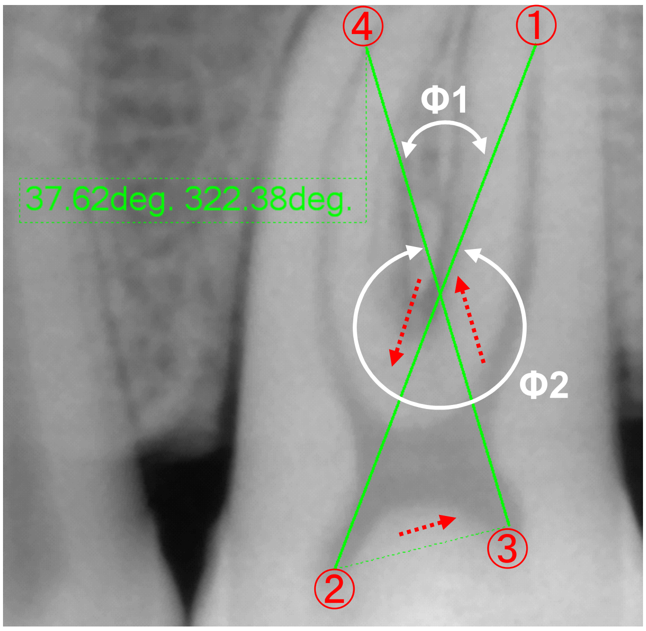
2. 1 本目の直線を引き始める位置をクリックします。
   1 本目の直線を引き、クリックします。 クリックした位置が、補助線を引き始める位置となります。
   補助線を引き、クリックします。 クリックした位置が、2 本目の直線を引き始める位置となります。
   2 本目の直線を引き、クリックします。



3.　図中の “Φ1“ 、” Φ2 ” で示される角度が、測定結果として表示されます。



以下に示す通り、2 本の直線が交差されるように、直線を引くことでも、角度が測定できます。
角度測定開始位置(第 1 点目)から順に、第 2 点目、第 3 点目をクリックし、角度測定終了位置(第 4 点目)をクリックすると、“Φ1” , “Φ2” で示される角度が、測定結果として表示されます。

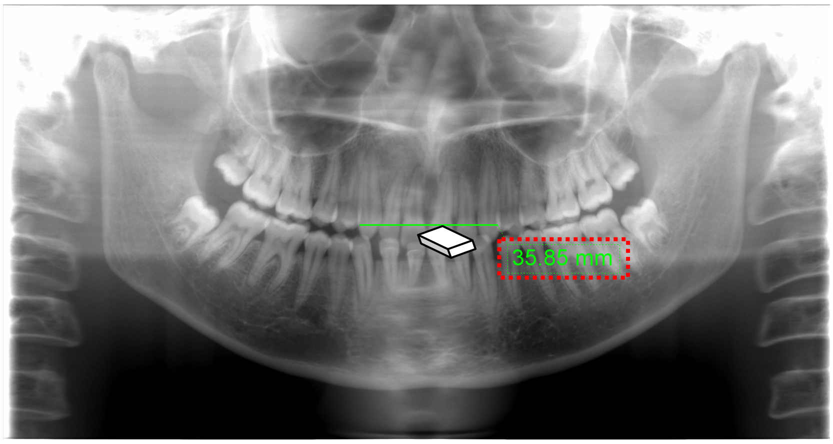


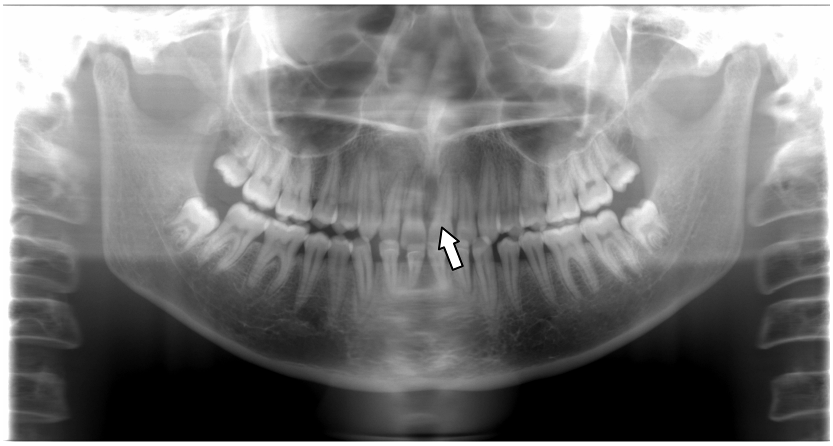
[オブジェクト(測定結果)の削除]

2D 画像上に表示されているオブジェクト(測定結果)を削除します。

1. オブジェクトの削除ボタンをクリックします。

2. 削除したいオブジェクト(測定結果)を選択し、クリックすると削除されます。



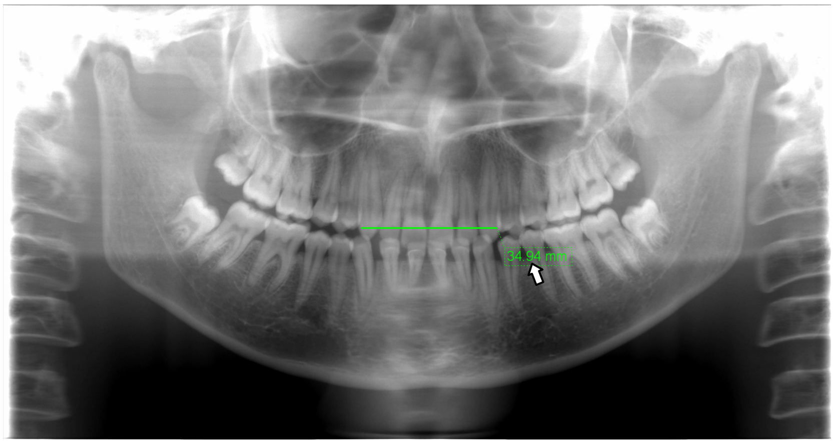


［測定結果のプロパティ変更］

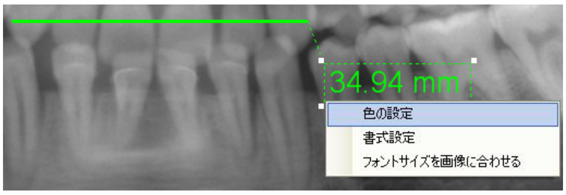
2D 画像上に表示される、測定結果のライン・文字の色、ライン幅、フォントを変更することができます。

≪ライン・文字の色を変更する≫

1. オブジェクトの選択ボタン をクリックし、変更したいライン、又は、文字にポインタを移動させます。

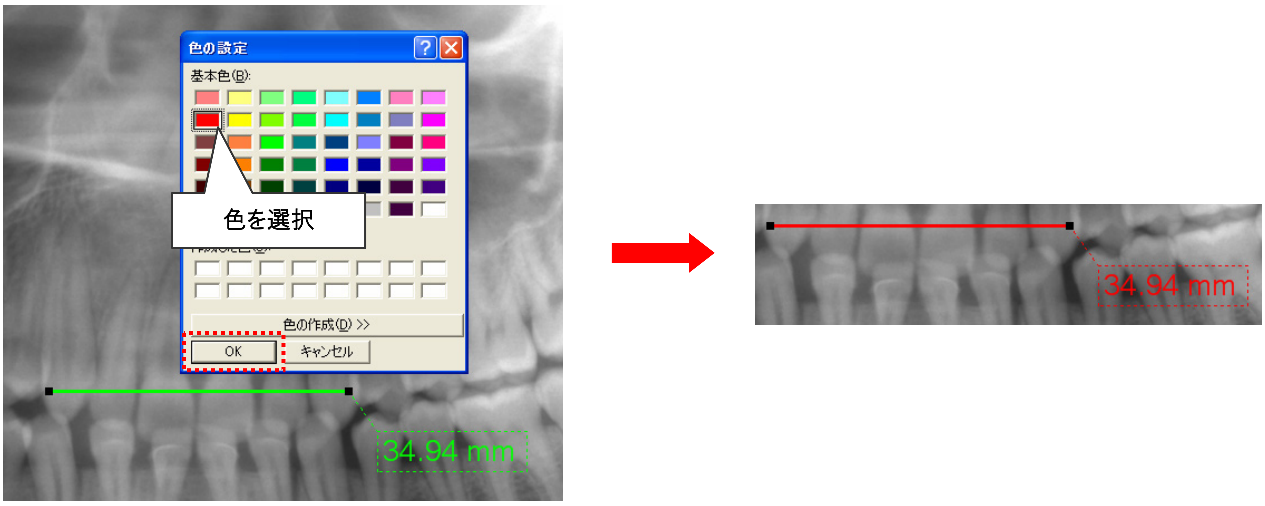


2. 右クリックして、［色の設定］を選択します。



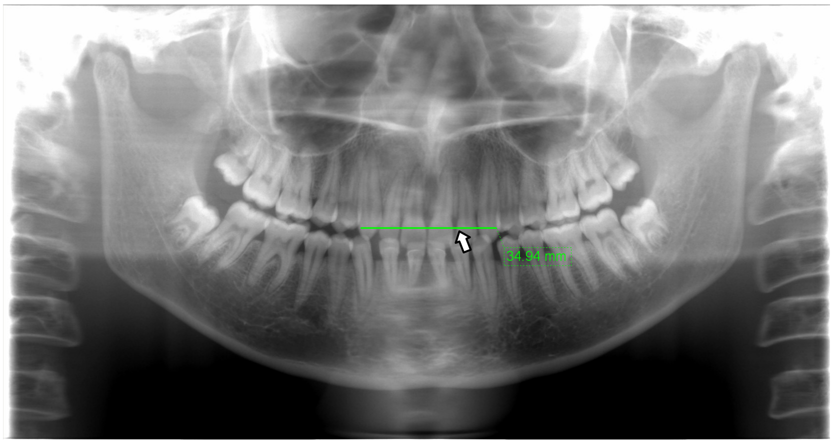
3. 色の設定ダイアログが表示されます。 変更したい色を選択し、OK ボタンをクリックすると、変更されます。

※ 基本色以外の色に変更したい場合は、［色の作成］ボタンをクリックして色を作成してください。

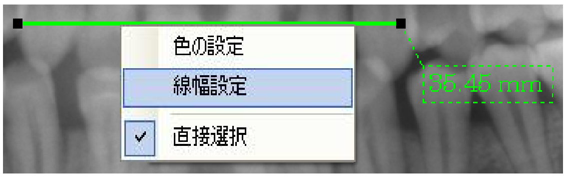


≪ライン幅を変更する≫

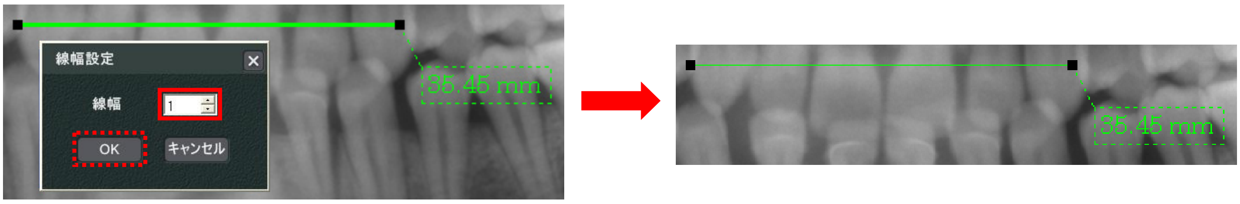
1. オブジェクトの選択ボタン をクリックし、変更したいラインの上にポインタを移動させます。



2. 右クリックして、[線幅設定]を選択します。

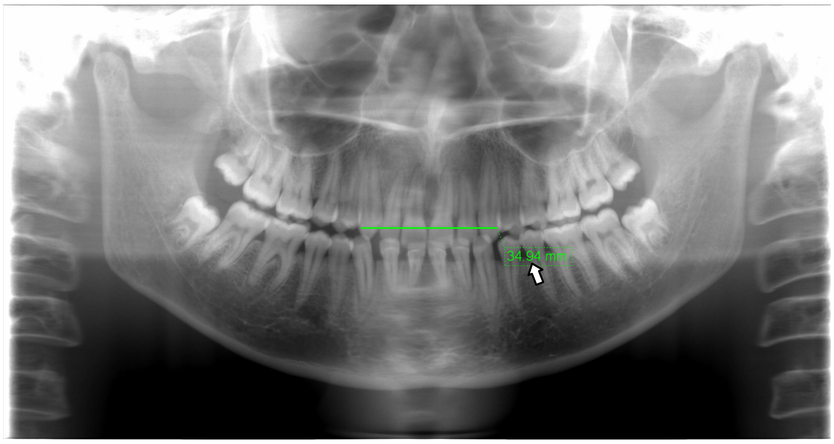


3. 線幅の設定ウィンドウが表示されます。 変更したいライン幅を設定し、OK ボタンをクリックすると、変更されます。

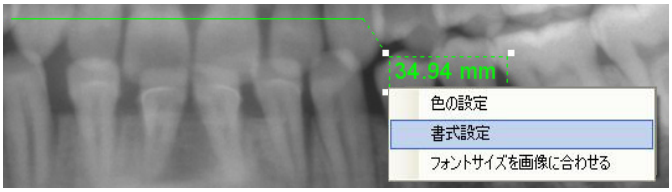


≪フォントを変更する≫

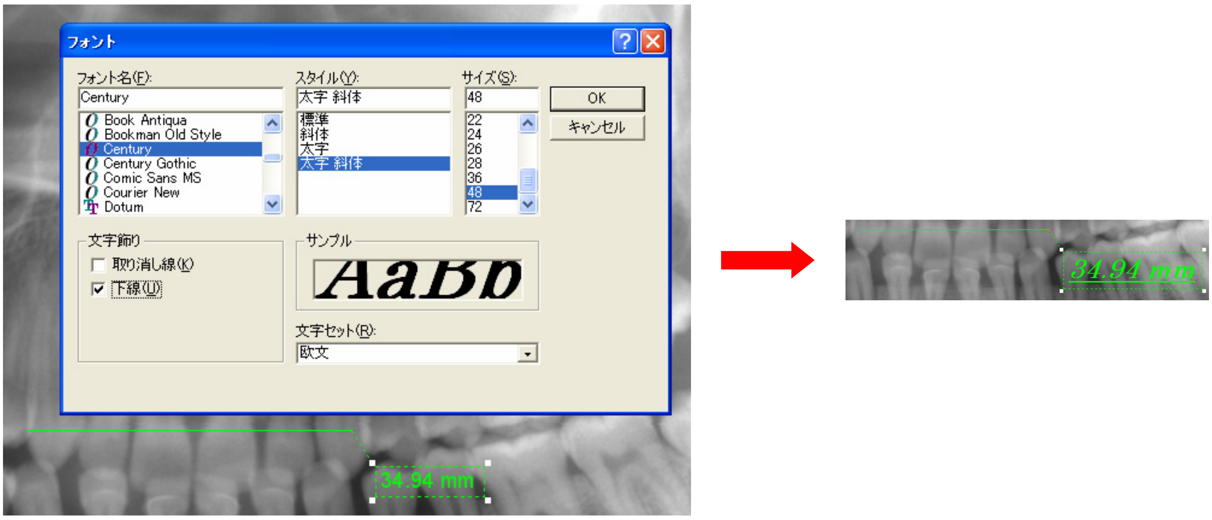
1. オブジェクトの選択ボタン をクリックし、変更したい文字にポインタを移動させます。



2. 右クリックして、[書式設定]を選択します。



3. フォントダイアログが表示されます。 フォント、スタイル、サイズ、文字飾りを設定し、OK ボタンをクリックすると、変更されます。



⚠ 注意

- 日本語に対応していない文字フォントが選択された場合、[文字セット]の設定値は自動的に日本語以外の設定値になります。 日本語に対応した文字フォントに設定しても、[文字セット]の設定値が日本語以外の設定値のままだと、文字が正しく表示されないことがあります。 正しく表示されない 場合は、[文字セット]の設定値を確認してください。

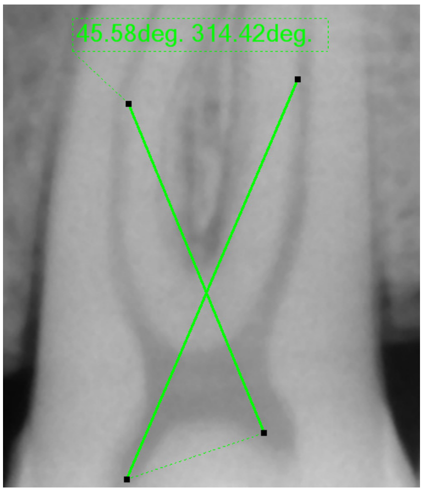
[測定オブジェクトの配置位置、長さの変更]

2D 画像上に描画されたオブジェクト(測定結果)の配置位置、長さを変更することができ、測定結果がそれに応じて変更されます。

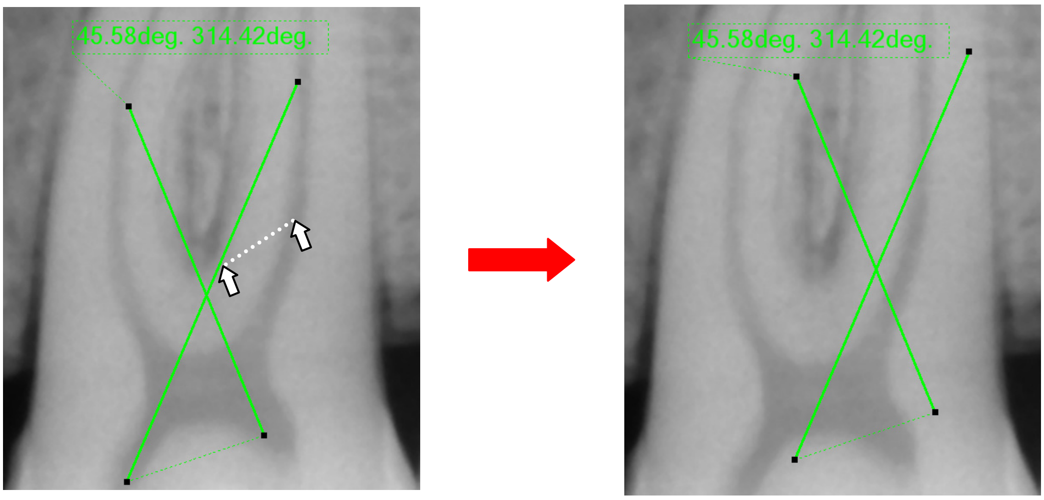
≪配置位置を変更する≫

1. オブジェクトの選択ボタン をクリックし、変更したいオブジェクトにポインタを移動させ、左クリックします。

2. オブジェクトが追加された際の始点、中間点、終点に黒色の端点が表示されます。



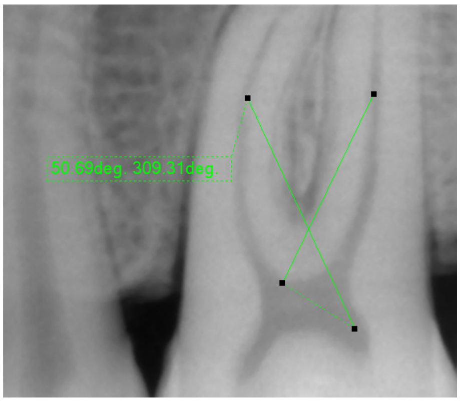
3. オブジェクトをドラッグしてポインタを移動させると、それに応じて、オブジェクトの配置位置が変更されます。



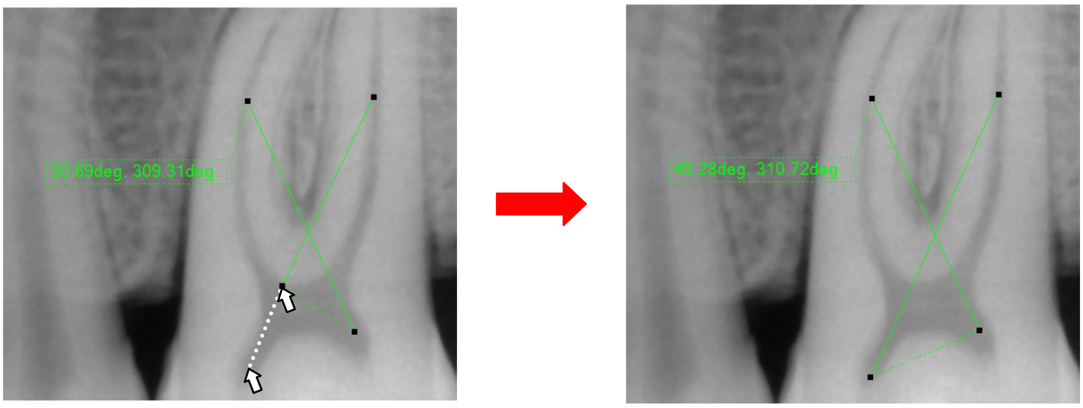
≪長さを変更する≫

1. オブジェクトの選択ボタン をクリックし、変更したいオブジェクトにポインタを移動させ、右クリックします。

2. オブジェクトが追加された際の始点、中間点、終点に黒色の端点が表示されます。



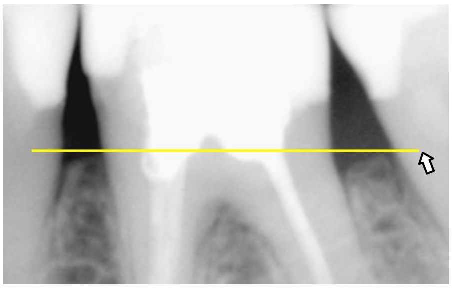
3. 黒色の端点をドラッグしてポインタを移動させると、それに応じて、測定オブジェクトの長さが変更されます。



[ラインプロファイル測定]

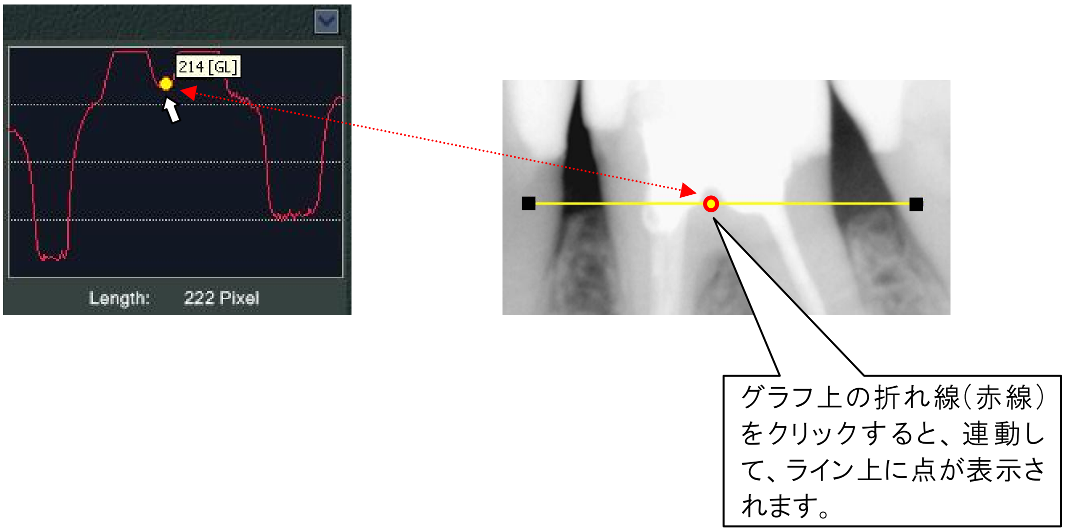
2D 画像の濃度値が測定できます。測定結果は、グラフで表示されます。
また、測定結果は、数値でも表示できます。

1. ラインプロファイルボタン をクリックし、濃度値を測定したい位置にラインを引きます。クリックするとラインが決定されます。



2. 測定したラインをクリックすると、濃度値がグラフで表示されます。

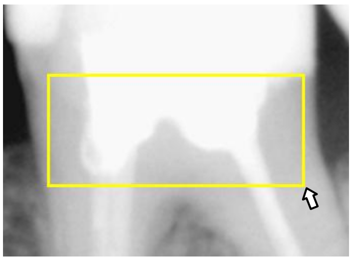
また、ライン上の濃度値を数値で確認したい場合、グラフ上の折れ線(赤線)上をクリックし、濃度値を確認したい位置にマウスポインタを近づけると、数値が表示されます。



[エリアプロファイル測定]

2D 画像における特定エリア内の、最小・最大・平均濃度値、濃度値の標準偏差が測定できます。

1. エリアプロファイルボタン をクリックし、最小・最大・平均濃度値、濃度値の標準偏差を測定したい箇所に、エリアを描画します。クリックするとエリアが決定されます。



2. 測定したいエリアをクリックすると、エリア内の最小・最大・平均濃度値、濃度値の標準偏差が表示されます。

6.9 測定･オーバレイ:画像に文字を追加する

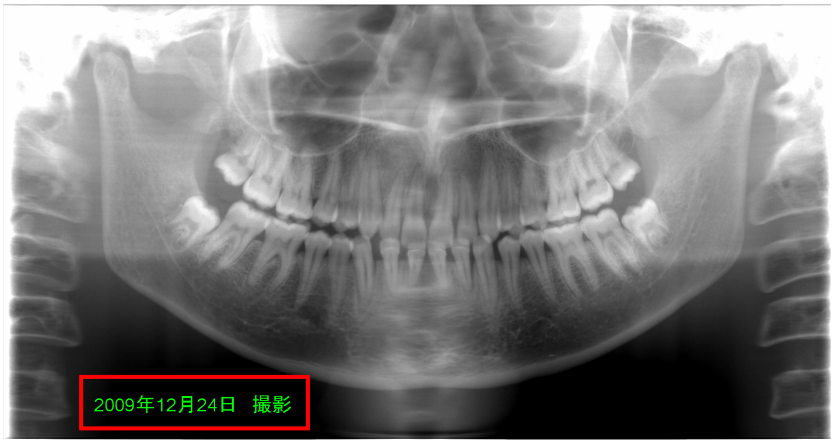
画像処理項目:測定･オーバーレイ

[テキスト]

2D 画像上に、テキストを追加できます。

1. テキストボタンをクリックします。

2. 文字を追加したい位置でクリックすると、文字の入力･編集のウィンドウが表示されます。
   追加したい文字列を入力し、OK ボタンをクリックすると追加されます。



※文字列の改行は、Enter キーを押すことで可能です。
※追加文字列のフォント、色、透明度は変更することができます。 また、文字列の再編集が可能です。

[追加文字列のプロパティ変更]

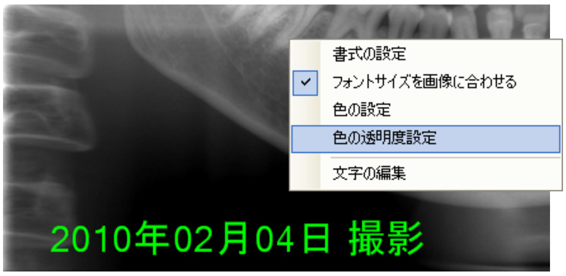
≪文字列のフォント、色を変更する≫

※[計測結果のプロパティ変更(107ページ~)]の手順を参照してください。

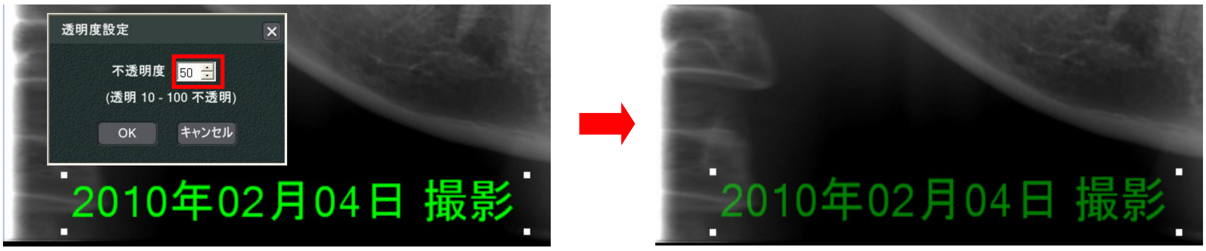
≪文字列の透明度を変更する≫

1. オブジェクトの選択ボタン をクリックし、変更したい文字列にポインタを移動させます。

2. 右クリックして、[色の透明度設定]を選択します。



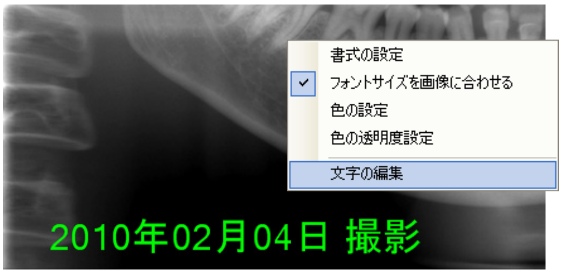
3. ダイアログが表示されます。 変更したい透明度を設定し、OK ボタンをクリックすると、変更されます。 透明度の値を小さく設定するほど、透明度が増します。



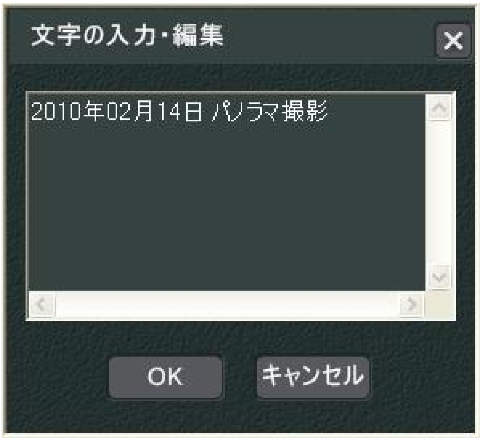
［文字列の再編集］

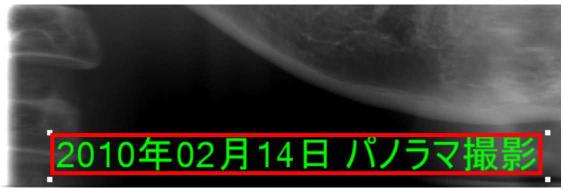
1. オブジェクトの選択ボタン をクリックし、変更したい文字列にポインタを移動させます。

2. 右クリックして、［文字の編集］を選択します。



3. 文字の入力・編集のウィンドウが表示されます。 文字列を入力し、OK ボタンをクリックすると変更されます。



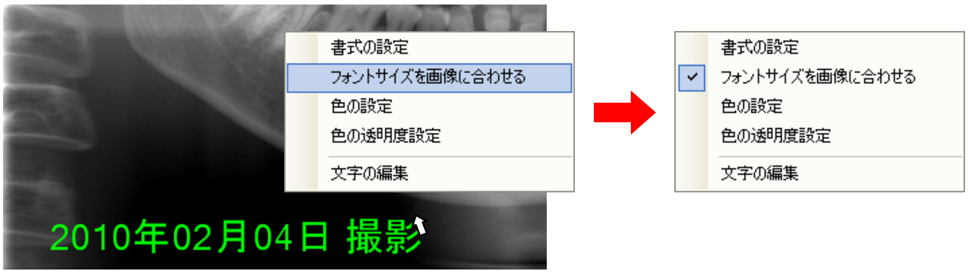


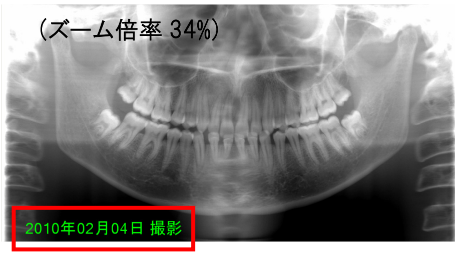
[フォントサイズを画像に合わせる]

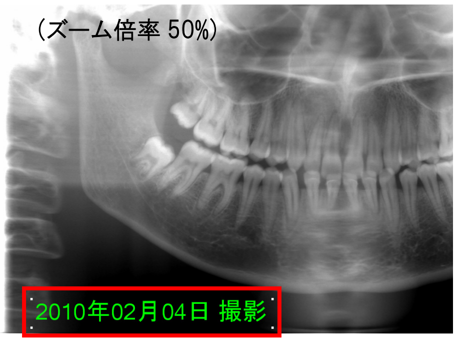
文字列のサイズをズーム倍率に合わせて表示させることができます。

1. オブジェクトの選択ボタン をクリックし、変更したい文字列にポインタを移動させます。

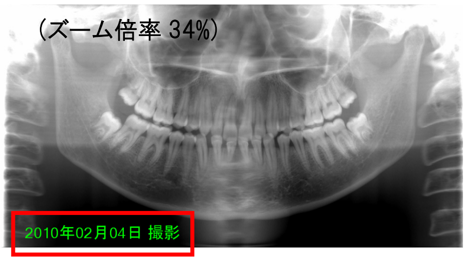
2. 右クリックして、[フォントサイズを画像に合わせる]を選択し、チェックを入れます。
   文字列のサイズがズーム倍率に合わせて表示されます。

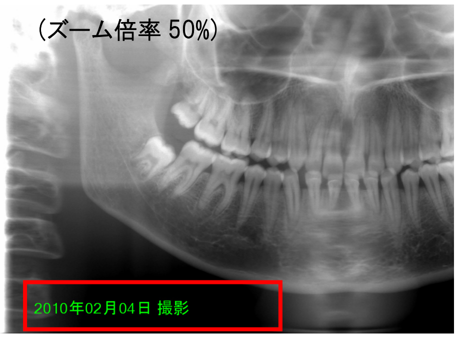






3. 再クリックするとチェックが外れます。
   文字列のサイズはズーム倍率に関係なく一定のサイズで表示されます。





[シンボルデータ]

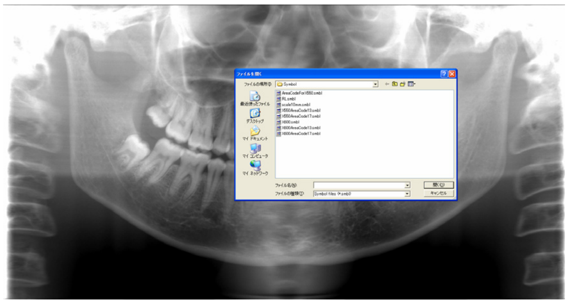
2D 画像上に、シンボルデータを追加できます。
シンボルデータとして、RL 文字、エリアコード、及びスケールが用意されています。

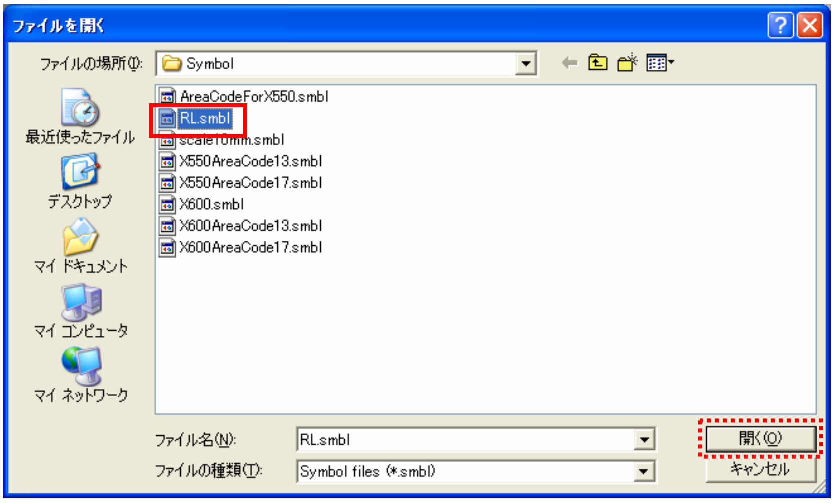
※ピクセルサイズと拡大率が設定されていない 2D画像にシンボルデータを追加する場合は、測定結果を算出するため、ピクセルサイズと拡大率を設定しておく必要があります。
設定されていない場合は、[解像度(ピクセルサイズ)と拡大率の設定方法(103ページ)]の手順を参照し、設定してください。

≪例:RL 文字のシンボルデータを追加する≫

1. シンボルボタンをクリックします。

2. シンボルデータを追加したい位置でクリックすると、[ファイルを開く]ダイアログが表示されます。
RL.smbl ファイルを選択し、[開く]をクリックします。



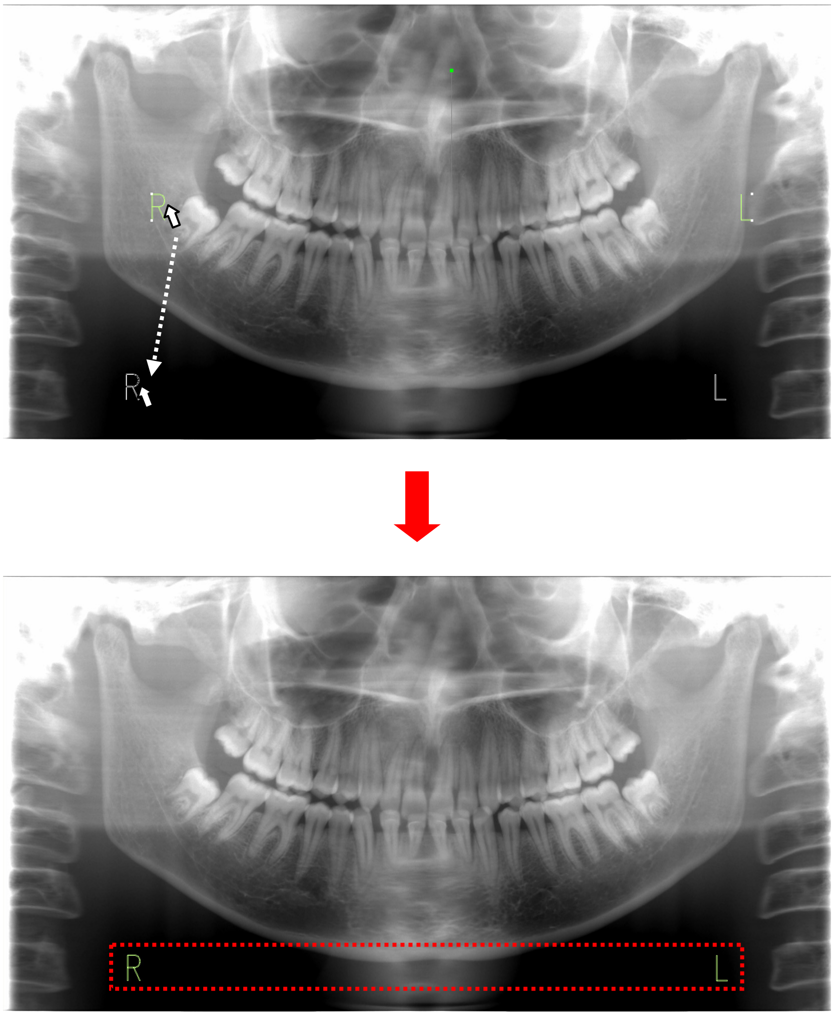


※シンボルデータ(*.smbl)として、以下のファイルが用意されています。

ファイル名:	内容
X550AreaCode13.smbl:	Veraviewepocs で撮影された、標準パノラマ 1.3 倍のパノラマ画像向けに用意されたエリアコードです。
X550AreaCode17.smbl:	Veraviewepocs で撮影された、拡大パノラマ 1.7 倍のパノラマ画像向けに用意されたエリアコードです。
X600AreaCode13.smbl:	Veraviewscope で撮影された、標準パノラマ 1.3 倍のパノラマ画像向けに用意されたエリアコードです。
X600AreaCode17.smbl:	Veraviewscope で撮影された、拡大パノラマ 1.7 倍のパノラマ画像向けに用意されたエリアコードです。
AreaCodeForX550.smbl:	フィルム撮影したパノラマ画像、他社製の IP システムのパノラマ画像、他の媒体よりインポートされたパノラマ画像向けに用意されたエリアコードです。
X600.smbl:	フィルム撮影したパノラマ画像、他社製の IP システムのパノラマ画像、他の媒体よりインポートされたパノラマ画像向けに用意されたエリアコードです。
RL.smbl:	パノラマ画像向けに用意された RL 文字です。
scale10mm.smbl:	10mm スケールの確認を可能とするために用意されたスケールです。

※ AreaCodeForX550.smbl:、X600.smbl:は、フィルム面上の横幅を 300mm として用意されたシンボルデータです。これらのシンボルデータ:を追加する場合は、拡大率は「1.0」とした上で、必ず解像度、拡大率の校正を行ってください。

3. RL 文字のシンボルデータが追加されます。 追加されたシンボルデータはドラッグ＆ドロップして移動させることができます。

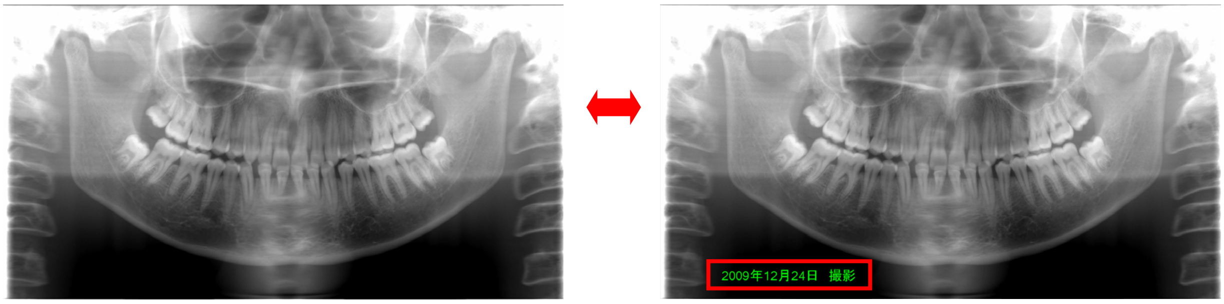


[アノテーションの表示/非表示]

オブジェクト(距離・角度計測結果、文字、シンボル)の表示と非表示を切り替えます。

1. オブジェクトが追加されている 2D 画像を選択中に、アノテーションの表示/非表示ボタンをクリックします。

2. オブジェクトが非表示になり、この間は、[校正]、[アノテーションの表示/非表示]以外のボタンを押しても無効です。
   また、アノテーションの表示/非表示ボタンを再クリックするとオブジェクトが再表示されます。



6.10 付帯情報：付帯情報を確認する

画像処理項目；付帯情報

付帯情報をクリックすると、画像の付帯情報が表示されます。
表示される付帯情報として、画像撮影時の設定内容(撮影条件)、解像度(ピクセルサイズ)などがあります。
画面表示されている画像の解像度を、確認したい場合などに有効です。
付帯情報の無い場合は、付帯情報は表示されません。　なお、付帯情報を編集することはできません。
表示される付帯情報は、画像撮影した撮影装置の機種、撮影画像の種類によって異なります。

付帯情報の詳細は、p 6【 1.4. 本取扱説明書上で使用される専門的な用語 】を参照してください。

6.11 コメント：コメントを確認する

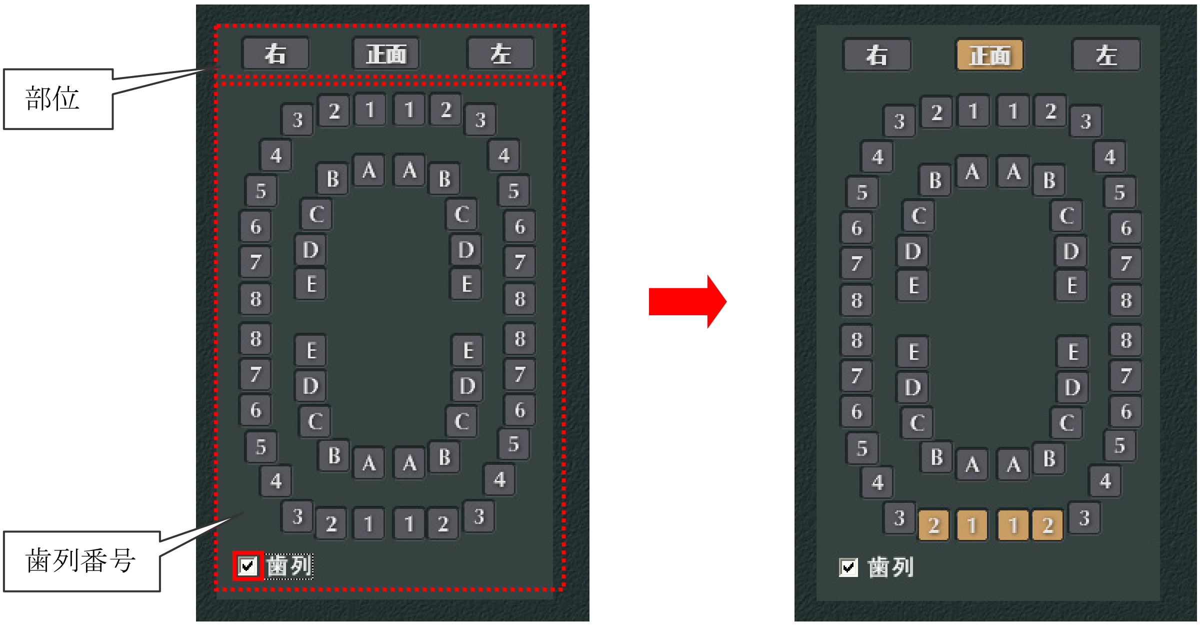
画像処理項目；コメント

2D ビューワで選択中の 2D 画像に追加されたコメントが表示されます。
コメントは再編集することができ、編集された内容は保存することができます。

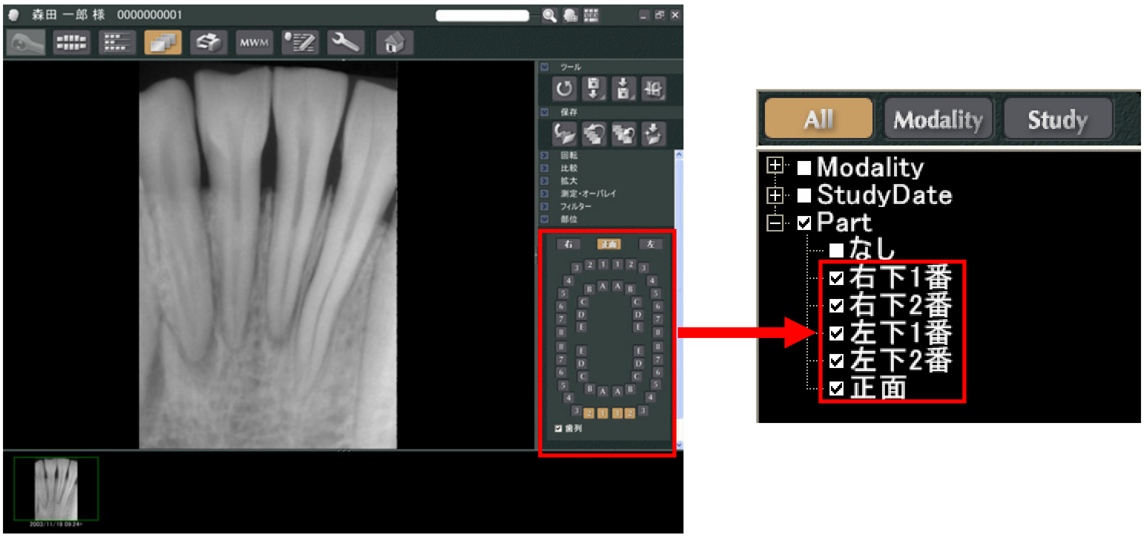
6.12　部位：画像に部位と歯列番号を設定する

画像処理項目；部位

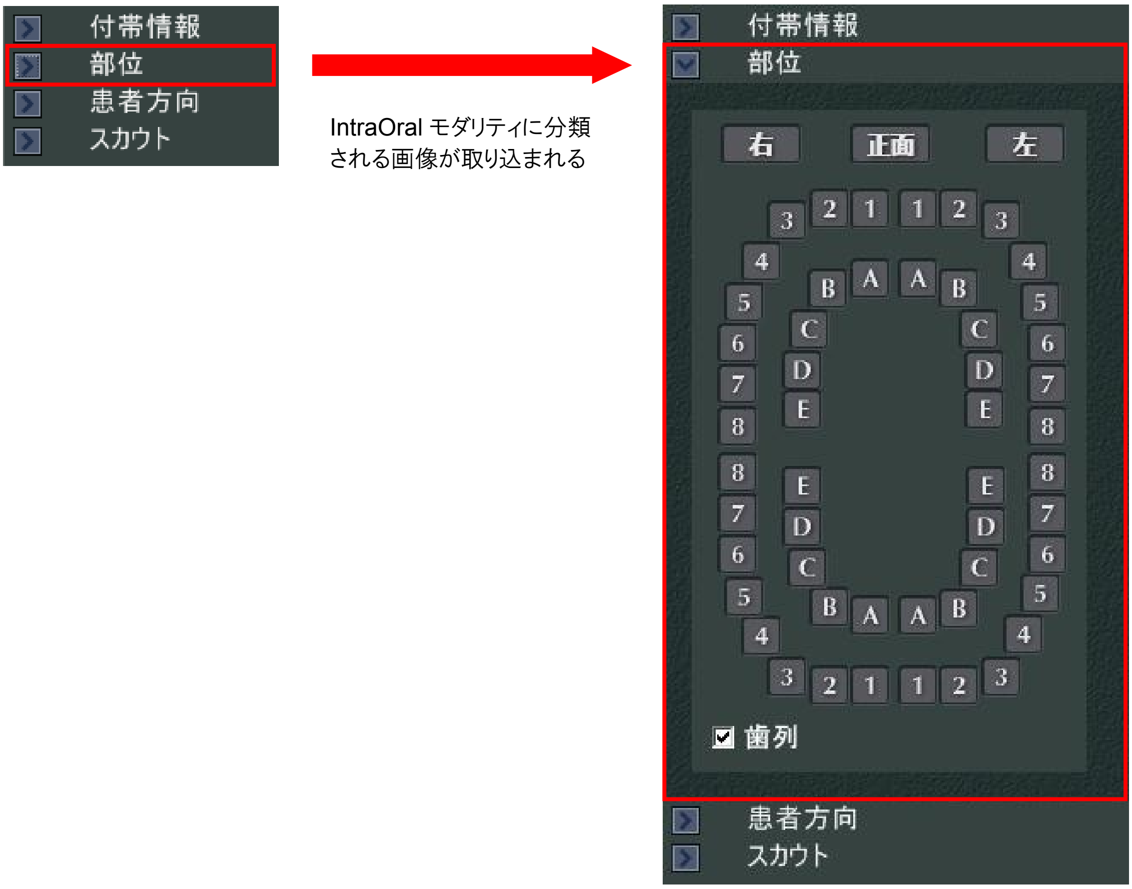
2D ビューワで選択中の 2D 画像に、部位を設定します。　[歯列]にチェックを入れると、歯列番号を設定できます。
また、設定した内容を保存することができます。
設定したい箇所をクリックして、部位と歯列番号の設定を行います。　設定を行った箇所は、オレンジ色で反転表示されます。



保存された内容は、画像一覧画面の Part ツリー階層にも反映されますので、設定された部位と歯列番号で画像の絞込みを行うことができます。



※　IntraOral モダリティに分類される画像が取り込まれる時、ツールパネルに「部位」の項目のみが表示されていた場合、部位、歯列番号を設定する画面が、自動的に表示されるように設定できます。
設定は、設定・メンテナンスで行います。　詳細は、p 217【　12.5. 画面タブ　】を参照してください。

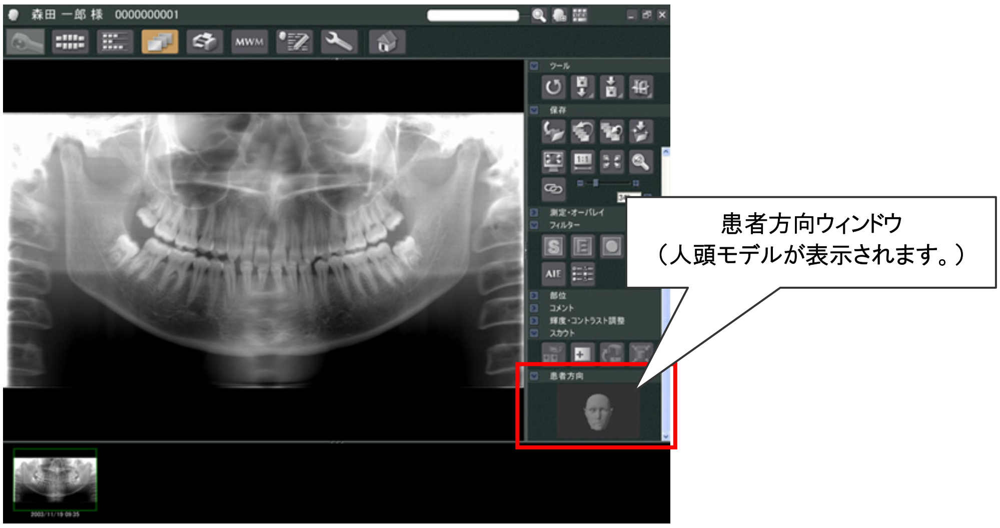


※　p126【　7. 画像配置　】に従って、画像配置テンプレートに画像を配置した場合は、自動的に部位が設定されます。　その設定内容も画像一覧画面のPartツリー階層にも反映されますので、設定された部位と歯列番号で画像の絞込みを行うことができます。

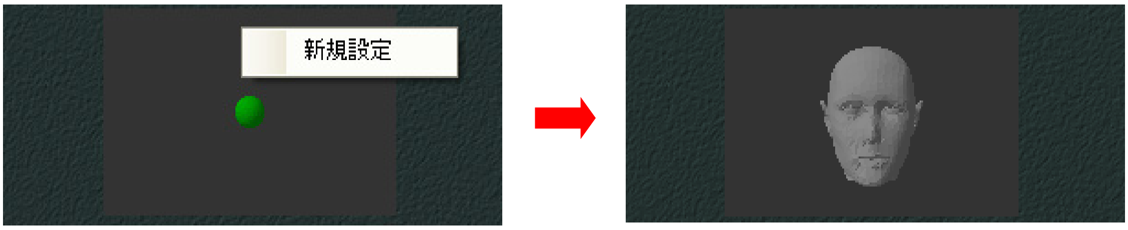
6.13　患者方向：患者方向を確認する

画像処理項目；患者方向

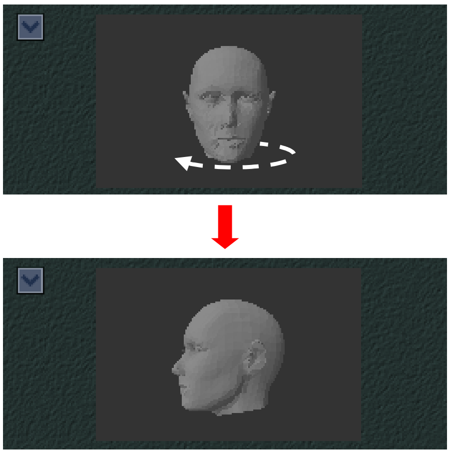
表示されている 2D 画像の患者方向を、人頭モデルで確認することができます。



人頭モデルを表示させるには、患者方向ウィンドウで右クリックします。
[新規設定]を選択すると、人頭モデルが表示されます。



※人頭モデルをポインタでドラッグすると、人頭モデルの向きが変わります。



※患者方向ウィンドウで患者方向を設定しても、対象の画像を保存しなければ設定は有効になりません。

6.14　スカウト：スカウト画像によるCT撮影の位置づけと撮影領域を設定する　（オプション）

画像処理項目；スカウト

2 方向スカウト画像による、3DX MULTI-IMAGE MICRO CT における CT 撮影の位置付け・撮影領域の設定を行います。

* 詳細は、3DX MULTI-IMAGE MICRO CT 取扱説明書内の【 スカウト撮影 】を参照してください。

2 方向スカウト画像、又は、パノラマスカウト画像による、Veraviewepocs 3D / 3Df における CT 撮影の位置付け・撮影領域の設定を行います。

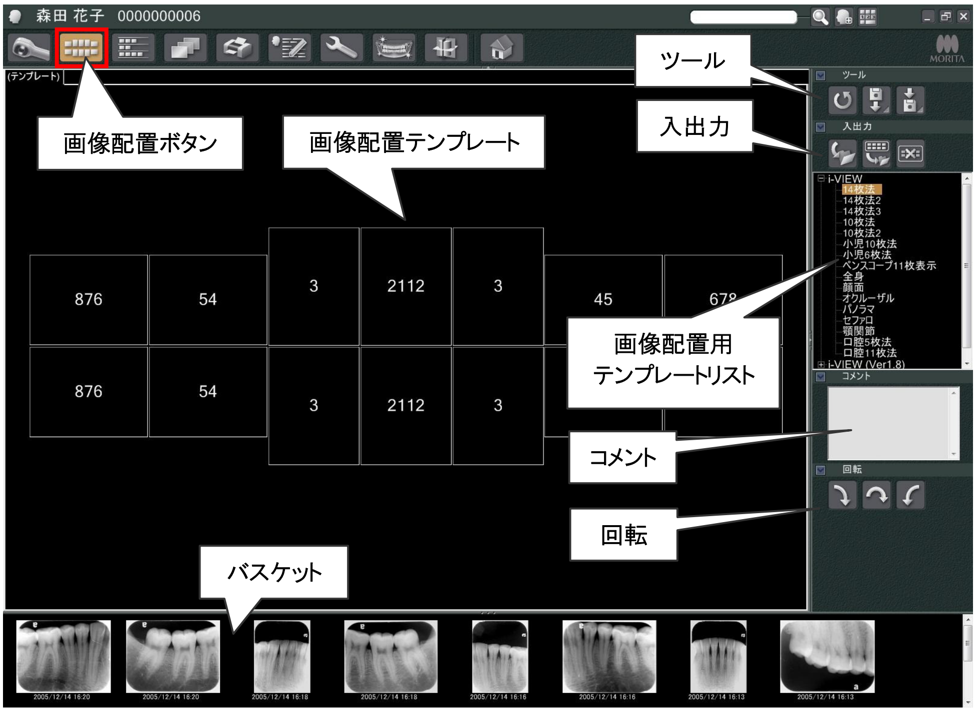
* 詳細は、Veraviewepocs 3D / 3Df 取扱説明書内の【 パノラマスカウト 】、【 2 方向スカウト 】を参照してください。

7. 画像配置

10 枚法、14 枚法などの口内法に従って撮影された画像を配置することができます。

7.1 画像配置画面に表示される項目

画像配置ボタンをクリックすると、画像配置テンプレートと各機能項目が表示されます。



画像配置用テンプレートリスト:
画像配置用のテンプレートのリストが階層表示されます。

コメント:
画像配置データにコメントを追加します。

バスケット:
画像配置用テンプレートに配置する画像のサムネールが表示されます。

ツール
表示の更新、画像のインポート、画像のエクスポートを行います。 ツールの詳細は、p 22【 ツール項目 】を参照してください。

入出力:

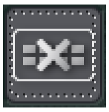
画像配置情報の保存

テンプレートに画像配置された情報を保存します。

画像配置のスナップショット

現在、画面表示されている画像配置のスナップショットを実行します。
詳細は、p 135【 画像配置のスナップショット 】を参照してください。

配置された画像の取り除き



テンプレートに配置されている全ての画像を、テンプレートから取除きます。

回転:

テンプレートに配置された画像を選択し、画像の配置角度を変更します。

90 度回転

画像が、右回りに 90 度回転して配置されます

180 度回転

画像が、180 度回転して配置されます。

270 度回転

画像が、左回りに 90 度(右回りに 270 度)回転して配置されます。

7.2 テンプレートに画像を配置する

口内法に従って撮影された画像を、画像配置用テンプレートに示される所定の位置に配置することができます。

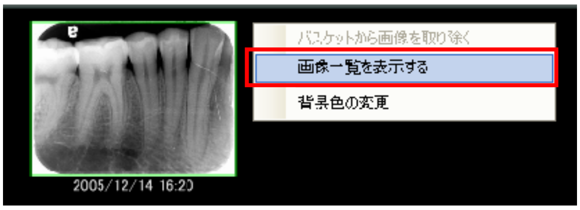
⚠ 注意

- **画像配置にサムネールを貼り付けている間は、元の画像を削除することができません。　元の画像を削除するときは、削除する画像のサムネールを、画像配置から取り除く必要があります。**

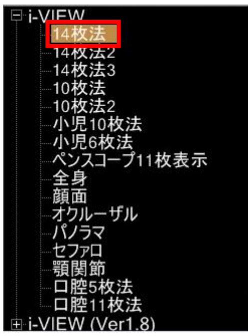
≪例：14 枚法の口内法に従って撮影された画像を配置する≫

1. 画像配置ボタン をクリックします。

2. バスケット内で右クリックし、[画像一覧を表示する]を選択します。
患者に保存されている画像の全てのサムネールがバスケットに表示されます。

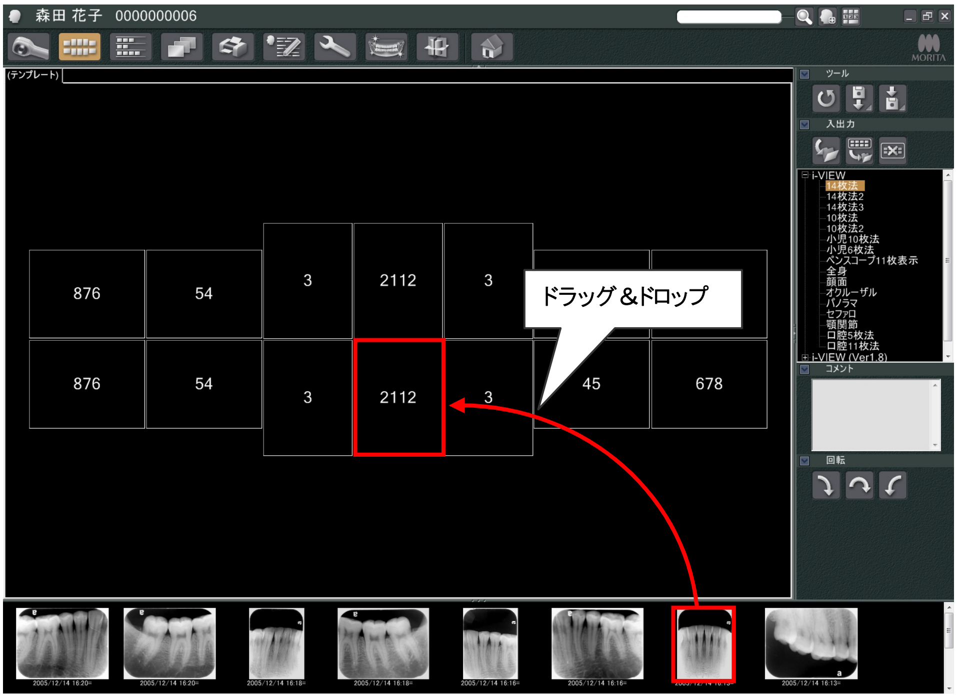


3. 画像配置用テンプレートリストから、テンプレート[14 枚法]を選択します。

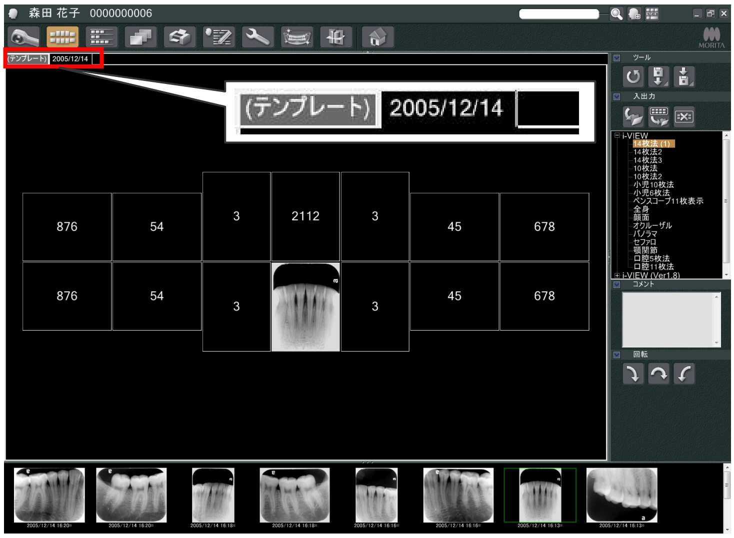


※「ペンスコープ 11 枚表示」を選択しても、画像配置できません。
Trinity Core Pro で、「ペンスコープ 11 枚表示」のテンプレートに配置した画像を参照するためのテンプレートです。

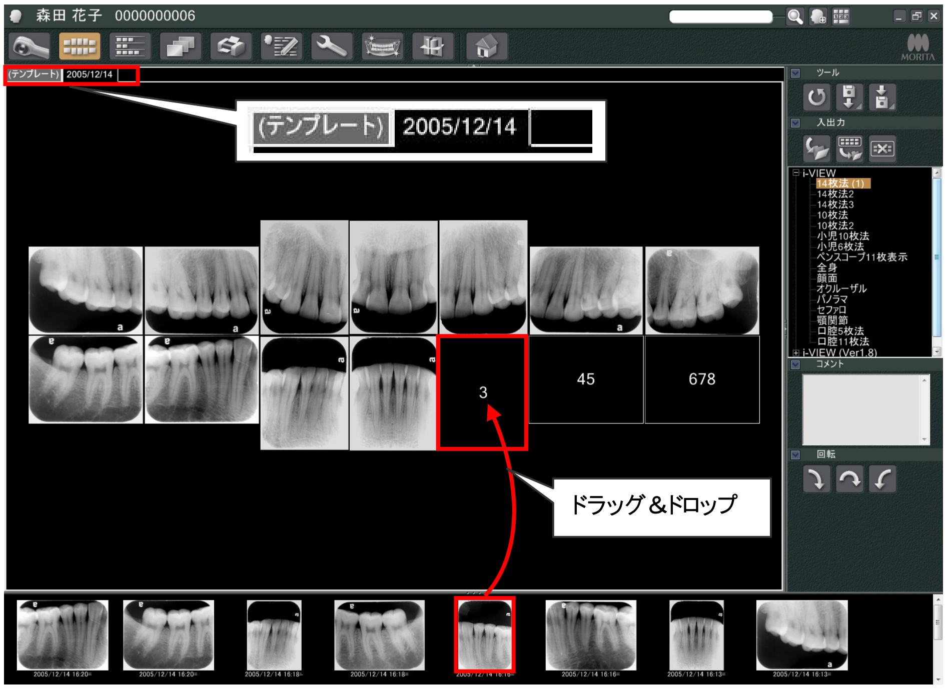
4. テンプレートに画像を配置します。
画像のサムネールを、バスケットからテンプレート上の歯列番号の枠に、ドラッグ＆ドロップして配置します。



5. 画像をテンプレート上に配置すると、シートが作成されます。作成されたシートのタブに、配置された画像の撮影日が表示されます。　タブに表示された画像の撮影日が、シート名となります。

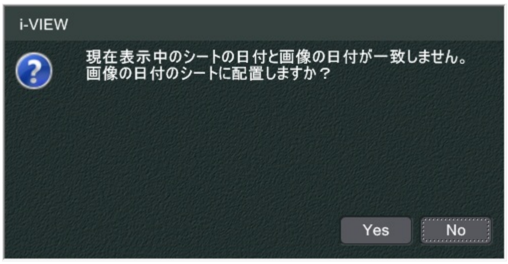


6. シートに、画像を配置します。
画像のサムネールをバスケットからシート上の歯列番号の枠にドラッグ＆ドロップして配置します。



配置する画像の撮影日に関する確認ダイアログ

シートに画像を配置する毎に、配置する画像の撮影日がチェックされます。
シートのタブに表示される日付(シート名)と、配置する画像の撮影日が異なると、以下のダイアログが表示されます。

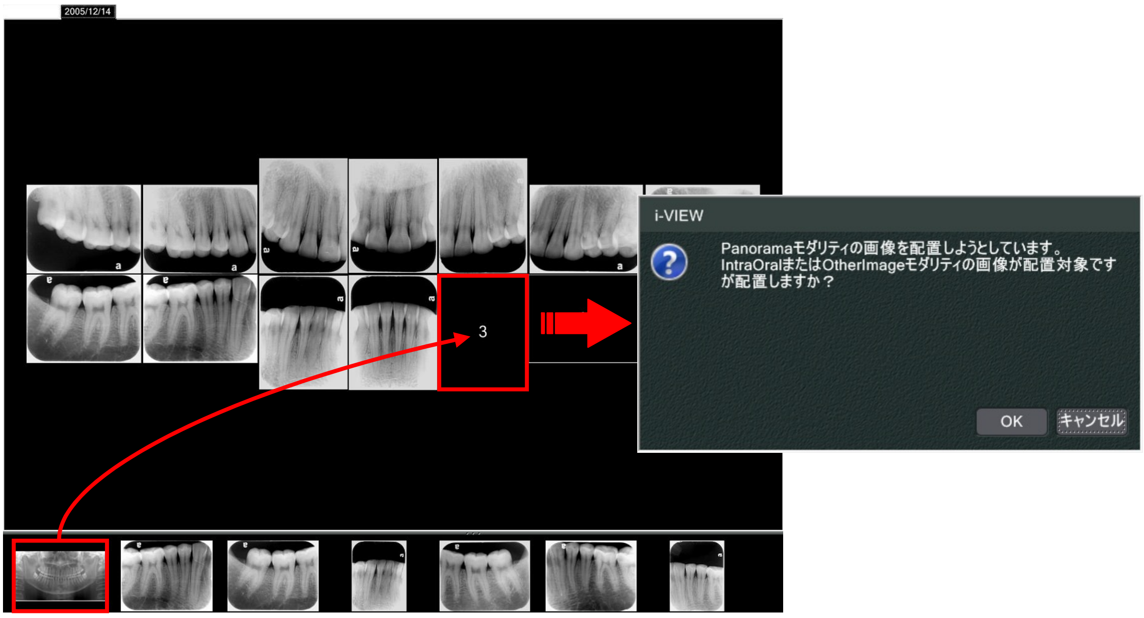


Yes を選択すると、新たにシートが作成されて、画像が配置されます。
No を選択すると、現在表示されているシートに、画像が配置されます。

配置する画像のモダリティ関する確認ダイアログ

画像を配置する毎に、配置する画像のモダリティ(i-VIEW に保存された画像の分類属性)がチェックされます。　配置対象でないモダリティの画像を、シートに配置すると、以下のダイアログが表示されます。

例えば、モダリティが IntraOral または、OtherImage である画像のみが配置対象であるシートに、モダリティが Panorama である画像を配置すると、以下のダイアログが表示されます。



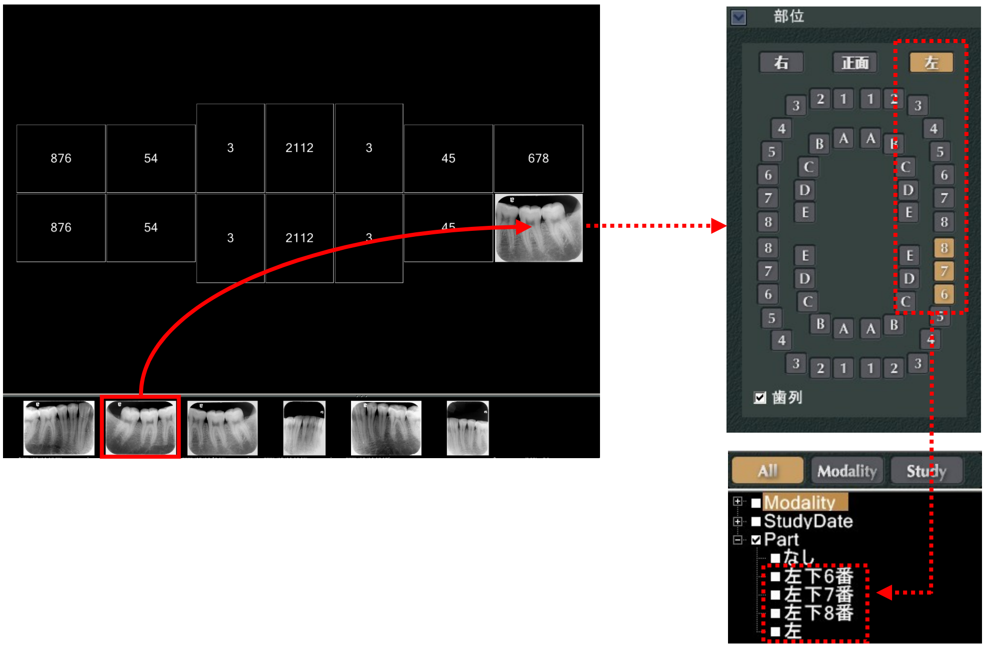
OK をクリックすると、画像は配置されます。
キャンセルをクリックすると、画像は配置されません。

7. 画像配置情報の保存ボタン をクリックすると、シートに画像配置された情報を保存します。

※ 画像配置の情報を保存せずに i-VIEW を終了すると、次回に i-VIEW が起動された場合、今回、シートに画像配置された情報を参照することができません。

配置された画像の部位設定

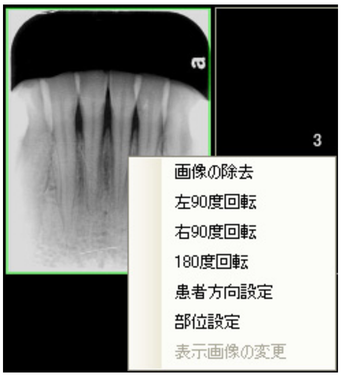
画像をシートに配置すると、部位が自動設定されます。
例えば、シートの左下 678 ラベルに画像を配置すると、左下 678 の部位が、配置画像に自動設定されます。
その設定内容は、2D ビューワの部位で確認できます。
また、画像配置された情報が保存されると、画像一覧画面の Part ツリー階層にも設定内容が反映されます。
設定された部位と歯列番号で画像の絞込みを行うことができます。



2Dビューワの部位の詳細は、 p 122【 6.12. 部位：画像に部位と歯列番号を設定する 】を参照してください。 画像一覧画面のPartツリー階層の詳細は、 p 44【 4.1. 画像一覧画面に表示される項目 】を参照してください。

ポップアップメニューによる操作の選択

シートに配置した画像を右クリックすると、ポップアップメニューが表示され、配置画像の除去、回転などの操作が選択できます。



1. 画像の除去

   配置画像を取り除きます。 配置画像を取り除くだけでは、i-VIEW から削除されません。
   画像を削除する場合は、 p 59【 4.10. **画像を削除する** 】を参照してください。

2. 左 90 度回転

   配置画像の向きが、左回り 90 度回転します。

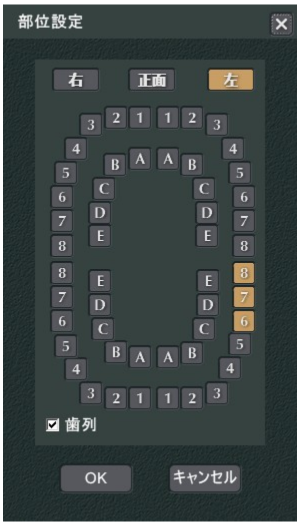
3. 右 90 度回転
配置画像の向きが、右回り 90 度回転します。

4. 180 度回転
配置画像の向きが、右回り 180 度回転します。

5. 患者方向設定
患者方向選択ダイアログが表示され、配置画像の患者方向が確認できます。

人頭モデルをドラッグしながら回転させると、現在の患者方向が変更できます。
患者方向は、2D ビューワの患者方向でも確認できます。
2Dビューワの患者方向の詳細は、 p 124【 6.13. 患者方向：患者方向を確認する 】を参照してください。

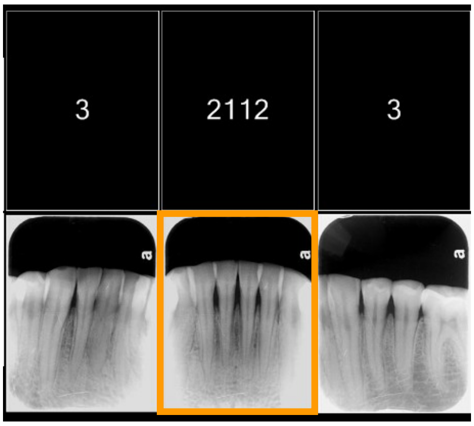
6. 部位設定
部位設定ダイアログが表示され、配置画像に設定されている部位と歯列番号が確認できます。



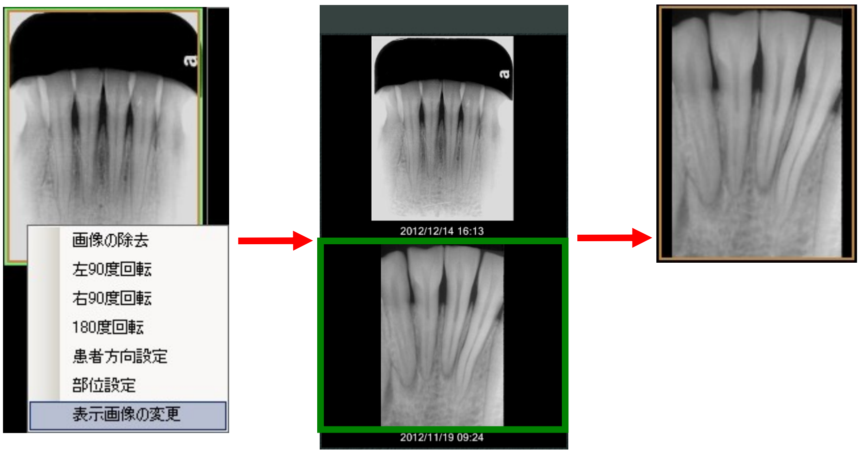
部位設定ダイアログで、現在設定されている部位と歯列番号が変更できます。
部位と歯列番号は、2D ビューワの部位でも確認できます。
2Dビューワの部位の詳細は、 p 122【 6.12. 部位：画像に部位と歯列番号を設定する 】を参照してください。

7.　表示画像の選択

シートの同一ラベルに、画像が複数配置できます。　複数配置された箇所は、オレンジ色の枠で囲まれます。



複数配置して、以下の図に示すポップアップメニューの「表示画像の選択」を選択すると、現在配置されている画像の一覧が表示されます。
画像のサムネールをダブルクリックすると、ラベル上に表示させる画像が選択されます。
選択した画像が、ラベル上に表示されます。



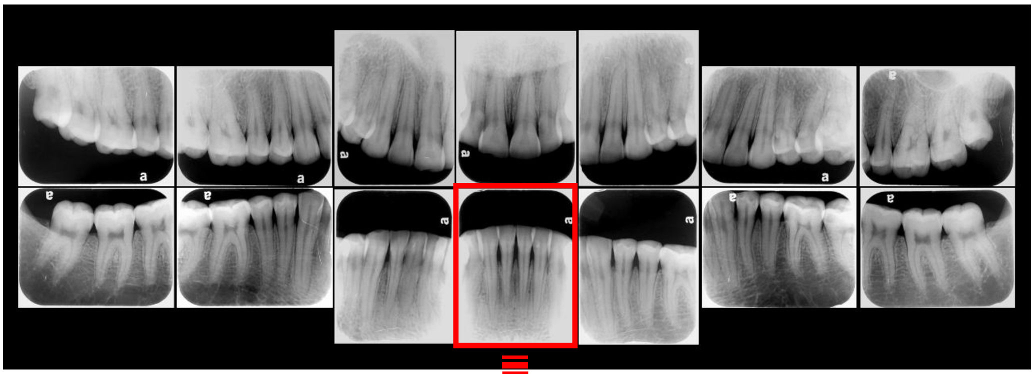
画像の一覧を閉じるには、シート上をクリックします。

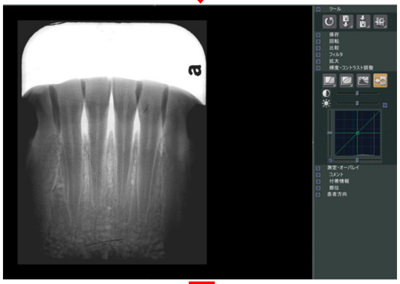
※　複数枚の画像を、同一ラベルに配置した場合のみ、ポップアップメニューの「表示画像の選択」が選択できます。

※ テンプレートに配置されている画像は、2D ビューワで再編集できます。再編集した内容は、テンプレートに配置されている画像にも反映します。　尚、テンプレートに配置されている画像をダブルクリックすると、2D ビューワが起動でき、画像が再編集できます。

≪例：下顎の 2112 の箇所に配置されている画像を、2D ビューワで色反転する≫

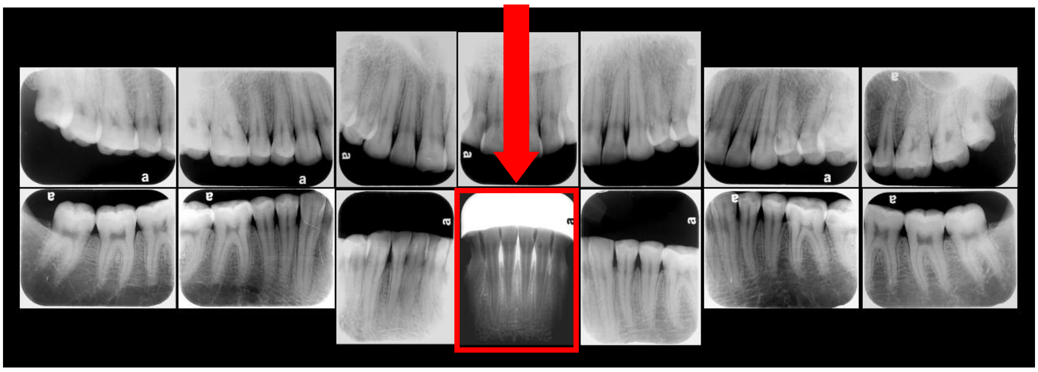
（再編集前）





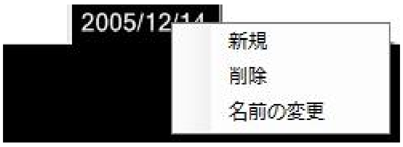
2D ビューワで色反転する

（再編集後）



シートの新規追加・削除・シート名の変更

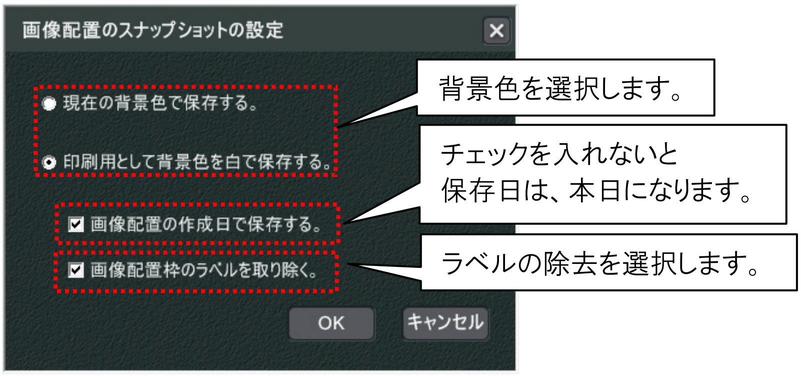
シートのタブを右クリックすると、以下のポップアップメニューが表示されます。



新規 ： シートが、新規追加できます。
削除 ： シートが、削除できます。
但し、シートを削除するには、配置した画像を、シートから全て除去しておく必要があります。
名前の変更 ：「タブ名の編集」のダイアログが表示され、シート名が変更できます。

画像配置のスナップショット

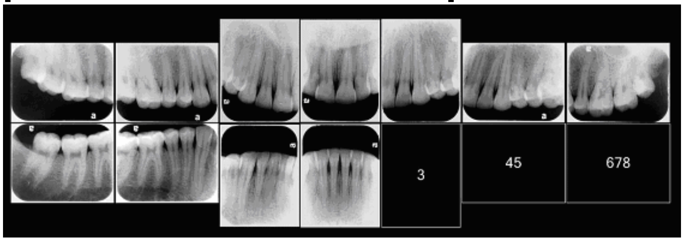
画像配置した状態がスナップショットできます。
[画像配置のスナップショット]ボタン をクリックすると、「画像配置のスナップショットの設定」のダイアログが表示されます。 スナップショットするときの背景色、スナップショットした画像の保存日、シートに表示されている歯列番号などのラベルを除去するかを、設定します。

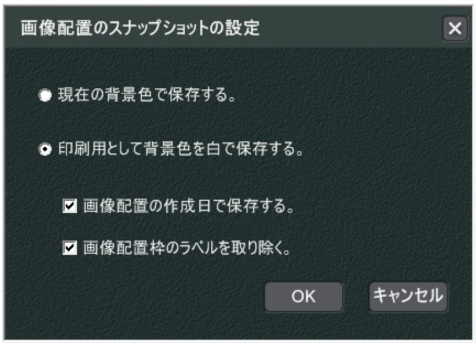


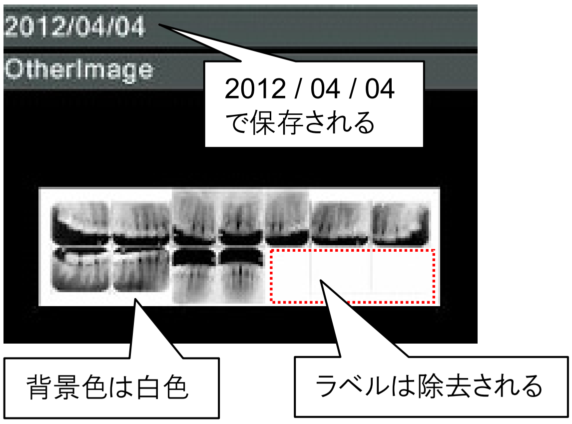
設定後、OK をクリックすると、スナップショットされ、画像一覧画面にサムネールが表示されます。
尚、スナップショットした画像は、2D ビューワで表示させ画像処理を行うことができます。

<<例 ： 画像配置の作成日が、2012/04/04 である画像配置をスナップショットする。>>

[2012 / 04 / 04 に作成した画像配置]







7.3 テンプレート配置済みの画像･画像配置のスナップショットをエクスポートする

テンプレートに配置済みの画像から選択した画像 (選択画像) 、テンプレートに配置した全ての画像 (配置画像) 、または、画像配置のスナップショット (スナップショット) がエクスポートできます。
選択画像とスナップショット、または、配置画像とスナップショットを、同時にエクスポートすることもできます。
エクスポートする内容によって、手順が異なります。

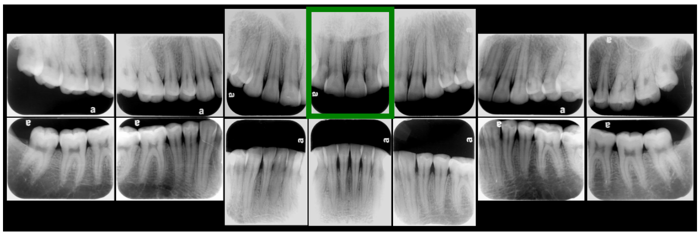
※ DICOM3.0 形式によるエクスポートが可能です（オプション）。
※ エクスポートできるファイル形式は、BMP、JPEG、PNG、TIFF です。
ファイル形式の色深度は、エクスポート元の画像･スナップショットの色深度に依存します。 JPEG 形式でエクスポートする場合は、エクスポート元の画像･スナップショットの色深度に関係なく、常に JPEG-24bit 形式でエクスポートされます。

⚠ 注意

- **ファイル形式によって、エクスポートした画像･スナップショットの画質が劣る可能性があります。 エクスポート後は、画質に問題がないか確認してください。 画質の劣化を防ぐには、BMP 形式でエクスポートしてください。**
- **MO などのリムーバブルメディアやネットワーク上のフォルダにデータをエクスポートする場合は、操作前に必ず移動先のメディア、もしくは、フォルダを準備して読み取れることを確認してください。 特に USB 接続の外部記憶装置などは注意が必要です。**

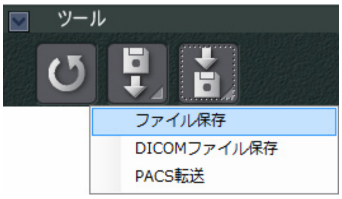
≪選択画像のエクスポート≫

1. テンプレートに配置済みの画像からエクスポートする画像をクリックし、画像を選択します。
   選択した画像は、色枠で囲まれます。

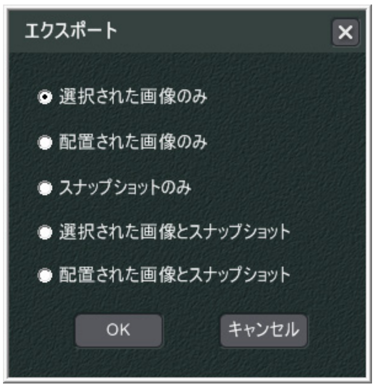


※ 選択できる画像は 1 枚です。

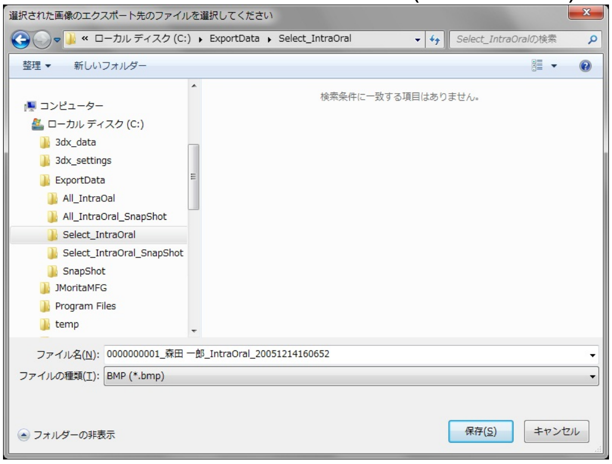
2. ツールのエクスポートボタンをクリックし、[ファイル保存]を選択します。



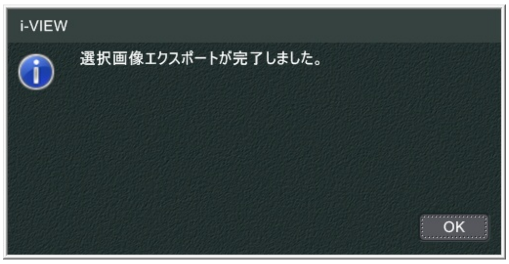
3. 以下のダイアログが表示されます。 [選択された画像のみ]を選択し、OK ボタンをクリックします。



4. 以下のダイアログが表示されます。
   保存先、ファイル名、ファイルの種類(ファイル形式)を設定し、保存(S) ボタンをクリックします。



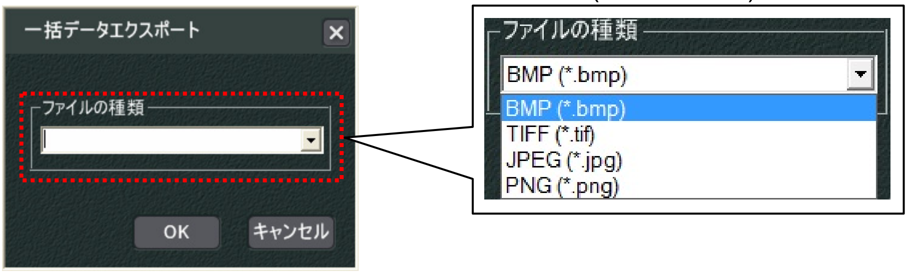
5. エクスポート完了のメッセージダイアログが表示されます。 OK ボタンをクリックします。



≪配置画像のエクスポート≫

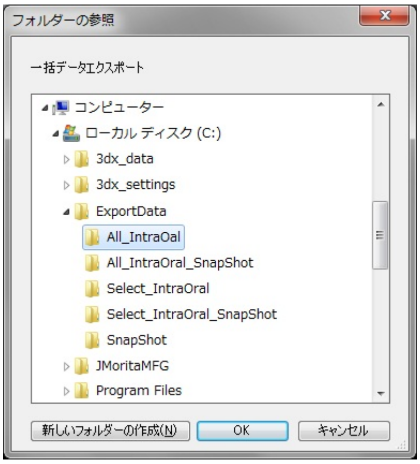
1. ツールの [エクスポート] - [ファイル保存] を選択します。
   ≪選択画像のエクスポート≫の手順 3. に示されている、同様のダイアログが表示されます。
   [配置された画像のみ] を選択し、OK ボタンをクリックします。

2. 以下のダイアログが表示されます。 ファイルの種類(ファイル形式)を設定し、OK ボタンをクリックします。

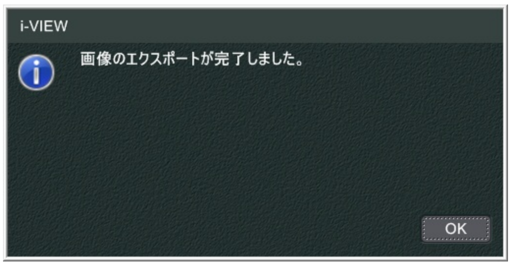


※ 配置画像のエクスポートでは、ファイル名が設定できません。
患者 ID_患者名_画像のモダリティ名_画像の撮影年月日時分秒.拡張子のファイル名で、エクスポートされます。 (ファイル名の一例 ：0000000001_森田 一郎_IntraOral_20130517123455.bmp)

3. 以下のダイアログが表示されます。　保存先を設定し、OK ボタンをクリックします。



4. エクスポート完了のメッセージダイアログが表示されます。　OK ボタンをクリックします。

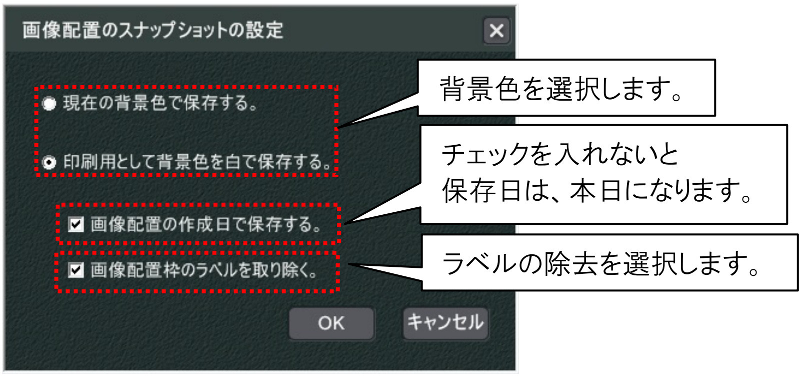


≪スナップショットのエクスポート≫

※　スナップショットがエクスポートされると、i-VIEW のデータベースにもスナップショットが保存されます。

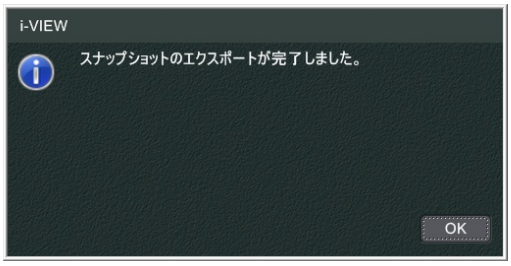
1. ツールの [エクスポート] - [ファイル保存] を選択します。
≪選択画像のエクスポート≫の手順 3. に示されている、同様のダイアログが表示されます。
[スナップショットのみ]を選択し、OK ボタンをクリックします。

2. 以下のダイアログが表示されます。　スナップショットするときの背景色、スナップショットした画像の保存日、シートに表示されている歯列番号などのラベルを除去するかを、設定します。



3. ≪選択画像のエクスポート≫の手順 4. で示されている、同様のダイアログが表示されます。
保存先、ファイル名、ファイルの種類(ファイル形式)を設定し、保存をクリックします。

4. エクスポート完了のメッセージダイアログが表示されます。　OK ボタンをクリックします。



≪選択画像とスナップショットの場合≫

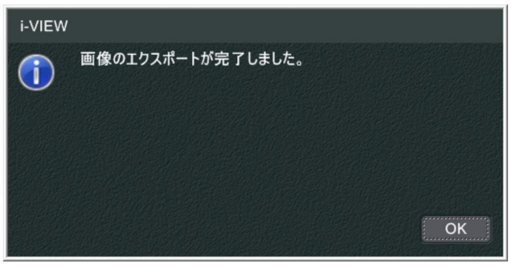
※　スナップショットがエクスポートされると、i-VIEW のデータベースにもスナップショットが保存されます。

1. ≪選択画像のエクスポート≫の手順 1.、2. に従って操作します。
≪選択画像のエクスポート≫の手順 3. に示されている、同様のダイアログが表示されます。
[選択された画像とスナップショット] を選択し、OK ボタンをクリックします。

2. ≪スナップショットのエクスポート≫の手順 2. で示されている、同様のダイアログが表示されます。　スナップショットするときの背景色、スナップショットした画像の保存日、シートに表示されている歯列番号などのラベルを除去するかを、設定します。

3. ≪配置画像のエクスポート≫の手順 2.、3. に従って、エクスポートするファイルの種類(ファイル形式)、保存先を設定します。

4. エクスポート完了のメッセージダイアログが表示されます。　OK ボタンをクリックします。



≪配置画像とスナップショットの場合≫

※　スナップショットがエクスポートされると、i-VIEW のデータベースにもスナップショットが保存されます。

1. ≪選択画像のエクスポート≫の手順 1.、2. に従って操作します。
   ≪選択画像のエクスポート≫の手順 3. に示されている、同様のダイアログが表示されます。
   [配置された画像とスナップショット] を選択し、OK ボタンをクリックします。

2. ≪スナップショットのエクスポート≫の手順 2. で示されている、同様のダイアログが表示されます。
   スナップショットするときの背景色、スナップショットした画像の保存日、シートに表示されている歯列番号などのラベルを除去するかを、設定します。

3. ≪配置画像のエクスポート≫の手順 2.、3. に従って、エクスポートするファイルの種類(ファイル形式)、保存先を設定します。

4. ≪選択画像とスナップショットの場合≫ と同様に、エクスポート完了のメッセージダイアログが表示されます。
   OK ボタンをクリックします。

8.　口腔内カメラ

口腔内カメラなどのカメラ機器における撮影及び、撮影画像の取込みと保存を行います。

8.1　ペンスコープ

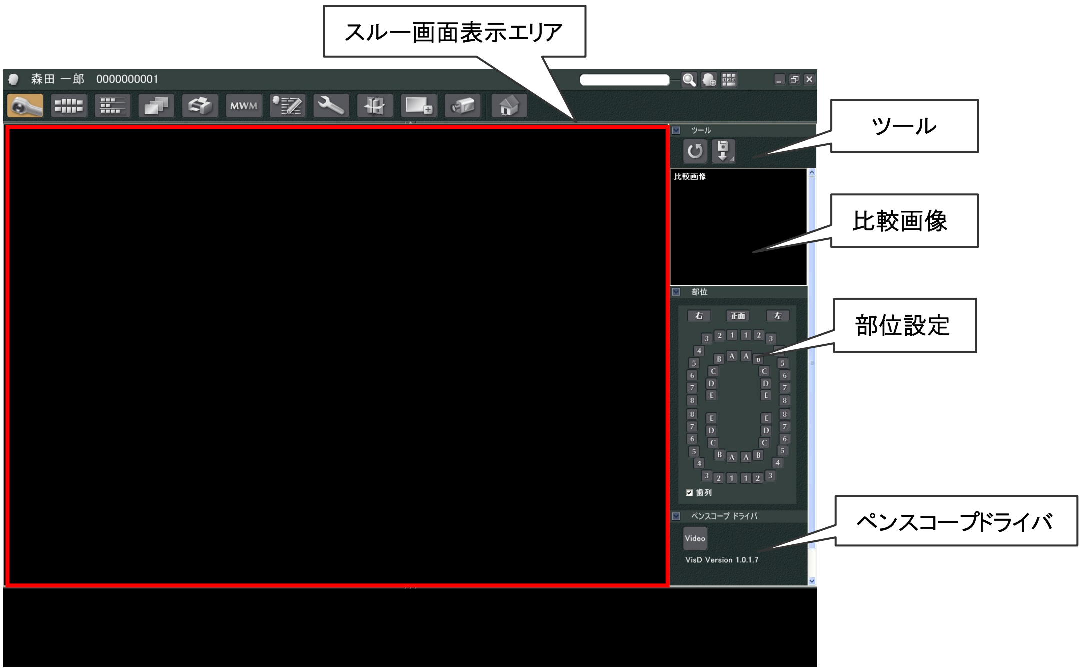
ペンスコープでの撮影、及び、撮影画像の取込みと保存を行います。

ペンスコープ画面を起動させるには：

患者が選択されている状態で、
・ ペンスコープの電源を入れます。
・ ナビゲーションバーのペンスコープボタン をクリックします。

8.1-(1)　ペンスコープ画面に表示される項目

ペンスコープの電源が入ると、スルー画面が表示され、ペンスコープで撮影できます。



スルー画面表示エリア
ペンスコープで撮影する際に、スルー画面が、中央に表示されます。
詳細は、p 143【 8.1-(2)　ペンスコープで撮影を行う 】を参照してください。
※ 表示されるスルー画面の大きさは、モニタの画面サイズ、解像度、及び、ペンスコープドライバで事前に設定されているスルー画面のサイズによって異なります。

ツール
表示の更新、画像のインポートを行います。　ツールの詳細は、p 22【 ツール項目 】を参照してください。

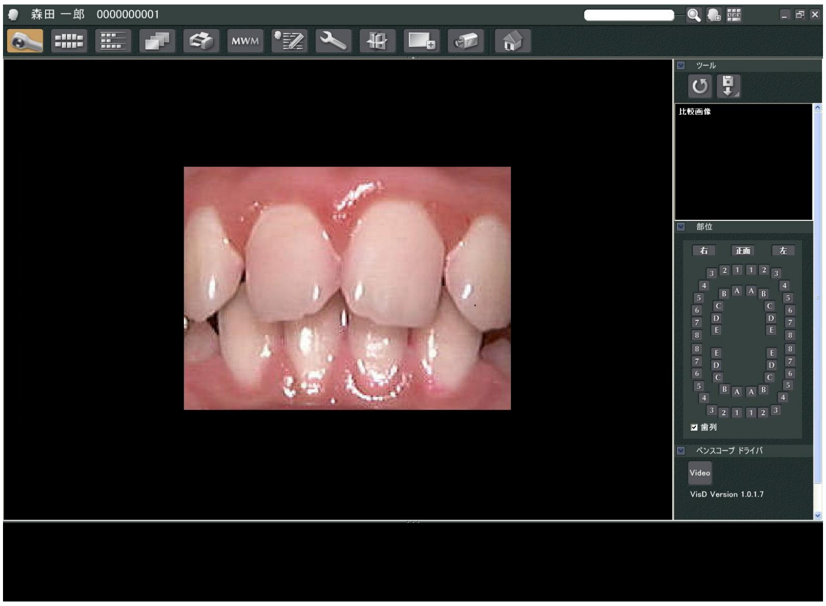
比較画像:
ペンスコープで撮影した画像を比較表示します。
詳細は、p 144【 8.1-(3)　保存した画像を参照しながら撮影を行う 】を参照してください。

部位設定:
ペンスコープで撮影した画像に対する、部位・歯列番号の自動割付設定を行います。
詳細は、p 145【 8.1-(4)　画像に部位・歯列番号を付帯する 】を参照してください。

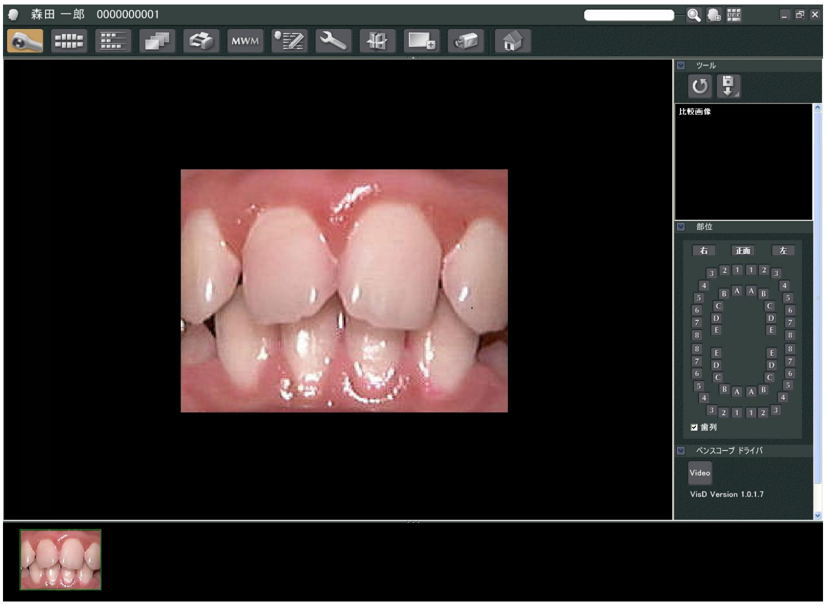
ペンスコープドライバ設定:
ペンスコープで撮影する際の、色合いや接続環境等の設定を行います。
詳細は、p 215【 12.4.ドライバタブ 】の【 ペンスコープ ドライバについて: 】を参照してください。

8.1-(2)　ペンスコープで撮影を行う

1. 患者が選択されている状態で、ペンスコープの電源を入れるか、ナビゲーションバーの[ペンスコープ]ボタン をクリックすると、ペンスコープのスルー画面が表示されます。



2. ペンスコープのスルー画面が表示された状態で、ペンスコープのフリーズボタンを押すと撮影が行われます。撮影画像が取り込まれて保存され、サムネールがバスケットに表示されます。

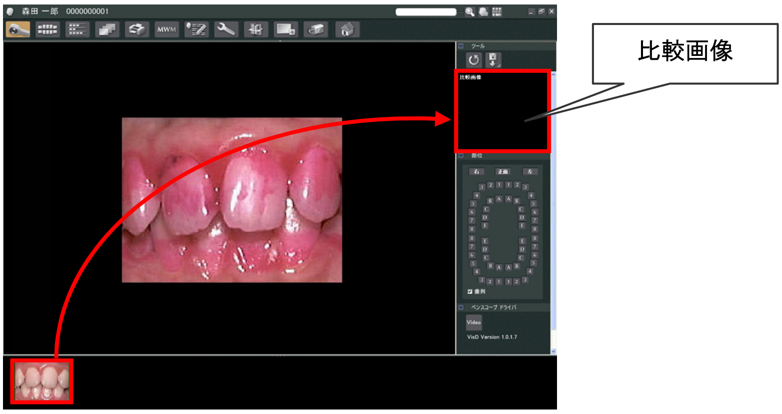


※ 保存された撮影画像には、自動的に Camera モダリティの属性が割付けられます。

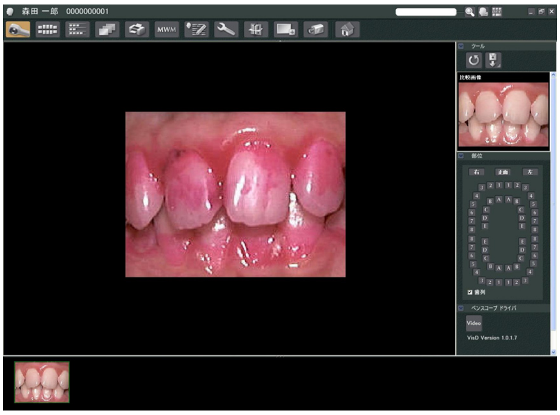
8.1-(3)　保存した画像を参照しながら撮影を行う

ペンスコープで撮影した画像を比較画像に表示し、これと見比べながら新たに撮影することができます。

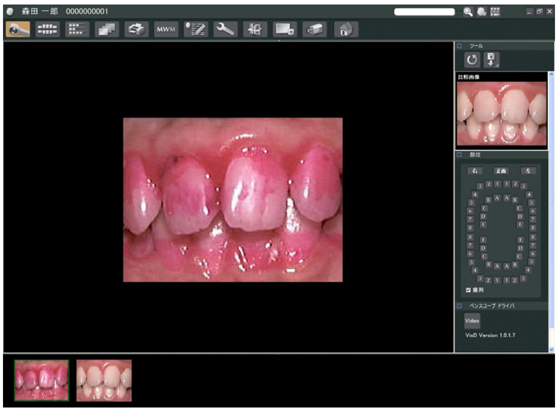
1.　バスケットに表示されている、画像のサムネールを、比較画像にドラッグ＆ドロップします。



2.　比較画像に画像が表示され、スルー画面に表示されている画像と見比べながら、新たに撮影できます。



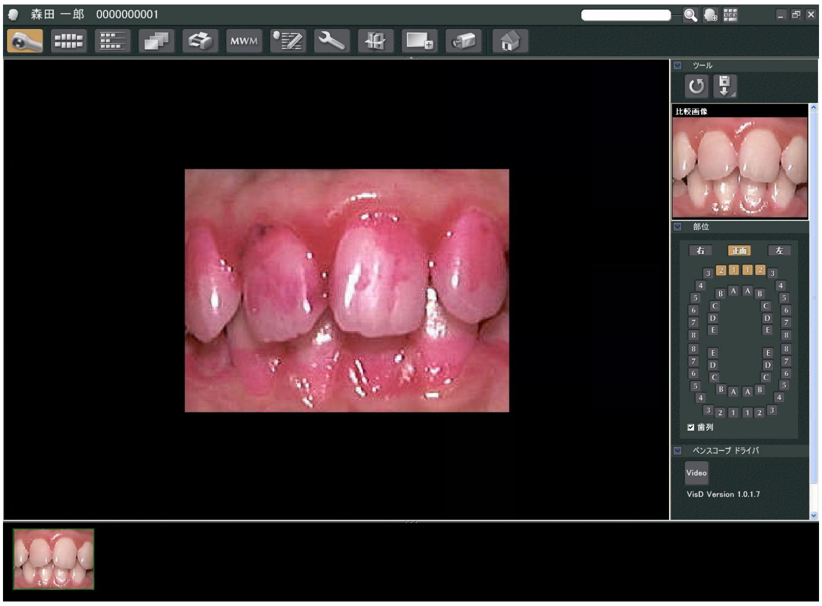
3.　新たに撮影すると、撮影画像のサムネールがバスケットに表示されます。
撮影画像が新たに取込まれても、比較画像に表示される画像は変更されません。



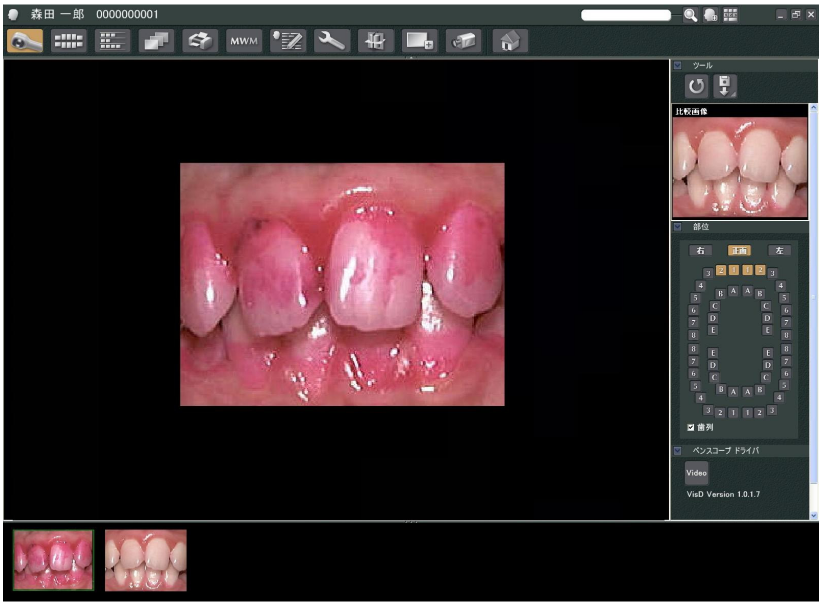
8.1-(4)　画像に部位･歯列番号を付帯する

ペンスコープで撮影した画像が取り込まれる時に、部位･歯列番号を自動的に割付けることができます。

1. [部位]を選択すると、部位設定画面が表示されます。 これからペンスコープで撮影される画像に対し、自動割付したい部位･歯列番号を、部位設定画面で設定します。 設定された箇所は、オレンジ色で反転表示されます。



2. 部位･歯列番号を設定したあと、ペンスコープで撮影を行うと、撮影画像が取り込まれる時に、設定された部位･歯列番号が自動的に割付され、その内容が保存されます。
保存された撮影画像のサムネールがバスケットに表示されます。



※部位･歯列番号が自動割付された撮影画像を画面一覧で表示する際、Part ツリーに自動割付された部位･歯列番号を反映して表示します。

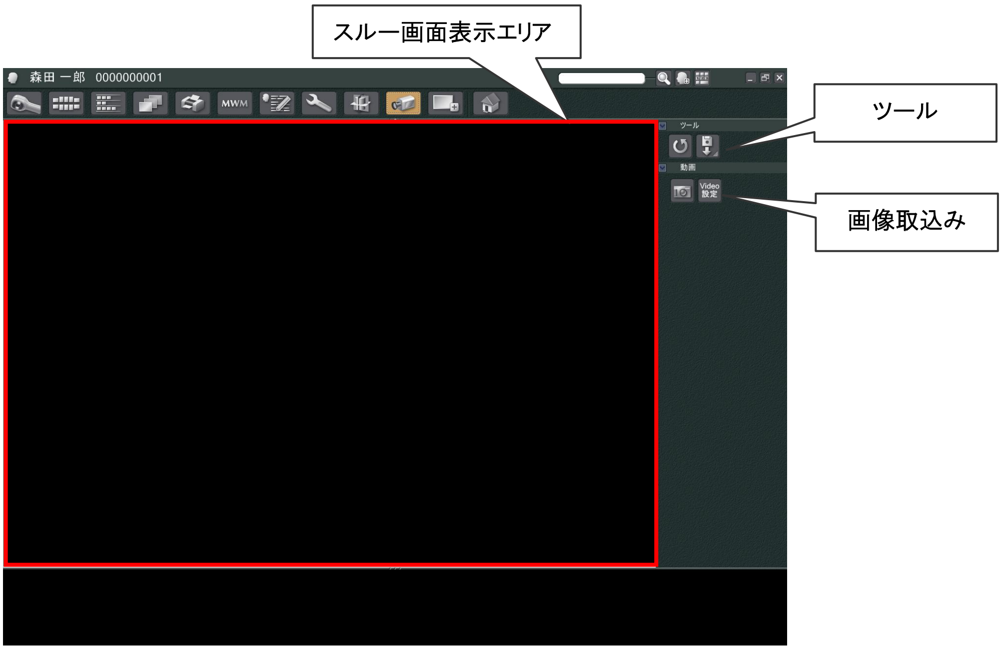
8.2 ペンスコープ以外の口腔内カメラ

他社製口腔内カメラなどのカメラ機器による静止画の撮影及び、取込みと保存を行います。

カメラ入力画面を起動させるには、患者が選択されている状態で、ナビゲーションバーの[カメラ入力画面]ボタン をクリックします。

8.2-(1)　カメラ入力画面に表示される項目

カメラ機器の電源が入ると、スルー画面が表示され、カメラ機器で撮影できます。



スルー画面表示エリア
カメラ機器で撮影する際に、スルー画面が、中央に表示されます。
詳細は、p 147【 8.2-(2)　カメラ機器で静止画の撮影を行う 】を参照してください。
※ 表示されるスルー画面の大きさは、モニタの画面サイズ、解像度、及び、カメラドライバで事前に設定されているスルー画面のサイズによって異なります。

ツール
表示の更新、画像のインポートを行います。　ツールの詳細は、p 22【 ツール項目 】を参照してください。

画像取込み：

静止画の保存

静止画の撮影を行います。
詳細は、p 147【 8.2-(2)　カメラ機器で静止画の撮影を行う 】を参照してください。

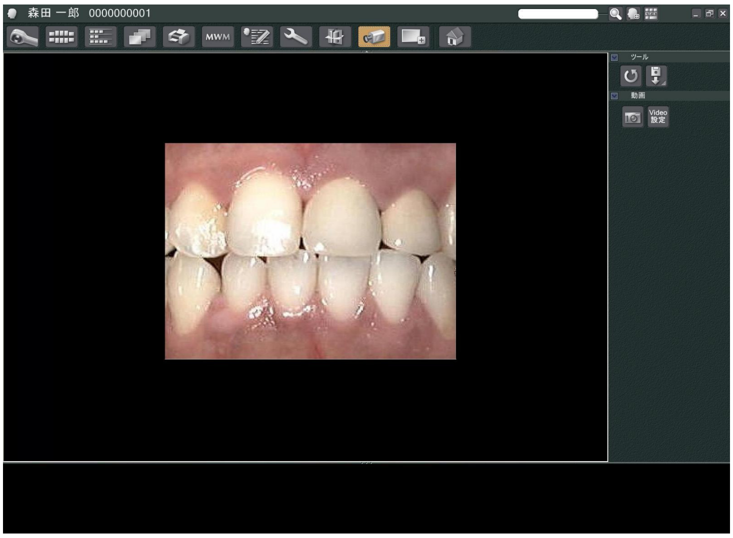
ビデオパラメータの設定

カメラ機器で撮影する際の、色合いや接続環境等の設定を行います。
詳細は、p 215 【 12.4. ドライバタブ 】の【 カメラ ドライバについて： 】を参照してください。

8.2-(2)　カメラ機器で静止画の撮影を行う

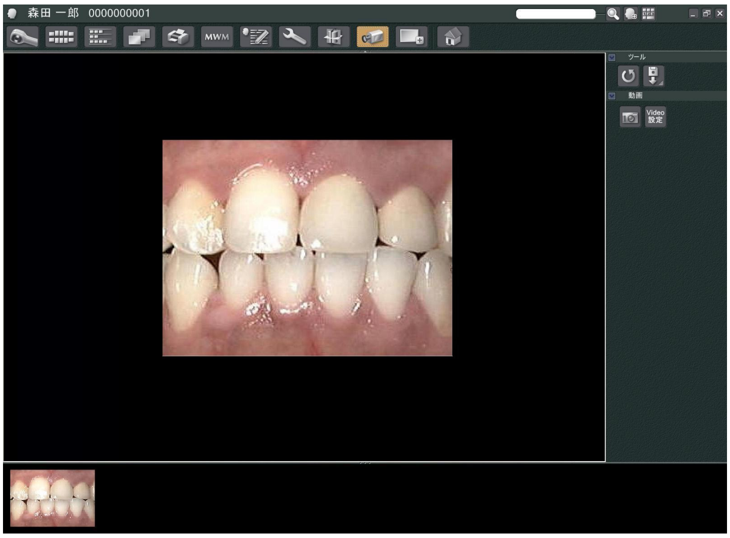
1. カメラ機器と i-VIEW コンピュータを接続した後、患者が選択されている状態で、ナビゲーションバーの[カメラ入力画面]ボタン をクリックします。

2. カメラ機器の電源を入れると、現在撮影中の画像がスルー画面に表示されます。



3. スルー画面が表示された状態で、[静止画の保存]ボタンをクリックします。

4. 撮影された画像が取り込まれて保存され、サムネールがバスケットに表示されます。



※ 保存された撮影画像には、自動的に Camera モダリティの属性が割付けられます。

9. ScanX

ScanX で読み込んだ画像の保存を行います。

ナビゲーションバーの 2D 入力(ScanX 設定画面を呼び出します)ボタン をクリックすると、2D 入力(ScanX 設定画面)画面が表示されます。

※ ナビゲーションバーに、2D 入力(ScanX 設定画面を呼び出します)ボタン を追加します。

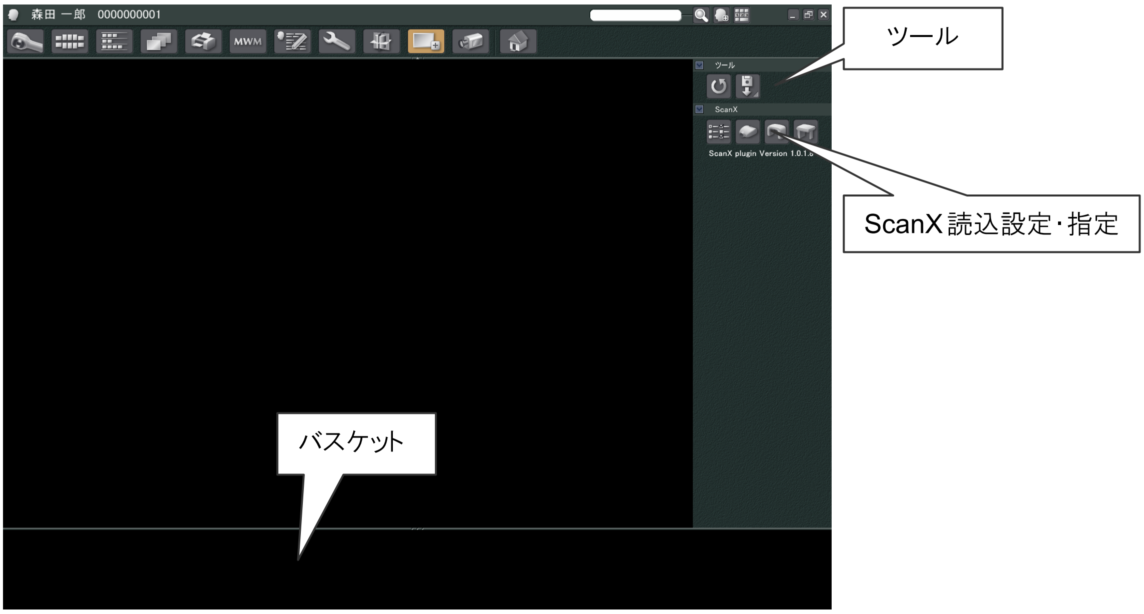
① 設定･メンテナンス画面を起動させ、ナビゲーションバータブをクリックします。

② ［利用可能なボタン］一覧から、2D 入力(ScanX 設定画面を呼び出します)ボタンを選択して、［Add>>］をクリックすると、［現在のボタン］一覧に 2D 入力(ScanX 設定画面を呼び出します)ボタンが加わりますので、［適用］ボタンをクリックします。

③ [OK]ボタンをクリックし、i-VIEW を再起動すると、ナビゲーションバーに、2D 入力(ScanX 設定画面を呼び出します)ボタンが表示されます。

9.1 2D入力(ScanX設定画面)画面に表示される項目

ScanX 読込を指定し、ScanX でイメージングプレートが差し込まれると、ScanX から画像が読込まれます。

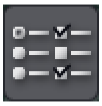


バスケット:
ScanX で読み込まれた画像のサムネールを表示します。

ツール:
表示の更新、画像のインポートを行います。 ツールの詳細は、p 22【 ツール項目 】を参照してください。

ScanX 読込設定・指定：

ScanX 設定



ScanX でイメージングプレートが読込まれる際の設定を行います。

ScanX IntraOral

ScanX で IntraOral 対応のイメージングプレートの読込を指定します。

ScanX Panorama

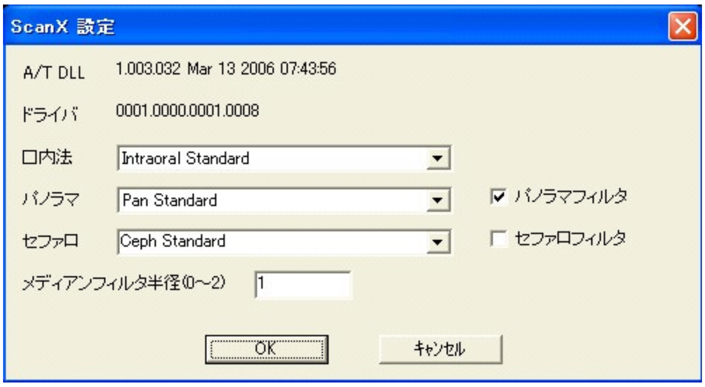
ScanX で Panorama 対応のイメージングプレートの読込を指定します。

ScanX Cephalo

ScanX で Cephalo 対応のイメージングプレートの読込を指定します。

<u>ScanX 設定について</u>

ScanX 設定のボタン をクリックすると、ScanX 設定ダイアログが表示されます。



設定できる内容は以下の通りです。

1. 解像度
   イメージングプレートを読み込む際の解像度が設定できます。
   解像度は、イメージングプレートの種類毎に設定できます。

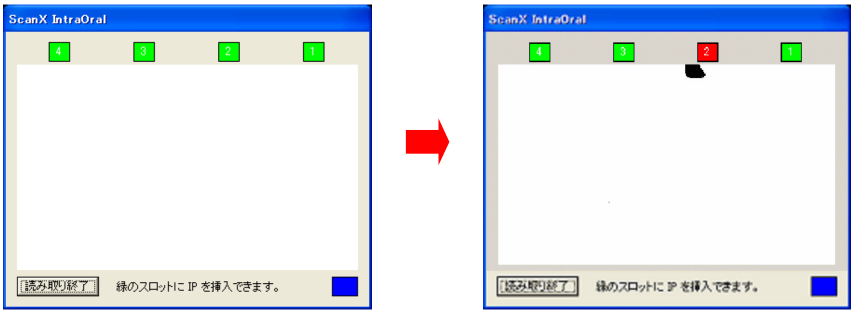
2. パノラマ・セファロフィルタ
   より鮮明な画質で、イメージングプレートを読み込みたい場合に有効な設定です。
   この設定は、Panorama 対応、Cephalo 対応のイメージングプレートが読み込まれる場合に有効です。

3. メディアンフィルタの半径
   スパイクノイズ（ごま塩状のノイズ）を低減する場合に有効な設定です。
   0～2 の値が設定でき、数値が大きいほどノイズが低減できます。　但し、画質がぼける場合があります
   どの種類のイメージングプレートが読み込まれても、この設定は有効です。

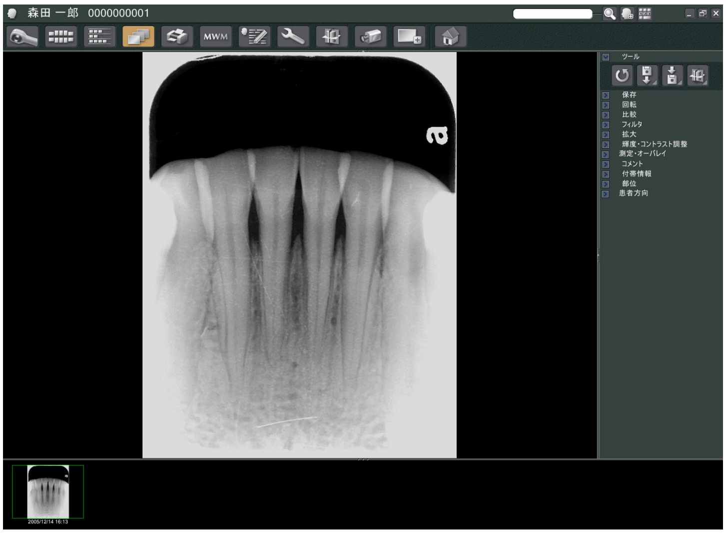
9.2 ScanXで画像を読み込む

1. ScanX と i-VIEW コンピュータを接続した後、患者が選択されている状態で、ナビゲーションバーの 2D 入力(ScanX 設定画面)ボタン をクリックし、ScanX で読み込むイメージングプレートを指定します。

2. イメージングプレートを指定すると、「ScanX IntraOral」ダイアログが表示されます。
ScanX にイメージングプレートが差し込まれると、ScanX での読込が開始され、読込中のスロットの表示は赤色に変わります。



3. 読込が終了すると、読み込まれた画像が 2D ビューワに表示され、読み込まれた画像のサムネールがバスケットに表示されます。 その際、読み込まれた画像は保存されます。



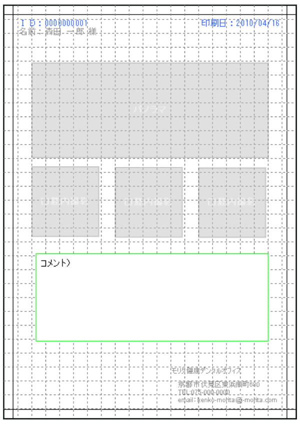
※ 保存された画像には、読み込まれたイメージングプレートに従って、モダリティの属性が割付けられます。
例えば、Intraoral 対応のイメージングプレートが読み込まれた画像は、IntraOral モダリティの属性が割付けられます。

10. Print Center

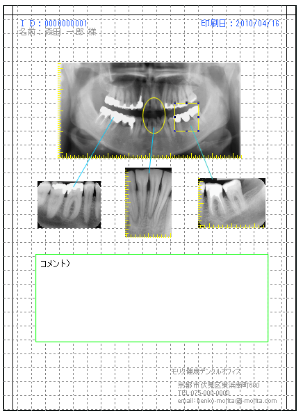
Print Center を使用して、i-VIEW で管理されている画像と患者情報を印刷することができます。

Print Center 操作フロー

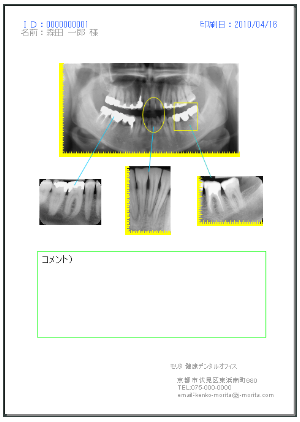
テンプレートを作成する



画像をテンプレートに挿入する

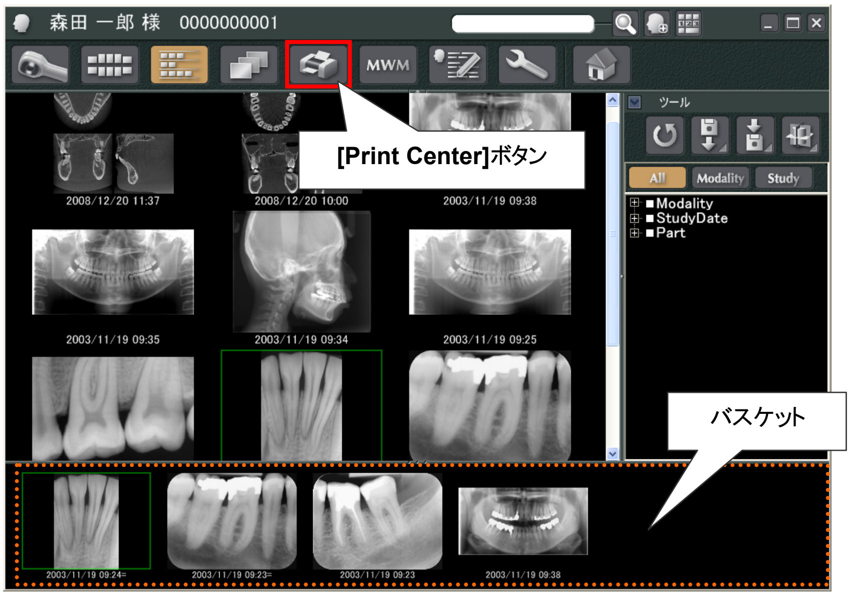


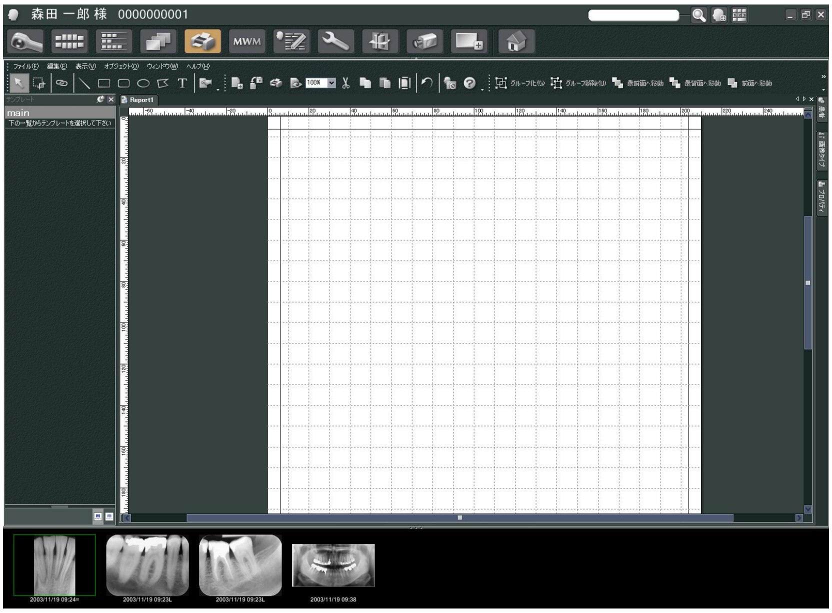
作成した文書を印刷する



Print Center を起動させるには:

印刷する画像を、画像一覧画面から選択し、バスケットに入れます。
[Print Center] ボタンをクリックすると、Print Center が起動します。

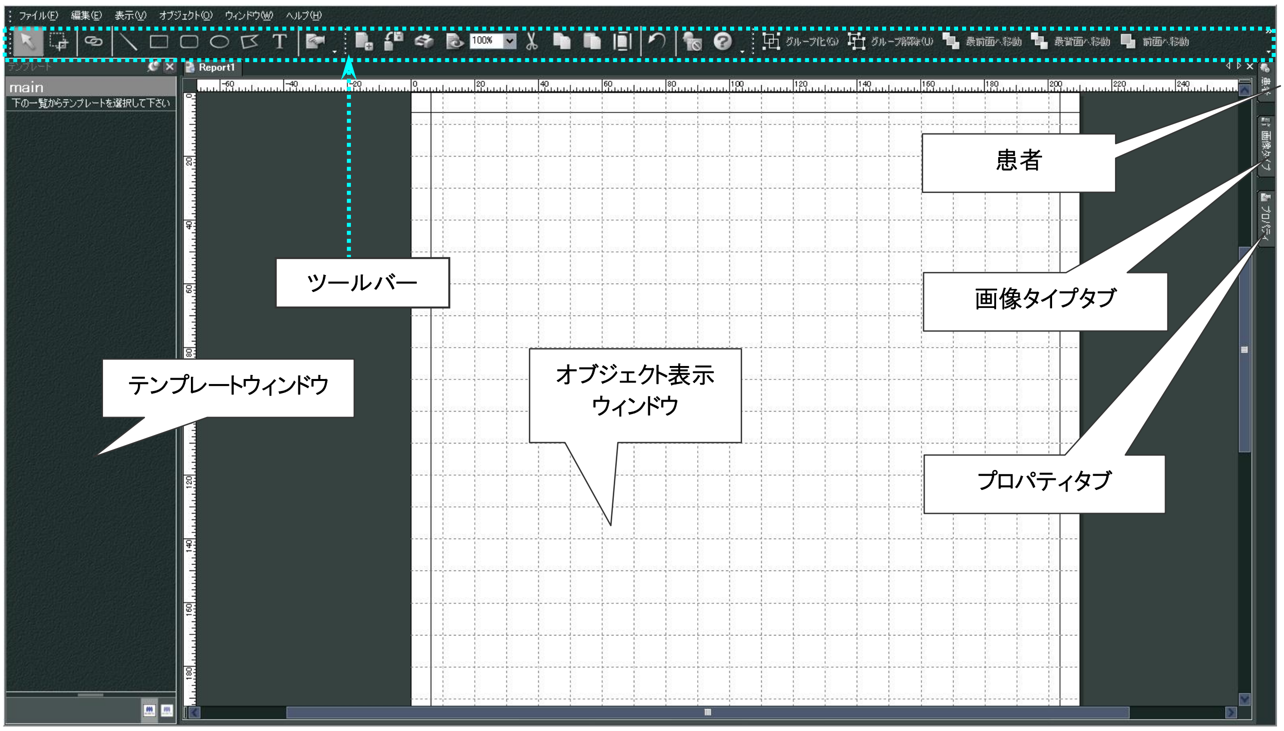




Print Center の終了は、ナビゲーションバーのボタンをクリックします。 その後、画面が切り替わります。
例えば、[ホーム]ボタンをクリックすると、Print Center が終了し、ホーム画面に戻ります。

Print Center メインウィンドウ

Print Center を起動すると以下のようなメインウィンドウが表示されます。



患者タブ：

このタブをクリックして開くと、患者情報オブジェクトが表示されます。　ここからオブジェクト表示ウィンドウにドラッグ＆ドロップすると、患者情報オブジェクトがテンプレートに挿入されます。

オブジェクト表示ウィンドウ：

作成するテンプレートの内容を表示します。　複数のテンプレートを開いている場合は、ウィンドウ上部のタブをクリックすると、テンプレートを切替えることができます。

テンプレートウィンドウ

現在保存されているテンプレートの一覧が表示されます。　一覧表示されているテンプレートをダブルクリックすると選択できます。　temlpate カテゴリには、雛形となるテンプレート(Sample のテンプレート)が、複数用意されています。

Sample のテンプレートについて

i-VIEW には、Sample のテンプレートが、template カテゴリーに、標準で分類(保存)されています。

Sample のテンプレートでも文書が作成でき、印刷できます。

Sampleのテンプレートの詳細は、p 158【 templateカテゴリーのテンプレートについて 】を参照してください。

※　カテゴリーとは、テンプレートの保存先を意味します。　テンプレートは、カテゴリーに分類されて、保存されます。

※　i-VIEW は、template カテゴリー以外に、main カテゴリー、Default カテゴリーが、標準で用意されています。
main カテゴリーには、テンプレートが保存されていません。
Default カテゴリーには、プリントセンター簡単印刷向けのテンプレートが、標準で保存されています。
プリントセンター簡単印刷の詳細は、p 193【 10.5. プリントセンタ簡単印刷 】を参照してください。

プロパティタブ：

このタブをクリックして開くと、選択しているオブジェクトのプロパティを表示します。

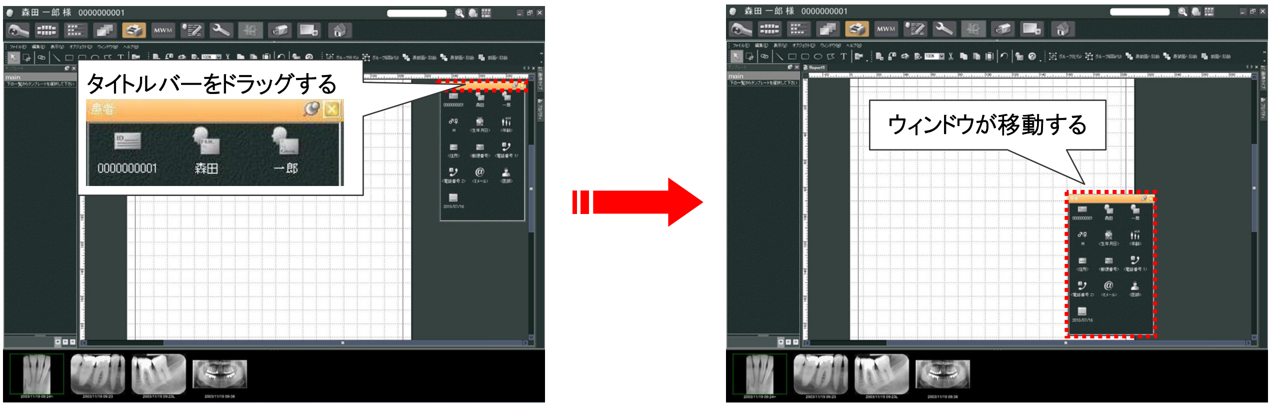
画像タイプタブ：

このタブをクリックして開くと、画像タイプオブジェクトを表示します。 ここからオブジェクト表示ウィンドウにドラッグ&ドロップして、画像タイプオブジェクトを配置します。

[患者・画像タイプ・プロパティをウィンドウ表示する]

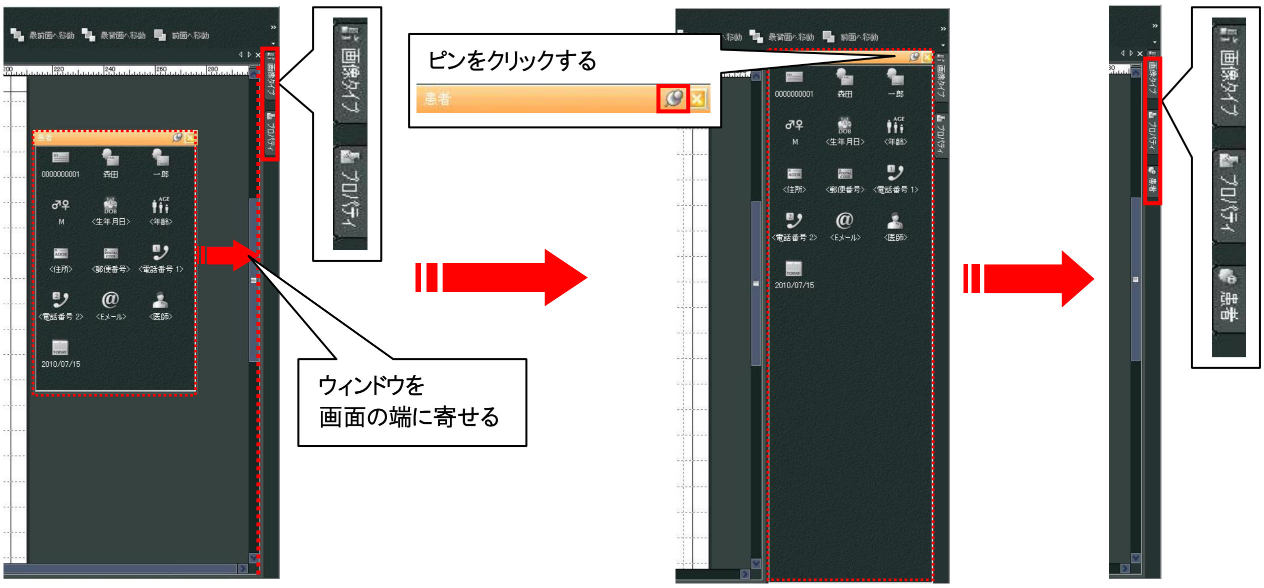
患者、画像タイプ、プロパティの各タイトルバーのピンをクリックすると、タブが表示されなくなり、ピンの向きが変わって、各ウィンドウが表示されます。

ウィンドウのタイトルバーをドラッグすると移動させることができ、配置箇所が変更できます。



タブ表示に変更したい場合：

ウィンドウのタイトルバーをドラッグし、ウィンドウを画面の端に寄せた後にマウスを離すと、フルサイズで表示されます。フルサイズで表示された状態で、タイトルバーのピンをクリックすると、タブ表示に変更できます。

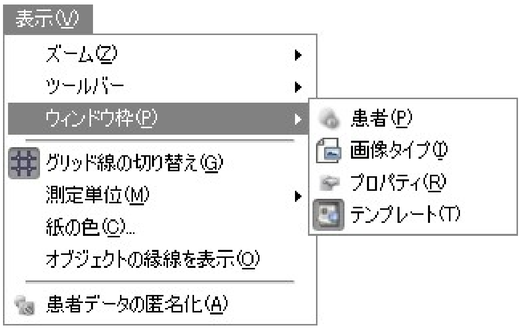


[患者・画像タイプ・プロパティのウィンドウを再表示する]

患者ウィンドウのタイトルバーの × をクリックすると、患者ウインドウが消去できます。

画像タイプウィンドウ、プロパティウィンドウも、同様に消去できます。

表示メニューの [ウィンドウ枠(P)] – [患者(P)]を選択すると、患者ウィンドウが再表示できます。



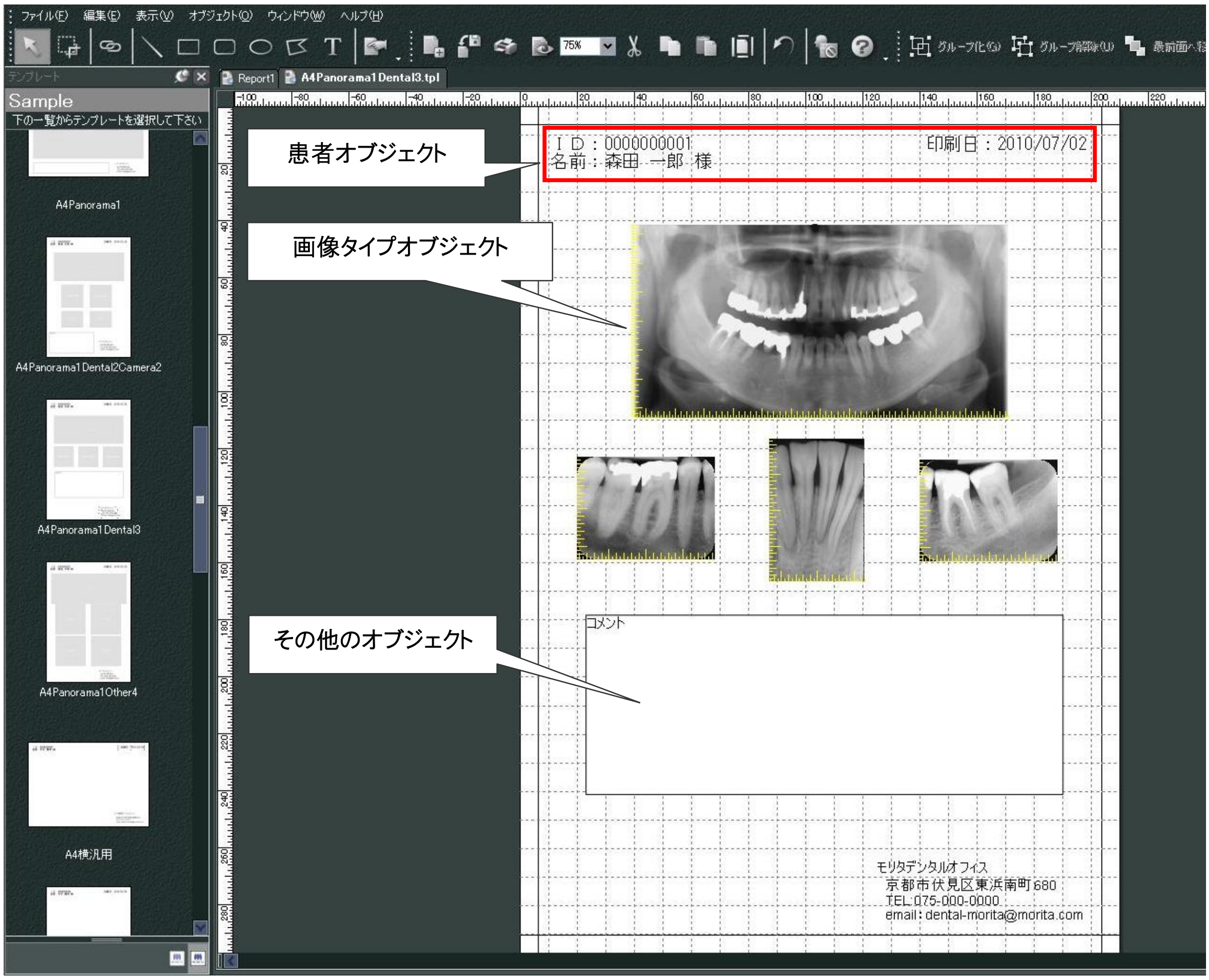
画像タイプウィンドウは、[画像タイプ(I)]を選択し、プロパティウィンドウは、[プロパティ(R)]を選択すると、再表示できます。

10.1　テンプレートを作成し保存する

Print Center では、テンプレートを作成し、そこへ画像や患者情報を挿入して印刷します。

テンプレートには、画像タイプオブジェクト、患者オブジェクト、また、図形や文字などのその他のオブジェクトを自由に挿入することができます。

患者オブジェクト：患者情報を表示します。
画像タイプオブジェクト：このオブジェクトを配置した場所に各画像を挿入し表示します。



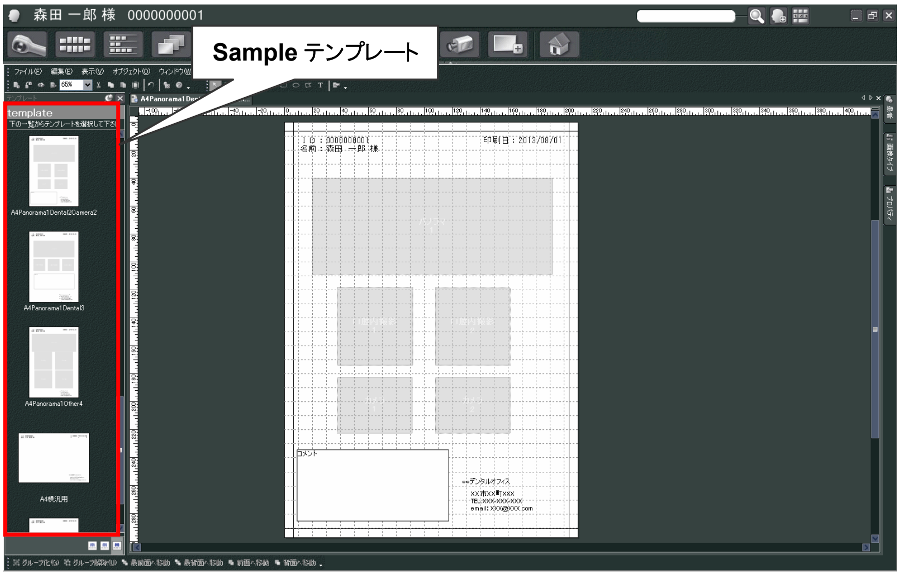
10.1-(1)　テンプレートを作成する

Sample のテンプレートを利用するか、新規作成してテンプレートを作成します。

Sample のテンプレートを利用する

template カテゴリーに、テンプレートのサンプルがいくつか用意されています。
そのまま利用することも、編集して使用することもできます。

template カテゴリーから、任意のテンプレートのサンプルを選択しダブルクリックすると、オブジェクト表示ウィンドウに表示されます。



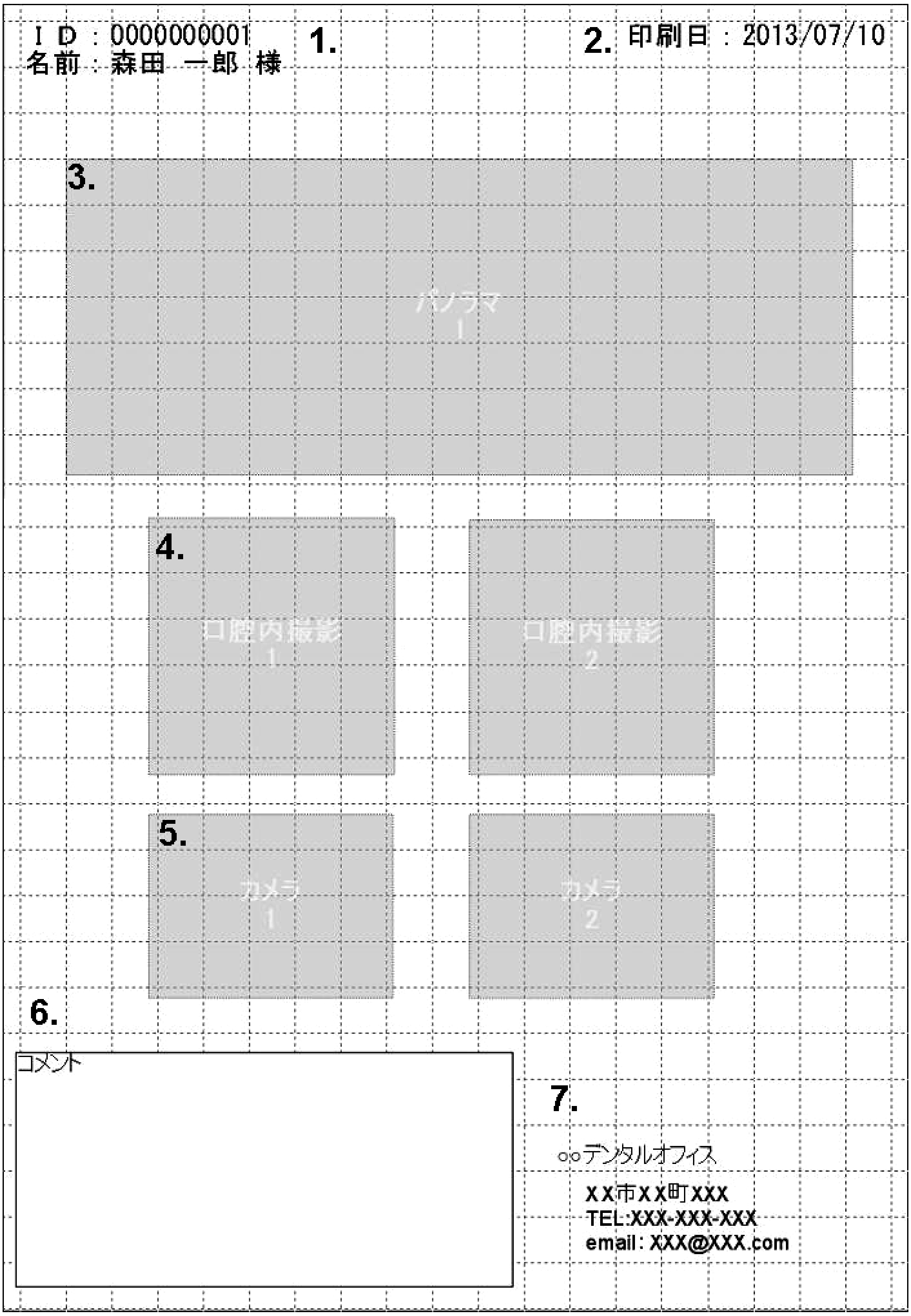
※　テンプレートを拡大、縮小して表示させる場合は、メニューの[表示(V)]-[ズーム(Z)]から倍率を選択してください。

<u>templateカテゴリーのテンプレートについて</u>

i-VIEW には、Cephalo モダリティ、Panorama モダリティ、IntraOral モダリティ、Camera モダリティ、OtherImage モダリティの画像が挿入できる Sample のテンプレートが、複数用意されています。
また、患者 ID、患者名、印刷日の自動割付、コメントの入力、医院名、医院連絡先の編集ができます。
Sample のテンプレートの一例を示します。

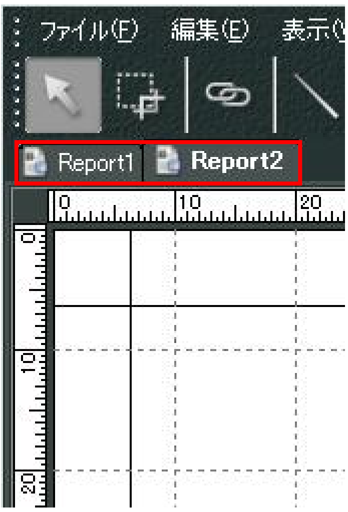
<< テンプレート名 : A4PanoramaDental2Camera2 >>

1. 選択中の患者の名前と ID が、自動割付されます。
2. 印刷日として、本日の日付が自動割付されます。
3. Panorama モダリティの画像が挿入できます。
4. IntraOral モダリティの画像が挿入できます。
5. Camera モダリティの画像が挿入できます。
6. コメントが入力できます。
7. 医院名、医院連絡先が編集できます。



テンプレートを新規作成する

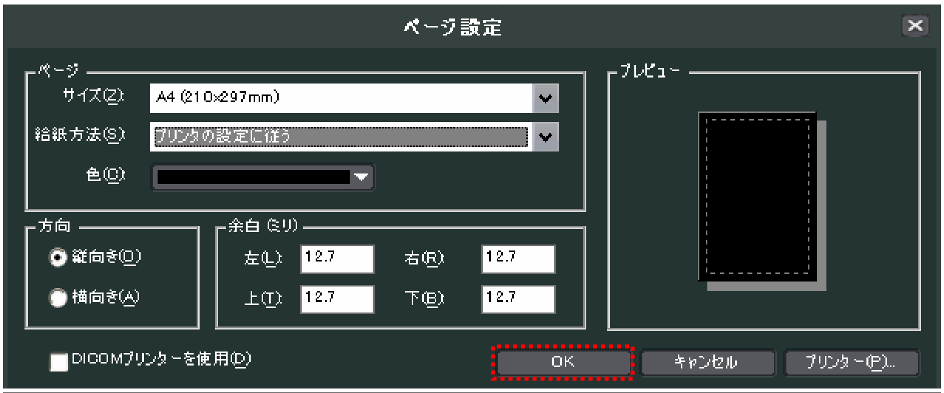
メニューの[ファイル(F)]-[新規作成(N)]を選択し、オブジェクト表示ウィンドウ上部に、[Report2]タブが追加されると、新規テンプレートを作成できます。



テンプレートのサイズを決定する

テンプレートのページ設定を行っておくと、印刷の度に、用紙のサイズや向き、給紙方法、余白、使用プリンタなどを設定する必要がなくなり便利です。

メニューの[ファイル(F)]-[ページ設定]をクリックして、ページ設定を行います。
OK ボタンをクリックすると決定します。



※DICOM プリンタを使用せず、Windows プリンタを使用する場合は、「DICOM プリンタを使用(D)」のチェックを解除し、プリンタ(P)ボタンをクリックして使用するプリンタを選択します。 また、プリンタの詳細設定については、各プリンタメーカーの取扱説明書を参照してください。

⚠ 注意

- ページ設定の内容はテンプレート毎に付帯され、適用されます。

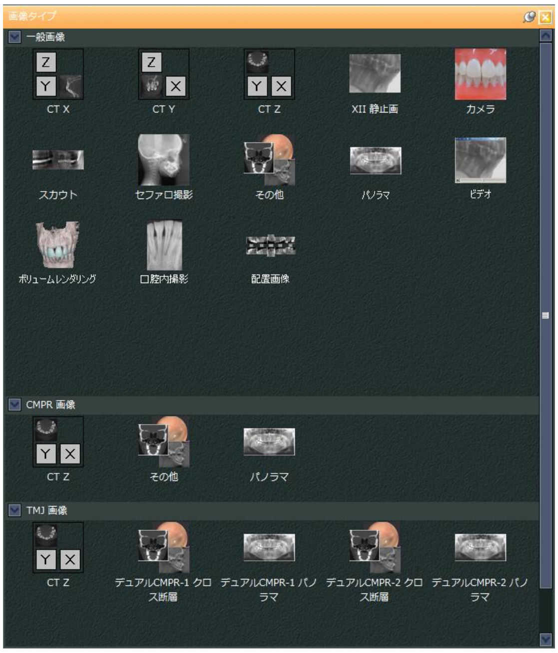
テンプレートにオブジェクトを配置する

テンプレートには、画像タイプオブジェクト、患者オブジェクトなどのオブジェクトを挿入することができます。

画像タイプオブジェクトを配置する

テンプレートに、画像タイプオブジェクトを配置します。
配置した画像タイプオブジェクトの位置やサイズに沿って、画像を挿入できます。

画像タイプタブをクリックすると、一般画像、CMPR 画像、TMJ 画像の項目別に、画像タイプオブジェクトが表示されます。



画像タイプタブをクリックして、配置したい画像タイプオブジェクトを選択します。
一般画像、CMPR 画像、TMJ 画像の項目で、用意されている画像タイプオブジェクトは、以下のとおりです。

[一般画像]

CT X:	CT モダリティに保存されている X スライス画像を挿入します。
CT Y:	CT モダリティに保存されている Y スライス画像を挿入します。

CT Z:	CT モダリティに保存されている Z スライス画像を挿入します。
XII 静止画:	Xii-Still モダリティに保存されている画像を挿入します
カメラ:	カメラモダリティに保存されている画像を挿入します。
スカウト:	CT-Scout モダリティに保存されている画像を挿入します。
セファロ撮影:	Cephalo モダリティに保存されている画像を挿入します。
その他:	OtherImage モダリティに保存されている画像を挿入します。
パノラマ:	Panorama モダリティ、PanoramaPlus モダリティに保存されている画像を挿入します。
ビデオ:	Video モダリティに保存されている動画から、コピー時のフレームを画像として挿入します。
ボリュームレンダリング:	3D ビューワに表示したボリュームレンダリング画像を挿入します。
口腔内撮影:	IntraOral モダリティに保存されている画像を挿入します。
配置画像:	画像配置データを 1 枚の画像として挿入します。

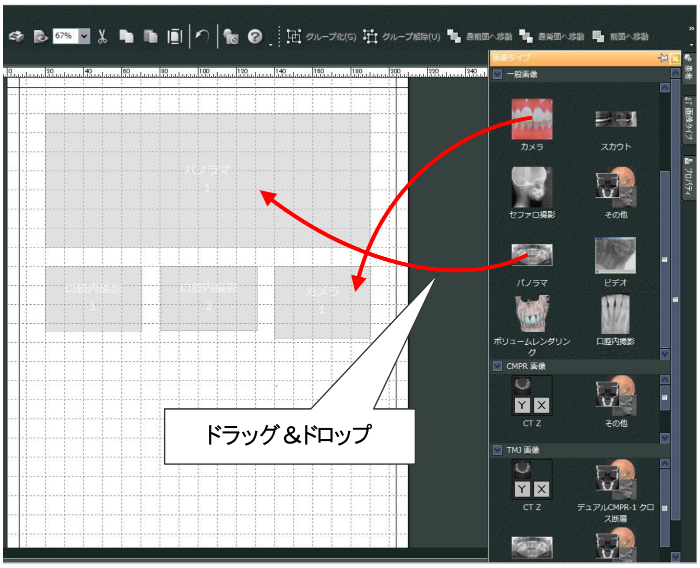
[CMPR 画像]

CT Z:	CurvedMPR ビューに表示した Z スライス画像を挿入します。
その他:	CurvedMPR ビューで生成したクロス断層画像を挿入します。
パノラマ:	CurvedMPR ビューで生成したパノラマ画像を挿入します。

[TMJ 画像]

CT Z:	デュアル CMPR ビューに表示した Z スライス画像を挿入します。
デュアル CMPR-1 クロス断層:	デュアル CMPR ビューで、1 組目に生成したクロス断層画像を挿入します。
デュアル CMPR-1 パノラマ:	デュアル CMPR ビューで、1 組目に生成したパノラマ画像を挿入します。
デュアル CMPR-2 クロス断層:	デュアル CMPR ビューで、2 組目に生成したクロス断層画像を挿入します。
デュアル CMPR-2 パノラマ:	デュアル CMPR ビューで、2 組目に生成したパノラマ画像を挿入します。

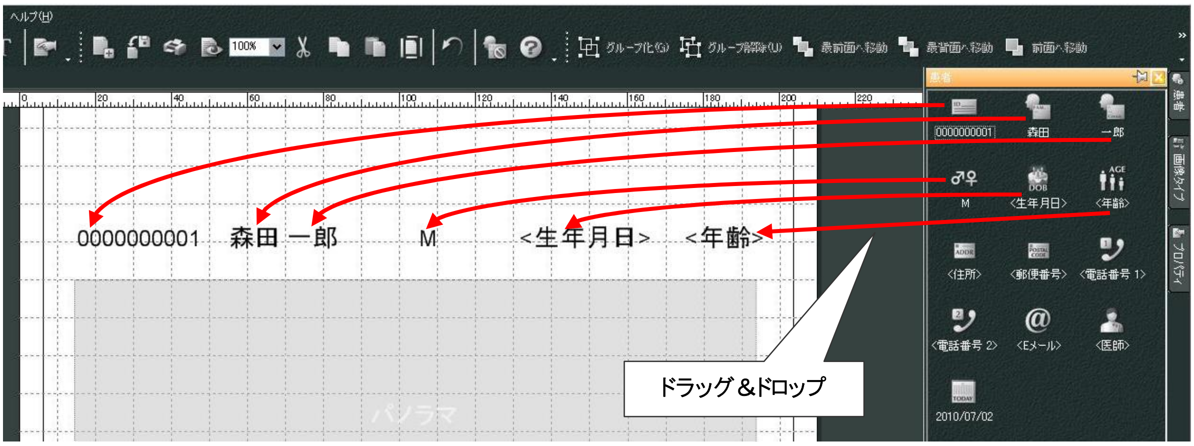
選択した画像タイプオブジェクトを、ドラッグ＆ドロップして、任意の位置に配置します。
また、画像タイプオブジェクトの位置、サイズなどはいつでも調整できます。



患者情報オブジェクトを配置する

患者タブをクリックして、配置したい患者情報オブジェクトを選択します。
用意されている患者情報オブジェクトは、以下のとおりです。

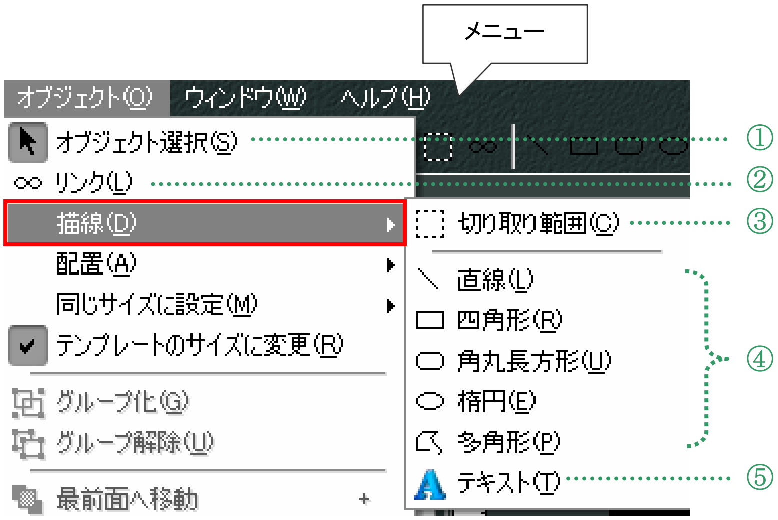
選択した患者情報オブジェクトを、ドラッグ＆ドロップして、テンプレートの任意の位置に配置します。



図形・文字のオブジェクトを作成して配置する

オブジェクト描画ツールを使用して、図形や文字のオブジェクトを作成します。

メニューの[オブジェクト(O)]-[描線(D)] 又は、線形ツールバーのオブジェクト描画ツールから、使用する描画ツールをクリックして選択し、図形やテキスト(文字)のオブジェクトを作成してテンプレートに配置します。



①オブジェクト選択	クリックまたはドラッグで配置されたオブジェクトを選択します。 複数のオブジェクトを選択するときは、Ctrl を押しながらクリックするか、ドラッグして囲みます。
②リンク	CurvedMPR のパノラマ画像と断層画像を関連付けます。
③切り取り範囲	切り取り(トリミング)の範囲をドラッグして指定し、右クリックして[トリミング]を選択します。 ※ 指定した範囲が切り取られて残ります。
④図形	直線、四角形、角丸長方形、楕円は、ドラッグすると描画できます。 多角形を描画するには、まず開始点をクリックします。クリックした点が頂点となり、クリックした順に直線で結ばれます。ダブルクリックした時点を最終点とし、開始点と結ばれて描画されます。 ※ 四角形、角丸長方形、楕円のオブジェクトにテキストを追加することができます。 オブジェクトの上でダブルクリックすると入力できます。
⑤テキスト	テキスト(文字)を入力できます。 テキストを追加したい位置をドラッグして指定し、マウスの左ボタンを離すとテキスト入力ウィンドウが開きます。 テキストを入力し、縁線の外側をクリックすると決定します。

10.1-(2)　オブジェクトを編集する

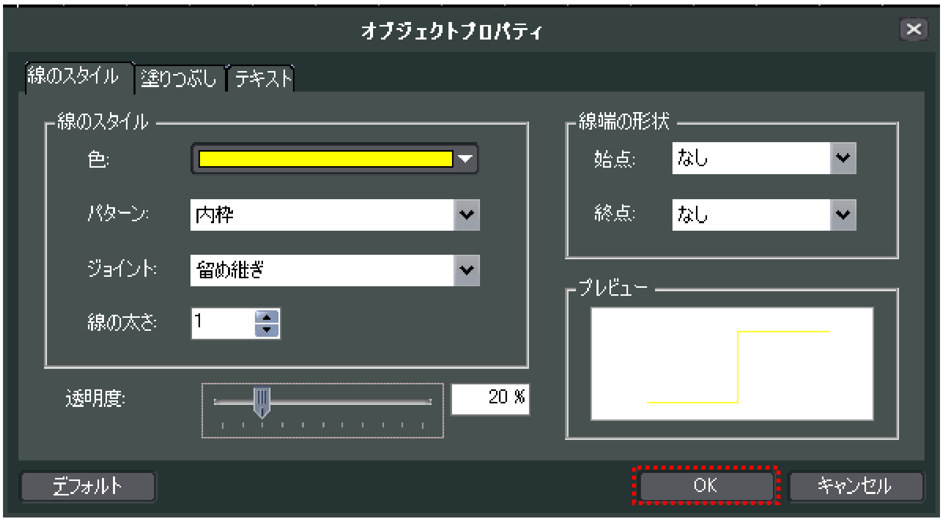
図形や文字オブジェクトのプロパティ（線の色、フォントなど）、サイズ、位置などの設定を変更することができます。

オブジェクトのプロパティを変更する

設定を変更したいオブジェクトを選択し右クリックして、[プロパティ(T)]を選択するか、又は、線形ツールバーのオブジェクト描画プロパティ編集ボタンをクリックして、オブジェクトプロパティの設定を行います。

※ Shift キーを押したまま複数のオブジェクトをクリックして選択し、プロパティを変更すると、選択した全てのオブジェクトに同じ設定が適用されます。

各設定を行ったあと、OK ボタンをクリックすると決定します。



※ デフォルト設定（初期設定）に戻す場合は、[デフォルト]ボタンをクリックしたあと、OKボタンをクリックします。

プロパティウィンドウについて

オブジェクトを選択し、プロパティウィンドウを表示すると、選択したオブジェクトのプロパティが確認できます。
また、オブジェクトのプロパティを変更することもできます。

「オブジェクト」

テンプレートに配置されたオブジェクトの個数が確認できます。

「選択」

現在選択されているオブジェクトの個数が確認できます。

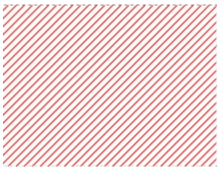
「選択」-「縁線と線」

線の色などに関するプロパティの確認、変更ができます。　オブジェクトを縁取る枠線のプロパティの確認、変更ができます。　スタイルは、線のパターンを意味します。

「選択」-「塗りつぶし」

オブジェクト内を塗りつぶす色、塗りつぶしのパターンなどの確認、変更ができます。　スタイルは、塗りつぶしのパターンを意味します。　背景色は、オブジェクト内を塗りつぶす色を意味します。　パターン色は、オブジェクト内を塗りつぶすパターンの色を意味します。

例えば、スタイル：右上がり斜線、背景色：255,255,255（白）、パターン色:：255,0,0（赤）が設定されている場合、オブジェクトは以下の様に、塗りつぶされます。



背景は、白色で塗りつぶされます。
赤色の右上がり斜線で、塗り潰されます。

「選択」-「テキスト」

オブジェクト内に表示される文字のプロパティの確認、変更ができます。
横・縦方向では、オブジェクト内における文字の配置位置に関する確認、変更ができます。

「位置」

オブジェクトの配置位置・サイズの確認、変更ができます。
“倍率” は、画像タイプオブジェクトに配置された画像の表示倍率を意味します。
“テンプレートのサイズに変更” は、画像タイプオブジェクトの大きさに合わせて、画像が挿入されます。
※ 倍率、テンプレートのサイズに変更は、画像タイプオブジェクトで有効です。

「位置」-「ルーラー」

ルーラーの表示位置、色に関する確認、変更ができます。　ルーラーはオブジェクトの枠に表示できます。
※ ルーラーは画像タイプオブジェクトで有効です。

「基本サイズ」

オブジェクトのデフォルトサイズの確認、変更ができます。

「ファイルの概要」

作成日時の確認、作成者などの確認、設定ができます。

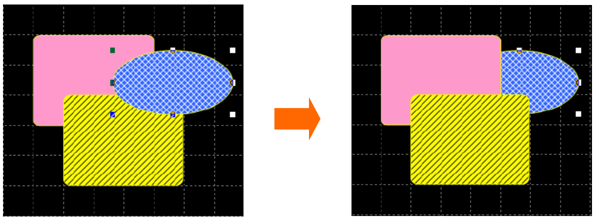
オブジェクトプロパティをクリックすると、オブジェクトプロパティのダイアログが表示され、選択中のオブジェクトのプロパティが変更できます。

サイズのリセットをクリックすると、選択中のオブジェクトのサイズが、「基本サイズ」の幅、高さに従って、リセットされます。

オブジェクトを重ねる順序を変更する

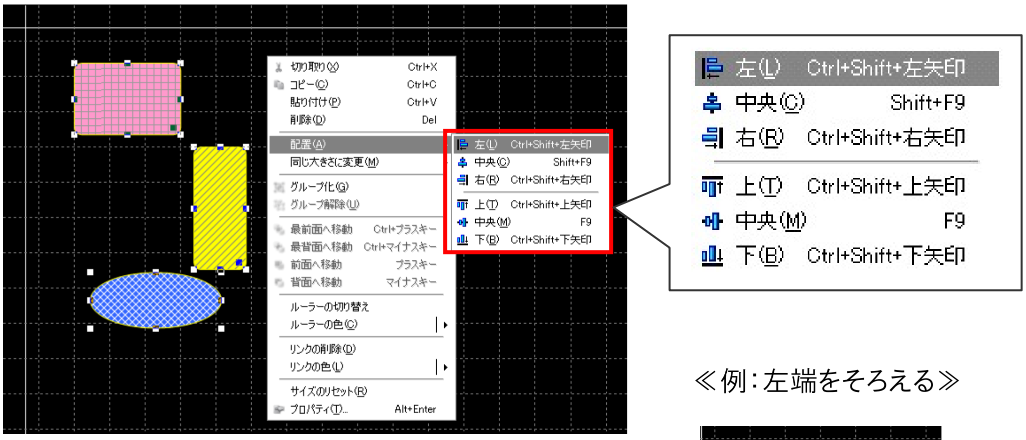
順序を変更したいオブジェクトを選択し、右クリックするか、メニューの[オブジェクト(O)]又は、ツールバーのオブジェクト表示位置ツールバーから「移動したい位置」を選択します。

≪例：最背面へ移動≫

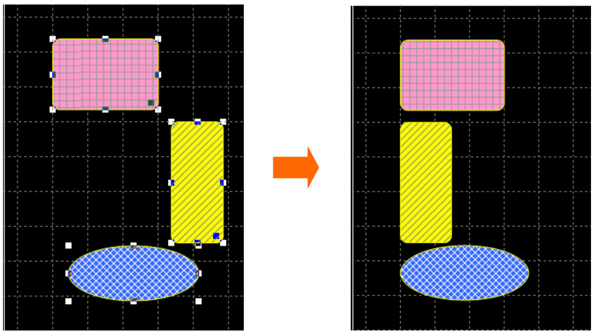


オブジェクトを整列させる

基準となるオブジェクトを選択し、次に Shift キーを押しながら位置をそろえたい全てのオブジェクトを、クリックするか、ドラッグして囲んで選択します。 右クリックするか、メニューの[オブジェクト(O)]から[配置]をクリックして、「そろえたい位置」を選択します。



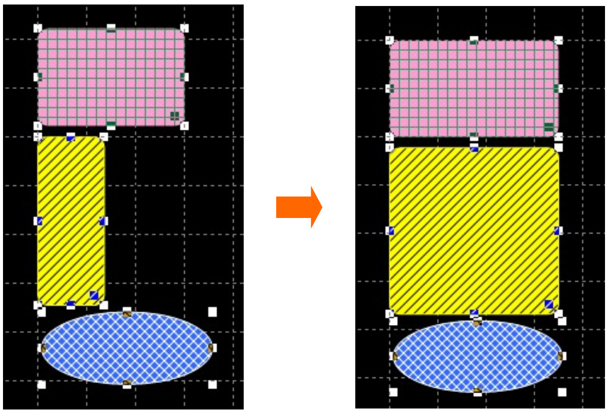
≪例：左端をそろえる≫



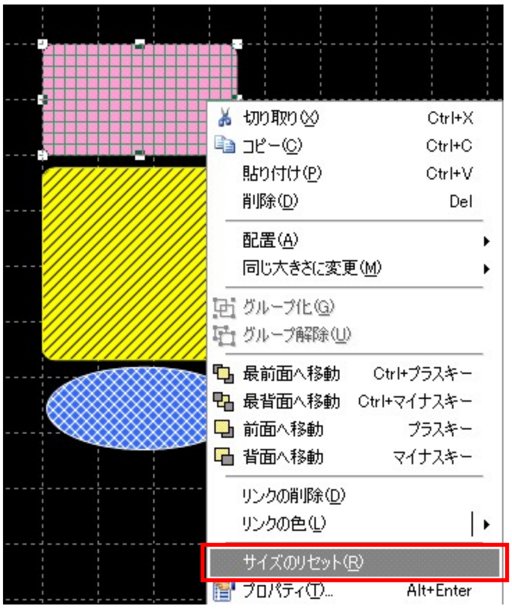
複数のオブジェクトのサイズを同じにする

基準となるオブジェクトを選択し、次に Shift キーを押しながらサイズを同じにしたい全てのオブジェクトを、クリックするか、ドラッグして囲んで選択します。 右クリックするか、メニューの[オブジェクト(O)]から、[同じサイズに設定(M)]をクリックして、「横幅・高さ・横幅と高さ」のいずれかを選択します。

≪例：横幅を同じにする≫



※ サイズ調整されたオブジェクトを元のサイズに戻す場合は、オブジェクトを選択し、右クリックして、[サイズのリセット(R)]を選択します。



※リセットサイズは、オブジェクトの種類毎に異なります。

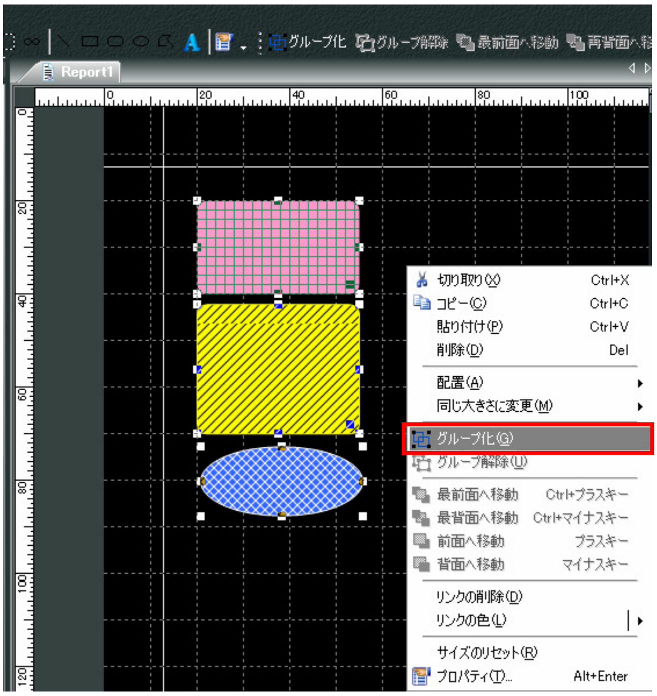
画像オブジェクト:　規定のサイズ

描線オブジェクト:　作成したときのサイズ

複数のオブジェクトをグループ化する

複数のオブジェクトをひとつにまとめると(＝グループ化)、一度にまとめて移動したり、サイズを変更したりすることができます。

Shift キーを押したまま、グループ化したい全てのオブジェクトをクリックするか、ドラッグして囲んで選択します。 右クリックして、[グループ化(G)]を選択すると選択した全てのオブジェクトがグループ化されます。 又は、メニューの[オブジェクト(O)]から[グループ化(G)]を選択しても実行できます。



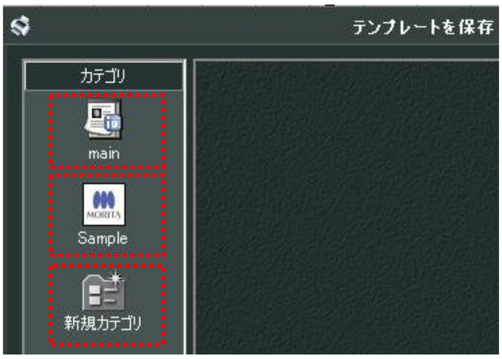
※グループ化を解除する場合は、グループ化したオブジェクトを選択し、右クリックして、[グループ　解除(U)]を選択します。

10.1-(3)　テンプレートを保存する

テンプレートを保存すると、作成したオブジェクトやその配置が保存されますので、あとで何度でも利用できます。
テンプレートは、カテゴリ毎に分類して保存することができます。　カテゴリはテンプレートの保存フォルダです。

メニューの[ファイル(F)]から、[テンプレートとして保存(V)]を選択します。

新規カテゴリを作成するか、既に作成しているカテゴリを選択してください。
新規カテゴリを作成する場合は、[新規カテゴリ]ボタンをクリックして、新規カテゴリの名称を決定します。



※[新規カテゴリ]を選択した場合は、以下のダイアログが開きます。
　新規カテゴリの名称を入力し、[作成(R)]ボタンをクリックします。

カテゴリ名について

PrintCenter の起動直後に、テンプレートウィンドウに最優先で表示されるカテゴリを作成したい場合は、カテゴリ名の先頭に数字を付加します。
カテゴリ名の先頭に数字が付加されたカテゴリが、最優先で表示されます。
例えば、登録されているカテゴリが、1Morita Defaullt main template の場合、1Morita が表示されます。

テンプレートを保存ダイアログが開きます。
テンプレートの名称を入力し、「保存」をクリックします。

10.1-(4)　テンプレートを削除する

保存したテンプレートが削除できます。また、テンプレートを分類しているカテゴリも削除できます。

テンプレートを削除する

テンプレートウィンドウから、削除するテンプレートのサムネールを右クリックし、「削除」を選択します。

カテゴリを削除する

1.　テンプレートウィンドウの下部に表示されるアイコンをクリックし、削除するカテゴリを選択します。

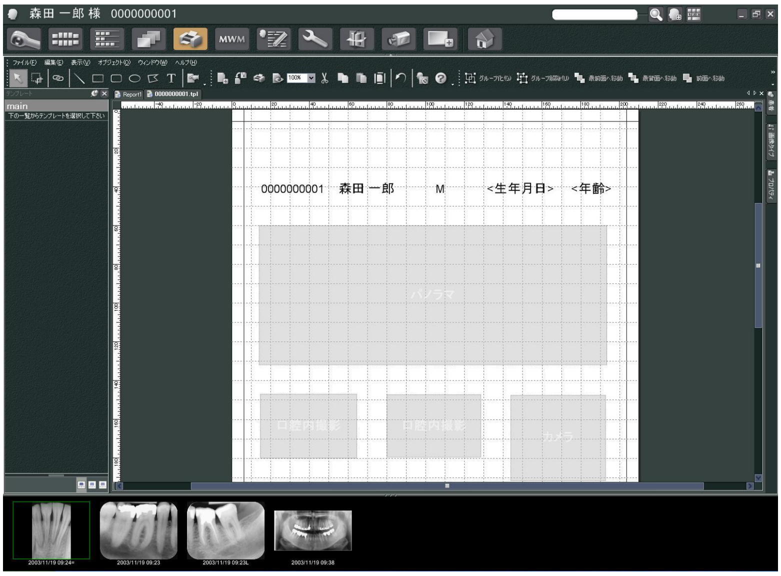
2.　選択したカテゴリのアイコンを右クリックし、「カテゴリの削除」を選択します。

※　削除するカテゴリにテンプレートが保存されていると次のダイアログが表示されます。「はい(Y)」をクリックすると、全てのテンプレートが削除されて、カテゴリが削除されます。

10.2　テンプレートに画像を挿入する

10.2-(1)　テンプレートを選択する

メニューの[ファイル(F)]-[テンプレートを開く(T)...]をクリックします。
カテゴリからテンプレートを選択して、ダブルクリックすると、テンプレートが表示されます。



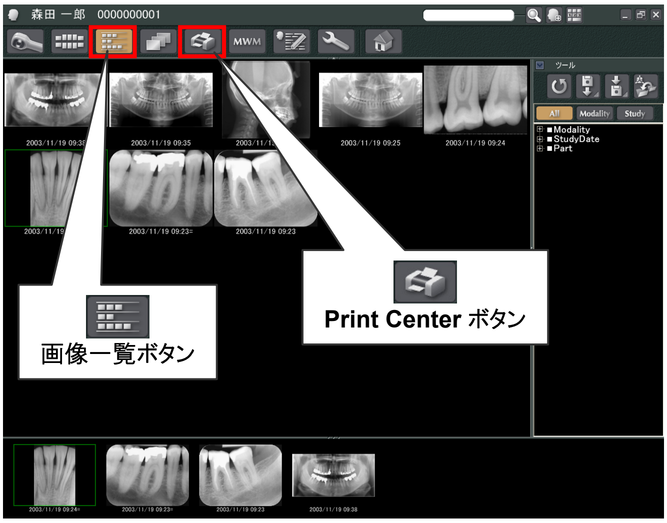
10.2-(2)　テンプレートに画像を挿入する

Print Center で作成したテンプレートに画像を挿入します。
i-VIEW ソフトウェアの画像、又は、i-VIEW ソフトウェア以外のアプリケーションで編集した画像が、挿入できます。
i-VIEW のオプション機能である 3D ビューワの CurvedMPR ビュー、デュアル CMPR ビューで生成したクロス断層画像、パノラマ画像が、挿入できます。

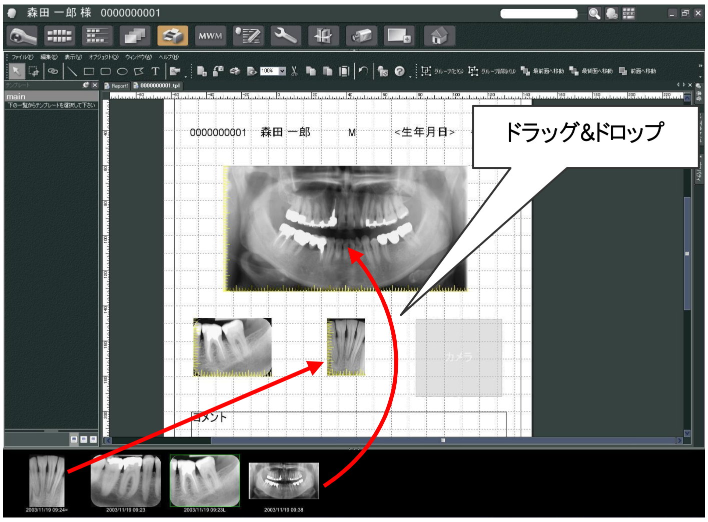
* CurvedMPR ビュー、デュアル CMPR ビューにおけるクロス断層画像、パノラマ画像の生成に関しては、i-VIEW ソフトウェア取扱説明書 3D 機能編　5. 3D ビューワ　を参照してください。

i-VIEW ソフトウェアのデータを挿入する

画像一覧ボタンをクリックして、画像一覧画面を呼び出し、テンプレートに挿入する画像データをクリックして選択し、バスケットへ入れます。
Print Center ボタンをクリックして、Print Center 画面に戻ります。



バスケットから、Print Center のオブジェクト表示ウィンドウへ、画像をドラッグ&ドロップして挿入します。 このとき、画像は画像タイプオブジェクトの大きさに合わせて挿入されます。



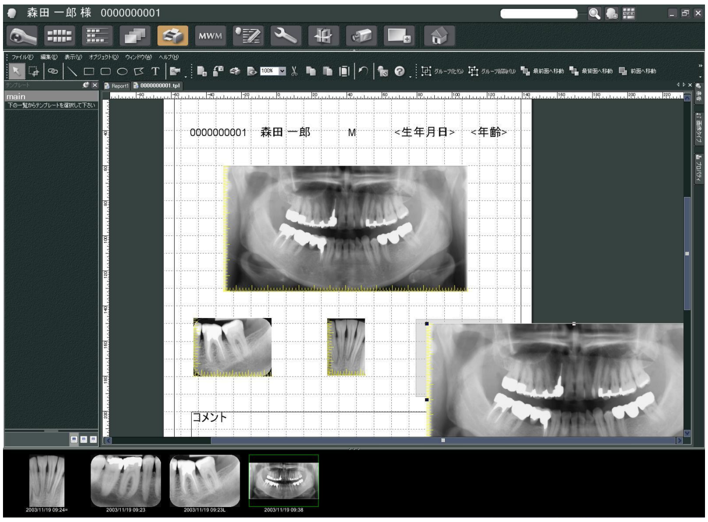
※ サイズ調整されて挿入された画像を、元のサイズで貼付したい場合は、画像を右クリックして、[サイズのリセット(R)]を選択します。

※ 挿入する画像のサイズを画像タイプオブジェクトに合わせず、元のサイズで挿入したい場合は、メニューの[オブジェクト(O)]-[テンプレートのサイズに変更(R)]のチェックを外してください。

※テンプレートに画像を挿入するとき、以下のことに注意してください。

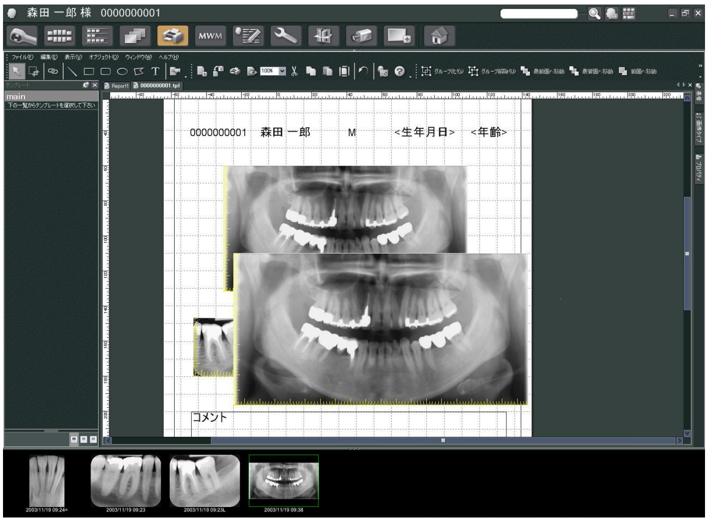
挿入した画像の画像タイプオブジェクトがテンプレートにない場合

≪例≫
「パノラマ」の画像タイプオブジェクトが挿入されていないテンプレートに、パノラマ画像をドラッグ&ドロップすると、画像はドロップした位置に挿入されます。



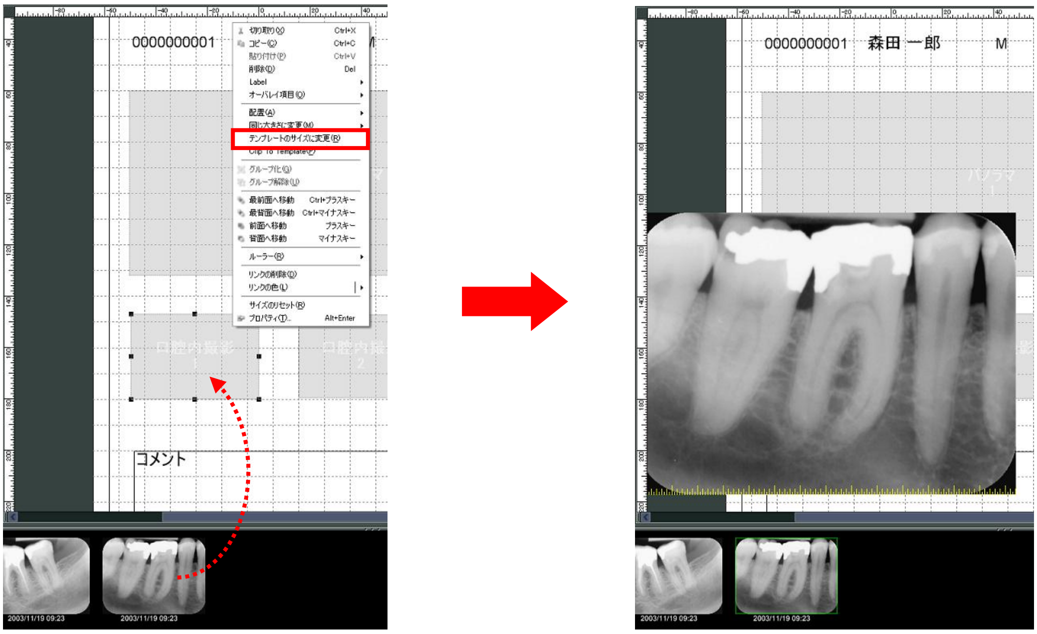
画像タイプオブジェクトの数を超える枚数の画像を挿入した場合

≪例≫
テンプレートに、「パノラマ」の画像タイプオブジェクトが1つ配置されているとき、2 枚以上のパノラマ画像を挿入しようとすると、1 枚目にドラッグ&ドロップした画像は、画像タイプオブジェクトに挿入され、あとの 1 枚はドロップした位置に挿入されます。



画像タイプオブジェクトの大きさに合わせて画像が挿入されない場合

≪例≫
「テンプレートのサイズに変更」が無効である画像タイプオブジェクトに画像を挿入すると、画像タイプオブジェクトに大きさに合わせて、画像は挿入されません。



該当する画像タイプオブジェクトを右クリックし、「テンプレートのサイズに変更」を有効にすると、画像タイプオブジェクトの大きさに合わせて、画像が挿入されます。

※ 「テンプレートのサイズに変更」の設定は、プロパティタブをクリックした際に、表示されるウィンドウの「テンプレートのサイズに変更」でも設定できます。

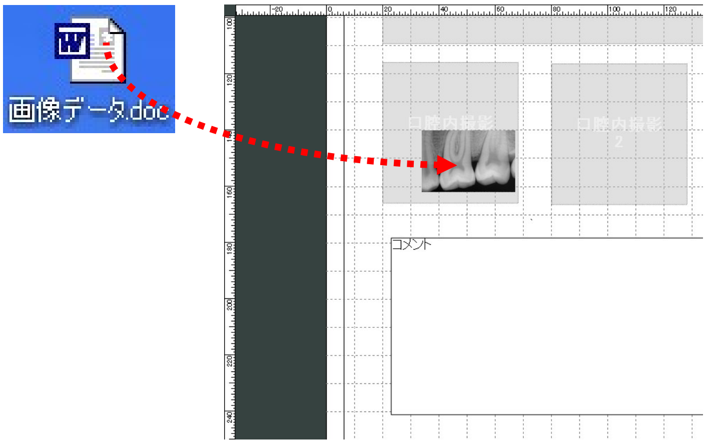
他のアプリケーションで編集した画像データを挿入する

Microsoft Word など、他のアプリケーションで編集した画像データが、PrintCenter のテンプレートに挿入できます。
Microsoft Word 文書内の画像データを、PrintCenter のテンプレートに挿入する手順を例にして、説明します。
挿入方法として、以下の 4 通りがあります。

※ 画像データ以外に、他のアプリケーションで編集した図形、文字も挿入できます。 但し、画像データ、図形、文字の挿入に対応できないアプリケーションがあります。
※ 他のアプリケーションで編集した画像データを、テンプレートに挿入する場合、画像タイプオブジェクトのサイズに自動調整されません。 挿入後、適切なサイズに手動で調整する必要があります。

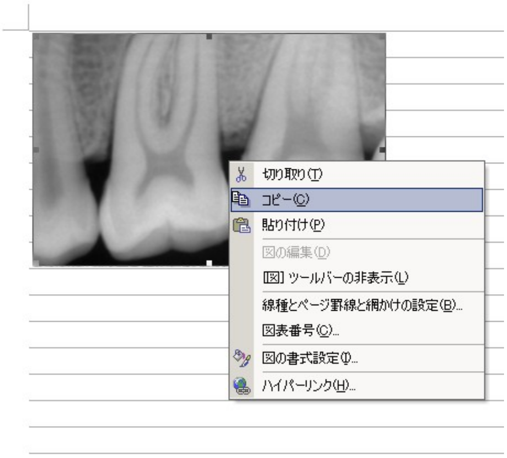
Microsoft Word文書 アイコンのドロップによる挿入

Microsoft Word文書のアイコンを、PrintCenterのテンプレートにドラッグ＆ドロップすると、文書内の画像データが挿入できます。

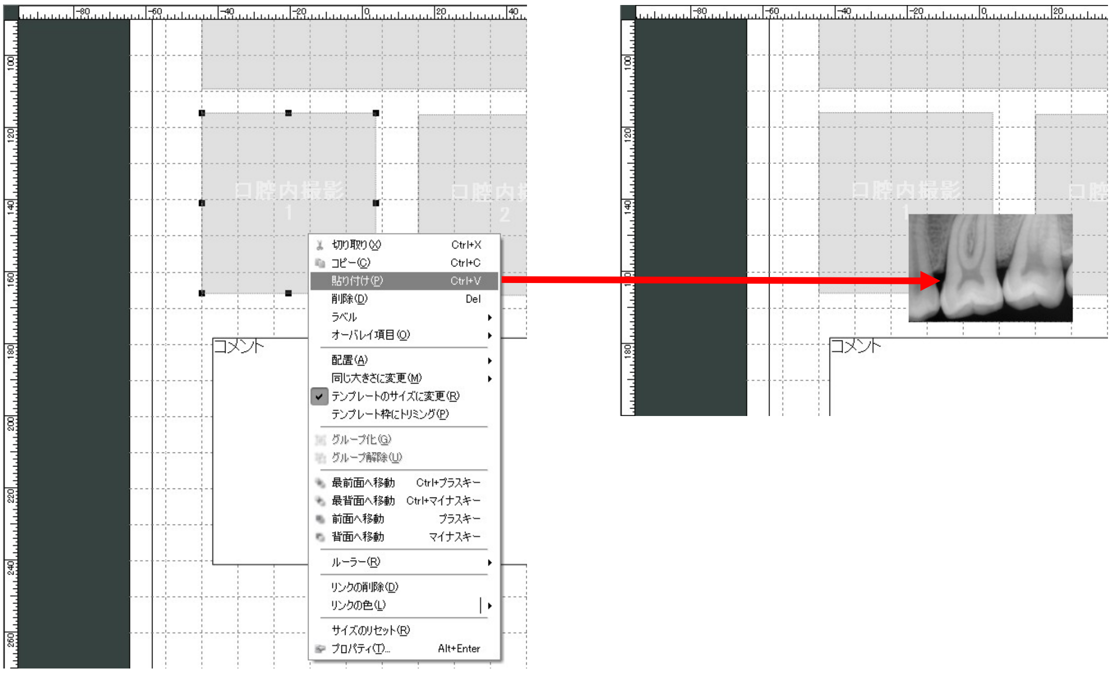


文書内の画像データのコピー&ペーストによる挿入

1. Microsoft Word文書内の画像データをコピーします。



2. テンプレート上を右クリックし、貼り付けを選択すると、文書内の画像データが挿入できます。。



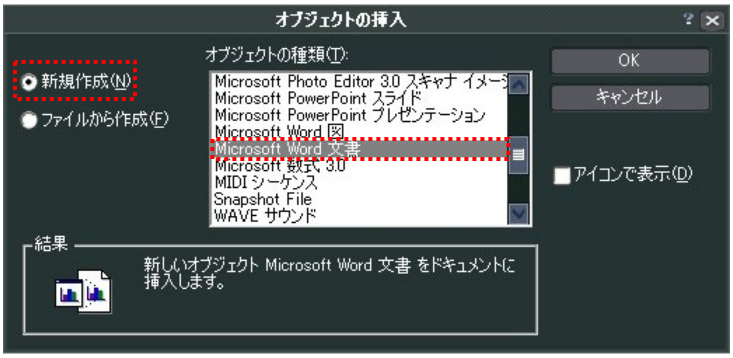
オブジェクトの挿入ダイアログからの挿入

以下に示す、オブジェクトの挿入 ダイアログから、画像データが挿入できます。
新規作成を選択した場合、ファイルからの作成を選択した場合で、手順が異なります。

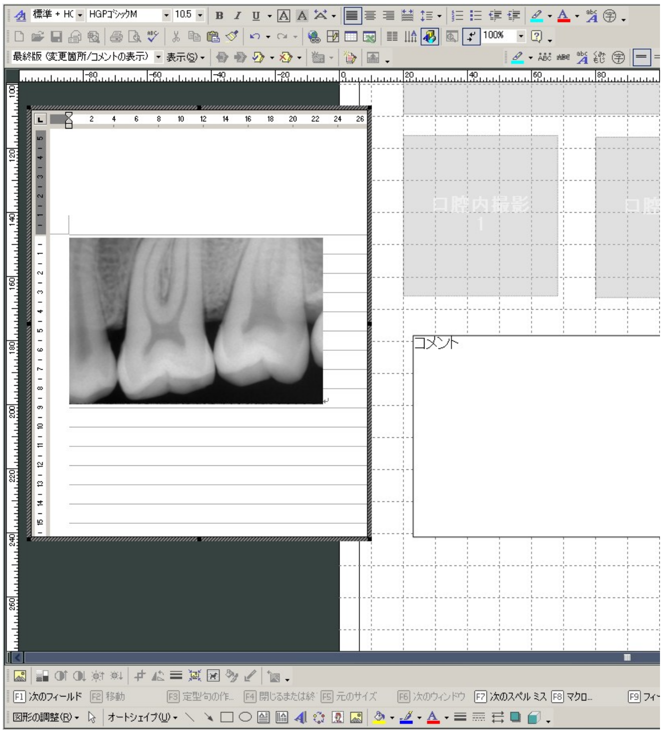
<<新規作成を選択した場合>>

1. メニューの [編集(E)] – [新規オブジェクトの挿入(N)…] を選択します。 オブジェクトの挿入 ダイアログが表示されます。

2. 新規作成(N)を選択し、オブジェクトの種類(T)から、Microsoft Word 文書を選択し、OKボタンをクリックします。

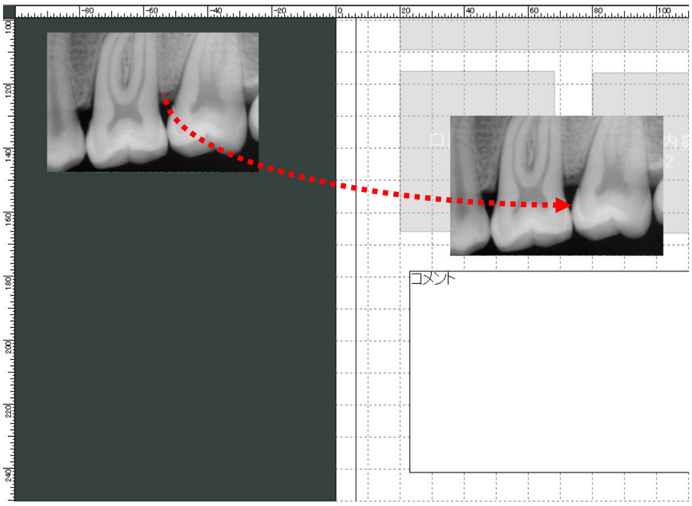


3. PrintCenterに、Microsoft Wordの編集画面が表示されます。　編集画面で、画像データを編集します。



※　編集方法は、Microsoft Wordで文書を作成する方法と同様です。

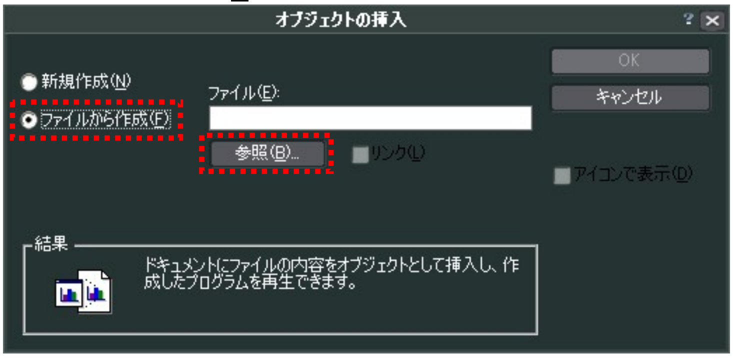
4. 編集画面以外の箇所をクリックし、編集画面を閉じます。　編集した画像データが表示されます。
画像データを、テンプレート上にドラッグ＆ドロップすると、編集した画像データが挿入できます。



<<ファイルからの作成を選択した場合>>

1. メニューの ［ 編集(E) ］ – ［ 新規オブジェクトの挿入(N)… ］ を選択します。 オブジェクトの挿入 ダイアログが表示されます。

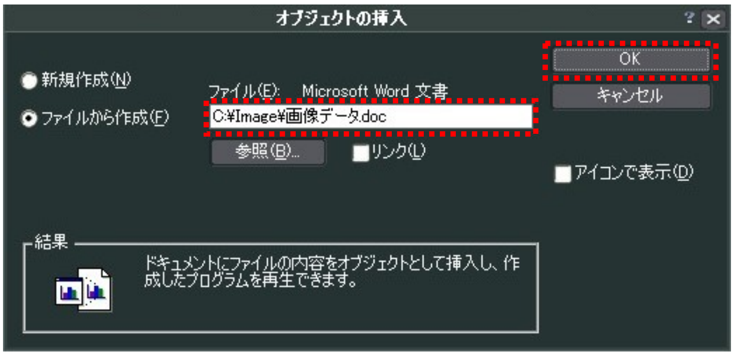
2. ファイルからの作成(F)を選択し、参照ボタンをクリックします。



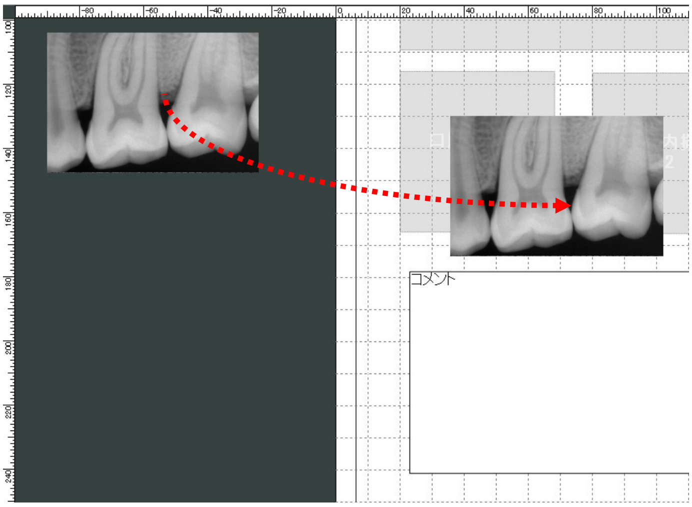
※ ファイル(F) のテキストボックスに、Microsoft Word文書の保存先、ファイル名が、直接入力できます。

3. Microsoft Word文書の保存先、ファイル名を指定します。

4. 指定されたMicrosoft Word文書の保存先、ファイル名が、入力されていることを確認し、OKボタンをクリックします。



5. Microsoft Word文書内の画像データが表示されます。　画像データを、テンプレート上にドラッグ＆ドロップすると、画像データが挿入できます。

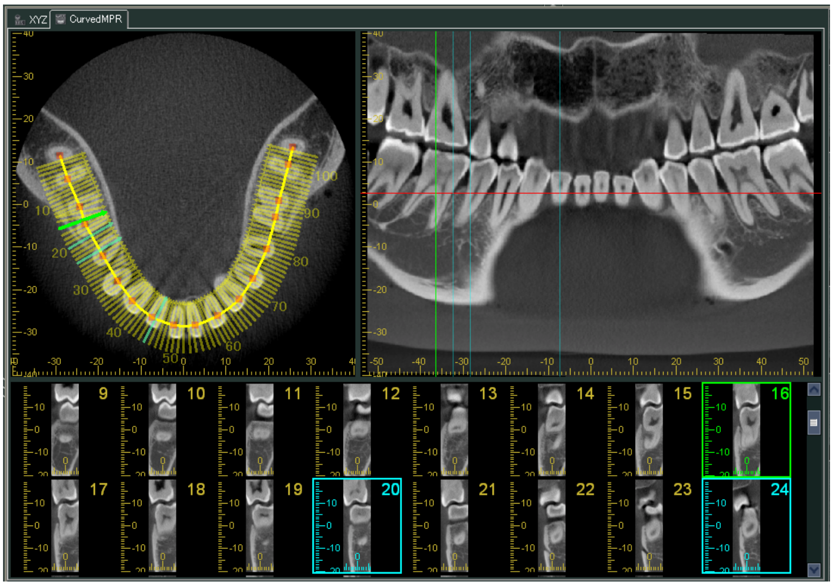


CurvedMPR ビューのクロス断層画像とパノラマ画像を関連付ける (オプション)

CurvedMPR ビューのパノラマ画像と断層画像が、Print Center に貼付できます。
また、貼付けたクロス断層画像とパノラマ画像を、関連付けて表示できます。
これらの機能は、オプション機能です。

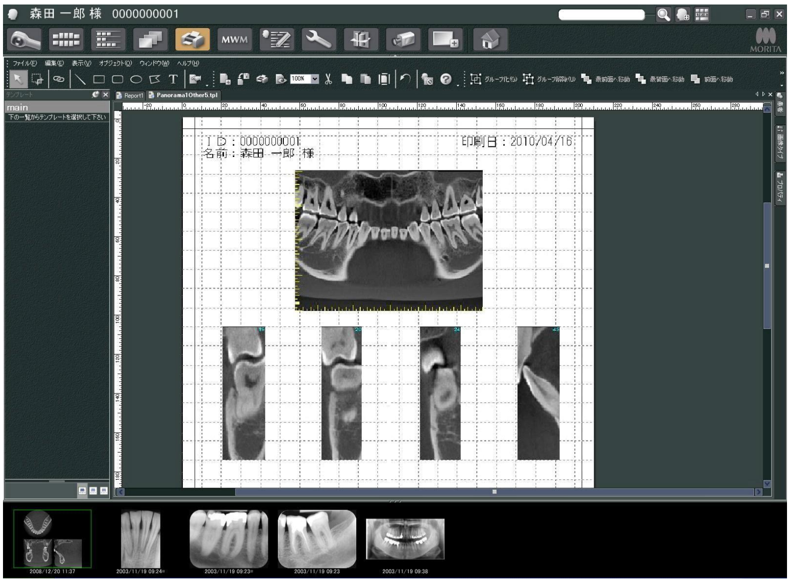
※ CurvedMPR ビューを呼び出す前に、画像タイプの CMPR 画像項目における、画像タイプオブジェクトの「パノラマ」と「その他」を配置したテンプレートを保存しておきます。（未保存のテンプレートには貼付することができません。）

1) CurvedMPRビューを呼び出し、Print Centerへ挿入する画像を選択します。（Ctrlキーまたは、Shiftキーを押しながらクリックすると複数の画像を選択することができます。）



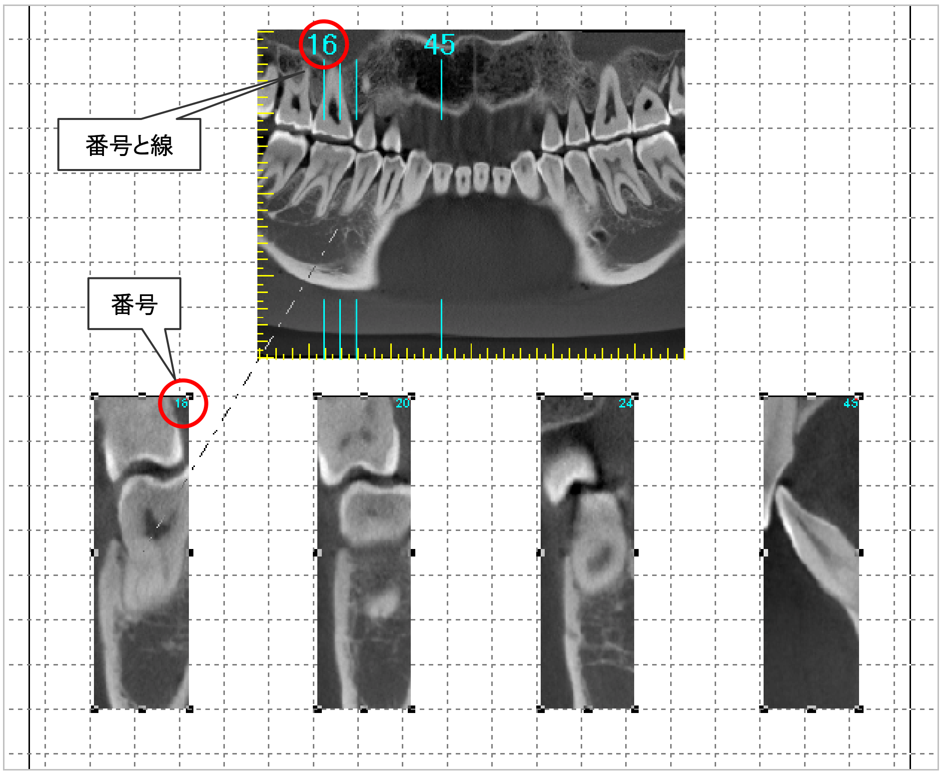
2) Print Centerボタン をクリックします。

3) [テンプレートを選択]のウィンドウが表示されますので、画像タイプのCMPR画像項目における、「パノラマ」と「その他」の画像タイプオブジェクトを配置したテンプレートを選択します。
[OK]をクリックすると、Print Centerに画像が挿入されます。



4) パノラマ画像に、クロス断層画像の生成番号が表示でき、各々の画像を関連付けることができます。
ツールバーのリンクボタンをクリックした後、クロス断層画像をドラッグします。　このとき、ポインタは手の形に変わります。　パノラマ画像でドロップすると、パノラマ画像に、クロス断層画像の生成番号、及び、断層位置を示す線が表示されます。

※関連付けを解除したい場合は、該当の画像を右クリックして、[リンクを削除する]を選択します。



クロス断層画像に表示される番号の色を変更することができます。　断層画像を右クリックして、[リンクの色(L)]のパレットから色を選択すると変更されます。

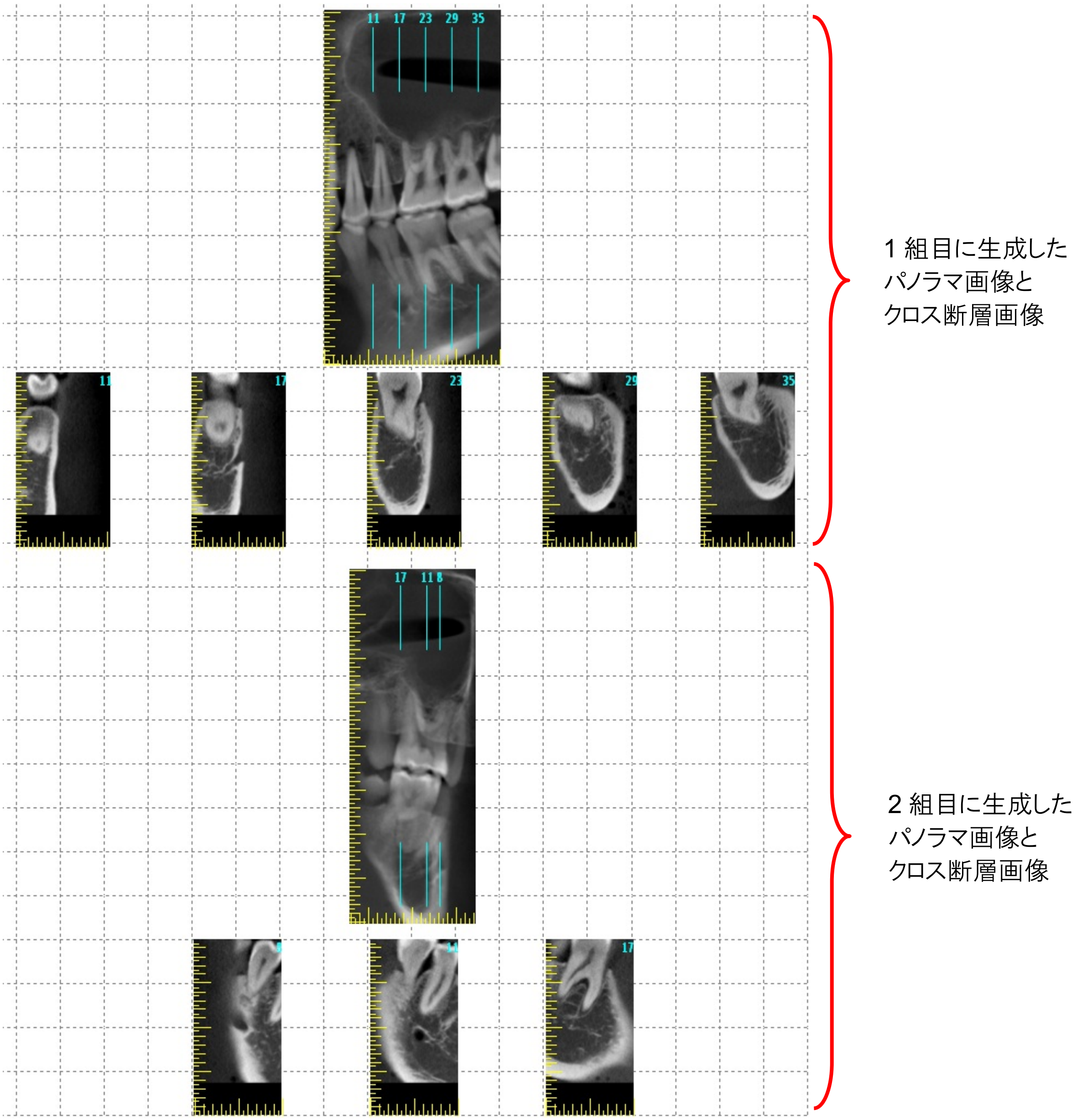
番号の色を変更すると、それに応じて、パノラマ画像に表示されている番号及び線の色が変更されます。

デュアル CMPR ビューのクロス断層画像とパノラマ画像を関連付ける (オプション)

デュアル CMPR ビューで生成したクロス断層画像とパノラマ画像が、Print Center に貼付できます。
デュアル CMPR ビューで画像を選択した後、Print Center ボタンをクリックし、テンプレートを選択すると、画像を貼り付けることができます。
これらの機能は、オプション機能です。

※ 画像を貼り付けるには、画像タイプの TMJ 画像項目における、「デュアル CMPR-1 クロス断層」、「デュアル CMPR-1 パノラマ」、「デュアル CMPR-2 クロス断層」、「デュアル CMPR-2 パノラマ」の画像オブジェクトを配置したテンプレートを保存しておく必要があります。（未保存のテンプレートには、貼付することができません。）

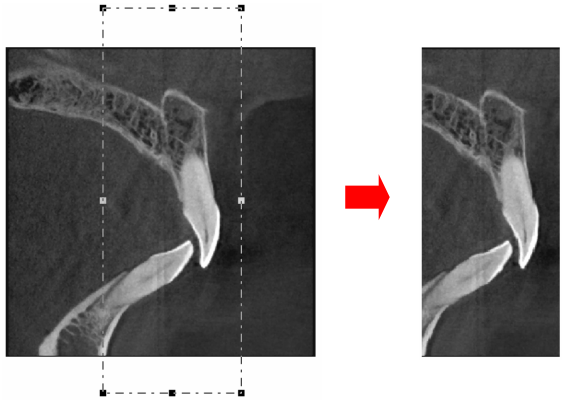
パノラマ画像に、クロス断層画像の生成番号が表示でき、各々の画像を関連付けることができます。
ツールバーのリンクボタンをクリックした後、クロス断層画像をドラッグし、パノラマ画像でドロップすると、パノラマ画像に、クロス断層画像の生成番号及び、断層位置を示す線が表示されます。
関連付けは、デュアル CMPR ビューで生成した組が同じである、クロス断層画像とパノラマ画像で行えます。



画像をトリミングする

Print Center に挿入した画像をトリミングし、不必要な箇所を取り除いて、関心領域を強調して表示させることができます。

トリミングを行うには、メニューの[オブジェクト(O)]-[描線(D)]か、線形ツールバーから[切り取り範囲(C)]を選択し、切り取り範囲をドラッグして指定します。
右クリックして[トリミング]を選択するとトリミングされます。



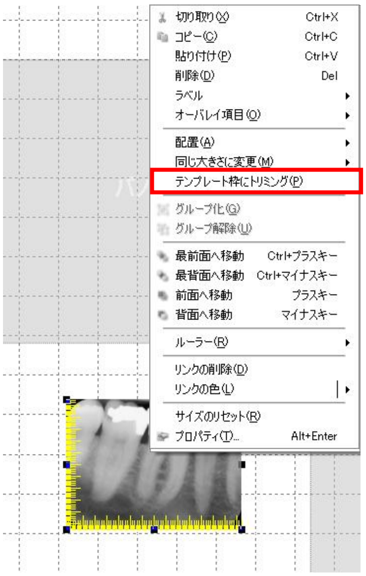
元の画像を復元したい場合は、トリミングした画像を右クリックして[元の画像に戻す]を選択します。

画像を自動的にトリミングする

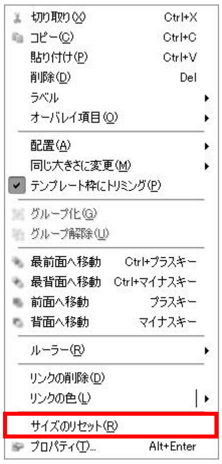
画像タイプオブジェクトのサイズに合わせて、画像が自動的にトリミングできます。

1. 画像タイプオブジェクトの大きさに合わせて、画像を挿入します。

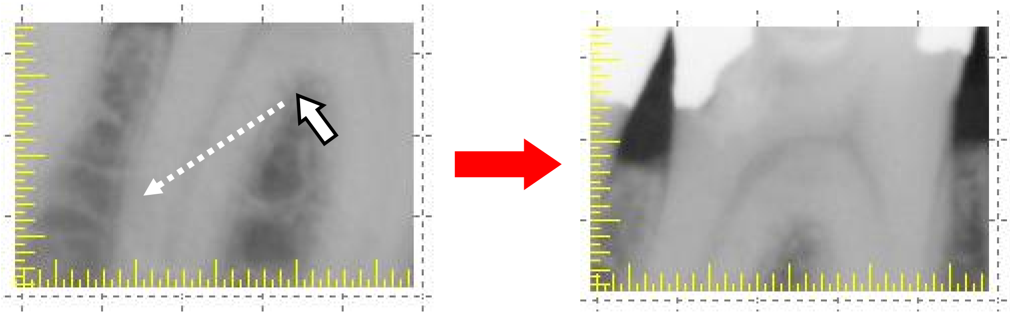
2. 挿入した画像を右クリックし、テンプレート枠にトリミング(P)を選択します。



3. 再度、画像を右クリックし、サイズのリセット(R)を選択します。



4. 画像タイプオブジェクトのサイズに合わせて、画像がトリミングされます。
トリミングする箇所は、マウスで移動できます。

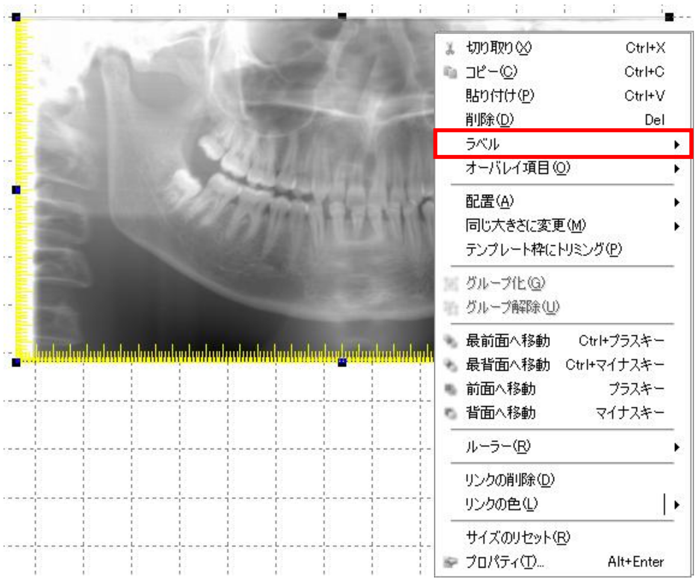


画像にラベルをオーバーレイ(描画)する

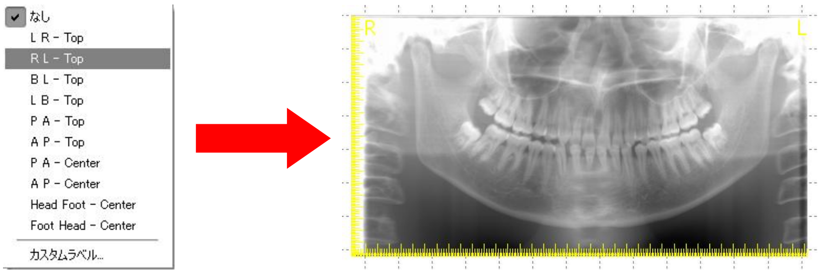
画像にラベルがオーバーレイ(描画)できます。パノラマ画像に RL 文字をオーバーレイする場合に有効です。

≪例:パノラマ画像に RL 文字をオーバーレイする≫

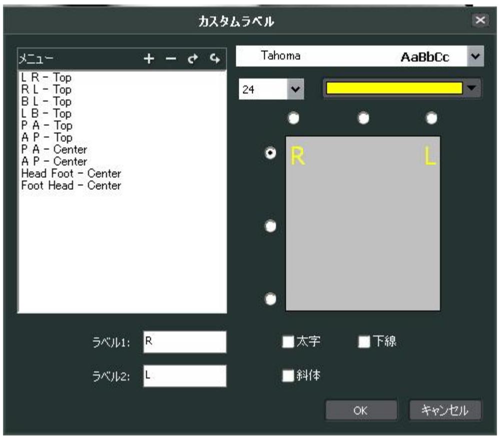
1. オーバーレイする画像を右クリックし、ラベルを選択します。



2. オーバレイするラベルとして、RL - Top を選択します。
パノラマ画像の上部に RL 文字がオーバーレイされます。

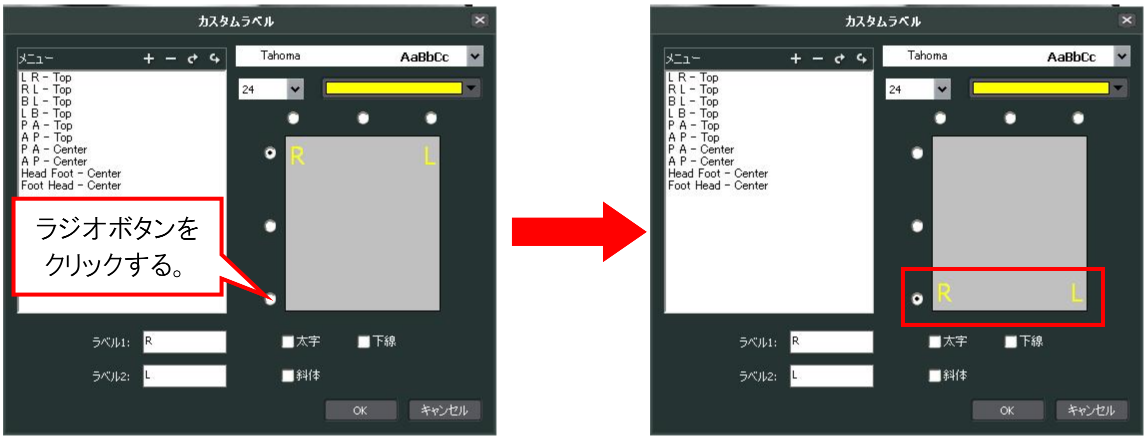


尚、選択できるラベルを、編集・追加することができます。
ラベルからカスタムラベル…を選択すると、カスタムラベル ダイアログが表示されます。

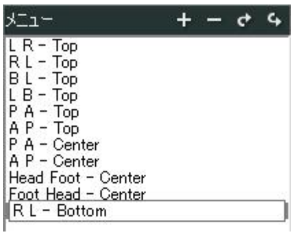


<<例：画像下部に RL 文字がオーバーレイされるラベルを追加する>>

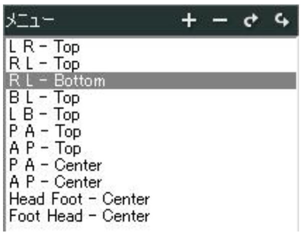
1. メニューの RL – Top を選択し、RL 文字が画像下部にオーバーレイされる様に、ラジオボタンをクリックします。



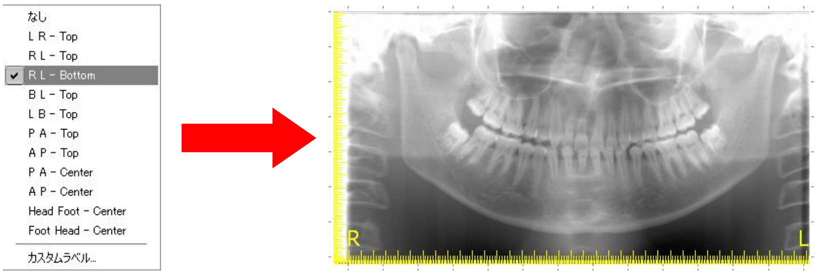
2. メニューの ボタンをクリックし、RL – Bottom を入力します。



3. メニューの ボタンをクリックし、RL – Top の位置まで移動し、OK ボタンをクリックします。



ラベルを選択するメニューに、RL – Bottom が追加され、RL – Bottom を選択すると、RL 文字が、画像下部にオーバーレイされます。



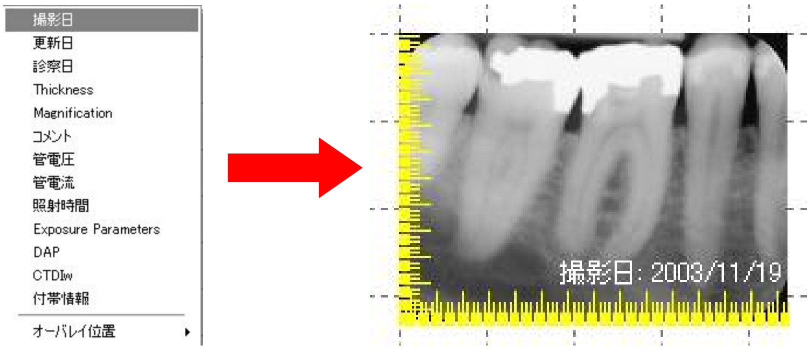
画像に情報をオーバーレイ(描画)する

画像に、撮影日などの情報がオーバーレイ（描画）できます。

≪例:：口腔内撮影画像に撮影日をオーバーレイする≫

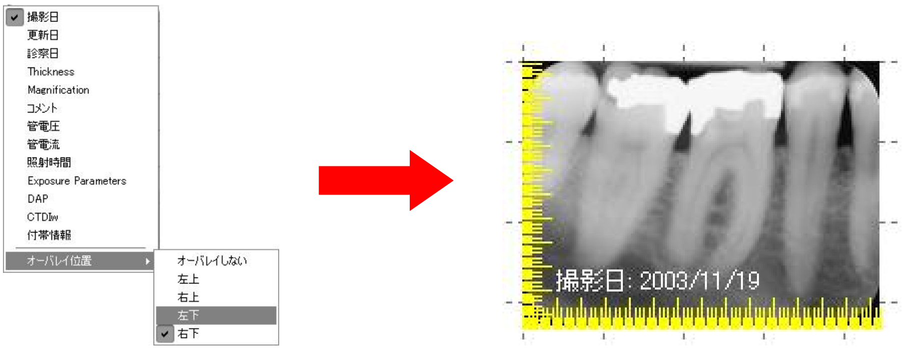
1. オーバーレイする画像を右クリックし、オーバーレイ項目(O)を選択します。

2. オーバレイする内容として、撮影日を選択します。画像の右下部に撮影日がオーバーレイされます。



※ 画像にオーバーレイする情報が含まれない場合、その情報はオーバーレイされません。

尚、オーバーレイ項目(O)からオーバーレイ位置を選択すると、オーバーレイする位置が変更できます。



10.3　文書を印刷する

表示中の文書を印刷します。

10.3-(1)　使用するプリンタを設定する

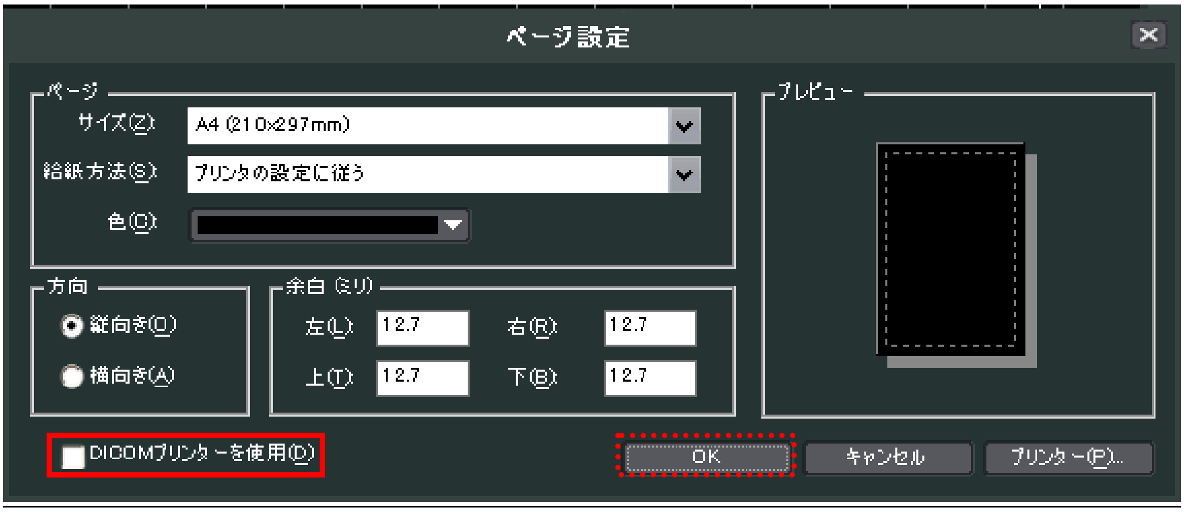
どのプリンタを使用するかをあらかじめ設定しておくことができます。

メニューの[ファイル(F)]から[ページ設定(U)]を選択します。

ページ設定ダイアログが表示されますので、使用するプリンタを選択し、必要があれば、ページのサイズや方向などを設定します。
OKボタンをクリックすると決定します。

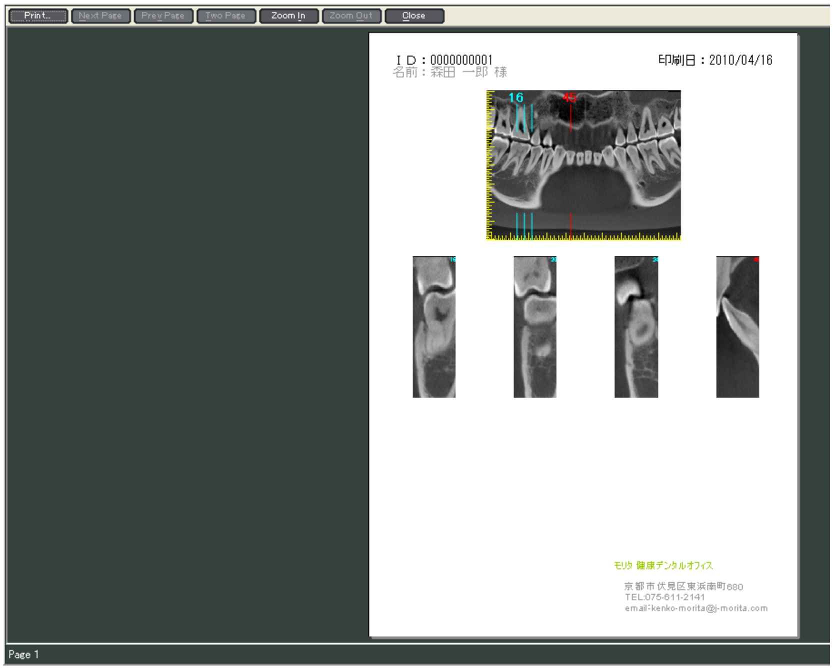
※DICOM プリンタを使用せず、Windows プリンタを使用する場合は、「DICOM プリンターを使用(D)」のチェックを外し、プリンター(P)ボタンをクリックして使用するプリンタを選択します。 また、プリンタの詳細設定については、各プリンタメーカーの取扱説明書を参照してください。

※DICOM プリンターを使用する場合はこの画面で設定を行う必要があります。



10.3-(2)　印刷する文書をプレビューで確認する

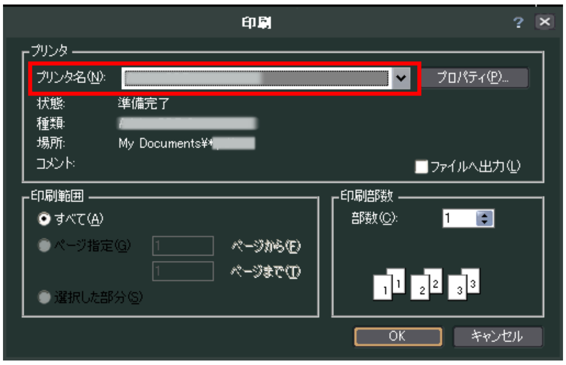
メニューの[ファイル(F)]から[印刷プレビュー(V)]をクリックするか、又は、ツールバーの[印刷プレビュー]ボタンをクリックすると、印刷する文書をプレビュー画面で確認できます。



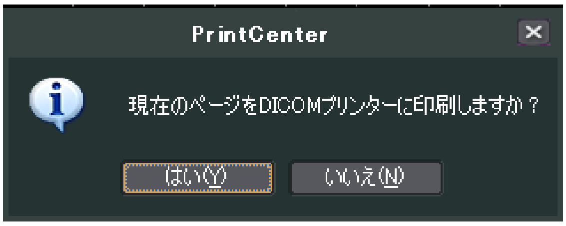
10.3-(3)　文書を印刷する

メニューの[ファイル(F)]から[印刷(P)]を選択します。

使用するプリンタを確認し、[OK]をクリックすると印刷を実行します。

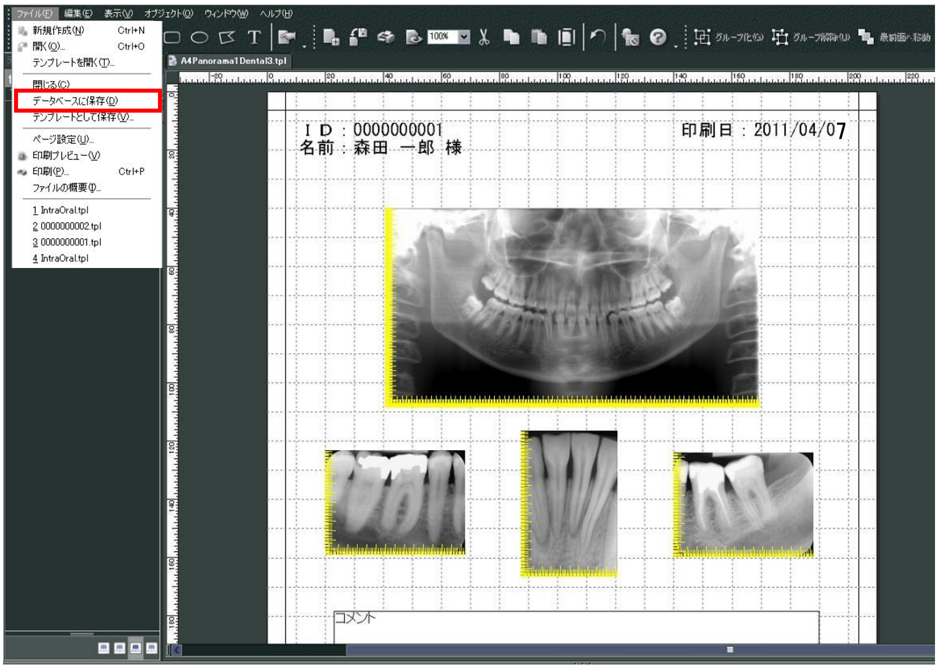


※DICOM プリンタで印刷するときは、確認ダイアログが表示されます。
[はい(Y)]をクリックすると印刷を実行します。



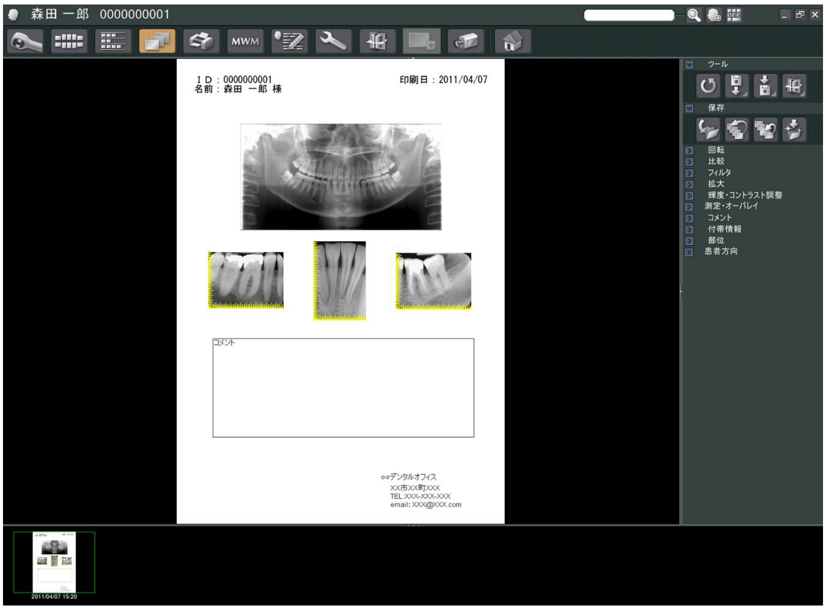
10.4　文書を保存する

メニューの[ファイル(F)]-[データベースに保存(D)]を選択すると、作成した文書を 2D 画像として保存できます。



文書を保存すると、画像一覧画面に、保存した文書のサムネールが表示されます。尚、保存した文書は、OtherImage モダリティに分類されます。

保存した文書は、2D ビューワで確認でき、2D 画像同様に、画像処理を行うことができます。



10.5　プリントセンタ簡単印刷

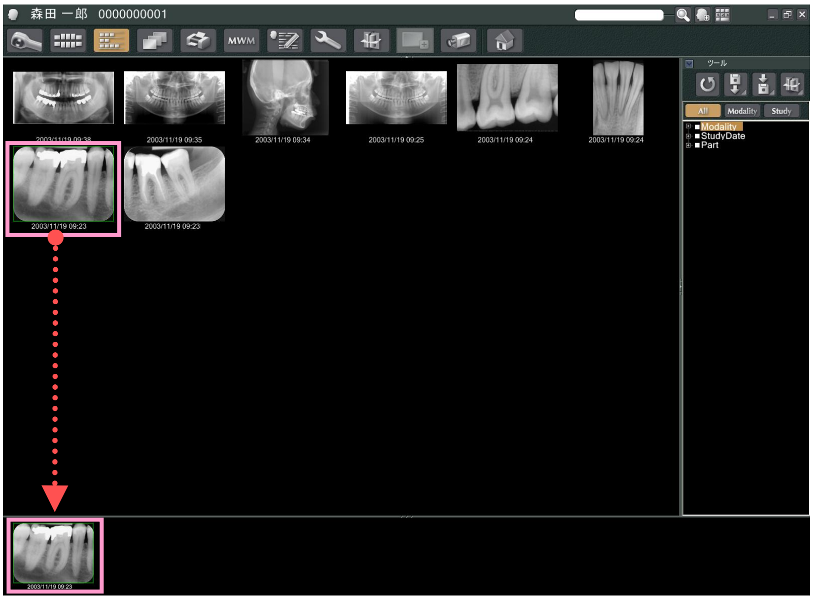
印刷する画像を選択するだけで、文書が自動作成できます。
自動作成した文書も、印刷できます。

※ モダリティ(i-VIEW で画像を保存するための分類属性)が異なる画像を選択した場合、モダリティ毎に文書が自動作成されます。

※ プリントセンタ簡単印刷の機能を有効にするためには、設定・メンテナンス画面の全般タブで、プリントセンタ簡単印刷設定の「簡単印刷機能を使用する」をチェックし、適用ボタンをクリックする必要があります。
「設定・メンテナンス」ボタン　をクリックすると、設定・メンテナンス画面が表示できます。

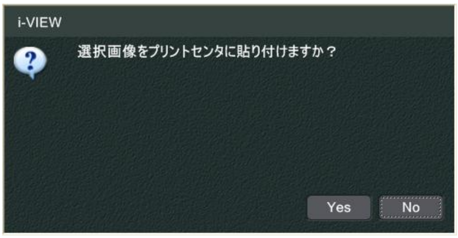
≪例：IntraOral モダリティに分類される画像を印刷する≫

1. 「画像一覧」ボタン　をクリックして、画像一覧画面を呼び出します。
   印刷する IntraOral モダリティの画像をクリックして選択し、バスケットへ入れます。



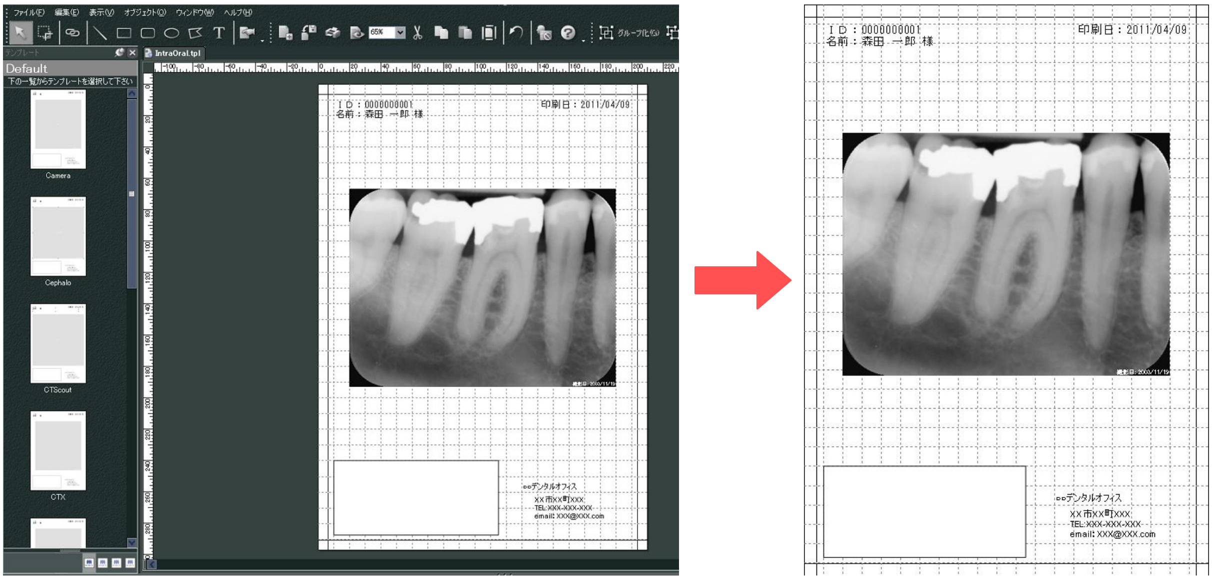
2. 「Print Center」ボタン をクリックします。

※ 設定・メンテナンス画面の全般タブで、プリントセンタ簡単印刷設定の「確認メッセージを表示せずに簡単印刷する」を設定していない場合、次のダイアログが表示されます。



「Yes」を選択すると、プリントセンターが起動し、文書が自動作成されます。
「No」を選択すると、プリントセンターは起動しますが、文書は自動作成されません。

3. プリントセンターが起動した後、Default カテゴリに分類される IntraOral テンプレート(IntraOral.tpl)が自動選択され、印刷する画像の文書が、自動作成されます。
文書を印刷する場合、メニューの[ファイル(F)]-[印刷(P)]を選択します。



※ 自動作成した文書を印刷する場合も、使用するプリンタが設定でき、印刷する内容が、プレビュー画面で確認できます。

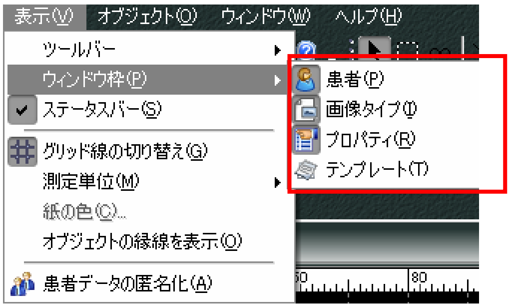
Default カテゴリーのテンプレートについて

プリントセンタ簡単印刷では、Default カテゴリーのテンプレートから、文書が自動作成されます。
Default カテゴリーのテンプレートは変更できますが、同じテンプレートにモダリティが異なる画像タイプオブジェクトを配置したり、テンプレート名を変更するとプリントセンタ簡単印刷の機能が使用できません。

10.6　表示メニュー

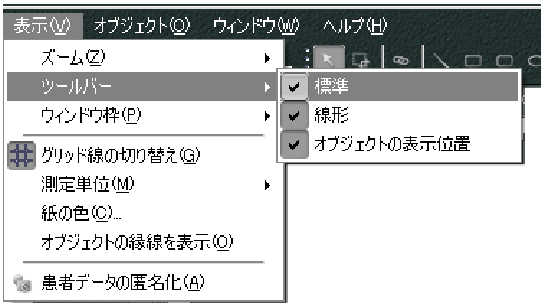
ウィンドウの表示と非表示を切替える

メニューの[表示(V)]から[ウィンドウ枠(P)]を選択して、各ウィンドウの表示と非表示を切替えることができます。



ツールバーの表示と非表示を切替える

メニューの[表示(V)]から[ツールバー]を選択して、各ツールバーの表示と非表示を切り替えます。
項目にチェックを付けると表示され、チェックを外すと表示されません。



新しいウィンドウを開く

メニューの[ウィンドウ(W)]から[新しいウィンドウを開く(N)]をクリックすると、現在作成中、又は、表示中の文書を、新規テンプレートとして新しく開いたウィンドウにコピーして反映し表示します。
一方で作業した結果はもう一方へ反映されます。

複数の文書を表示する

メニューの[ウィンドウ(W)]から[重ねて表示(C)]を選択すると、開いている文書ウィンドウを重ねて表示し、[並べて表示(T)]を選択すると、縦横に並べて表示します。（ただし、最小化されているウィンドウを除きます。）

10.7　ヘルプメニュー

バージョン情報

ツールバーの[バージョン情報]ボタンをクリックすると、Print Center のバージョンを確認できます。
Print Center の操作に対するお問い合わせの際には、この情報をご連絡ください。

11. パノラマ断層位置調整

Veraviewepocs 3Df でパノラマ撮影すると、断層位置調整用データが生成されます。
断層位置調整用データがあれば、パノラマ画像の断層位置を調整することで、パノラマ画像が再構成できます。

パノラマ撮影を再度行うことなく、観察したい部位にフォーカスを合わせてパノラマ画像を取得したい場合に、
パノラマ断層位置調整は有効です。

再構成したパノラマ画像は、2D ビューワで画像処理ができ、プリントセンターで印刷できます。また、 内部・外部メディアへエクスポートできます。

※ 断層位置調整用データは、パノラマ撮影データ、及び、その他のデータの集合体です。

重　要

- パノラマ画像を再構成するには、断層位置調整用データが必要です。
  断層位置調整用データは、**Veraviewepocs 3Df** でパノラマ撮影する毎に生成されます。**Veraviewepocs 3Df** 以外の機種でパノラマ撮影しても、断層位置調整用データは生成されません。
  パノラマ画像の再構成は、**Veraviewepocs 3Df** でパノラマ撮影した場合のみ有効です。
  Veraviewepocs 3Df 40e は、パノラマ画像の再構成に対応していません。

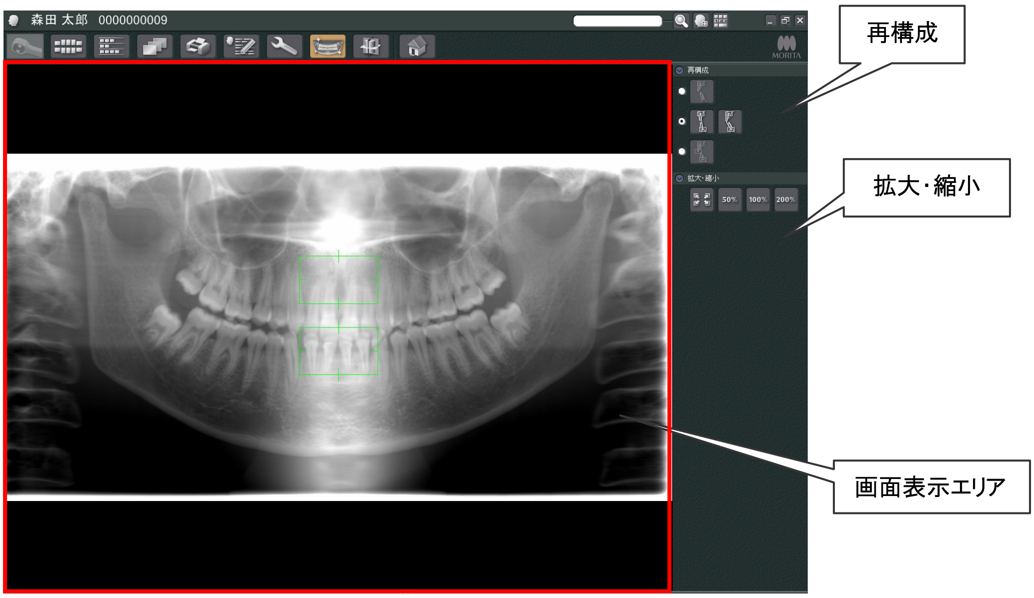
⚠ 警　告

- パノラマ画像の再構成中は、他の操作をしないでください。

⚠ 注　意

- **Veraviewepocs 3Df** でのパノラマ撮影後、断層位置調整用データが生成されると、断層位置調整用データと関連付けされたパノラマ画像が再構成されます。再構成されたパノラマ画像は、**PanoramaPlus** モダリティに分類されて **i-VIEW** のデータベースに保存されます。
- 断層位置の調整によって、パノラマ画像を再構成すると、断層位置の調整を行う前のパノラマ画像に対して、形状が変化します。　断層位置の調整を行う前のパノラマ画像と合わせて、観察することをお勧めします。

11.1 パノラマ断層位置調整画面に表示される項目



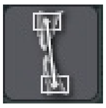
画像表示エリア：

断層位置を調整するパノラマ画像が表示されます。また、断層位置調整枠が表示されます。

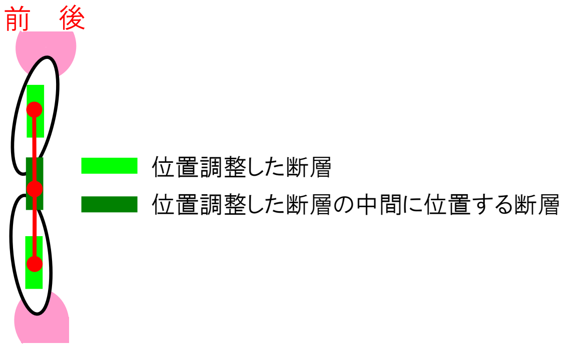
再構成：

断層位置の調整箇所数を、ラジオボタンをクリックして選択し、断層位置を調整した後、所定のアイコンをクリックすると、パノラマ画像の再構成が開始されます。

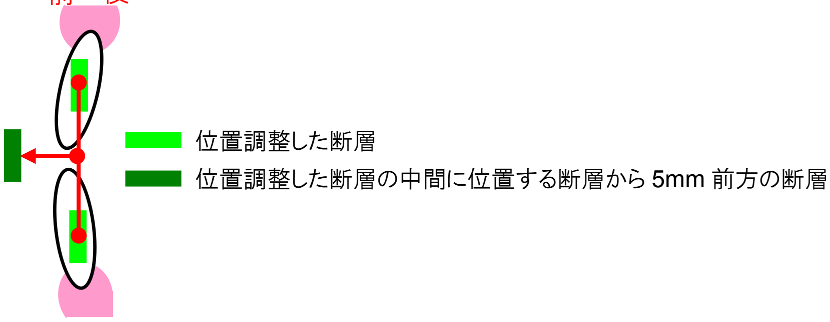
断層位置を 1 点調整した後、パノラマ画像の再構成が開始されます。
位置調整した断層にフォーカスが合うように、パノラマ画像の再構成が実行されます。

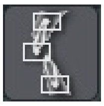


断層位置を 2 点調整した後、パノラマ画像の再構成が開始されます。
下図の通り、位置調整した 2 ヶ所の断層、及び、それらの断層の中間に位置する断層にフォーカスが合うように、パノラマ画像の再構成が実行されます。



断層位置を 2 点調整した後、パノラマ画像の再構成が開始されます。
下図の通り、位置調整した 2 ヶ所の断層、及び、それらの断層の中間に位置する断層から 5mm 前方の断層にフォーカスが合うように、パノラマ画像の再構成が実行されます。



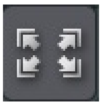


位置調整した 3 点調整した後、パノラマ画像の再構成が開始されます。
位置調整した 3 ヶ所の断層にフォーカスが合うように、パノラマ画像の再構成が実行されます。

拡大・縮小：

画面表示エリアに表示される画像の表示サイズが変更できます。

Fit



画像が、画面表示エリアの横幅に合わせて表示されます。

50%

画像が、拡大率 50%で表示されます。

100%

画像が、等倍表示されます。

200%

画像が、拡大率 200%で表示されます。

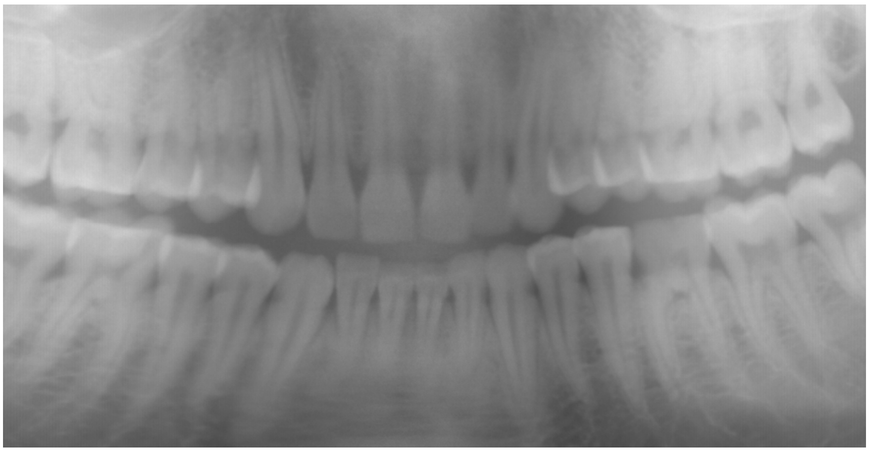
[パノラマ断層位置調整を行ったサンプル画像]

パノラマ断層位置調整を行ったサンプル画像を示します。

断層位置を 1 ヶ所調整した場合

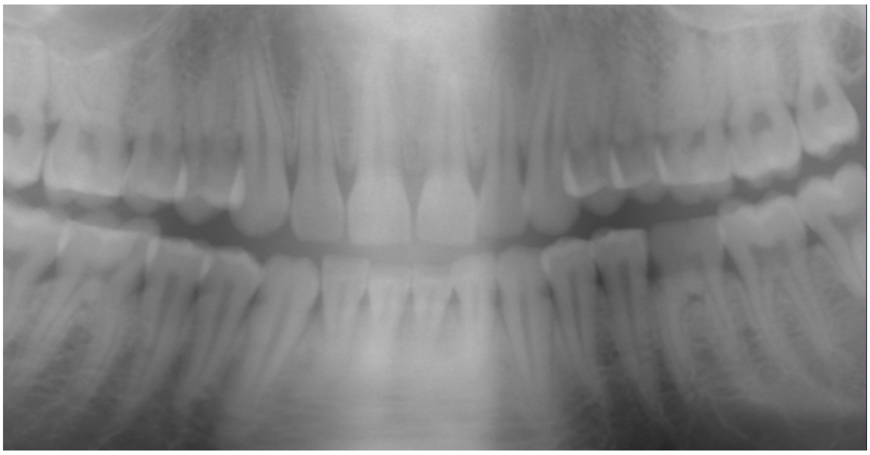
位置調整した断層にフォーカスが当たり、パノラマ画像が再構成されます。

<<調整前>>



<<1 点調整>>

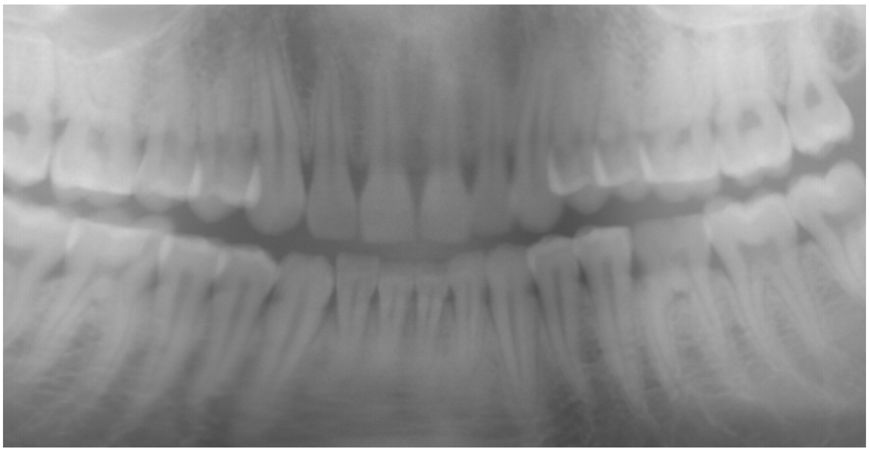
<<調整後>>



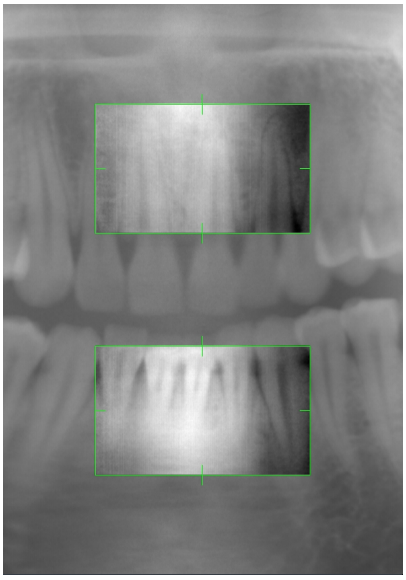
断層位置を2ヶ所調整した場合 (その1)

位置調整した2ヶ所の断層、及び、それらの断層の中間に位置する断層にフォーカスが当たり、パノラマ画像が再構成されます。

<<調整前>>



<<2点調整>>

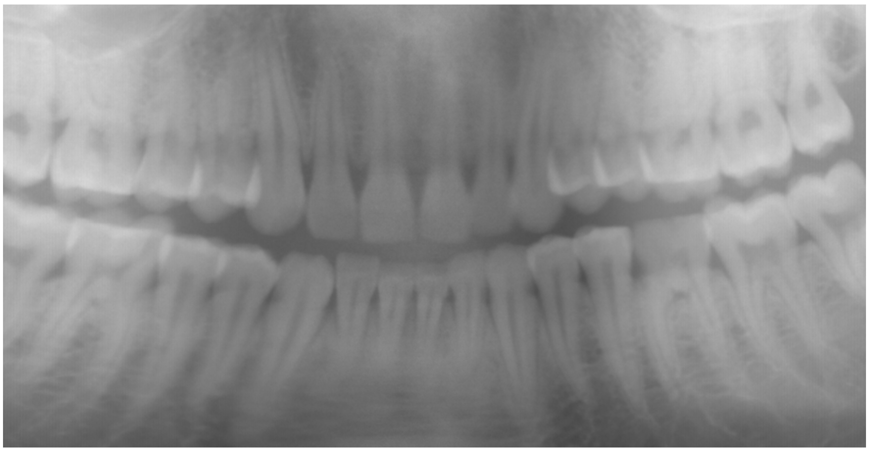


<<調整後>>

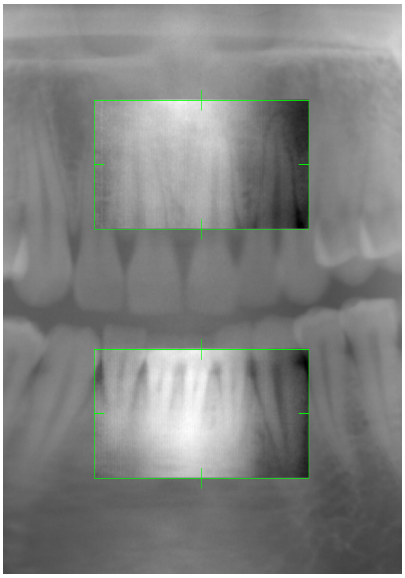
断層位置を 2 ヶ所調整した場合 (その 2)

位置調整した 2 ヶ所の断層、及び、それらの断層の中間に位置する断層から 5mm 前方に位置する断層に、フォーカスが当たり、パノラマ画像が再構成されます。

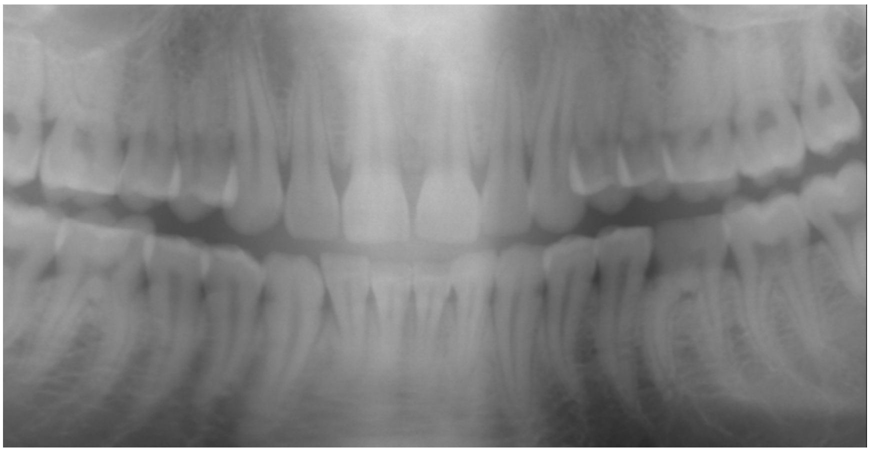
<<調整前>>



<<2 点調整>>



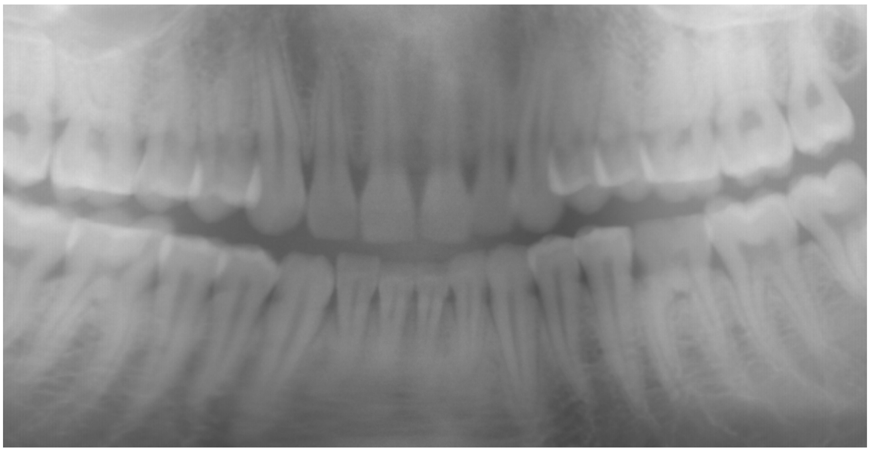
<<調整後>>



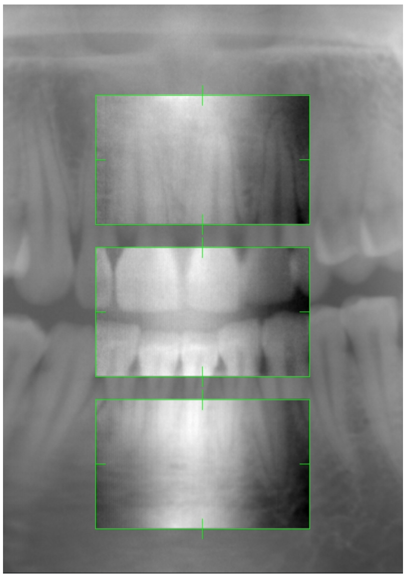
断層位置を 3 点調整した場合

位置調整した 3 ヶ所の断層にフォーカスが当たり、パノラマ画像が再構成されます。

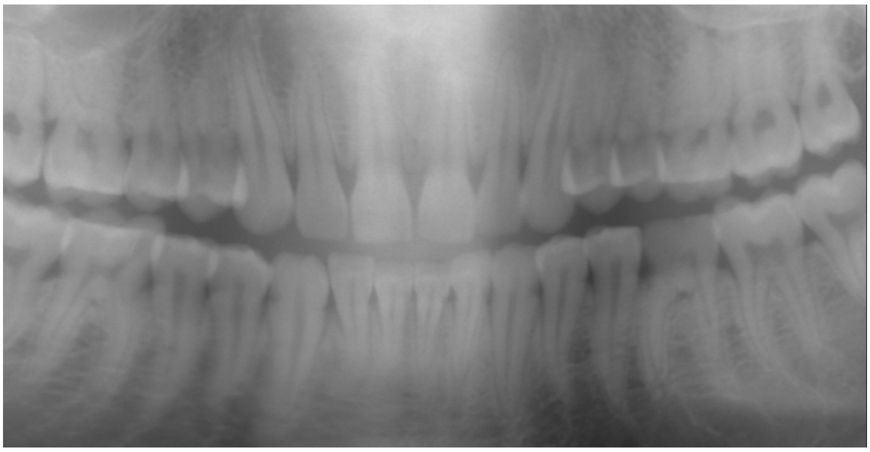
<<調整前>>



<<3 点調整>>



<<調整後>>



11.2 パノラマ画像を再構成する

以下の条件を満たすパノラマ画像であれば、パノラマ画像の断層位置を調整して、パノラマ画像が再構成できます。

- PanoramaPlus モダリティに分類されて i-VIEW に保存されているパノラマ画像である
- 断層位置調整用データと関連付けられているパノラマ画像である

断層位置を調整するパノラマ画像を選択し、断層位置を手動で調整した後、パノラマ画像の再構成を開始します。

位置調整した断層にフォーカスが合うように、パノラマ画像が再構成されます。

⚠ 注 意

- **断層位置の調整によって、パノラマ画像を再構成すると、再構成したパノラマ画像に歪みが現れます。
調整箇所が多くなる程、歪みが顕著化するため、調整箇所は、1 ヶ所に抑えることをお勧めします。
観察したい部位が、再構成したパノラマ画像で確認できない場合に限り、調整箇所を多くし、パノラマ画像を再構成してください。
再構成したパノラマ画像に、歪みが顕著に現れるようでしたら、適切な位置に、患者を位置付けて、パノラマ撮影を再度行ってください。**

<< 例：断層位置の調整箇所を 1 ヶ所指定してパノラマ画像の再構成を行う >>

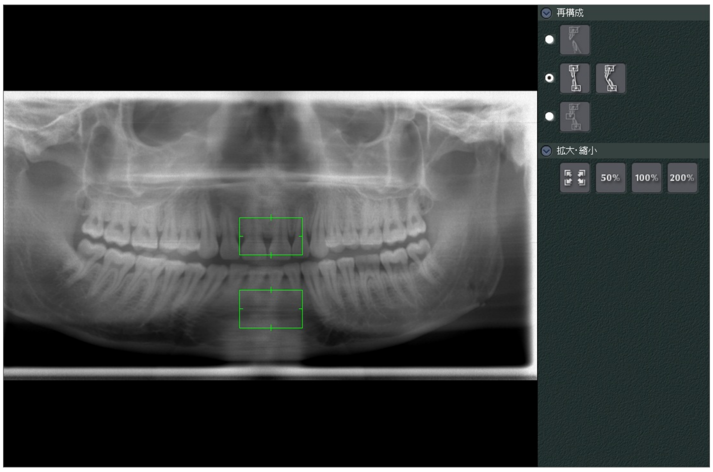
1. 画像一覧画面から断層位置を調整するパノラマ画像のサムネールを選択します。選択したパノラマ画像のサムネールは、バスケットに表示されます。

※ パノラマ画像のサムネールをダブルクリックすると、2D ビューワが起動します。

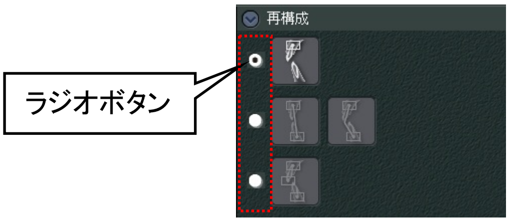
2. ナビゲーションバーのパノラマ断層位置調整画面のボタン をクリックします。

3. 断層位置調整用データを読み込む進捗状況がステータスバーに表示されます。

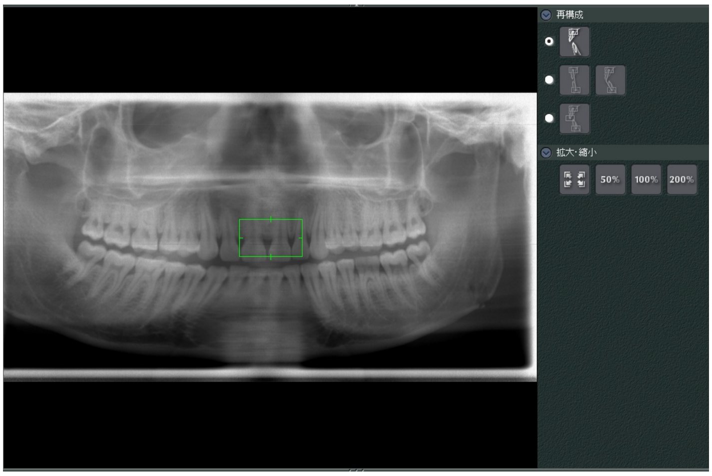
4.　断層位置を調整するパノラマ画像が表示されます。



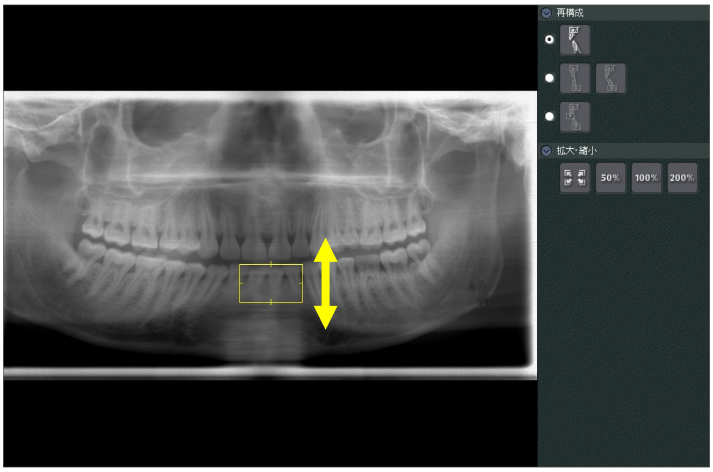
5.　再構成項目の ボタンの左横のラジオボタンをクリックします。



6.　パノラマ画像に、断層位置調整枠が、1 個表示されます。



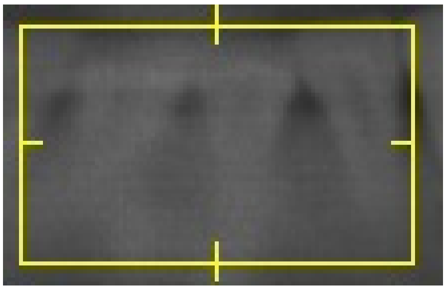
断層の上下位置を調整します。断層位置調整枠をドラッグし、上下方向にドラッグさせると調整できます。ドラッグした断層位置調整枠は黄色で表示されます。



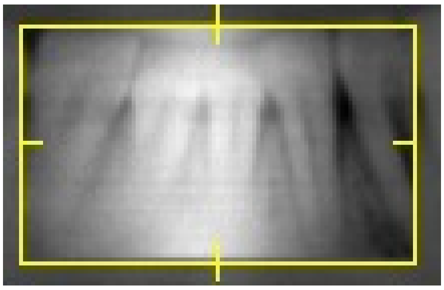
※ 断層位置調整枠を左右方向に移動できません。

7. 断層の前後位置を調整します。断層位置調整枠を選択し、マウスホイールを前後させると調整できます。
選択した断層位置調整枠は黄色で表示されます。

（調整前）

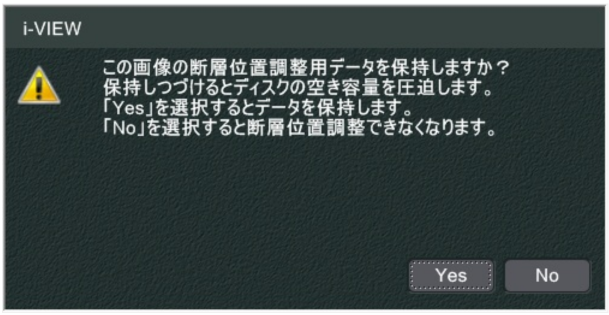


（調整後）

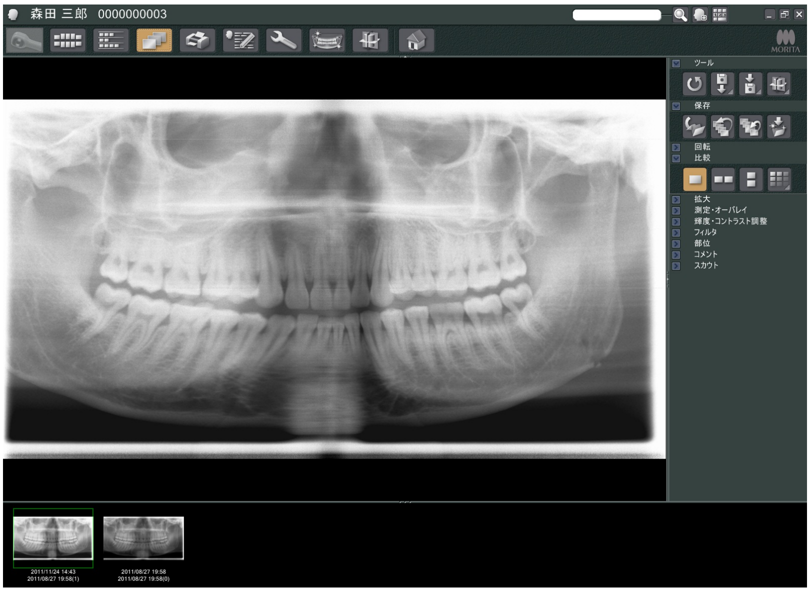


8. 断層の上下・前後位置が調整できれば、 ボタンをクリックし、パノラマ画像の再構成を開始します。
再構成の進捗状況がステータスバーに表示されます。

9. パノラマ画像の再構成が終了すると、以下のダイアログが表示されます。
「Yes」をクリックすると、断層位置調整用データが保持されて、2D ビューワが起動します。
「No」をクリックすると、断層位置調整用データが削除されて、2D ビューワが起動します。

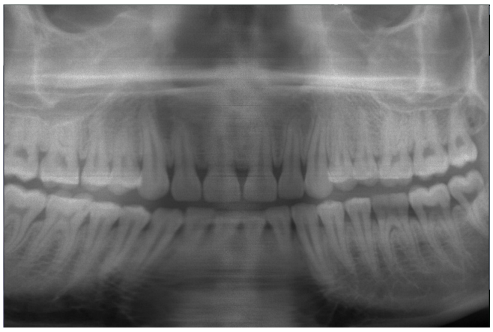


再構成されたパノラマ画像が、2D ビューワに表示されます。
再構成されたパノラマ画像も、2D ビューワで画像処理できます。



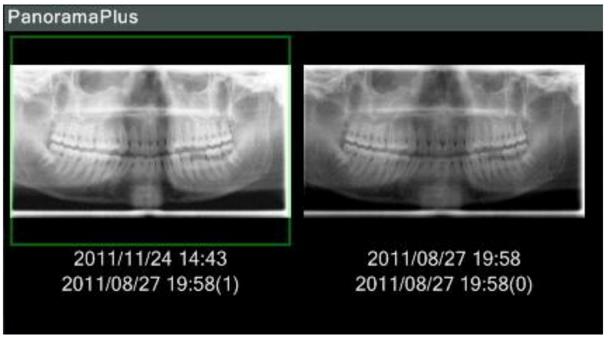
※ 断層位置調整前と調整後のパノラマ画像は、以下の通りです。

（調整前）



（調整後）

10. 画像一覧画面に切り替えると、再構成されたパノラマ画像は、PanoramaPlus モダリティに保存されていることが確認できます。再構成されたパノラマ画像は、断層位置調整用データに関連付けられます。



※ 再構成されたパノラマ画像のサムネールが表示されると、撮影日ラベルの横に、(0)、(1)が表示されます。
(0)は、Veraviewepocs 3Df でパノラマ撮影された直後に生成されたパノラマ画像です。
(1)は、断層位置調整による、パノラマ画像の再構成によって生成されたパノラマ画像です。

11.3 断層位置調整用データの削除

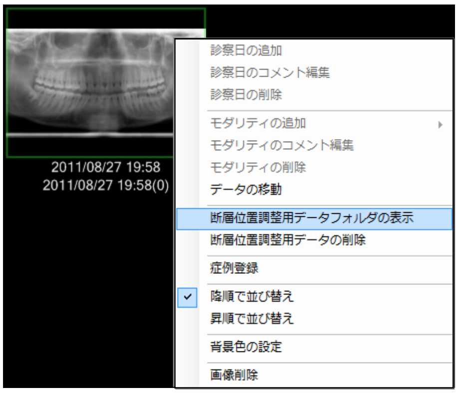
パノラマ画像の再構成を行う必要がなくなった場合、不要となる断層位置調整用データが削除できます。
画像一覧画面で、パノラマ画像のサムネールを右クリックして、[断層位置調整用データの削除]を選択します。

⚠ 注 意

- PanoramaPlus モダリティに分類されている、任意のパノラマ画像を選択し、断層位置調整用データを削除すると、断層位置調整用データが削除され、かつ、パノラマ画像と断層位置調整用データの関連付けも削除されます。そのパノラマ画像を再度選択しても、パノラマ画像は再構成できません。

11.4 断層位置調整用データの保存先の確認

画像一覧画面で、パノラマ画像のサムネールを右クリックして、[断層位置調整用データフォルダの表示]を選択すると、パノラマ画像と関連付いている断層位置調整用データの保存先が確認できます。



<u>断層位置調整用データと関連付いているパノラマ画像のデータ移動･症例登録</u>

断層位置調整用データを関連付いているパノラマ画像についても、データの移動、症例登録ができます。
データの移動は、 p 57【 4.9. データを移動させる 】を参照してください。
症例登録は、 p 62【 5 症例情報 】を参照してください。

12.　設定･メンテナンス

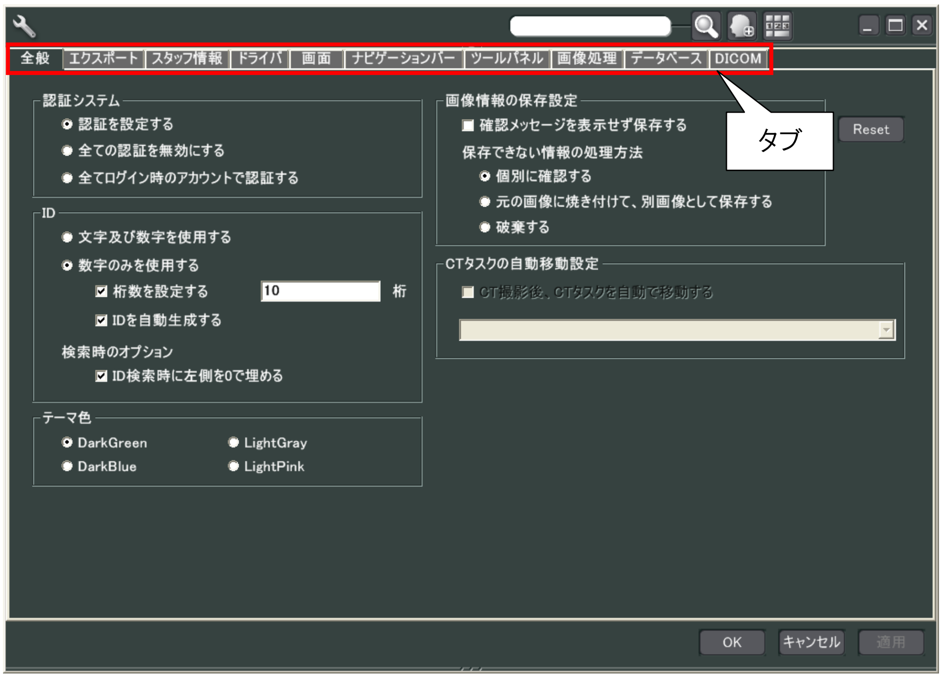
各機能のカスタマイズ、データベースのメンテナンスなどを行います。

設定･メンテナンス画面を起動させるには：

ホーム画面、又は、ナビゲーションバーの[設定メンテナンス]ボタン をクリックします。

[設定メンテナンス]を起動すると、以下のウィンドウが表示されます。
（※以下のウィンドウはホーム画面の[設定メンテナンス]ボタンをクリックした場合です。）

設定を変更したら適用ボタンをクリックし、設定画面を終了するときは OK ボタンをクリックします。
※適用ボタンと OK ボタンのいずれをクリックした場合もクリックした時点の設定が保存されます。



＊　ナビゲーションバーの[設定メンテナンス]ボタンをクリックした場合、表示されるタブは上記画面と異なり、全般、エクスポート、ドライバ、画面タブのみが表示されます。

12.1　全般タブ

①認証システムについて：
「認証を設定する」を選択すると、i-VIEW 起動時の認証、患者情報の登録、画像の保存など、認証が必要となる操作が行われる度に、認証が求められます。
「全ての認証を無効にする」を選択すると、認証が必要となる操作が行われても、認証が求められません。
「全てログイン時のアカウントで認証する」を選択すると、i-VIEW 起動時の認証のみ、認証が求められます。

⚠ 注意

- 「全ての認証を無効にする」を選択した場合でも、データベースの切替え・作成・削除・バックアップ時には認証が必要となります。

②患者 ID について：
「文字及び数字を使用する」を選択すると、患者 ID に、文字、数字が登録できます。
「数字のみを使用する」を選択すると、患者 ID に、数字のみが登録できます。
「数字のみを使用する」を選択し、「桁数を設定する」にチェックを入れた場合、桁数を設定し、入力桁に制限を設けることができます。　最大 12 桁まで設定できます。
また、「桁数を設定する」にチェックを入れた場合、「ID を自動生成する」にチェックを入れた場合、患者 ID を連番で自動生成します。

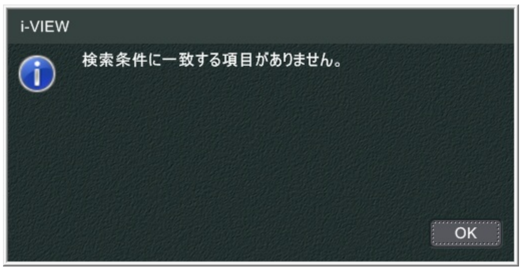
③簡易検索について:
患者情報、症例情報の簡易検索を行う場合の検索条件が設定できます。

[ID 検索時に 0 で埋めて桁数を合わせる]
例えば、患者 ID が 0000000001 である患者を検索する場合、検索キーに 1 を入力すると、自動的に 0 を 9 桁埋めて、検索できます。
[結果が 0 件ならば、0 埋めなしで再検索する] を設定すると、自動的に桁数を埋めて検索した結果、0 件であった場合に限り、自動的に、検索キーに入力した数字で、完全一致検索を行うことができます。
※　0 が埋められる桁数は、全般タブの患者 ID 項目において、[数字のみを使用する]-[桁数を設定する]で設定した桁数に従います。
※　[ID または姓、名と一致検索する]を設定した場合は、[ID 検索時に 0 で埋めて桁数を合わせる]が設定できません。

[大文字と小文字を区別しない]
大文字、小文字を区別せずに検索できます。

[ID または姓、名と一致検索する]
完全一致検索できます。
※ [ID 検索時に 0 で埋めて桁数を合わせる] を設定した場合は、[ID または姓、名と一致検索する]が設定できません。

[検索結果 0 件の場合にメッセージを表示する]
検索結果が 0 件であった場合、以下のメッセージで確認できるように、設定できます。

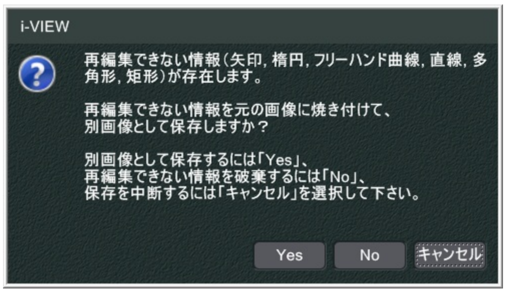


④画像情報の保存設定について:

画像情報が描画された画像の保存に関する保存手順が、設定できます。
※ 画像情報として、フリーハンドの曲線、直線、矩形、多角形、楕円、矢印があります。
これらの情報は再編集できません。

[確認メッセージを表示せず保存する] を設定すると、画像情報が描画された画像を保存する場合、保存の確認メッセージが表示されなくなるように、設定できます。

[再編集できない情報の処理方法]の項目では、画像情報の保存方法が設定できます。
[個別に確認する]を設定すると、画像情報が描画された画像を保存する際に、以下のダイアログが表示され、画像情報の保存、破棄、または、保存・破棄のキャンセルが選択できるように、設定できます。



[元の画像に焼き付けて、別画像として保存する]を設定すると、編集した画像情報は、元の画像に上書きされて別画像で保存されるように、設定できます。
[破棄する]を設定すると、編集した画像情報は破棄され、画像は元に戻るように設定できます。

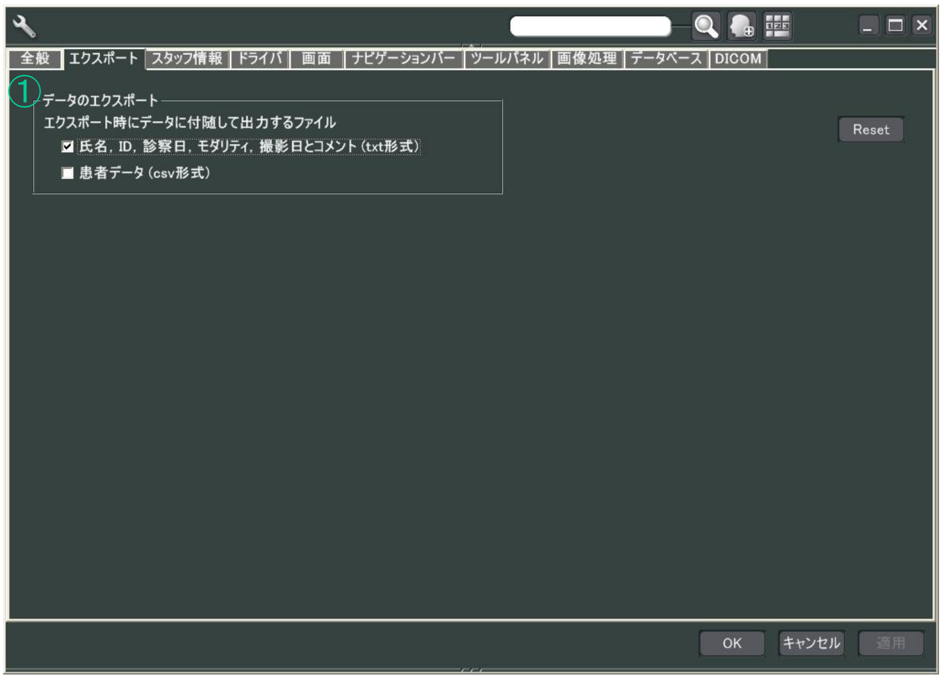
⑤CT タスクの自動移動設定について:
CT 撮影後、CT タスクデータが、自動的に、所定のフォルダに移動するように設定できます。
これにより、CT タスクデータの移動を、手動で行う必要なくなります。
CT タスクデータの移動の詳細は、i-VIEW ソフトウェア取扱説明書 3D 機能編を参照してください。

⑥プリントセンタ簡単印刷について:
プリントセンタ簡単印刷が設定できます。
［確認メッセージを表示せずに簡単印刷する］を設定した場合、印刷する画像を選択した後、確認メッセージが表示されることなく、プリントセンタ簡単印刷ができるようになります。
プリンタセンタ簡単印刷の詳細は、 p 193【 10.5 プリントセンタ簡単印刷 】を参照してください。

⑦テーマ色について:
i-VIEW の背景の色を変更します。

⑧Reset ボタンについて:
設定内容を初期設定に戻します。

12.2　エクスポートタブ



①データのエクスポートについて：
2D 画像のエクスポート時に、2D 画像と合わせてエクスポートされるファイルが設定できます。

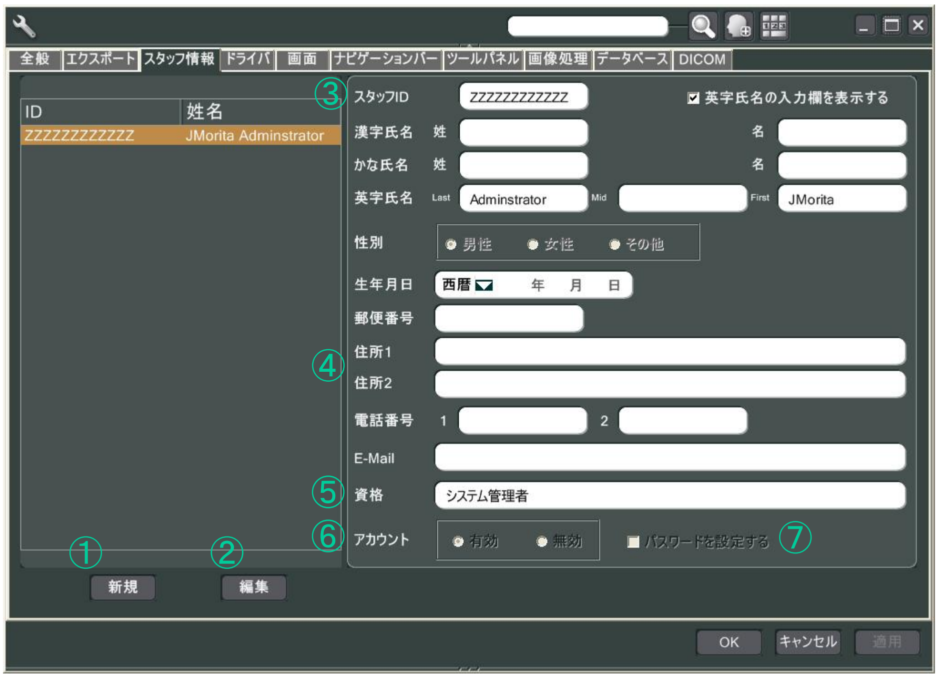
[氏名、ID、診察日、モダリティ、診察日とコメント（txt 形式）]
画像情報ファイルが、テキスト形式でエクスポートされます。

[患者データ (csv 形式)]
患者名、患者性別などの患者情報が、CSV 形式でエクスポートされます。
但し、エクスポートされるファイルは、画像情報ファイルではありません。

※　画像情報ファイルの詳細は、 p 6【 1.4. 本取扱説明書上で使用される専門的な用語 】を参照してください。
※　何れの形式とも、エクスポートされる 2D 画像のファイル名と同じファイル名で、エクスポートされます。

12.3　スタッフ情報タブ

スタッフ情報タブではスタッフ情報の表示、登録、編集を行います。



①新規について：
新たにスタッフを登録する場合、このボタンをクリックすると新規ウィンドウが表示されます。

②編集について：
既に登録されているスタッフを編集する場合、このボタンをクリックすると編集ウィンドウが表示されます。

③スタッフ ID について：
新規登録時は入力でき、ID が入力されると「登録」ボタンが有効になります。既存利用者の編集時は、入力できません。

④住所 1,2 について：
半角の「@」を使用しないでください。

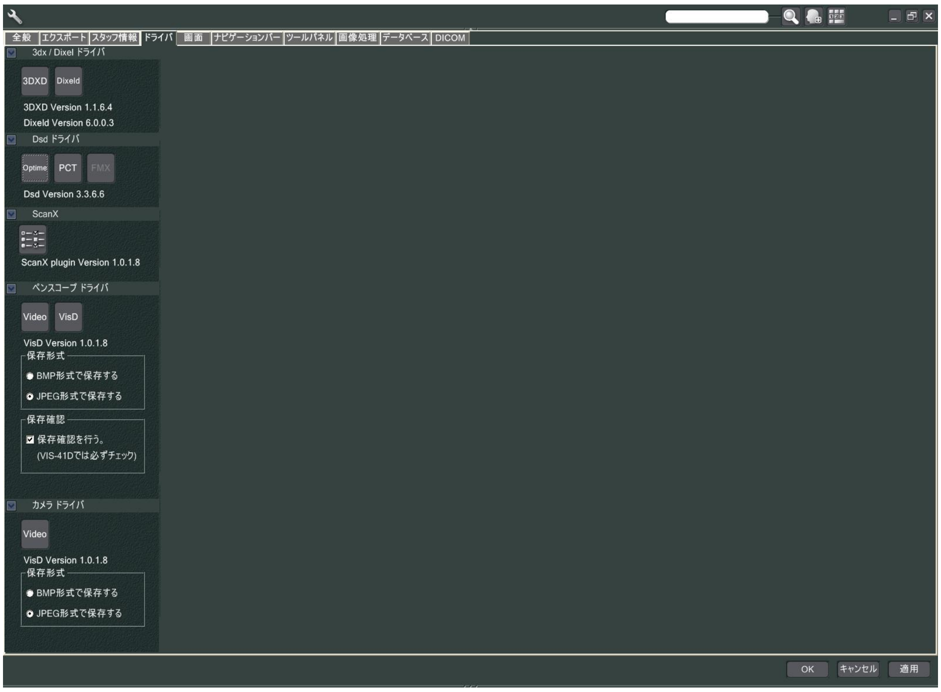
⑤資格について：
資格選択一覧表から選択することができます。

⑥アカウントについて：
i-VIEW 起動時の認証用アカウントとして有効にするかどうかを設定します。

⑦パスワードを設定するについて：
i-VIEW 起動時にパスワードウィンドウ表示の有無を設定します。
新規登録又は、編集の際にチェックボックスを ON にすると、「保存」ボタンをクリックした後にパスワード設定ウィンドウが表示されます。

12.4　ドライバタブ

ドライバタブでは、現在インストールされているモダリティ(装置)のドライバ、及びドライバのバージョンを確認することができます。



表示されたドライバのボタンをクリックすると、ドライバのセットアップダイアログが表示されます。

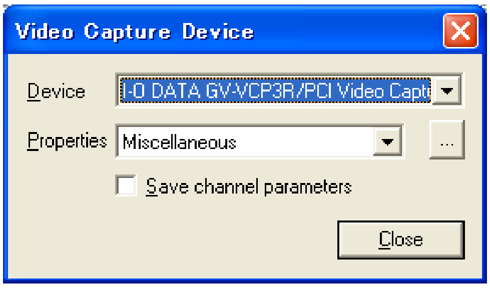
※ 使用できないドライバの設定項目は表示されません。 また、グレーアウトしているボタンをクリックしてもセットアップダイアログは、表示されません。

⚠ 注意

- ドライバの詳細については各モダリティ(装置)の取扱説明書をご覧ください。
- ビデオキャプチャ機能を使用する場合は、ドライバの設定で画像サイズは、640×480 又は、320×240 を選択してください。 これ以外の画像サイズを選択すると、画像のウィンドウの縦横の比率が正常ではなくなり、診断に支障をきたす可能性があります。詳細の設定は、キャプチャボード付属の説明書をご参照ください。

ペンスコープ ドライバについて:

・「Video」をクリックすると、「Video Capture Device」ダイアログが開きます。

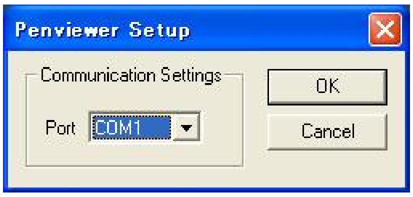


Device:
プルダウンメニューからコンピュータに挿入されているビデオボードを選択します。

Properties:
プルダウンメニューからプロパティを選択し、各プロパティ※を設定します。

※プロパティ
　Miscellaneous:画像の調整を設定します。
　Cannel:入力チャンネル、出力チャンネルを選択します。
　Format:スルー画面の色空間/圧縮、出力サイズを設定します。

・「VisD」をクリックすると、「Penviewer Setup」ダイアログが開きます。
　i-VIEW コンピュータの COM ポートに、ペンスコープを接続する場合の COM ポートを設定します。



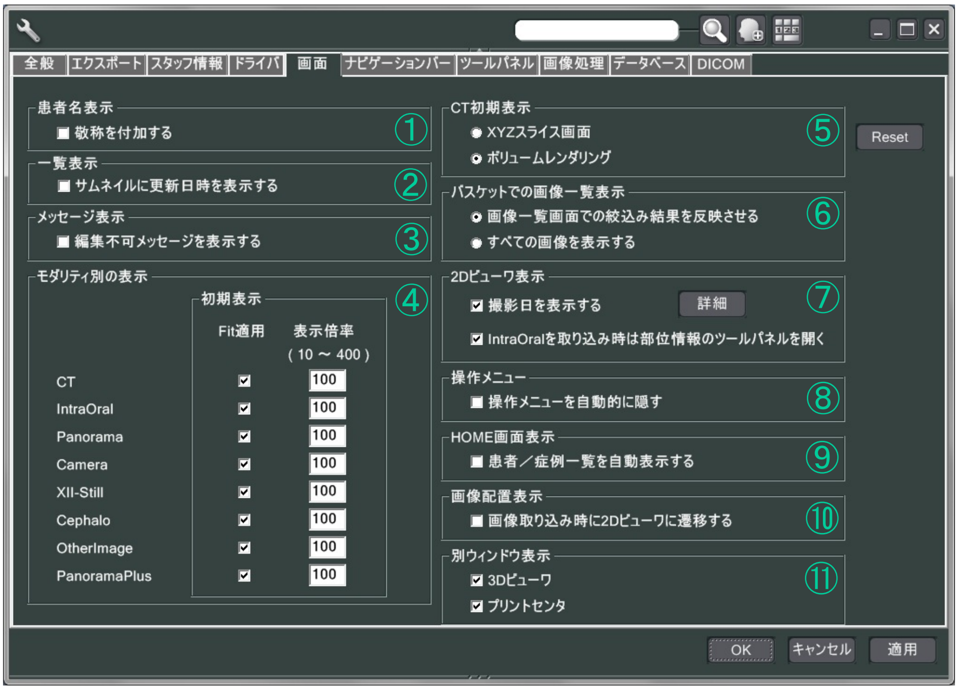
・保存形式では、ペンスコープで撮影した画像を保存する場合のファイル形式を設定します。
・保存確認では、ペンスコープで撮影した画像を保存する場合に、保存を確認するためのダイアログを、表示するかを設定します。

⚠ **注意**
- **ペンスコープ VIS-41D で画像を撮影する場合は、必ず、「保存確認を行う。」を設定してください。**

カメラ ドライバについて:

・「Video」をクリックすると、「Video Capture Device」ダイアログが開きます。内容は、上記「**ペンスコープ ドライバについて:**」で説明した内容の通りです。
・保存形式では、カメラ機器で撮影した画像を保存する場合のファイル形式を設定します。

12.5　画面タブ



①患者名表示について：
i-VIEW の画面に表示される患者名に、敬称として、”様”を付加して、表示できるように設定できます。

②一覧表示について：
画像一覧画面、バスケットに表示される画像のサムネールに、画像が撮影された日時（撮影日時）だけでなく、画像を更新した日時（更新日時）も合わせて表示できるように設定できます。

更新日時
撮影日時

③メッセージ表示について：
i-VIEW では、読み取り専用 (ReadOnly) の画像で、図形描画などの画像編集を行うことはできません。
読み取り専用 (ReadOnly) の画像で、図形描画などの画像編集を行った場合、編集不可のメッセージが表示されるように設定できます。

④モダリティ別の表示について：
各種モダリティの画像を、2D ビューワ画面で初期表示する場合のズーム倍率が設定できます。
また、Fit 適用を設定すると、2D ビューワ画面の 2D 画像表示エリアの幅に合わせて初期表示できます。

⑤CT 初期表示について:
画像一覧画面において、CT スライスデータのサムネールをダブルクリックした場合に CT 画像を表示する画面が、設定できます。
CT スライスデータを、2D ビューワ画面に表示する場合、[XYZ スライス画像] を設定します。
CT ボリュームデータ及び、CT スライスデータを 3D ビューワ画面に表示する場合、[ボリュームレンダリング] を設定します。
※ この設定は、CT ボリュームデータと関連付けられた CT スライスデータのサムネールをダブルクリックした場合のみに有効です。

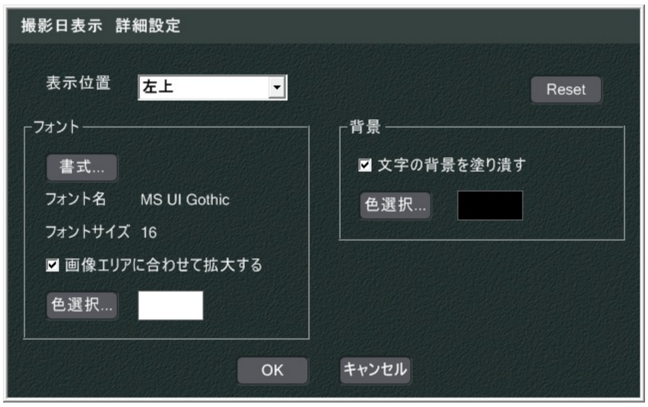
⑥バスケットでの画像一覧表示について:
バスケット内を右クリックし、[バスケットで画像一覧を表示する] を選択した場合、バスケットに表示される画像一覧の表示形式が設定できます。
画像一覧画面に、表示される全ての画像を、バスケットで表示する場合、[すべての画像を表示する] を設定します。
画像一覧画面に、絞り込みによって表示される画像を、バスケットで表示する場合、[画像一覧画面での絞込み結果を反映させる] を設定します。
※ p 48【 4.3. 画像を分類して表示する 】で説明されている手順に従って、画像一覧画面に表示する画像を絞り込むことができます。

⑦2D ビューワ表示について:

[撮影日を表示する]
2D ビューワ画面に画像を表示した際、2D 画像表示エリア内に画像の撮影日が、表示されるように設定できます。

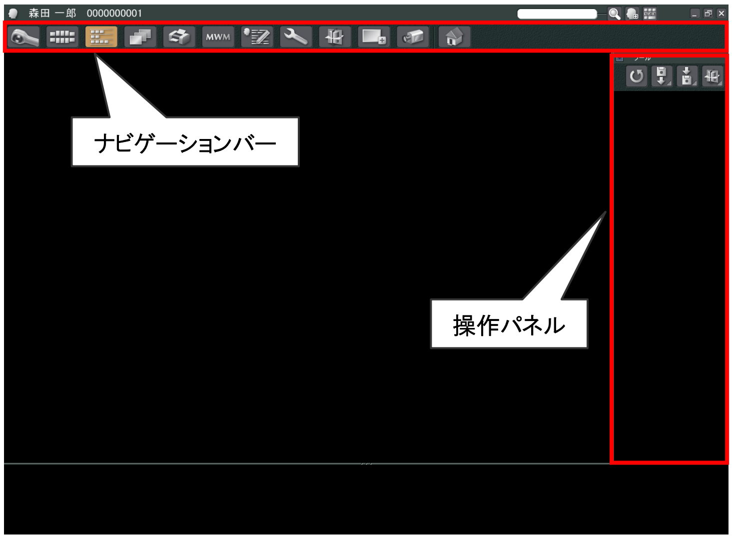
詳細ボタン

をクリックすると、撮影日表示 詳細設定のダイアログが表示され、画面表示される撮影日の書式、表示位置などが設定できます。



[IntraOral を取り込み時は部位情報のツールパネルを開く]
i-VIEW に、IntraOral モダリティの画像が取り込まれた直後に、その画像が、2D ビューワ画面に自動表示される際、部位情報のツールパネルが隠れていたら、部位情報のツールパネルの全体が、2D ビューワ画面に表示されるように、設定できます。

⑧操作メニューについて:
画像一覧画面、2D ビューワ画面などの機能画面を表示する場合、以下に示す、ナビゲーションバー、操作パネルを隠して表示できるように設定できます。



⑨**HOME** 画面表示について:
ホーム画面を表示した場合、患者 / 症例一覧が自動表示されるように設定できます。

⑩画像配置表示について:
i-VIEW に、IntraOral モダリティの画像が取り込まれる際、画像配置画面が表示されていたら、表示される画面が、自動で、2D ビューワ画面に切り替わるように設定できます。

⑪別ウィンドウ表示について:
3D ビューワ画面、プリントセンター画面が、別のウィンドウで表示できるように設定できます。

12.6 ナビゲーションバータブ

ナビゲーションバータブでは、ボタンの追加・削除（表示・非表示）、順序の変更などを行うことができます。

［利用可能なボタン］一覧から、追加したいボタン選択して、[Add>>]をクリックすると、［現在のボタン］一覧に加わり、ナビゲーションバーにボタンが表示されます。
［現在のボタン］一覧から、ボタンを選択して、[<<Remove]をクリックすると［利用可能なボタン］一覧に加わり、ナビゲーションバーに表示されなくなります。

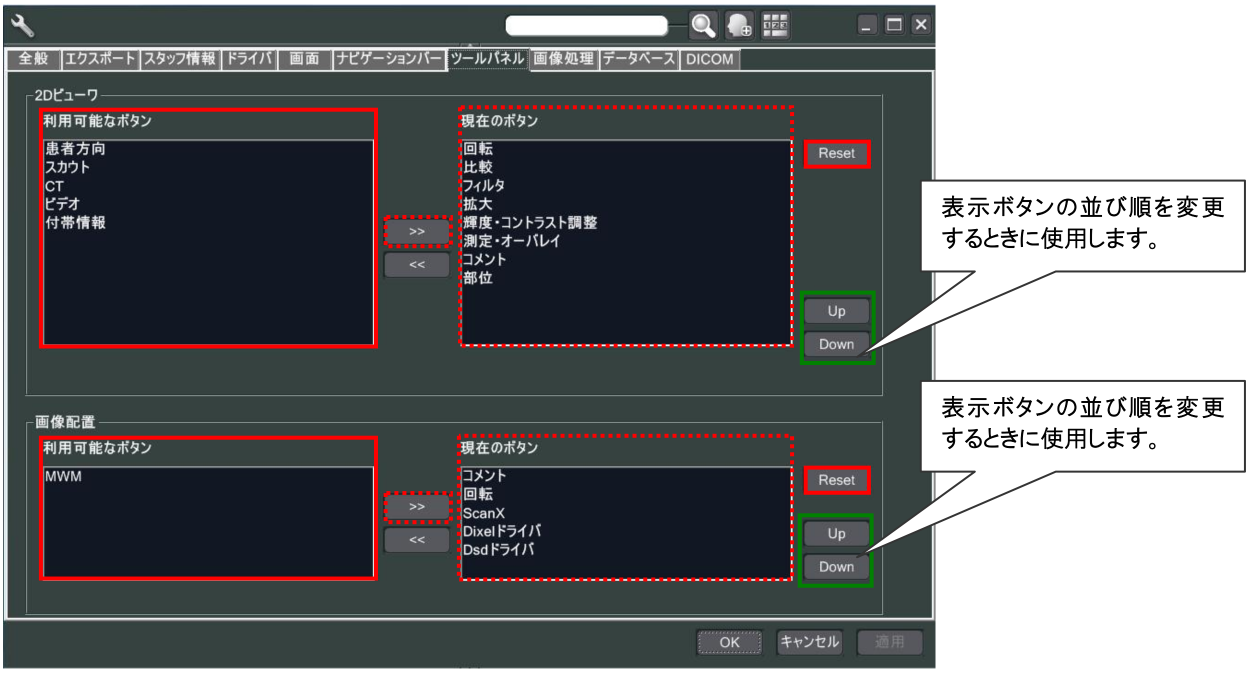
初期設定へ戻したい場合は、［Reset］をクリックします。

⚠ 注意

- **i-VIEW** サーバーコンピュータが異常終了した場合、ナビゲーションバーに表示されるボタンの表示設定が、工場出荷時の設定に戻る場合があります。　その場合は、再度設定して頂く必要があります。

12.7　ツールパネルタブ

ツールパネルタブでは、2D ビューワ、画像配置画面のツールパネルに表示されるボタンの追加・削除（表示・非表示）、表示順序の変更などを行うことができます。



[利用可能なボタン]一覧から、追加したいボタン選択して、[>>]をクリックすると、[現在のボタン]一覧に加わり、ツールパネルにボタンが表示されます。
[現在のボタン]一覧から、ボタンを選択して、[<<]をクリックすると[利用可能なボタン]一覧に加わり、ツールパネルに表示されなくなります。

初期設定へ戻したい場合は、[Reset]をクリックします。

⚠ 注意

- **i-VIEW サーバーコンピュータが異常終了した場合、2D ビューワ、画像配置画面のツールパネルに表示されるボタンの表示設定が、工場出荷時の設定に戻る場合があります。　その場合は、再度設定して頂く必要があります。**

12.8　画像処理タブ

画像処理タブでは、各モダリティに分類された画像に対し、2Dビューワで、シャープネス、自動濃淡調整、AIE補正を行う場合のプリセット(デフォルト)値を変更することができます。
また、i-VIEW に画像が取り込まれる時に、シャープネスなどの画像処理が自動適用されるように設定できます。

①シャープネスについて:
シャープネス値を変更し、「適用」ボタンをクリックすると適用されます。
自動適用を行う場合、「行う」にチェックを入れ、シャープネス値を設定します。

②濃度調整について:
自動濃淡調整値を変更し、「適用」ボタンをクリックすると適用されます。
自動適用を行う場合、「行う」にチェックを入れ、濃度調整方法を選択します。
自動濃淡調整を選択する場合は、自動濃淡調整値を設定し、濃度強調を選択する場合は、濃度強調レベルを設定します。

③シグモイドについて:
シグモイド関数のゲイン値が1である特性(Sigmoid1)に基づいてガンマ補正を行う場合は、「自動適用」の「行う」にチェックを入れます。 「適用」ボタンをクリックすると適用されます。

④AIE 補正について:
自動適用を行う場合、「行う」にチェックを入れ、レベル、Boost (Boost を設定したい場合は「On」にチェックを入れます。)を設定します。
「自動適用時に補正した画像を原画像として保存する」にチェックを入れると、AIE 補正が自動適用された画像が原画像として i-VIEW に取込まれます。 この場合、画像を AIE 補正が自動適用されていない状態に戻すことはできません。
AIE 補正は、Panorama モダリティまたは、Cephalo モダリティに分類される画像のみに有効です。

⚠ 注意

- AIE 補正は、高度な画像処理が行われますので、AIE 補正を行わない場合に比べ、画像取込みの時間が長くなる場合があります。 特に、超高解像度撮影(標準速撮影)の場合、メモリ容量が少ない場合、CPU クロックが遅い場合、アプリケーションで多くの画像を同時に開いた状態で撮影を行った場合に時間が長くなります。
- 既に画像処理が自動適用された画像を、自動適用されていない状態に戻したい場合、その画像を 2D ビューワで表示させ、自動適用された画像処理に該当するボタンをクリックすると、自動適用されていない状態に戻ります。

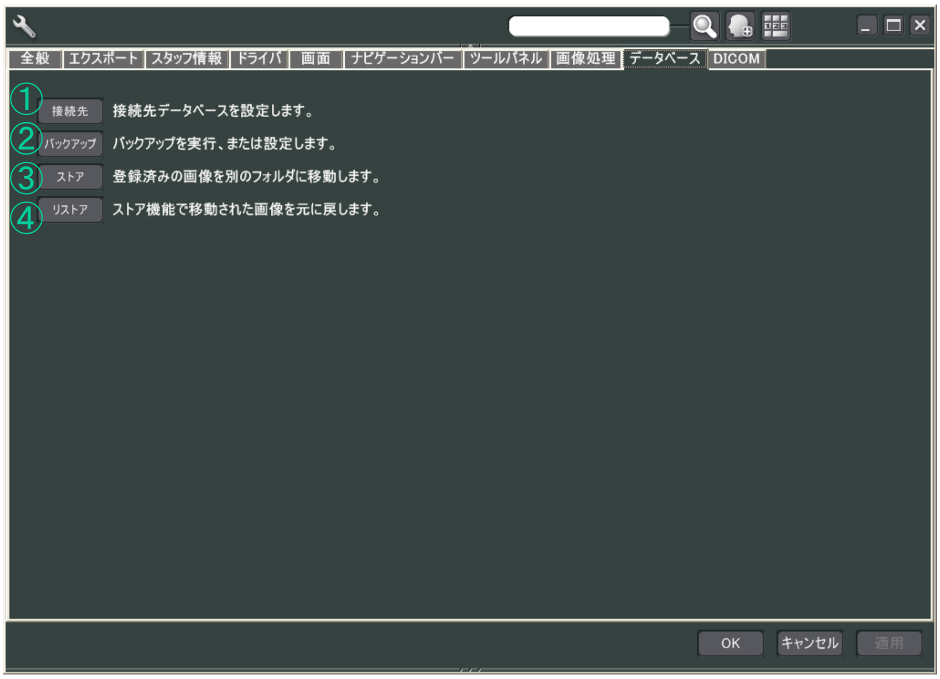
- シャープネスを適用すると、コントラストが強調されたシャープな画像になりますが、同時に画像ノイズも強調され、粗い画像になります。また歯牙と金属補綴物の境目などに偽像(アーチファクト)が生じる場合がありますので、ご使用に際してはこれらの点に十分ご留意のうえ、適切なシャープネス値をご選択ください。
- AIE Boost を On にすると、コントラストがより強調されたシャープな画像になりますが、同時に画像ノイズも強調され、粗い画像になります。また歯牙と金属補綴物の境目などに偽像(アーチファクト)が生じる場合がありますので、ご使用に際してはこれらの点に十分ご留意ください。

12.9　データベースタブ

データベースタブでは、接続するデータベースの新規作成･登録･切替、データベースのバックアップができます。
また、データベースで管理される画像データのストア、リストアができます。

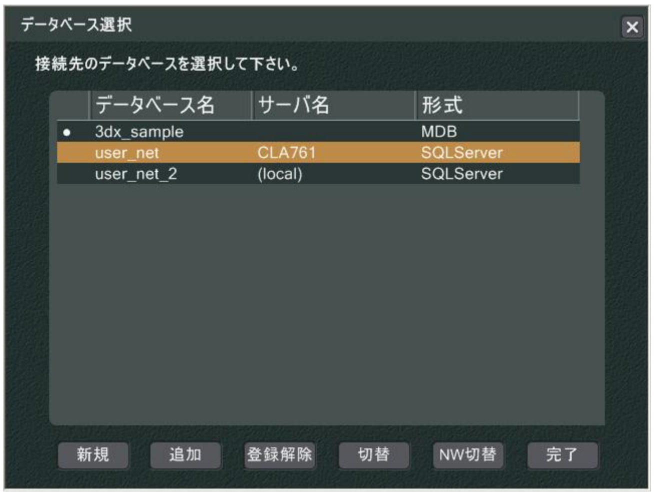
⚠ 警告

- データベース操作の使い方を誤るとデータの保存ができなくなる場合や、データが消失する可能性があります。
  必ず作業内容を理解した上で操作を行ってください。



①接続先について：

「接続先」のボタンをクリックすると、現在接続中のデータベース、及び、接続切替できるデータベースが、「データベースの選択」のダイアログに表示されます。
このダイアログで、接続するデータベースの新規作成、登録、切替を行います。



※　現在接続中のデータベースには、白丸の印が付いています。
※　データベースを選択すると、ダイアログの背景色と異なる色で表示されます。

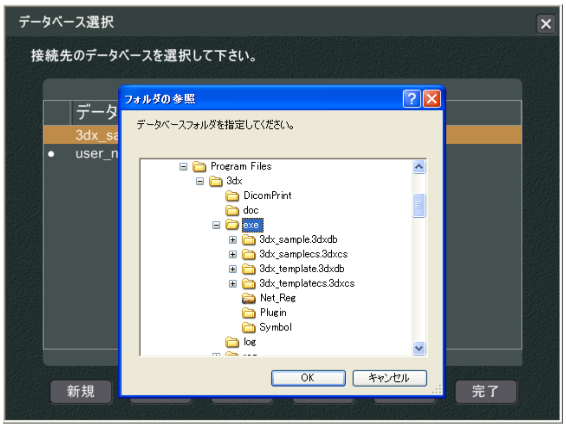
新規

データベースが、新規作成できます。
[新規]ボタンをクリックすると、「Create DB」ダイアログが開きます。
［参照］ボタンをクリックし、「フォルダの参照」からデータベースを新規作成するフォルダを選択します。
データベースの名前、種別・ネットワーク接続・スタッフを設定し、[作成]をクリックします。

データベースが作成されると、接続切替できるデータベースとして登録され、「データベースの選択」のダイアログに表示されます。

追加

接続切替できるデータベースが、登録できます。
［追加］ボタンをクリックすると、「フォルダの参照」のダイアログが開きます。

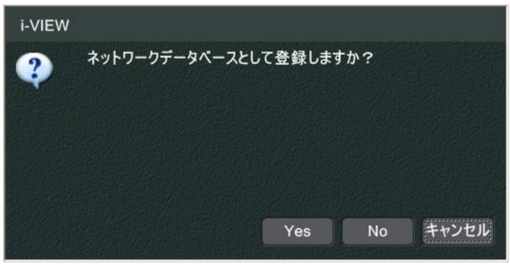


※ 患者データベースの場合、フォルダ名の拡張子は、「.3dxdb」です。
症例データベースの場合、フォルダ名の拡張子は、「.3dxcs」です。

⚠ 警告

- データベースのフォルダ(拡張子「.3dxdb」または「.3dxcs」)内部のファイルを直接手動で操作すると、データベースが破壊され、データが失われます。　この場合、当社では責任を負いかねますのでご了承ください。　また、削除以外の目的でデータファイルを手動で直接操作しないでください。

登録するデータベースのフォルダを選択し、[OK]ボタンをクリックすると、下記のダイアログが表示されます。

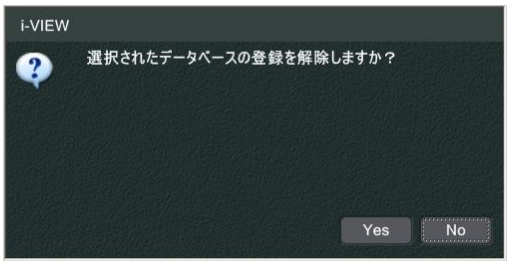


Yes をクリックすると、ネットワークを経由して、接続できるデータベースとして、登録されます。
No をクリックすると、ネットワークを経由せず、自身の i-VIEW コンピュータでのみ接続できるデータベースとして、登録されます。
キャンセルをクリックすると、データベースの登録がキャンセルされます。
Yes、または、No をクリックした場合、下記のダイアログが表示されます。

OK をクリックすると、データベースが登録され、接続切替できるデータベースとして、「データベースの選択」のダイアログに表示されます。

<u>登録解除</u>

接続切替できるデータベースの登録が、解除できます。
登録解除したいデータベースを選択して、「登録解除」ボタンをクリックすると、下記のダイアログが表示されます。

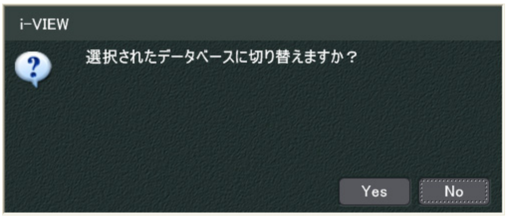


Yes をクリックすると、登録が解除され、「データベースの選択」のダイアログに、表示されなくなります。

※ 登録を解除しても、データベースが削除されることはありません。
※ 現在接続中のデータベースは、登録解除できません。

切替

接続するデータベースを、切り替えることができます。
接続を切り替えるデータベースを選択して、［切替］ボタンをクリックすると、下記のダイアログが表示されます。

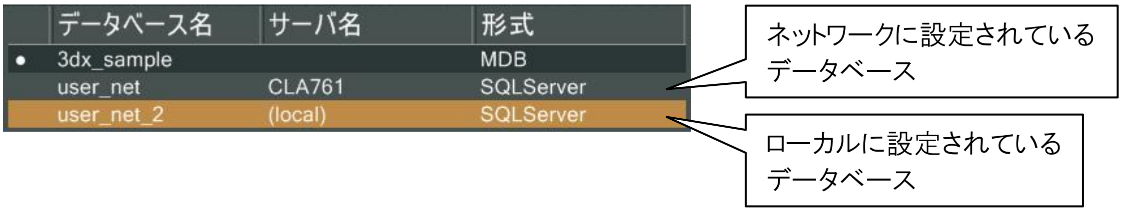


Yes をクリックすると、接続するデータベースが切り替わります。　但し、接続できるデータベースは 1 つです。

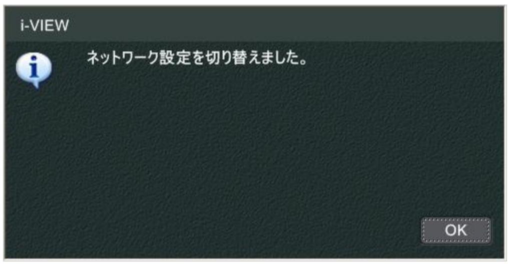
NW 切替

データベースの接続を、ネットワーク、または、ローカルに設定できます。
ネットワークに設定した場合、ネットワークを経由して、接続できるデータベースとして設定されます。
ローカルに設定した場合、ネットワークを経由せず、自身の i-VIEW コンピュータでのみ、接続できるデータベースとして設定されます。

設定内容は、「データベースの選択」のダイアログのサーバー名で確認できます。
ネットワークに設定されていると、i-VIEW コンピュータ名が表示されます。
ローカルに設定されていると、(local)が表示されます。



設定するデータベースを選択して、[NW 切替]ボタンをクリックすると、下記のダイアログが表示され、設定が切り替わります。



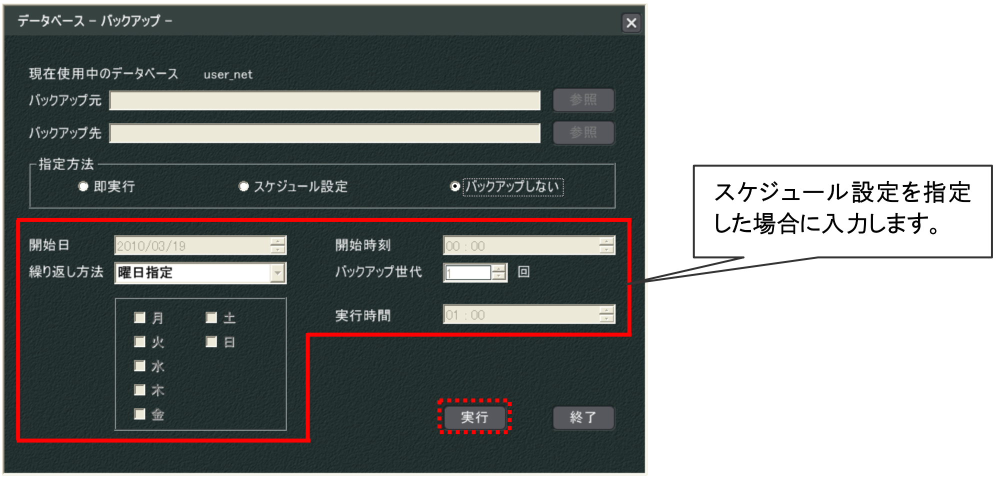
OK をクリックし、操作を終了します。

※ [NW 切替]ボタンは、SQL Server 形式のデータベースが選択されている場合のみ有効です。
※ 現在接続中のデータベースは、設定を切り替えることができません。

②バックアップについて：

⚠ 注意

- バックアップ中は処理の負荷が高いため、画面の再描画は極端に遅くなります。 バックアップ実行中及びメンテナンスツール起動中は、他のアプリケーションを起動するなどの操作はしないでください。



バックアップ元、バックアップ先に指定するフォルダを選択し、[実行]をクリックすると設定されます。

※「指定方法」に「スケジュール設定」を指定した場合は、各項目を入力します。

⚠ 警告

- コンピュータに保存されているデータについては、必ずバックアップを行うか、プリントアウトなどのハードコピーをお取りください。万一コンピュータ及びその記憶装置に障害が発生した場合、バックアップやハードコピーを取られていないと、データが失われ、復旧が困難となります。この場合、当社では責任を負いかねますのでご了承ください。
- バックアップについて、スケジュール設定した場合は、該当する時間には必ずコンピュータの電源を入れておいてください。バックアップ指定時間コンピュータの電源が入っていないと、バックアップは行われません。また、バックアップ中に電源を切ると、データベースが損傷する場合があります。この場合、当社では責任を負いかねますのでご了承ください。
- バックアップ中は、データの取り込みなどの操作は行わないでください。正常にデータが読み込めないことがあります。この場合、当社では責任を負いかねますのでご了承ください。

⚠ 注意

- **CT** 画像については、スライス処理後のデータをバックアップ対象としているため、「**CT** タスク」は「データベースのバックアップ」操作ではバックアップされません。「**CT** タスク」を削除する場合は、必要なスライス処理を行ってから削除してください。
- 出荷時は、バックアップの設定は行われていません。運用にあわせてバックアップの設定を行ってください。
- 世代管理によるバックアップについては指定した世代数を保有するようになります。

③ストアについて：

データベースに保存されている画像データが、内部・外部メディアに移動できます。
移動された画像データは、移動元のデータベースに管理されるため、移動後もi-VIEWソフトウェアで参照できます。
ハードディスクドライブの空き容量を確保したい場合に有効です。

⚠ 警告

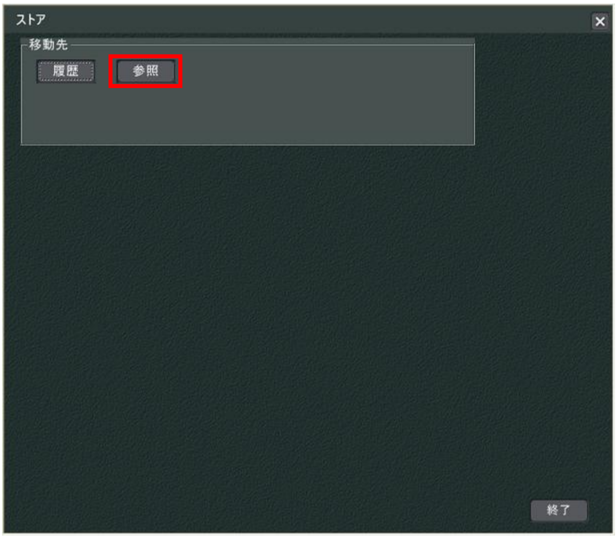
- ストアの操作を誤ると、**i-VIEW** ソフトウェアで、画像データが参照できなくなる恐れがあります。 ストアの操作を必要とする場合、お問い合わせの上、サービスマンによって、操作することをお勧めします。

⚠ 注意

- 「ストア」機能を用いて移動した画像データは「バックアップ」操作ではバックアップされません。 コンピュータのコピー機能等を用いてコピーをとるなどしてバックアップを行ってください。
- 移動先の検索に **20** 分程度かかる時があります。 **MO** などのリムーバブルメディアやネットワーク上のフォルダにデータをストアしている場合は、操作前にかならず移動先のメディアもしくはフォルダを準備し、読み取れることを確認しておいてください。 特に **USB** 接続の外部記憶装置などを使用する場合は注意が必要です。
- **MO** などの記憶装置は、アクセスしてから取出しなどの操作ができるようになるまで時間がかかります。 取出しなどの操作を行ってもすぐに反応しない場合は、しばらく待ってから再度操作してください。

1. 「ストア」ボタンをクリックします。

2. 「ストア」のダイアログが表示されます。「参照」のボタンをクリックします。



3. 「フォルダの参照」ダイアログが表示されます。画像データの移動先(画像データのストア先)を選択し、OK をクリックします。

4. 「ストア」のダイアログに、移動条件を設定する項目が表示されます。

移動条件を設定し、移動する画像データを絞り込みます。
尚、移動条件を設定しない場合、データベースに保存されている全ての画像データが移動されます。
移動条件として以下の項目が設定できます。

・患者
ある患者の画像データのみを、移動する場合に設定します。
「患者」にチェックを入れると、患者詳細検索画面が表示されますので、移動元の患者を 1 名選択します。
「再選択」ボタンをクリックすると、患者が変更できます。

・撮影日
ある期間内に撮影された画像データのみを、移動する場合に設定します。
「撮影日」にチェックを入れると、画像撮影日の期間が設定できます。

・データサイズ上限
移動する画像データの総容量を制限する場合に設定します。
「データサイズ上限」にチェックを入れると、移動する画像データの総容量の上限が設定できます。

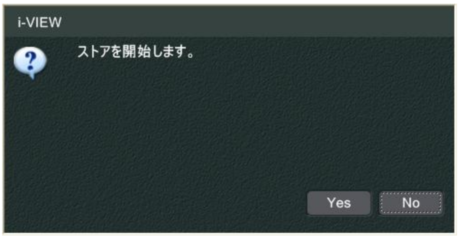
・モダリティ
あるモダリティに分類されている画像データのみを移動する場合に設定します。
「モダリティ」にチェックを入れると、モダリティが選択できます。

※ CT のモダリティが選択された場合、移動される画像データは CT スライス画像のデータのみです。
CT Raw データ・CT ボリュームデータを含む CT タスクデータの移動については、i-VIEW ソフトウェア取扱説明書 3D 機能編を参照してください。

5. 「サイズ確認」をクリックし、ディスク容量の項目に表示される空き容量、必要容量を確認します。
空き容量には、移動先のメディア、ディスクの空き容量、必要容量の項目には、移動される画像データの総容量が表示されます。

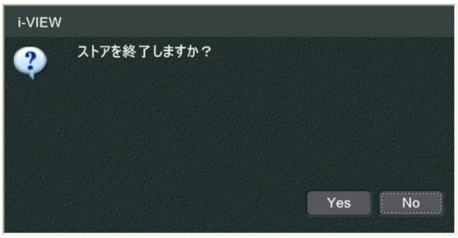
尚、必要容量が、空き容量を超えた場合は、必要容量が、空き容量を超えないように、移動先、移動条件を変更します。

6. 空き容量、必要容量の確認後、「ストア」のダイアログの「移動開始」のボタンをクリックします。移動開始の確認ダイアログが表示されますので、Yes をクリックすると、画像データの移動が開始されます。

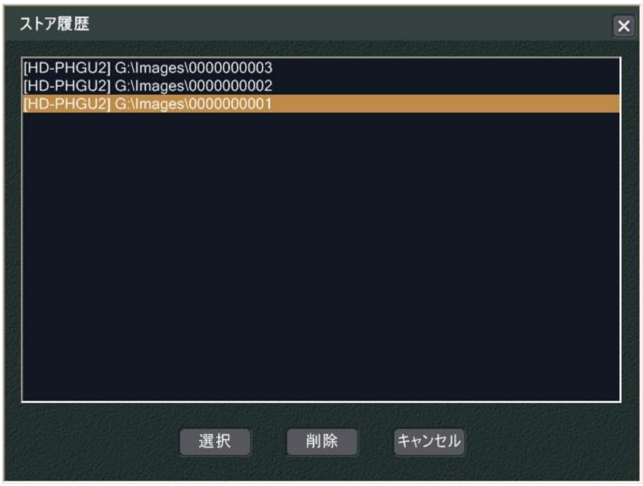


7. 画像データの移動が終了すると、ストア完了のダイアログが表示されますので、OK をクリックします。

8. ストアを終了する場合、「ストア」のダイアログの「終了」のボタンをクリックします。ストア終了の確認ダイアログが表示されますので、Yes をクリックします。



※「ストア」のダイアログに表示される「履歴」のボタンをクリックすると、過去にストアを実行した際に、設定した移動先が、履歴として表示されます。
表示されている履歴を選択し、「選択」のボタンをクリックすると、次回のストアの移動先として設定され、「削除」のボタンをクリックすると、履歴が消去されます。



④リストアについて：

ストアによって、データベースから内部・外部メディアに移動した画像データを、再び、データベースに戻すことができます。

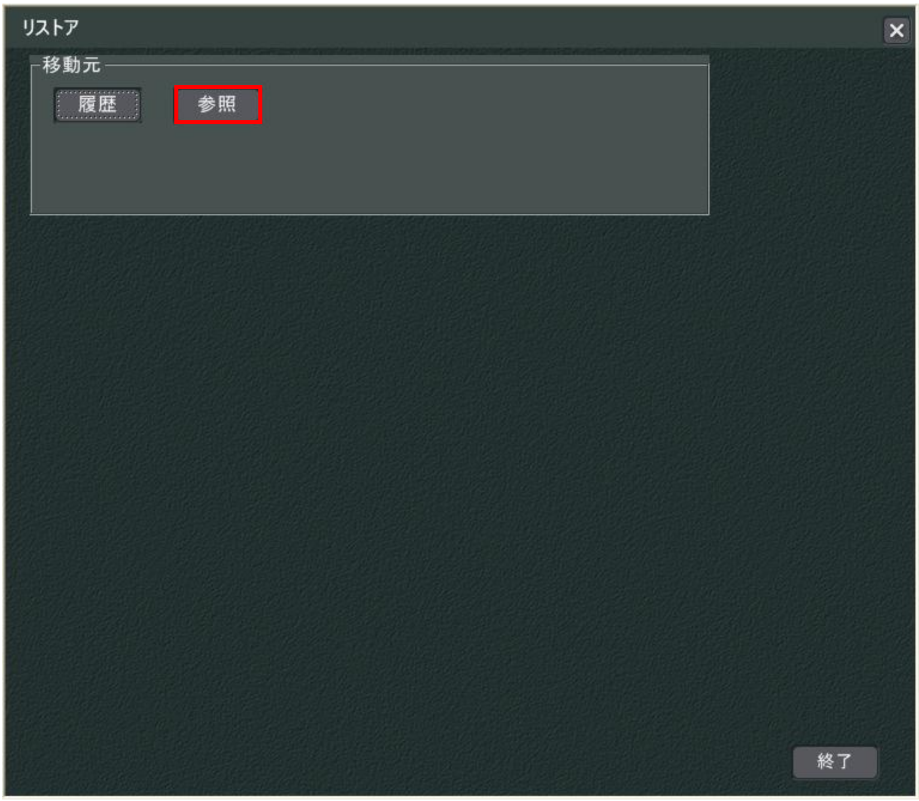
⚠ 警告

- リストアの操作を誤ると、**i-VIEW** ソフトウェアで、画像データが参照できなくなる恐れがあります。　リストアの操作を必要とする場合、お問い合わせの上、サービスマンによって、操作することをお勧めします。

※ リストアにおける、画像データの移動元、移動先の意味は以下の通りです。
画像データの移動元：　画像データをストアする際に、ストア先として設定されたフォルダを意味します。
画像データの移動先：　ストアされた画像データを管理しているデータベースを意味します。

1.　「リストア」ボタンをクリックします。

2.　「リストア」のダイアログが表示されます。「参照」のボタンをクリックします。



3.　「フォルダの参照」ダイアログが表示されます。
画像データの移動元になるフォルダを設定し、OK をクリックします。

4.　「リストア」のダイアログに、移動条件を設定する項目が表示されます。

移動条件を設定し、データベースに戻す画像データを絞り込みます。
尚、移動条件を設定しない場合、画像データの移動元に保存されている全ての画像データが、データベースに戻されます。
移動条件として以下の項目が設定できます。

・患者
ある患者の画像データのみを、データベースに戻す場合に設定します。
「患者」にチェックを入れると、患者詳細検索画面が表示されますので、移動元の患者を 1 名選択します。
「再選択」ボタンをクリックすると、患者が変更できます。

・撮影日
ある期間内に撮影された画像データのみを、データベースに戻す場合に設定します。
「撮影日」にチェックを入れると、画像撮影日の期間が設定できます。

・データサイズ上限
データベースに戻す画像データの総容量を制限したい場合に設定します。
「データサイズ上限」にチェックを入れると、データベースに戻す画像データの総容量の上限が、設定できます。

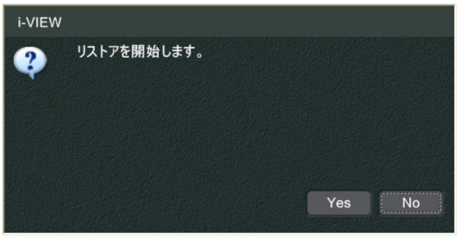
・モダリティ
あるモダリティに分類されている画像データのみを、データベースに戻す場合に設定します。
「モダリティ」にチェックを入れると、モダリティが選択できます。

※ CT のモダリティが選択された場合、データベースに戻される画像データは CT スライス画像のデータのみです。CT Raw データ･CT ボリュームデータを含む CT タスクデータの移動については、i-VIEW ソフトウェア取扱説明書 3D 機能編を参照してください。

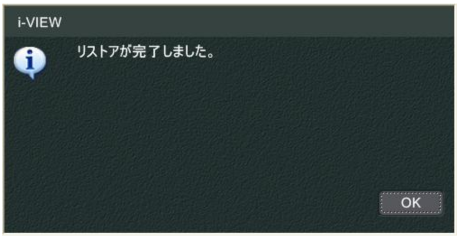
5. 「サイズ確認」をクリックし、ディスク容量の項目に表示される空き容量、必要容量を確認します。
空き容量には、データベースが保存されているディスクの空き容量、必要容量の項目には、データベースに戻される画像データの総容量が表示されます。

尚、必要容量が、空き容量を超えた場合は、必要容量が、空き容量を超えないように、移動条件を変更します。

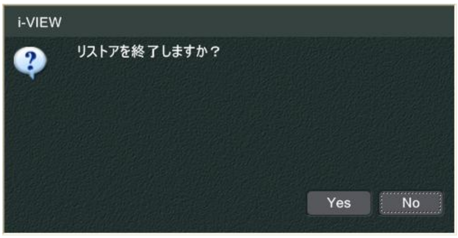
6. 空き容量、必要容量の確認後、「リストア」のダイアログの「移動開始」のボタンをクリックします。移動開始の確認ダイアログが表示されますので、Yes をクリックすると、画像データの移動が開始されます。



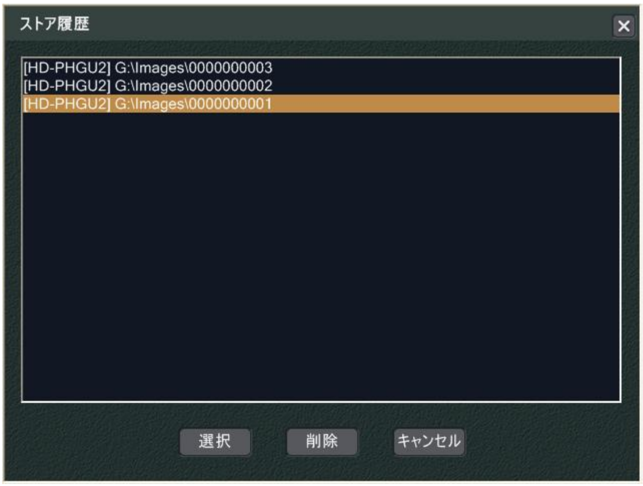
7. 画像データの移動が終了すると、リストア完了のダイアログが表示されますので、OK をクリックします。



8. リストアを終了する場合、「リストア」のダイアログの「終了」のボタンをクリックします。リストア終了の確認ダイアログが表示されますので、Yes をクリックします。

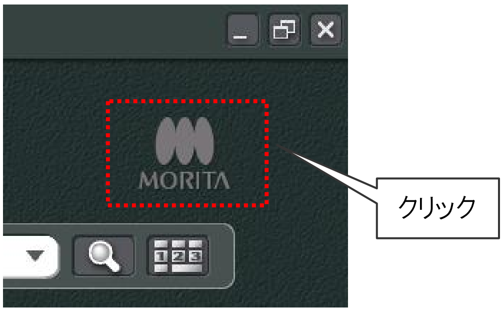


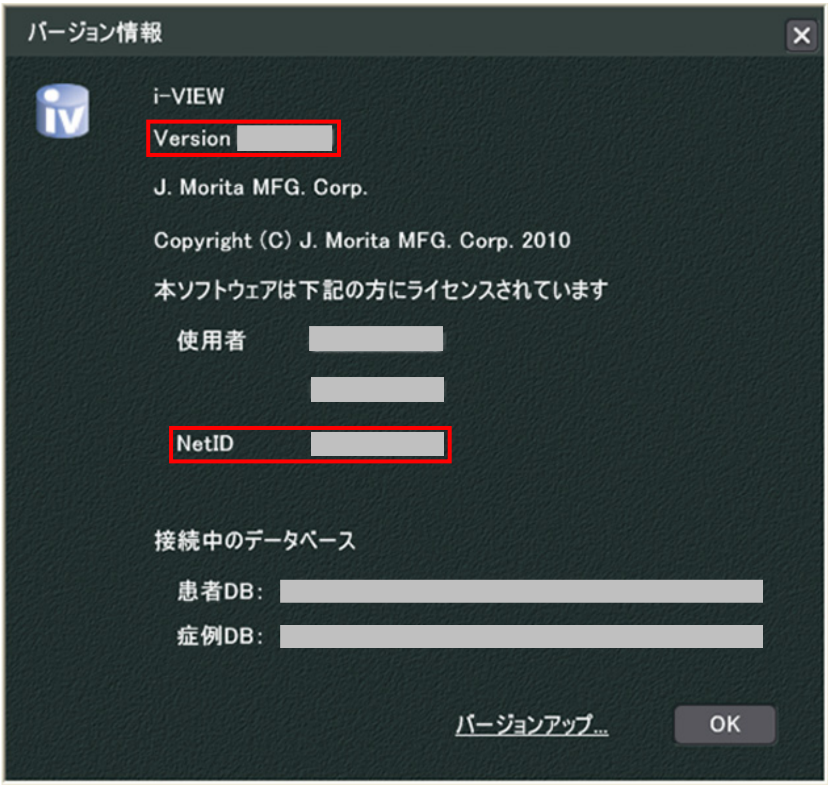
※「リストア」のダイアログに表示される「履歴」のボタンをクリックすると、過去にストアが実行された際に、設定された移動先が、履歴として表示されます。
表示されている履歴を選択し、「選択」のボタンをクリックすると、次回のリストアの移動元として設定され、「削除」のボタンをクリックすると、履歴が消去されます。



13. バージョン情報

ホーム画面右上の「MORITA」のマークをクリックすると、i-VIEW のバージョンと接続中のデータベースを確認できます。
i-VIEW ソフトウェアの操作に対するお問い合わせの際には、バージョン情報の Version、NetID をご連絡ください。





[索 引]

2

2D ビューワ, ... 67, 218
2D 画像表示エリア, ... 85

A

AIE, ... 75
AIE Boost, ... 82, 83
AIE 補正, ... 75, 82, 83

D

Default カテゴリー, ... 194

P

PrintCenter (プリントセンター), ...11, 151

S

Sample テンプレート (PrintCenter), ... 158

T

template カテゴリー, ... 154, 158

い

インポート, ... 22, 23

え

エクスポート, ... 22, 26

か

拡大表示, ... 85
画素, ... 6
画像一覧画面(患者指定時), ... 44
画像一覧画面(症例指定時), ... 63
画像情報の保存設定, ...101, 211
画像情報ファイル, ... 7, 23, 24
画像処理項目, ... 67
画像タイプオブジェクト, ... 161
画像配置, ... 126
画像配置テンプレート, ... 126
画像配置のスナップショット, ... 135
画像配置用テンプレート, ... 128
カテゴリ-, ... 171, 172
簡易検索, ... 210
患者 ID, ...29, 32, 33, 34, 35, 43, 210
患者詳細検索画面, ... 36
患者詳細検索呼び出しボタン, ... 15
患者情報, ... 32
患者情報オブジェクト, ... 163
患者情報の編集画面, ... 34
患者データベース, ... 6, 225
患者登録画面, ...32
患者登録呼び出しボタン, ...15
患者方向, ...10, 124
ガンマ値, ...8
ガンマフィルタ, ...91, 93
ガンマ補正, ...8

き

輝度, ...6
輝度調整, ...9, 92, 93, 96
機能画面, ...17, 20, 29, 32, 40, 67

く

グレーレベル調整, ...9, 92

こ

コントラスト, ...9
コントラスト調整, ...92, 93, 95
コントラストハンドル, ...91, 92
コントラストライン, ...91

し

シート, ...129
シグモイド, ...91, 93
自動濃度調整, ...75, 91, 94
シャープネス値, ...82, 83
症例画像, ...62
症例画面切替ボタン, ...15
症例情報, ...62
症例データベース, ...6, 62, 225
シンボルデータ, ... 70, 100, 118

す

ストア, ...229

せ

設定・メンテナンス画面, ...209

た

断層位置調整用データ, ...197

つ

ツール項目, ...22, 126, 142, 146, 148
ツールパネル, ...17, 221

て

データベース, ...6, 224
テンプレート (PrintCenter), ...157

な

ナビゲーションバー, ... 17, 29, 220

の

濃度, ... 6

は

バスケット, ... 17, 18, 218
パノラマ断層位置調整, ...11, 197

ひ

比較表示, ... 72
ヒストグラム, ... 9, 92

ふ

部位設定, ...131, 132
フィルタ処理, ...7, 75
付帯情報, ...10, 121
プリントセンタ簡単印刷, ... 193, 211
フルスクリーン, ...86
フルスクリーン表示, ...85

ほ

ホーム画面, ...15

も

モダリティ, ...6, 37, 45

お客様ご相談窓口（テクニカルセンター）

モリタ製作所製品に関するお問合せ、ご意見につきましては
下記までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

お電話でのお問い合わせ
株式会社モリタ製作所　テクニカルセンター
専用フリーダイアル　0120－802－036
（受付時間　8:30～17:00土・日・祝日を除く）

ファクシミリでのお問合せ
株式会社モリタ製作所　テクニカルセンター
075－605－2349

eメールでのお問合せ
株式会社モリタ製作所　テクニカルセンター
customer@jmorita-mfg.co.jp

製造販売・製造元　株式会社モリタ製作所

本 社 工 場：京都府京都市伏見区東浜南町680番地　〒612-8533　TEL 075-611-2141
久御山工場：京都府久世郡久御山町大字市田小字新珠城190番地　〒613-0022　TEL 0774-43-7594

販売元　株式会社モリタ

東 京 本 社：東京都台東区上野2-11-15　〒110-8513　TEL 03-3834-6161
大 阪 本 社：大阪府吹田市垂水町3-33-18　〒564-8650　TEL 06-6380-2525

PUB. X3051-26　Printed in Japan